社長 中野四郎太 新潟事業界の重鎮として名聲頗る高く、資性剛放にして簡直、己の信ずる所は斷乎として遂進し、意志强靱にして手腕卓拔、周到緻密にして明斷手快を以て事業界に畏敬せらる。明治十二年十月新潟財界の耆宿中野平彌翁の四男に生る。同二十七年中野組鐵工部支配人として入り、同三十九年新潟電燈取締役兼支配人に轉ず。同社は大正九年新潟電氣と改稱せしが、氏は同社の經營に當りて、大いに才腕を揮ひ、多大の成績を擧げて、その存在を明らかにせり。昭和四年同社は東邦電力の傘下に參加して新潟電力と合併するや、第一線を退きて取締役に列す。大正六年新潟紡績を創立し、同社が名古屋紡績に併合せられる迄經營の衝に當れり。又新潟乘合自動車の支配權を收め、バスの大合同を策し、新潟自動車商會、兩新自動車、新松交通遊覽、新潟市街自動車各社の大合同に成功し新潟合同自動車株式會社を設立するや、推されて社長に就任。更に新潟臨港及國民無盡の經營に手を染めて社長に選出せられ、昭和九年には當社を起して社長に就任す。現に中野關係事業の總師として新潟地方各種事業會社重役に列し　地方の開發に資する所著大にして名聲高く、信望頗る厚し。

（所在地　新潟市外大形村河渡新田）

湯淺蓄電池製造株式會社

當社は大正四年現社長湯淺七左衛門氏が、個人經營の下に各種電池の研究製造を開始せる堺市所在の湯淺蓄電池製造所を大正七年に資本金五百萬圓の株式組織に革めしものなり當社蓄電池の優秀にして卓越せる事は、夙に我海軍省當局の認むるところとなり、大正七年五月海軍省指定購買名簿に登錄され、次で鐵道省、遞信省、陸軍省の指定工場となり引續き各官廳、各大學、諸會社の指定品となる大正十年戰後發展全國工業博覽會に於て大賞牌を授與されて以來、各大博覽會出品毎に最高賞を受け、昭和四年帝國發明協會募集蓄電池發明懸賞に於て第一位賞に選ばれ、最近第三回化學工業博覽會に於て、全國蓄電池中第一位の名譽賞を授與せらる。之に依りて如何に當社製品が優秀にして、他の追隨を許さざるかを立證するものなり。乾電池に於ても夙に其品質の優秀なるを謳はれ、昭和二年遞信省の指定工場となり、引續き陸海軍其他各官廳、滿鐵等諸會社の指定工場たり。斯の如く當社の優秀なる技師と完備せる研究部の不斷の努力は今や歐米一流品を優に凌駕するの域に到達し、加ふるに夙に工場の合理的經營を斷行、社業隆々として今や東洋第一の大電池工場となり、千二百の從業員を以て年商内高六百萬圓を計上する盛況たり。斯くして當社電池は外國品の輸入を完全に防遏し、且つ進んで昭和三年以降多年懸案の海外輸出の一大計畫を斷行するに至り、三井物産の海外各支店と相呼應して南洋一帶、支那、印度、南亞、南米に向つて輸出し、彼地に於て外國一流製品と鎬を削り、着々販路を開拓し居りて、其將來洋々たるものあり。尙當社は昭和十一年より一般自動車蓄電池をも大々的に製造を開始せるが、其品質の優秀なるは既に定評存し、大阪乘合自動車會社其他の需要に應じ來れり。

社長 湯淺七左衛門 氏は故滿鐵總裁早川千吉郎氏の令弟、明治十年三月を以て誕生す。同三十年先代タケ刀自の入夫となり、前名外吉を改む。現に當社々長に就任の傍ら、日本電氣化學研究所、湯淺七左衛門商店各社長、湯淺合名代表社員、京阪電氣鐵道監査役をも兼ね、日本赤十字社京都支部幹事に推擧され、關西實業界の重鎭たり。

（所在地　大阪府高槻町）

智恩院

當院は東山第一の巨刹にして、同宗の總本

山、亦た華頂山大谷寺と號し、靈鐘殿々として日夜鳴り轟けり。抑も此の靈地もと慈慧大師天臺宗の堂舍を創建せし處と云ひ、後年青蓮院に屬す。高倉天皇の御年承安五年、宗祖法然上人淨土專修念佛宗を開立し、叡山を下りて此の地に來り、住房を結びて專ら其の弘通に勤む。是れ卽ち世に謂ふ吉水の禪房亦たは大谷の禪室にして、實に本宗弘布の根本道場たり。其後建暦二年正月二十五日、宗祖此界八十年の化緣盡きて、俄然として紫金臺上に還往さるゝや、遺骨を大谷に葬り、以來星霜移りて十餘年、安貞元年に至りて延暦寺の衆徒峰起して茲に來り、其の墓を發き庵室を毀ち、亂暴狼藉を極めしも、其の遺骨は幸ひ既に移奉せられたりしを以て難を免れたり。斯くて文暦元年法弟子勢勸坊源智上人堂舍を再建して先師の遺址を興し、法燈再び明かなり。四條天皇勅して更に殿堂坊舍を增營せしめ、本堂には大谷寺、勢至堂には智恩敎院、總門には華頂山の勅額を賜ひ、永代の勅願所と定められ、智恩院の名茲に始めて起る。降りて永享三年堂舍炎上せしが程なく再建成り亦た應仁の大亂起りて兵燹に罹りしかば、時の住職珠琳上人、祖師の影像及寶什を携へて近江に奔り、滋賀郡伊香立村に新智恩院を建てゝ留る。長享二年九月青蓮院の門主尊應法親王の召に依り、上人また此の地に還りて伽藍を再興す。其後永正十四年再三祝融の災に遭ひしが、住職存牛上人程なく之を再興し、特に紫衣を賜はる。而して天正六年淨土宗の本寺となり、次で豊臣秀吉の庇護に依りて伽藍頗る盛觀を加へ、德川家康亦た政策上より特に本寺を擁護、寺領七百餘石を寄進し、更に代々の將軍皆之に倣ふに及びて本寺の勢力俄然として加はり、悉く天下の諸寺を壓するに至れり。他方元和元年　後陽成天皇畏くも皇子を德川家康の猶子になし下し、同五年皇子本寺に入山得度し、入道良純親王と云ふ。卽ち本寺に宮門跡あること茲に始まり、華頂宮となれり。寛永十年十月また災厄に罹りしかば將軍家光堂宇再建に着手し、同十三年大梵鐘を鑄、同十六年七月規模宏壯、輪奐の美を極むる堂塔伽藍悉く成る。之れ現存の堂舍にして何れも國寶に指定され、特別保護建造物たり。其後明治維新前都下に事あるや、幕兵屯して警備陣の本據となせり、蓋し本寺の形勝戰略上の要地たるに依るべし。更に亦た正德元年宗祖五百年忌を修し、爾來例となりて五十年毎に大法要を營み、明治四十四年七百忌を修し次で　大正天皇宸筆たる明照の勅額を賜る。斯の如く春風秋雨幾星霜・淨土開宗七百六十年、宗祖法然上人滅後七百十六餘年に亘る今日、法燈は燦然四海に輝き、宗運彌々恢宏し、念佛の聲洋々として天下に充ち溢れ居れり。曩に昭和十二年奉三月、同月六日より一週間に亘り當院に各祖遠忌大法要を修行し、擧宗道俗虔んで報恩謝德の誠忱を捧げたり。

門主 岩井智海 單に看經念佛のみに止まらず、眞に社會敎導の精神を以て大乘佛敎の眞使命を如實に實踐躬行、以て卓然たる志操を把持し、佛陀の慈悲眞境を說きて、內外に活躍縱橫なる名僧を岩井智海師とす。師は慶應元年五月安河內市三郎翁の二男として福岡市に生を享け夙に佛門に入りて明治六年成道岩井境譽師につき得度專心經學を修め、淨土宗大學林並に布敎講習所を卒へ、同三十一年堺市大阿彌陀寺住職、淮司敎に上り大本山增土寺を經て昭和九年、當寺の法燈を繼ぎて現今に至る。其間同宗布敎師として全國に巡錫、到る處に繁篤なる敎化を垂れて衆生濟度の本願成就に邁進し、或は同門幾多の要職に推されて、遂に淨土宗大僧正に就任、今や當世稀に見る高僧として法名赫々たり。

執事長 藪內彦瑞 天賦溫厚、志操高大にして行藏圓融無礙。本邦屈指の名刹に正僧正、執事長たる樞椅を占め、獻身重責を完遂しつゝある人格者、德望愈々高き蓋し當然なり。

（所在地　京都市東山區）

事業家

荒川寅之丞

電力國家管理案の登場は、本邦電業界に異狀のセンセーションを誘掖せしめたり。その國營・民營の是非は擬て措き・我が五十年電業史上に貢獻渉からざりし幾多の人士に深甚なる敬意を表すべきの秋、本邦電業界の巨星と謳はれし故福澤桃介翁と共に、現時中京電業界の異彩荒川寅之丞氏の存在こそ特筆すべきものありと謂ふべし。

氏は明治九年十月、愛知縣海部郡十四山村歴世味噌溜を以て醸造業たる名門荒川甚七翁長男として生る。夙に殖産興業に志し・同三十年木曾川支流筏川麗川先三百町歩の復墾工事を完成、同三十七年には植林事業の要を痛感、同四十二年三重縣南牟婁郡新鹿村に於て檜杉百五十町歩の植林に成功し、越えて大正五年、同縣志摩郡河門村に於て三百町歩を開拓、補の栽培に献身的努力を傾注したるが、氏は本邦電業界の巨人故福桃澤介翁の知遇を得て肝膽相照し、斯業の急務を痛感、奮然として斯界に入りて飛躍、福澤氏と共に豊橋電燈株式會社を創設したり。之れ實に氏の斯業界進出の第一歩にして、その熱烈火を吐く努力と研究心は、明晰の頭腦と相俟つて驚異的躍進を遂ぐるに至れり。大正三年には水窪川水力電氣株式會社、同五年には一宮電燈株式會社等を創立、之が經營に携はり、翌六年には豊橋市愛知電化工業株式會社を設立、福澤翁を中心として八木平兵衛、德倉六兵衛氏等の諸氏と轡を並べて中部日本電業界に活躍、斯業の爲萬丈の氣を吐きたるは今尚ほ江湖識者の認知するところなり。此の外氏の殖産興業の鐵心は擱ます、大正九年には伊勢灣海濱三千五百町歩及び兒島灣千八百町歩の開拓に突進、愛知開墾株式會社を創立して、才腕を縱横に揮ひたり。現に前社取締役の他金子鐵業、笠原鐵道各相談役、堀川土地取締役、矢作工業監査役の要職に在り。曩に愛知農行銀行取締役、名古屋信託、名古屋土地建物、豊橋電氣、大同土地工業、東部電力の重役たり。

荒川寅之丞氏

氏は資性温厚にして而も明朗性に富み、その研究心の篤きことは人の知るところにして凡そ一事業を興すに當りては熟慮斷行の氣鋭に富み、その椒討するに克く衆智を許容、氏の義兄弟たる故岸法學博士と相談じて善處を過たず、帷幄の謀將たると共に、三軍統卒の器局を保有する眞に天才的企畫家たり。福澤翁の病を得て隱退するや、漸次第一線より去りて待機しつゝあるも、今やその健康に觀ち畢生の大事業を企圖しつゝあり。氏の世人を驚嘆せしむる日の近きにあるを鶴首待望するところなり。氏は又非常に義俠に富み、人情に厚く、一旦肝膽を披瀝親交を結ばんか、如何なる難事態に遭遇するも情宜を忘れざる現代稀に見る義傑にして、その高邁なる人格と共に衆望を一身に集めたる好紳士なり。尚氏の令弟英治氏は京都帝大工科出身の秀才にして、目下住友合資の技師長として敏腕を謳はれつゝあり。

（住所　名古屋市中區西五町二〇）

實業家

大橋新太郎

出版界の功勞者故大橋佐平翁の長男にして文久三年七月越後に生誕す。天性聰敏、少時同人社に學び、衆兒に頴脱して鄕關に名を傳ふ。明治十四年嚴君と共に北越新報の前身越佐毎日新聞を發行、同二十年六月博文館を興し、父子協力奮闘、文運の興隆に寄與すると

ころ極めて多大。佐平翁の歿後、巨費を投じて大橋圖書館を設立し、次で大橋育兒舍を興し、事業の發展に伴ひて聲望隆々、明治三十五年衆議院議員に選出され、大正四年特旨を以て從五位に叙せらる。之れより先氏は既に他の諸種の事業に染着し、一業復た一業、年を逐ひて其數を增し來りて社長若くは重役として關係するところ實に七十有餘社の多きに達し、しかも其精神力に於て、資力に於て尙綽々たる餘裕を示せるところ、宛ら大海の百川を容れて悠々たるが如く、眞に業界の偉觀たるを失はず。一事を大成する、既に容易の業に非ず。況んや兼ぬるに數業若くは十數業を以てし、之れが完成を期するに於てをや。然るに氏の力量才幹の異常なる、世人の見て以て齊しく至難とするところの出版業に於て拔群の成果を收め「出版王」の名を馳せたるのみならず、餘力を幾多の事業に傾けて擧措を怠らず、更に「事業王」を以て稱せらるゝに至るところ、尋常一樣の人物の企て及ぶところに非ざるなり。世人の氏を評する者必らず先づ其の頭腦の明敏を指摘するを常と爲す往年英米訪問團の主唱者として歐米遊歴の際言語不通の各國人との接衝に於て多くの場合通辭を用ゐずして用を辨じたるが如き、尤も有力に世評を立證するの逸事として傳へらるゝところたるが、工場巡觀の際毎に技師の說明を煩として排くるが如き、亦共證左と爲す。

氏は資性温厚にして而も明朗性に富み、その行取締役、名古屋信託、名古屋土地建物、豊橋電氣、大同土地工業、東部電力の重役たり。

氏は資性温厚にして而も明朗性に富み、その行取締役、名古屋信託、名古屋土地建物、豊橋電氣、大同土地工業、東部電力の重役たり。

氏は資性温厚にして而も明朗性に富み、その行取締役、名古屋信託、名古屋土地建物、豊

に足らん歟。一斑を看て以て全貌を推知し、片鱗を相して金龍を知る底の其靈活的才能は氏をして多々益々辯ずるの人たらしめ、其公人としての事蹟の多樣多彩なる、當代多く其比を見ざるところにして、嘗ては東京市會議員、日本橋區會議員として市、區政、自治に盡瘁し、協調會、明治神宮奉贊會等の國家的創設に關與して其重要なる任に當る他、理化學研究所、濟生會、東洋協會、日露協會等に多數の公益法人の理事として滅私至誠を致すところ亦著大なり。往年日露戰役の功に依り動四等を賜はり踵で貴族院議員に勅選せられ研究會の領袖たり。王侯將相何んぞ種あらんや。微賤より身を起して赫々たる勳業を顯はし、絶大なる榮譽を擔へる者、當代其例に乏しからず。實業界一流の紳士多くは之れ少壯赤手空拳の士なり。多くは之れ自主獨往の士なり。刻苦精勵の士なり。所謂立志傳中の士れども這齣成功者中、往々にして其痕跡の潔らかならざる者あるを觀る。吾儕の大橋氏に採るところは寸毫も成金性を帶びざる點に在り。卽ち其波瀾重疊の過程に聊かも權略を用ひたる形跡無く、些細の僥倖の足跡無く、徹底徹尾常道を踏み來りて、而も異常の成果を收め得たるところ、眞に偉とするに足る。氏は熱心なる佛教信者にして確固不動の信仰を有し、その社會的貢獻の動機は多く之れに孕胎せり。大橋圖書館の設立が嚴君の計に由來し、慶應野球場の建設寄贈が愛兒の死に基因せるが如き、その顯著なる事例にして、結核豫防協會、日本赤十字社等に多額の義金を寄贈せるの外、利生報恩の行爲は枚擧するに遑あらざるなり。以上は公人としての共事蹟の大綱を擧示せるに過ぎざるが、個人としての大橋氏は其公生活の多樣多彩百花繚亂の觀あるに反し、極めて實質簡素にして、趣味も廣からず、唯其將棋趣味のみは例外にして、之れを好むと謂はんよりは、寧ろ溺すと評すべき程度にして、技未だ堂に昇るに至らざる由なるも、其の戰法の毎に積極壯烈にして英毅俊邁なる本來の性格を如實に表現して、活潑々地の光景を演ずるに至るは、交友の齊しく嘆稱するところ。氣力の旺なる、頭腦の明敏なる、以て想見すべきなり。

（住所　東京市麹町區三番町）

株式會社

荏原製作所

當社は大正元年井口工學博士を主幹に現社長品山一清氏を社長に戴き、世界學界の驚異となりし專賣特許ねのくち式ポンプの設計製

作を目的として、ゐのくち式機械事務所を設立せしに始まる。大正六年に至り株式會社荏原製作所と改稱し、規模の擴大を圖ると共に製品にも多大の改善を加へしにより、その種類大いに增加せり。渦卷ポンプ、タービンポンプ、軸流ポンプ、ボアホールポンプその他各種ポンプの製作をなし、更に最近に於ては排風機　送風機、冷凍機、急速濾過裝置等盛んに新分野の開拓に努めり。敷地一萬坪に上り東京大崎工場は敷地狹隘を告ぐるに至り、之れを明電舍に賣却して蒲田區羽田に移轉す。羽田工場は敷地三萬坪に上り、玆に四千坪の工場を建設したり。斯くて生產力は多大の增進をなし、從來の六割內外の增加をなせり。當社は昭和十一年九月に資本金三百萬圓を一擧一千萬圓に增資して、從來消極的感ありし經營方針を積極主義に轉換し、擴張資金と運轉資金を調達する爲めに新らたに一百七十五萬圓の拂込を徵收することに決せり。これまで各種ポンプの受註高は總受註高の約六割に及び、近來又熔鑛爐用送風機の製作に手を染めて斯界注目の的となれり。ポンプの用途は鑛山、都市の上下水道、灌漑排水蒸船、建築給水、防火、發電所、土木工事、家庭用等に用ひらる。最近の半期製作高は六百三十萬圓に上るが故に、設備能力の增大に依りて半期九百萬圓の賣上高期待せらる。昭和十二年下期には五十九萬圓の利益金を擧げ、利益率二割四分九厘となり、それに對して手堅く株主配當を一割二分に押へたり。今後の業績の向上こそ大いに刮目するに足る。

當社の製品は北支、滿洲の經濟開發には缺く可からざるものなれば、今後經濟工作の進展と共に需要は多大に增大するの筋合にあり。社員從業員の總數千名に垂んとし、社業の發盛を呈せるはまことに瞠目すべきものあり。因に當社は本年四月工場を擧げて新工場に移轉を完了せるが、營業部は、末尾の如く分設せり。尙最近羽田工場の一部に一千二百坪の地所をトして鑄造工場を新設し以て自給自足に依る方針となれり。

取締役社長　畠山一清　明治十四年十二月金澤市に生る。夙に東京帝大工科を卒業し鈴木製作所、國友機械製作所技師を歷任して大正元年ゐのくち式機械事務所創立と共に所長に就任。大正六年荏原製作所社長となりて今日に至る。頭腦緻密にして資性高邁、卓拔なる手腕家にして山王ホテル取締役を兼ぬ。

專務取締役　山岸靖一　明治四十四年帝大工科を卒業して滿鐵技師となり、大正七年大連機械製作所に轉じ、九年當社常務取締役技術部長に就任す。人物溫厚篤實、頗る責任觀念强く、眞摯その職に沒頭す。明治十九年新潟縣に生る。

常務取締役　酒井儀尋　その職に精勵して恪勤、奮鬪努力の士たり。明治二十七年に生れ、少壯有爲の敏腕家として重きをなせり大正五年早大商科を卒業し、同七年當社に入り大正十三年現職に推さる。その將來大いに刮目せらる。

庶務課長　畠山不器　氏は畠山社長の長男として明治四十三年に生れ、昭和八年慶大經濟學部を卒業す。同十年庶務課長に就任せり。餘若けれども、人物練れて圓轉滑達、俊敏爲才の人としてその前途を囑目せらる。

（所在地　東京市蒲田區羽田町）
（營業所　麴町區丸之內二丁目）

株式會社　富島組

當社は遠く明治十七年五月を以て、大阪商船株式會社の創立と同時に同社專屬機關として誕生す。當初僅かに三十三名の組員より成る渺たる組合に過ぎざりしが、同三十四年合名會社に、同四十一年合資會社に更に大正五

年株式會社に組織を革むると共に、資本亦五萬圓より屢次の增資を經て一百萬圓に增資し大正八年住友合資會社に於て當社株式の過半數を所有せられ、以て漸次業務を擴張して今日に及べり。營業課目は船舶運送、陸上運送、艀船運送、運送取扱、艀船賃貸、勞務供給、稅關貨物取扱人の業務　倉庫營業、土木建築請負業にして、固定業務として大阪商船、北日本汽船、朝鮮郵船、播陽商船各會社專屬として大阪及神戶港に於ける同社所屬船の船內仲仕及輸出入貨物の艀船供給並に輸入貨物の荷揚配達を取扱ふと共に、住友倉庫專屬として船內仲仕供給並に尼崎汽船會社の艀船供給を取扱ふ。尙陸軍省關係としては陸軍運輸部本部、大阪陸軍兵器支廠、大阪陸軍被服支廠、陸軍造兵廠大阪工廠　大阪陸軍糧秣支廠、東京陸軍省各廠、宇品陸軍糧秣支廠、廣島海軍兵器廠等の特定取扱人として各種製品若くは御用貨物の海陸運送を取扱ひ、遞信省關係に於ては大阪遞信局　遞信省經理局大阪出張所廣島遞信局等の特定運送人として御用貨物其他を取扱ひつゝあり。其の他大阪地方專賣局輸入一手取扱、同局御用貨物、大阪稅關神戶稅關及橫濱稅關附東京支署特許の稅關貨物取扱人として一般輸出入貨物の通關事務、阪神間及東京に於ける鐵道省貨物の船車聯絡取扱日本製鐵八幡製鐵所の積出貨物の荷揚取扱其他一般荷主の運輸取扱を爲せり。當社は業界の精銳として誇示せらるゝものにして、卽ち艀船三五六隻、通船一三隻、荷車二八輛、倉庫六ケ所、汽機艇一六隻、貨物自動車三四輛使用勞働者常雇一千名に達す。而して當社の支店網は神戶、東京、橫濱、若松、八幡、安治川口に、出張所を東京、橫濱、京都、尼崎堺、神戶其他數ケ所に設置す。

當社の現役員諸氏左の如し。

取締役社長櫻井勘助　專務取締役家坂喜常務取締役曾根鷹二郎　取締役松井孝長　同米田喜次郎　常任監査役西風重遠　監査役高橋浩　同武田金之助　支配人染川義彥

取締役社長　櫻井勘助　氏は明治十三年五月、宮城縣櫻井勘之丞氏の長男として出生長じて同三十八年二月官立商船學校を優秀の成績を以て卒業し、同三十九年八月大阪商船株式會社へ入社、一等運轉士として恪勤、同四十四年六月船長勤務として各航路に從事す次いで大正五年十一月同社ボートキャプテンとして荷役監督を命ぜられ、大正十三年在職十七年にして依願退社。次で同十四年一月株式會社住友倉庫作業監督に就職、昭和六年八月現職の傳當社支配人兼海務監督に就職。同八年十月に常務取締役に推擧され、同十年五月住友倉庫を退社、同十一年七月當社社長に推擧せられ以て今日に至る。氏は其傍ら現に大阪商運、商運社、臺灣運輸各取締役を兼任せる。業界の先覺者たり。

（所在地　大阪市港區富島町）

滿蒙毛織會社名古屋支店長　豐島秀三郎

滿蒙毛織株式會社名古屋支店長たる、豐島秀三郎氏は、東海地方毛織業界に確固たる地位を占め、氏の溫厚恭謙なる高風と寬宏の襟度は愈々信望を贏ち得て、其將來大いに囑目せらる、氏は、愛媛縣西條町に於て豐島平馬氏三男として、明治二十八年九月に生る。夙に東京高等工業附屬工業學校紡織科を卒業し東京毛織會社に入社す。次で同社が大正二年モスリン紡織、合同毛織との合併に依り、滿蒙毛織株式會社の操始せられるや、轉じて、同社に勤務す。昭和十一年十二月、同社副支配人に拔擢せられる。社業に恪勤して倦むことを知らず。眞摯熱誠技術の研鑽に努むると共に、設備の改善、充實に、銳意力を盡くせり。斯くして良質廉價の毛織物の製出に非常なる貢獻をなし、一面上下に頗る信望を博せり。同社今日の發展は氏に負ふ所大たり。越へて、同十二年七月前支配人柏木氏の辭任に伴ひて同社支配人に就任し更に支店長に推擧

せらる。

氏は會社の爲めに盡瘁するの傍ら、業界の新鋭たる東洋フェルト株式會社取締役の椅子にありて、斯業にも精勵し、只管、我が織物界に献身的努力を成せるは、既に人の知れるなり。

今や我が織物界、就中毛織物界の前途益々多事多難、洋毛輸入制限、人造毛織混用の革命的時代に直面するの秋、斯業に多年馳驅して豊富なる體驗と淵博なる蘊蓄を積める、氏の手腕に期待すること頗る大なるものあり。邦家の爲、更に奮闘を切に望む。

（住所　名古屋市西區光音寺町）

株式會社 八十二銀行

長野縣は養蠶業、製絲業甚だ盛にして、一時不振を極めし生糸の近年大いに活況を呈するに及び、同縣下の産業界も近來頗る潤ふことゝなれり。八十二銀行は長野縣の首都長野市にありて、同縣金融界に重きをなし、同地方殖産興業の爲めに寄與する所甚大にして、業礎固く信用甚だ博大なり。その設立は昭和六年八月のことにして、創立以來終始堅實主義を堅持し來り、而も當事者に人材與りて經營方針甚だ宜しきを得て、毎期業績順調を辿り、歴年業績の向上を見つゝあり。現時長野市、松本市、上田市、岡谷市、飯田市を始め全縣下各町村に支店網を張り廻らし、更に新潟縣に進出して三支店を設く。支店總數三十九、出張所總數五を數へ、眞に長野縣經濟界の動脈なるの地歩を占めり。現時公稱資本金一千三百三十一萬二千五百圓）なり。昭和十二年上期末に三萬七千五百圓、特別準備積立金合計三百十九萬於ける法定準備金三百萬圓、特別準備積立金八萬五千圓に上り、各種積立金合計三百十九萬八千五百圓を計上す。預金に於ては當座預金七百十四萬二千圓、特別當座預金六百二十三萬一千圓、定期預金一千六百二十三萬圓を始めとし、各種預金合計三千四百二十八萬五千圓に達す。又貸付金は手形貸付二千二百七十八萬八千圓、證書貸付四百七十一萬四千圓當座貸越八百六十七萬三千圓、その他を加算して合計三千六百五十七萬六千圓に上る。農村は近年米麥繭等の農産物價の昂騰に依りて景氣は若干の立直りをなすに至り、又製糸業者は最近の絲價の騰貴を受けて何れも頗る好調にありて業績は一般に良好なり。當行もこれに依りて預金の増加を見たると共に、一般貸金の回收極めて順調にして、業績又好成績を示し、昭和十二年度上期決算に依れば總收入百三十四萬九千圓、總支出百十萬三千圓、差引當期利益金二十四萬五千圓を計上せり。

右の内より法定準備金五萬圓、退職給與積立金五千八百圓、配當金十六萬二千圓をそれ〴〵處分し、二萬圓餘を後期に繰越せり。株主配當率四分なり。當行の經營方針は飽くまで堅實を旨となし、資産内容の充實に意を注げるを以て、今後更に業績向上をなして、内容愈々堅實化を見るに至るべし。

因に第一線に立てる役員は、頭取黒澤利重副頭取飯島正一、常務小出隆、同黒澤三郎の諸氏なり。

取締役頭取　黒澤　利重　明治十九年十月黒澤慶次郎氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。郷黌を卒へると共に、慶應義塾大學政治科へ入り、明治四十四年同校を卒業す。夙に實業界に入り、現在八十二銀行頭取たるの外、黒澤銀行頭取、第十九銀行常務として金融界に活躍し、更に諏訪倉庫社長、黒澤合名代表社員として廣く事業界に牢固たるの地盤を有せり。氣恰俊邁にして匝周緻密、群拔の手腕を揮ひて多大の實績を收め、事業界に推重せられる。資性温藉謹恭、甚だ情誼に厚く、社會公共の爲めには進んで私財を投じ、或は時間を惜しまず盤旋盡瘁する等、その高潔なる人格と共に衆庶の瞻仰を受くること厚し。

（所在地　長野市南長野）

日本畫家

三木翠山

栖鳳門下の駿髦として夙に其名を知られ、現今日本畫壇の重鎮として隠然重きを成せる三木翠山氏は兵庫縣加東郡社町の産にして、明治二十年七月を以て生る。生家は同地方屈指の名家として知られたる服部氏、十七歳にして古來同家と因縁淺からざる三木家の養子となる。服部家の三世喜左衛門氏は風雅の人にして、當時の巨匠松村景文と交り畫を能くし、南野と號したるが、其血を享けたる氏は隔世遺傳的の畫才を有し、幼時より群童を避けて彩管を弄することを好み、稍長ずるに及び畫家として身を立てんとの一念已み難く、明治三十四年十六歳の春、京都に出で、竹内栖鳳氏の門に入り、夙に出藍の譽あり。其天賦の英才は師の珍重するところとなり、大に將來を嘱目されたるが、養父の志學反對のために學資杜絶の艱難に遭遇し、業半ばにして一旦歸郷するの已むなきに至り、怏々として樂まざること三年、然も氏の初一念は磁石の針の常に北を指す如く、朝暮舊都の山水に馳せて已まず、遂に萬難を排して再び郷關を出で舊師の薫陶を受くるの身となり、拮据研鑽の功空しからずして、第六回の文展に出品せる「朝顔」の入選を首めとして爾來十二回に至るまで連續入選の異例を作り、帝展に於て入選五回、昭和七年以來無鑑査の特待に列し斯界の最高名譽を保持し今日に迨べり。氏の畫風の清高逸雅にして、獨自の風韻に富めるは、具眼者の齊しく嘆稱して措かざるところにして、一作出づる毎に斯界に衝動を與へ、就中其丹精を凝せる著名の傑作に至りては所謂「紙上の雲烟萬錢に値す」るものにして、殆ど悉く權門富家の所藏に歸し、門外不出の逸品として愛惜されつゝあり。彼の御大典當時參列外國使節の面前に於て席上揮毫を成せるが如き、昭和十一年十二月將校演習の砌、閑院、朝香兩宮殿下御入洛の際、美人畫を献上の光榮に浴せるが如き、如何に氏が斯界に推重されつゝあるかの消息を證するものにして、今日其斷崖雲霧墨と嫌も好事家をし垂涎せしめつゝあるも素よりその所なり。

三木翠山氏畫伯

因に氏は本名齊一郎と言ふ。

（住所　京都市東山區清水坂町）

株式會社

横河電機製作所

各種電氣機械器具を製作して其技術の優秀なると製品の精巧なるとを以て業界に盛名を謳はれ、毎期多大の成績を擧げて斯界注視の的となれるを横河電機製作所とす。抑も當社は大正四年九月、横河一郎氏、青木晋氏の協力を以て、東京市澁谷區田毎町に地を相して工場を建設し電氣機械器具の製作に染着す。當時に於ては斯業の技術未だ幼稚にして、我市場は殆んど外國品の獨占する狀態なりき。兩氏は此實相を慨し、技術の研鑽に心血を注ぎ、外來品驅逐の信條を堅持して、優秀製品の製作を期し、拱据刻勉多大の辛苦を重ねたり。斯くて當社製品の眞價の次第に認識せられるに至り、需要漸増して、社業漸く發展の緒に就かんとするに及び、大正九年十一月これを株式會社に改組して、玆に始めて本格的に斯界に進出するに至れり。大正四年の創業より同九年の株式會社改組の期間は、當社の研究時代にして、只管技術の研修に意を潜め來たりしが、この間の整伏に既に他日の跳躍は充分に準備せられて、改組と共に俄然事業は目覺しき進展をなし、切磋琢磨せられし技術は他の追隨を許さず。其製品は輸入品を凌

鶩するに及び、堂々斯界に重きをなすに至れり。工場は相次で擴張せられ、新製品は多種に亘りて製作せられ、他の比儔なし能はざる獨特の躍進振りを示せり。而して最近に於ける當社の主要製品には携帶用及配電盤用各種計器、配電盤、配電盤用器具類、積算電力計各種溫度計、ブリツヂ類、オワシログラフ、電位差位、抵抗器類、物理測定用計器及裝置等の各種ありて、その製品の優秀なるを以て嘖々たる好評を博せり。工場は現在吉祥寺工場並に小金井工場の二者ありて、何れも最新式の設備を有し、多數の熟練工を擁して、晝夜兼行操業頗る繁忙を極めつゝあり。殊に最近の時局關係に依る事業界の活況に依りて註文は著增し、その販路は全國に亘り、更に海外方面よりの需要亦激增を辿れり。本社を東京府吉祥寺に設置し、營業所を東京市麴町區丸ノ内一丁目仲二十八號館に設置す。資本金百萬圓（全額拂込濟）を擁せり。重役に以下の諸氏あり。專務取締役横河一郎、取締役兼技師長青木晋、取締役吉原重時、同多田潔、同東郷安、監査役山北與三郎、同横河大祐の諸氏專ら經營に秩宰せり。

專務取締役　横河一郎　明治十九年七月兵庫縣人横河震八郎氏の長男として生れ、夙に電機學校を卒業し、後獨逸に留學し、大正四年斯業を開始して始めて事業界に進出す。資性溫恭にして敦厚、抱擁性に富みて從業員を我子の如く愛す。從業員又氏を見ること慈父の如く、衷心畏服して戮力一致當社の發展の爲めに盡瘁せり。

然るに氏に、天命を籍さず卒然として六月二日逝く、享年五十三、爰に微意を表して哀悼の意を捧ぐ。

取締役技師長　青木　晋　氏は學殖甚だ深邃たると共に、蘊蓄頗る豐富なるを以て業界に於て多大の推敬を受く。明治二十二年八月栃木縣人青木戒三氏の三男に生れ。同四十三年東京高工を卒業す。直ちに遞信省に入り電氣試驗所技師となり、大正二年電氣機械事業の研究の爲め英國へ留學す。歸朝の後横川氏を扶けて當社を設立し、刻苦研精して經營に當り、大いに英才を發揮せり。資性溫厚にして仁情に富み、人格清廉潔白にして磊落恬淡、内外に多大の信望あり。

（所在地　東京府下武藏野町吉祥寺）
（營業所　東京市麴町區丸ノ内一丁目）

增野病院長

增野　純亮

惟ふに我が國醫業の進歩發達は東洋醫學にその準據を成すと雖も亦西歐醫學の貢獻する處尠とせず、十九世紀以後、自然科學の發達は一に其の淵源を西歐に發し、我國より渡洋研究する者、醫業に於て最も多く、これ我が國醫業の發展を招來せるものと云ふ可し、西歐醫學必ずしも東洋に優ると斷言せざる處なきも、斯界の賢人彼我對照、所謂採長補短の實を期したればなり。嚴たる我が醫道の今日世界に冠たる所以は、幾多の先輩之れが研磨に心血を注ぎたればなり。我が增野純亮氏の如きまさに之れが一人にして、我が醫業に貢献する處又顯著なるものあり。氏は、明治十九年一月、山口縣阿武郡紫福村に生る、當家は累代醫を以て業としたれば、氏亦醫師たらんとし、明治四十三年、岡山醫學專門學校を卒業し、次で同校桂田病理學教室に於て研究一ケ年餘にして、岡山縣立病院内科に勤務、斯業の研鑽に熟誠從事す。臨床の術を收むるや、大正二年郷里、阿武郡紫福村に開業す。乍然斯業に對する研磨の熱意やみ難く、遂に大正十一年再び、岡山醫大齋藤内科に入り專念研究す。同十二年四月、同大學の推薦に依り、文部省在外研究員として、獨逸、スイス英國の三ケ國に内科學研究の爲留學を命ぜらる、是れ實に氏の非凡卓越せる英才を立證する處なり。大正十三年十月、歸朝。次で同十四年、萩市五間町に内科醫院を開業せしが、

忽ち繁榮其の狹隘を告ぐるに至り、昭和二年陽春、萩市江向に宏壯なる病院を建築此處に氏の雄飛の基礎確立したり。然るに、科學の進歩著大醫業の發展殊に著しく、氏時勢を窺察、昭和十二年、同病院内部の大改革に多額の經費を投じ之れを完成す。卽ち病室、研究室、施術室、レントゲン室等、近代科學の粹を集め、早くも醫藥に關する最新の物は是れを收め完璧を期せり。聲價此處に揚り、名實兼備の萩市唯一の病院となるに至れり。

氏の名聲顯著なるに及びても、日夜我が醫道に思を致し、又患者に接しては慈父の如く貧者に對しては經費を受けずして、施療をなし、誠にその仁術の美德を發揮し、その擧措恬然たるは誠に賴母しき限なり。

（住所　萩　市　江　向）

鷲野製機商事社長

鷲野　卯八

名古屋機械工業界に超凡の才腕を揮ひ、その活躍縱横無盡、その名聲隆々たるを鷲野氏その人とす。氏は岐阜縣人三輪安治郎氏の男にして、明治十六年十二月を以て生る。幼少より頴悟、眞摯實質の性は近隣の推賞する所たりき。夙に志を立て名古屋に出で、鷲野商店に入り、恪勤精勵、孜々營々としてその職務に勵み、而も賦稟の商才を揮ひて天性の才能を發揮して、大いに人の注目を引きその前途を祝福して、その知能の非凡なるを見て將來大いに爲すあらんとなし、令妹の女婿に迎へんと欲す。その切なる懇請に對して氏はこれを固辭するを得ずして同家に入籍せり。以來星霜茲に三十有餘年。春風秋風終始一貫して十年一日の如くに亡父久助氏を輔けてその事業の發展に粉骨碎身奮闘を盡して至大なるものあり。經驗を重ぬると共に天賦の智略愈々冴へ、才腕は益々練達を加へて、麒子奮迅の活躍にはまことに目醒しきものあり。商機を捕ふるに敏捷にして明斷果敢の出所進退は商戰に常に大捷を博し、事業を大いに躍進せしめて鷲野商店の名を斯界に高からしめたり。機械工業の經營者として、或は製品の供給者として立つ限りは、單なる常識的知識を以てして事業の繁榮を求むるは至難なり。須く專門的知識をも學ばざるべからずとなし寸閑を得ては研究をなし、或は技術家に教を乞ふ等研鑽大いに努め、これが爲めに技術方面に關する氏の知識まことに豐富にして、專門の技術家すら氏に敎へられること尠しとせず。經營の才に加ふるにこの技術的知識を以て八方奔走し、自家の製品の宣傳普及に努めたるにより、その販路は更に擴大せられ需要愈々增進するに至れり。現に氏自ら執筆し編輯せる全店の商報は、その内容懇切詳細を極め、同業者のそれに比肩し得ざる程に秀ぐれたるものなり。氏の技術知識の如何に卓越せるかを雄辯に立證するものとして、氏獨技の發明に拘るワシノ印スチームトラツプを指摘するを得べし。同品の出現によりて我國工業界は一新紀元を劃らされたりといふも溢美に非ず。專門技術家は何れも口を揃へて其性能の優秀なるを嘆稱し、その製作工程の巧妙なるに稱讃の辭を惜まざる所なり。俊英の智能に加ふるに溫恭謹恪の人格を備ふ。質實堅確の資性に滾々として流露して霊きせぬ溫情あり。ワシノに育てられ、ワシノに生き、ワシノ建設に邁進せる氏は、天性具備する人德に依り、同店全員の仰慕信賴を一身に集む。同店には數多の人材集りて、一糸紊れざる統制の下に最善の努力を盡くせるは、實にその卓拔なる氏の將器に悅服せるが爲なり。ワシノ商店は多大の發展を遂げ、昭和十二年十一月合名會社ワシノ商店の業務一切を鷲野興業株式會社へ繼承、資本金も一百萬圓に增資して新會社名稱をワシノ製機商事株式會社と改稱して、近き將來に於て合資會社鷲野製作所を吸收するの方針なり。氏は現在ワシノ製機商事社長並に合資會社鷲野製作所の代表社員たり。事業界に活躍すること多年、練達堪能

中京事業界にその信望更に重きを加へつゝあり。

（住所　名古屋市中區下前津町一一〇）

日本窒素肥料株式會社

事業界に慧星の如き光芒を放ち、主として西日本より朝鮮方面に於て業陣を布き、その事業頗る多岐に亘りて業況潑剌潑地多大の活況を呈し、世人を瞠目せしめつゝあるもの日窒コンツエルンにして、當社は實に日窒コンツエルンの親會社をなすもの、硫安（カザレー式製法）、硫燐安、合成硝酸、グリセリン、脂肪酸、硬化油その他各種化學藥品の綜合經營、發電及び有價證券投資を社務とせり。その創立は明治三十九年一月のことにして、當初曾木電氣株式會社と稱し、資本金二十萬圓たり。同四十一年一百萬圓に增資して社名を現在の名に改稱す。社業は年と共に多大の發展をなし、漸次資本金を增加して、十二年八月資本金二億圓（拂込一億一千七百五十萬圓）となりて今日に至れり。創業當初は鹿兒島縣の川内川を利用して電力を牛尾、大口兩金山へ供給せしが、後その餘剩電力を以て硫安の製造を開始し、之が多大の成功をなして當社の今日の基礎を築くに至りしものなり。窒素肥料會社としては我國最古の歴史を有し多年に亘りて斯界に覇を唱へ來れり。工場は硫安年産能力八萬五千瓲を有する水俣工場に更に當社の子會社たる朝鮮窒素肥料より本宮工場を譲受けたるを以て、その能力は强大するに至れり。元來當社は肥料會社と云ふよりは寧ろ日窒コンツエルンの持株會社と見るが至當にして舊日本産業に次ぐの新興大事業閥をなせり。その子會社への株式投資は十二年下期末に於て一億七千六百二十三萬四千圓、貸付金八千五百二十九萬二千圓、計二億六千一百五十二萬六千圓に上る。電力事業に約二分の一を投資し、その他肥料、人絹、藥品、鑛業、石炭液化、火藥、金屬、油脂、機械工業等なり。投資會社中その主たるものを擧ぐれば、朝鮮窒素肥料、長津江水電、朝鮮石炭工社、日窒鑛業、端豐鐵道、新興鐵道、朝鮮ビルデイング、日本窒素火藥、朝鮮窒素火藥日窒證券、日東火工品、朝鮮マイト、朝鮮水産業等の直系會社に、旭ベンベルグ、雄基電氣、日本マグネシウム金屬、日窒寶石、日窒火藥販賣、朝鮮送電、東洋水銀鑛業、窒素肥料販賣、富田商會、草津硫黄鑛業、朝鮮石油日本水電、日窒樺太炭業、日ノ丸商會、滿洲鴨綠江水力發電、朝鮮鴨綠江水力發電、朝鮮鑛業開發等の傍系會社あり。何れも時局景氣に惠まれて多大の活況を呈し、内容充實してその收益力頗る大なるものあり。當社の經營方針は頗る堅確實實なるも、他面又科學的合理主義に依據して今日の發展を見たるものなり。子會社に必要以上の利益金を保留するの方針をとり、毎期一千萬圓近くの利益金を擧げつゝある朝鮮窒素を無配當とせるが如きはその顯著なる例なり。昭和十二年下期に於ける當社の決算に依れば、總收入一千八百七十九萬七千圓、總支出一千一百八十七萬七千圓となり。差引當期利益金六百九十二萬圓に達せり。前期に比較して一百六十四萬九千圓、前年同期に比して二百三十六萬九千圓の各著增をなせり。内部に多額の利益金を保留しあるを以て一割配當は綽々たる餘裕を有せり。尙ほ當社は北支に於て石炭を資源とする化學工業を創始せんとして着々として準備を進めつゝあり。前述の如く當社の經營方針は多大の特異性を具備するを以て今後の躍進こそ、蓋し刮目すべきものあるべし。重役には社長野口遵、副社長市川誠次、專務榎並直三郎、常務金田榮太郎、取締役白石宗城、同久保田豊、監査役堀啓次郎、同荻生傳の諸氏あり。

取締役社長　野口　遵　鮎川義介氏と、對比せられて、世上の話題に供せられ、その赫々たる業績は衆庶の景仰の的となれり。資性卓拳豪放にして、その蔦蔵の才腕は財界の

深く畏敬する所、明治二十九年東京帝大工科電氣科を卒業し、後實業界に入りて大いに頭角を拔んで、名聲一世を風靡せし故中橋德五郎氏の四天王と稱せられ、八方馳驅して巨腕を揮ひ、遂に今日の地歩を築くに至れり。氏は大學卒業後化學の研鑽に熱中し、途に前人未發の窒素肥料の製法を創始し、學界並びに斯界に多大の衝動を與へたり。天資高邁にして頭腦明晰、氣器宏量にして心性清高、我事業界を代表するの材器たり。明治六年七月廣島縣にて呱々の聲を發し、同三十一年家督を相續す。

取締役副社長　市川　誠次　石川縣士族市川積善氏の二男として明治五年七月を以て生れ後ち分家す。同二十七年東京帝大工科電氣科を卒業し、後事業界に入りて頴才を示し、異進して現職に就く。寸暇を割きて學理並に技術の研鑽に努め、學識深く、殊に斯業に關する造詣まことに淵博たり。人格清廉潔白たると共に仁情に富み、部下を愛すること重厚にして、多數の社員、從業員より慈父の如くに欽仰せらる。

專務取締役　榎並直三郎　明治三十八年東京帝大佛法科を卒業す。直ちに日本汽船株式會社に入り、大いに敏腕を揮ひしが同社の解散に遭ひて大阪商船に轉じ、四十四年更に當社の招聘に依りて入社し、その材幹を認められて次第に榮進し、遂に現在の要職に推されるに至れり。直摯熱直社業に勵精し、多大の實績を擧げて當社の爲めに寄與せる所鮮少ならず。資性清白高朗にして磊落淡然、小事に拘泥せずして超然とし、頗る仙骨あり。部下の敬服を深めること深し。明治十年神戸市兵庫に生る。

（所在地　大阪市北區宗是町一丁目）

眞如堂眞正極樂寺

洛東関滝の一圓區、三十六峰の全景を一眸に收め、若王寺山の微翠を眉端に仰ぐところ堂塔巍然として梵音馨析の響絶間なき眞如堂極樂寺、古來世に聞えたる名刹とて、群參四時跡を絶たず。時に會うて法燈彌々明かに、信を得て堂舍益々莊嚴、名詮自稱極樂の相を玆に現じて、明淨幽奇なる林泉のたゝずまゐ衆芳の清艶なるは七淨の花かと疑はれ、池水の淸然たるは八解の浴池かと誤たる。去んぬる昭和九年の夏、宗門の巨擘澁谷慈鎧僧正を迎へてより、修法の嚴かなるところ、諸方の檀徒感喜して競ひ起り、中にも金傑三井一家の護持愈々堅きを致し、妙香春りに燻じて法燈更に一如の明を加ふ。

住職　澁谷慈鎧　同僧正は作州久米郡加美村の人にして明治九年八月を以て生る。少時祝髮、鑾て地方中學林に入り、研修三年、同三十二年比叡山に登り天台宗西部中學費に入り、卅九年同大學卒業、其前年横河鶏頭院の住職を命ぜらる。爾來比叡山中學教師、比叡山專修院兼比叡山學院學監、教師、教授に歴任、傍ら延暦寺幹事又は執行として本山諸堂の事務を執掌し、信州善光寺別當大觀進副住職を經て現在に至る。其間叡山横河元三大師堂の當番勤務中、惠心僧都の九百回御遠忌に當り、日夜精勵擧措宜しきを得て、無事大法要を圓成し、又宗祖大師の一千百年御遠忌奉修、御修法復興等の大事業に遭遇して能く其效を收めたる外、各般の衝に當りて一山の興隆に資するところ尠からず。就中其殊功として特記せざる可からざるものは、大正八年法華大會行事勤務中、同會剩餘金を基礎に其宿昔の願望たりし叡山文庫並に叡山學寮の創設を企圖し、幹部の嗾々たる反對を排斥して鋭意奮鬪竟に目的を貫徹せるの一擧なりとす由來叡山は稀觀の珍書秘藏に富み、東洋文化研究資料の不二寶藏と稱せらる。然も舊來之れが保管の設備不完全にして珠玉の散逸するもの年を逐うて多きを告ぐるに迫べり。是れ

識者の風に蹉跎痛惜して已まざるところなりしが、同文庫の設立に依りて擴後の憂を防ぎ得たるのみならず、此れに感学して藏書の寄贈若くは寄託を申込むもの續出したり。叡山學寮の創設は本宗僧侶として必須の學科を授け法儀等を短期間に修得せしめて教師の資格を與へ、更に實踐的修道に進まんとする要求に應じたる最も緊要の施設にして一團の青年學徒が二千七百尺の高峰の一角、古檜老杉蓊鬱として晝尚暗き靈場に、先蹤を慕ひ流芳を拘しつゝ物質の缺乏と、風雨寒暑の艱苦に耐へて、孜々として砥礪琢磨するの狀を親しく目睹するものは齊しく異常の感激に打たれ、毎月五人分十人分の供養料寄進を申出づる篤信の檀越も尠からざる由。氏の學事上の功績は此に止まらず、寸閑を利して選述するところの典籍頗る多く、就中「印國入四度行記」の如きは前後五ケ年の歳華を費して完成せる苦心の結晶にして宗門近世の佳篇と稱せらるる氏は更に「天臺宗年表」の編纂を企劃し、目下其道程の半ばに在り。之れが實行に就ては知己相議つて援助することゝし、頗德會を組織して同志を募るや、入會者續々相次ぎ、又本山宗務廳は宗會の協贊を經て、此事業を補助し、大檀越三井家及僧正特信の外護者は進んで淨財を喜捨し、斯くて出版費は立どころに充實せり。以て僧正平昔の德望の一端を想見すべきなり。有德の人の到るところ、光明洽くして慈雨亦滋し。曾ては善光寺の要職に在りて、全國數千萬信徒瞻仰の的となり、今は名刹眞如堂の住持として、天下の富豪三井一族の信望を一身に鍾め、道譽一世に隆し、僧正の如きは夫れ人中の龍と謂ふ可きもの歟

（所在地　京都市左山區淨土寺眞如）

株式會社　明電舍

各種電氣機械器具を製作して、その創業の古きと製品の優秀なるとを以て全國にその名聲鳴響き、斯界に不拔の勢力を有するを明電社とす。抑も當社は明治三十年十二月故重宗芳水氏が京橋區船松町に建坪僅か三十餘坪に過ぎざる一小工場を設立して、電力、電燈の機械器具の製造を開始せしを淵叢とす。同氏は俊敏萬才にして賦稟の才腕あり。拮据刻勉して事業に一身を傾倒し、幾多の難關を突破して勇往邁進し、三十八年十月には京橋區明石町に五百餘坪の土地を入手して、建坪三百餘坪の工場を新設するの大發展をなし、爾後事業愈々躍進をなし、四十五年二月には大崎驛に隣接する現地に二千二百餘坪の新工場の建設に着手し、大正二年五月に落成移轉をなせり。間もなくして勃發せる歐洲大戰に依りて、當社製品の需要は俄かに激增して、晝夜兼行操業大いに繁忙を極め、大正六年には資本金二百萬圓の株式會社に改組し、更に隣接地を買收して工場の大擴張を行ひ、事業更に一段と膨脹す。尚ほ製品の改善向上を圖る爲めに研究所を設置して、材料の精選並に製品の改良に多大の研鑽をなし、同業各社の追從を許さざるの優秀なる製品を製作して、湧くが如き好評を受け、斯界獨歩の地歩を占むることゝなれり。大正十一年八月には資本金を五百萬圓に增資し、後愛知縣西春井郡西枇杷島町に名古屋工場を設立、更に東京羽田に羽田分工場を設置し、業界に堂々覇を唱へり。尚ほ當社は最近本工場三千五百七十五坪の改築第一期工事、並びに羽田分工場の三千餘坪、第一期建設工事を行ひて、大いに威力を加ふることゝなりたるが、尚ほ荏原製作所の建物一切敷地三千三百九十八坪、借地三千四百八十三坪、建坪三千七百七十坪の權利を買收し、その内工場の一部は十二年十二月一日より使用せり。近年の時局關係の影響を受けて製品需要大いに著增し、當社業績は多大の向上を見つゝあり。十二年下期決算に依れば總收入三百七十三萬八千圓、總支出三百二十九萬圓、差引當期利益金四十四萬七千圓に達す。これに對して一割配當を踏襲せり。當社は多年の研究に依る拔群の技術と、その

優秀なる設備は他社の比儔を許さず、その地盤は牢固たるものあるを以て、當社の前途まことに洋々たるものあり。當社は多年業界發展に貢獻する所多大にして、大正十一年十一月には最くも工業奬勵の大御心より勅使御差遣の光榮に浴せり。因に當社重役は社長重宗芳水、專務取締役重宗雄三、取締役金子金次郎、同横田宙次郎、同竹内壽太郎、同山田利平、監査役北村文重、同大野清三郎、同阿部太九三、同石山龍雄の諸氏とす。

社長　重宗芳水　資性溫厚にして、質實堅確、嚴君の遺志を繼承して事業に力を盡くし、職員從業員より深く景仰せらる。頭腦明晳にして周匝緻密、思慮甚だ愼重なると共に、裁斷又頗る迅速、將來財界に大〻に頭角を現すに至るべし。教育高く心性破潔の好紳士として衆庶の瞻仰を受く。明治四十二年七月故重宗芳水氏の二男として生る。前名鱗多を改めて襲名し、父業を繼ぐ。尚ほ氏の母堂たけ子刀自は人も知る我が婦道の鑑鑑たる才媛にして當社今日の隆興に内助の功頗る顯著なるものあり。義に東大崎町に芳水亭常小學校を建設寄付し、特別教室その他建築費用として三十數萬圓を寄附して町民より多大の尊崇を受けたるは周知の如し。

（所在地　東京市品川區東大崎二丁目）

丸紅商店名古屋出張所長　井上富雄

丸紅商店名古屋出張所長として、中京に於て少壯氣鋭縱横に敏腕を揮へる人に井上富雄氏あり。氏は京都市井上宗次郎氏の二男として、明治三十六年二月に生る。夙に神戸高商に學び、昭和二年に同校を卒業すると共に直ちに合名會社丸紅商店に入社す。最初は大阪支店勤務を命ぜらる。氏はまことに業務に熱心にして、脇目　もふらずに職務に專念し、早朝より深夜まで献身的に活動す。如何に繁雜なる仕事と難も率先してこれに當り、人の嫌悪する仕事をも欣然として爲す等、他の社員の模範とせらる。而もその頭腦まことに明晳にして俊鋭、まさに剃刀の如くに凛然たる切れ味を示す。當社の幹部は氏の人物に期待する所まことに大なるものありて、同僚先輩を拔いて重要なる位置に拔擢し、拔擢されば される程に氏の手腕は愈々巧妙を極めて嘆稱の的とせらる。斯くして多くの先輩を追越して榮進し、昭和八年には一躍名古屋出張所長の重職に簡拔さる。時に齡僅かに三十。白面の一青年が突如中京財界に出現して人を瞠目せしむ。氏の腕は益々冴へて優暢縱横營業成績は一段と進展せり。資性溫厚にして剛毅、抱擁力ありて寛髮宜しきを得。眞に人の將たるべき人たり。廉直にして至誠の人格は、世の人望を高め、中京財界に大いに頭角を現す氏は齡未だ若く將來如何に大成をなすや絶大なる興味のかゝる所。尚ほ福子夫人は明治四十二年堤安之助の二女として生れ、京都府立第一高女出身の才媛たり。長男喬雄君、長女房子孃の一男一子あり。

（所在地　名古屋市西御幸本町九丁目）

實業家　山崎龜吉

若冠にして身を商業界に投じ、聰穎なる商業手腕を縱横に馳騁して、着々その地歩を固め、逐次事業界にもその驥足を伸長し、今や諸事業を統理して之れに一意眞摯の熱腸を捧ぐる慈星的存在たり。また嘗ては貴族院議員として、多年政治にも關與して貢献するところ尠からず、朝廷其功を錄して勳四等を下賜されし堂々たる逸足なり。明治三年一月、東京府の人田中太吉翁の長子として呱々の聲を發す。先代山崎かね刀自の養子となり、山崎家に入る。天性怜悧明敏にして衆兒に頴脫し近隣を愕然たらしめ、將來の大器を想見せしむ。若冠にして時計貴金屬商を營み、身を持するに刻苦力闘、且篤恪勤して店員共精神力

に舌を捲く。而も卒先して店舗の繁榮を目指してその燃燒力となる。臥薪嘗膽幾春秋、逐次貸殖して信用重厚を極め、業態順調を辿りて發展亦發展、同業者を畏怖せしむること多大。聲望おのづから豐贍にして隆々たり。踵でその餘力を諸事業に染着し、一業又一業、年を逐ひてその數を增し獨自の天地を開拓す而して社長若くは役員として關與すること數社に迨ぶ。現に御嶽登山鐵道、シチズン時計東京金張工業各取締役會長、多摩川水力電氣朝鮮金鑛、日本ダイヤモンド各取締役、合資會社山崎鯨吉商店代表社員等に推輓され、或は就任す。氏亦夙に東京府多額納稅者に列し衆に互選せられて貴族院議員に擧げられ、獨自の政治的才幹を發揮せしは世人の未だ記憶の新たなるところなり。尙且つ過ぐる大正十二年國際勞働會議に資本家側代表として渡歐し、能く使命を遂行して歸朝す。氏の偉業の快擧にして明朗なる他にその比を觀ざるところにして、常鱗の能く爲すところに非ず。之れ氏の堅忍卓拔、絶倫の精神力の顯彰にしてその行履燦然として歳と共に光被を益すものあり。氏こそは奮鬪傳中の才物なりとす。世人氏を評するに必らず、その懸命なる努力と才氣煥發を讃嘆指摘し、尙且つ內剛外柔を語るを常とす。氏は讀書を趣味中の趣味と爲す『夫れ天下を治め、敵を滅ぼすこと、全く戰を以て得べからず。常に柔を以て敵を攻めよ柔とは心中の信を柔とするなり。凡そ、人心は柔にして空し、しかも萬法に通じ、色形なくして、而も之を用ゆるときは、剛大なり。石を碎き金をとらかす、悉く此の空心の用にして、柔を以て剛を制す』と。是れ大補公の小補公への遺言の一事たり。氏之れを座右の銘と爲せりや、否や、知らず筆者は。

（山崎商店所在地　東京市日本橋區馬喰町四ノ二兩國ビル）

三井物産株式會社 神戸支店

支店長　廣岡信三郎　三井物産神戸支店長

世界貿易戰に華々しき活躍をなして、その信用の牢固たると共に勢力又絶大にして、躍進日本のチャムピオンとして、その名聲全世界に隱くれもなき三井物産は、全世界の各地に支店出張所を設け、廣大なる事業網を張れり。日本內地各地に於てもそれぞれ支店を設置せるが、我國屈指の貿易港神戸支店の如きは、全支店中に於てもその任務最も重要性を帶びるものなり。神戸港の我對外貿易に於ける位置の愈々重要意義を加ふるに伴ひ、當支店の如きは今後益々多事なるものあらん。

として天稟の才腕を揮ひ、その名聲神戸財界に顯然たる人に廣岡氏あり。氏は明治四十三年東京高商を卒業し、直ちに三井物産に入れり。新嘉坡、大阪各支店詰を命ぜられ、儕輩を拔ひて大阪支店長に簡拔せられ、次いで青島、新嘉坡、香港各支店長を歷任し、各國商人を相手として目覺しき活躍をなし、勇斷敢爲敏捷に行動して商機を逸せず。その俊敏と商才と果敢なる活躍は、各國商人の深く瞻仰する所となれり。昭和八年に至り神戸支店長に榮轉して今日に至る。氏は頭腦明晰にして才氣煥發、機に臨み變に應じて縱橫に奇略を廻らし、萬根錯節せる難問題も、氏の俊敏なる力量によりて快刀亂麻を斷つが如くに鮮かに裁斷せらる。匝周縝密、犀利敏捷その明晳なる頭腦を馳驅して獨創の商陣を張り、愼重なる思慮を拂ひて後、明斷果敢財界場裡を奔走して群拔の才腕を揮ひ、世人をして瞠目せしむ。寸暇を惜しみて研讀相勵み、業務の研究に資料の蒐集に或は讀書に調査に沒頭し內外の經濟事情や、國際貿易に關して、まことに該博なる智識を有せり。人格淸廉潔白にして名利に超脫し、心性皎潔にして氣宇濶達小事に拘泥せず、襟度宏く、抱擁性に富めり豐富なる蘊蓄、高邁なる識見に更に卓拔なる手腕を有して、神戸支店長の重職にある。氏はまさに適材絶好の適所を得たりといふべく

今後大いに頭角を拔ん出て三井王國有數の人物として重きをなすに至るべし。明治十九年二月京都府廣岡伊三氏の四男として呱々の聲を擧ぐ。尙氏は其の傍ら、大正運輸、日本樟腦各監査役に推擧せらる。

（所在地　神戸市榮町）

下關市會議長 岡本動治

山口縣法曹界の重鎭として、辯護士たるの傍ら、地方政界にその翼翼を張り、今や下關市會議長として市民の輿望を一身に鍾め、名聲正に錚々として輝けり。政界に、法曹界に燦然たる異彩を放てると雖、氏の過去亦奮鬪努力の賜に外ならざるなり。明治十五年四月下關に生誕し、同三十八年關西大學を卒業し刻苦勉勵遂に司法官試驗に合格す。明治四十一年十二月、松江地方裁判所檢事局司法官試補を經て檢事を拜命す。此處に氏の官途に於ける一歩を印し將來の飛躍の素地定まれり。同四十四年九月、札幌地方裁判所檢事に轉任越へて大正三年四月京城地方法院仁川支廳判事を拜命す。同八年、從七位に叙せられ次で朝鮮平壤法院鎭南浦支廳檢事を拜命し、同年四月、從六位に敍せらる、同年惜まれて官途を辭し此處に官界生活の終焉を告ぐるに至れり。此間幾多の難事件を處理し、名判官として名聲を揭げたるは洽く人の知れる處なり。官途を辭し辯護士を開業し一度政界に膜足を伸ばすや忽然、下關市々會議員に當選し、次で同議長に推擧さる。以て氏の手腕を窺知するに足らん。信望は正に隆々、昭和五年三月山口縣々會議員に易々當選し、同八年四月下

岡本動治氏

關市會に再選され、同議長に重任す、同十二年四月の改選に際し三度、市會議員、市會議長となり今日に及ぶ、尙ほ下關市衞生聯合組合聯合會々長、山口縣辯護士會副會長及び會長、政友會下關分區幹事長、政友會山口縣支部總務、下關港擴築期成同盟會副會長、下關漁港協會々長等々幾多の重職に推輓されて寢食を忘れたる活躍は誠に敬服に堪へざる處なり。其爲人、溫順鶴實の典型的紳士にして、溫容は氏の人德を示すものにして、人を魅すものあり。氏多年官吏生活を經たると雖、所謂官僚臭の弊なく、人格頗る圓滿度量亦絶大なるは稀世の人材と稱すべく、又後身の範たるに足らん歟。

（住所　下關市關後地村八〇六）

株式會社 吉田時計店

名にし負ふ帝都に於ける時計店にして、創業以來既に四十星霜に近く、終始堅實經營に奔命し、意氣潑剌として其前途を囑目さるゝ儼乎たる存在なり。抑々吉田時計店の發祥は先代庄五郎翁が明治三十四年三月を以て、現本社所在地に微々たる時計商を獨立開始せるに其緖を發す。元來當吉田家は神奈川の出にして、翁は若冠にて八王子所在時計洋傘商木島安五郎商店に入る。天稟剛腹にして、聰敏而も商才に穎脫し、超凡の努力家なりしかば夙に木島店主の烱眼に適ひ信認を受け其女ヒデ女を配せらる。而して獨立開業爾後の翁は文字通り孜々恪勤、堅實なる商策は逐時商內を繁劇たらしめ、信用益々昂揚し、聲譽を鍾むること多大、遂に能く今日の基礎を固めたる奮鬪成功誌に記錄さるべき才物たりき。昭和八年に迨んで現社長吉田庄五郎氏は時運に

濟み、同族並に使用人を統合し、全經營一切を擧げて資本金二百五十萬圓（全額拂込濟）の株式組織に變更すると共に、大正五年より時計側並に置時計の製造に染着して異樣なる業績を擧げ來れる傍系たる東洋時計製造所の業務も、之を資本金四十萬圓（全額拂込濟）の東洋時計株式會社と改組改稱するに至れり。之れより先、昭和六年には業務發展に伴ひ、營業部門を分割するに大阪支店を設置し、本邦西部及鮮滿地方を販賣區域として其衝に當らしめたり。踵で同十年に迫んで新興滿洲國の需要激增の爲、之れに備ふに株式會社東洋商會（資本金二十萬、拂込濟）を設立し、從來大阪支店販賣區域の內滿洲北支一圓の販賣を之に當らしめたり。尙同十一年一月東京府下日野町に最新式の諸設備並に機械裝置を有する日野工場を新設し、爾に東洋時計會社が製造に着手せし、小型時計製造の事業を分離して之に移し、操業順調を以て今日に及べり。

尙當店に於ては既に昭和六年頃より自動車方向器の製作に着手せるを動機として、同九年頃よりスピード・メーターの製作に進出し、自動時計、自動車用電機用品等と併せ日產、トヨダ、自動車工業等の一流國產自動車會社に專屬的に納品し、斯界に肇岡不拔の地盤を築くに至れるが、支那事變發生以來の國產自動車の急激なる勃興需註に對應すべく、從來東洋時計會社の埼玉縣上尾工場內に於て製作し來れる該製作を分離し、株式會社東洋商會（資本金二十萬圓內半額拂込）の設立を見るに至れり。爾後航空計器類の製作にも進出する意嚮あり。一面都下タクシーが、本年秋頃よりメーター料金制を實施のことゝなり、メーター計器の需要著增するに對し、之れが販賣機關として、燃料局の慫慂に依り、石油聯合株式會社によりてタクシー業者への販賣統制機關たる意圖の下に、齎に自動車計器株式會社の設立を見たるが、未だ製作業者に有力なるものなく、當局よりの慫慂もある如く、爾後メーター計器製作にも進出すべく觀せらるる之を要するに當店の前途は愈々意氣軒昂たるものあり、齊しく其動向を瞠目されつゝあり。

因に其陣容は、取締役社長吉田庄五郎、取締役兼支配人木島倉造、同兼支配人佐藤健三監査役吉田ヒデの諸氏なり。

取締役社長　吉田庄五郎　令府の血を享けて克明にして謹直、手腕力量洽聞する斯業界の新人たり。明治三十六年五月、先代庄五郎翁の長子として東京に生誕す。夙に父業の良佐として眞摯家業に精勵し、能く今日の盛況を爲す。大正八年家督を相續し、前名嘉太郎を改め襲名す。因に監査役吉田ヒデ女は氏の母堂にして、取締役兼支配人木島倉造氏は木島安正郎翁の三男なり。

（所在地　東京市下谷區上野元黑門町）

市河鐵工造船所

四面環海の所謂海國日本に於ては、最も海事、海運、海防の充實に俟つもの最も大なるが、海事制覇は單に軍事のみに止まらず、民營海事事業の勃興と民船制海又重大なる側面的使命ありと云ふべきなり。我が市河鐵工造船所は西日本有數の漁港たる下關に於ける小型船舶造船並び船用機關製作の重鎭にして、殊に遠洋漁船建造技術に於ては、全國に覇業を誇る歷史を有するものとして驍名高く、現下戰時體制下に堂々造船報國の實蹟を擧げつゝあり。其の技術は既に海軍當局のよく認むるところなり。當所は大正十二年、現當主市河元次氏の創立に係るものにして、主として船舶機械一般、捲上機、製氷機、碎氷機、造船並に修理及內燃機關製作を以て同地斯業界をリードするの盛況に在り。同所の建造船舶は主に海國日本の誇りとする遠洋漁船にして其の建造にかゝる漁船は遠く東、南支那海方面に出漁して漁業制海の實を擧げ、而も數千浬の荒波を踏破、貴重なると人命と漁獲物の

萬全を期しつゝあるは如何に同所の造船技術の優秀なるかを實證するものとして、水產業者の等しく認知信賴するは勿論、社該管海官廳たる門司海事部に於ても、其のよく船舶安全法造船規定を遵守、建造技術向上に盡瘁するを賞讃するを以て知れり。一方海軍省の軍需品を生產して國家的に多大の貢獻を爲しつゝあり。今や業績隆々斷然、業界を壓倒躍進をつづけつゝあり。

市河元次氏

所主　市河元次　市河鐵工造船所の今日あらしめたるは、實に氏の血涙に彩られたる努力奮鬪の結晶にして、今や名實共に爲り傍ら水產業をも兼營し著大の業績を收めつゝあり。一方篤實組、下關重油販賣會社各重役下關市信用組合、山口庶引網水產組合評議員內燃機具工業組合理事を歷任、又下關市會議員として同市議政壇上に鳳爽の手腕を發揮しつゝあり。氏は廣島縣御調郡三浦村の出身にして、大正七年身を起して來關、同十二年現住所に造船鐵工所を創設して、玆に二十有餘年、忍苦と努力を重ねて、遂に今日の偉大なる成果を贏ち得たる立志傳中の偉材にして、大正十四年、同所建造にかゝる手操漁船十四隻を以て、百五十名の乘組員を構成して、東支那海に進出、遠洋漁業を決行、見事所期の目的を遂行、多大の收獲を收め、獨自の境地を開拓し、その業態を遂次好轉に向はしむ。又昭和二年若槻內閣瓦解直後に於ける財界パニックに直面するや、氏の財政對策適切を得、能くその苦關を克服したるあり、之れ凡庸の爲し能はざるところにして、以て氏の苦鬪善處の一面を窺知するを得べし。氏の市會議員としての手腕は既に定評の存するところにして、一新會の指導的地位にあり、同市々會の至實的特異の存在を示しつゝあり。資性豪放にして緻密、不言實行を以て果斷所信に邁進し、貫徹せざれば屈まざるの熱血漢なり。殊に正義感に强く、公的行動の上に私的存在を許さず、只管滅私奉公の精神に燃ゆる熱血漢たり。一面敬神の念厚く、日本精神の體得者として特筆すべきものあり。今や下關市に於ける事業界に、政界に巨星の如く輝き、その前途は正に洋々たるものあり。因にまつ子夫人は廣島縣人岡野鹿之助氏の二女にして、內助の功多大を謳はるゝ賢夫人なり。

（住所　下關市伊崎町二三二）

野村證券株式會社

野村財閥直系の一偉業たり。大正十四年十一月野村銀行證券部門を分離して、資本金五百萬圓を以て設立、昭和三年七月一千萬圓に倍額增資し、現に內拂込七百五十萬圓を擁せる斯業界の雄たり。當社最近の業績を昭和十二年下期狀況に窺ふに、準戰時體制下に於ける生產力擴充過程の進展に伴ひ、一方に於ては銀行の貸出と株式拂込資本の激增に依り、他方輸入增大に基く決濟の爲の正貨現送に依り、金融基調の根本的變化を觀たるは既に前期央より顯著なる現象なりき。然るに當期に入り七月七日の蘆溝橋事件に端を發せる支那事變の擴大は、準戰時經濟より戰時經濟への編成替を促し、金融界亦異變の緊張を示すに至れり。然るに日銀國債擔保利子引下げ。日銀、預金部、興銀資金の積極的貸出、國庫支拂の促進。日銀公債買オペレーションの外。金準備評價替。臨時資金調整法の制定實施等金融緩和策を講じたる結果、一般に比較的平靜に推移せり。而して金融市況の推移を金利の動きに就きて見るに、一般に强調を呈し、翌日物月中平均日步は八月まで各月共前年同期を上廻はれるも、九月以降に於ては前記緩

和策奏効して緩慢傾向を示し、特に從來屢々繰返されたる月末極度の逼迫は相當緩和せらるゝに至れり。公社債界は一般に閑散收調を持續し、起債市場亦全く閉熄のまゝ經過せり事變勃發當初、國債市價モーラル・サポートの結果甚だしき急落を見せざりしも、爾來九月初に至るまで低下の一途を辿り、一圓六十錢方利は百圓丁度と事變前に比し、一圓四分佛貨四分利は百九十三圓と三圓四、五十錢方夫々低落し、米貨六分半の如きは三十余圓の暴落を來し、地方債、社債市價は四分五厘物前者は九十九圓七十錢、後者は九十九圓と事變前に比し、一圓內外安の値頃にまで低落せり。然るに、九月中旬以降短資の緩和さるゝや、市況一般に活氣を呈し、漸次事變前の地位に復歸するに至れり。叙上の如く當期に於ては、稀有の事業に際會したる爲、當社も營業上相當の苦心を要したる模樣なりしも、擧社一環連鎖となりて、燃ゆる愛社心の下に、野村傳統精神を發揮し、五十一萬六千餘圓の利益金を擧げ、前期利益金に對比して十八萬八千圓、前年同期に比し十一萬八千圓の增益を示し、この利益率一割三分四厘に相當す。尙配當は時局に鑑み自重して五分配當（前期七分配當）に止め、後期に二十八萬八千余圓を繰越し餘裕裡に決算を了たり。今や當社は總資產實に一億二百十五萬一千余圓、所有々價證券三千六百八十三萬三千余圓、諸準備金三百六十七萬一千余圓を包藏し、業況益々隆盛を極めつゝあり。因に當社支店所在地左の如し。東京、名古屋、京都、神戸、岡山、廣島、高松、門司、福岡、金澤、新潟、靜岡の各樞要都市。

取締役社長片岡音吾氏、常務取締役丹羽實、同飯田清三、取締役野村元五郎、同松島準吉、同大山謙吉、同松本恕平、監査役野村義太郎、同山內貢、相談役野村德七

取締役社長　片岡音吾　氏が野村財閥の重石たるは、野村合名筆頭理事に依りて立証する處にして、當社長として全責任を負ふる他、野村銀行、野村生命等々の重役を兼ねる偉材たり。明治十四年二月、岡山縣片岡篤太郎氏の次男として生誕す。同三十九年東京高商專法科を卒へ、直ちに興銀に入行、在勤十一年にして副支配人に榮進し、日支合辦中華滅業銀行創立に際し、日本側代表として敏腕を認めらる。當時關西財界の新進たる野村德七氏が銀行計畫に當り、廣く人材を物色せる際迎えられて傘下に入る。大正七年五月野村銀行設立するや、拔擢されて取締役支配人となり、直ちに常務に起用さる。斯くて野村銀行が順調を辿り、預金一億圓に達せるを機會に、證券關係を銀行より分離せしめ、新たに證券界へ進出を目論見て大正十四年十一月、銀行より資本金五百萬圓の野村證券を分離獨立せしむると同時に、社長に就任せし氏は藤田家經營の大正信託を買收して新たに大阪信託（現野村信託）と改稱しその主宰者となる。氏は前叙の如く野村生え拔きの人に非ざるも、大正七年より既に經過すること二十一年其間野村財閥の燃燒力として緻密なる頭腦と鍛練されたる度胸とを驅馳して第一線に立ち、體驗せし創業以來の苦勞は並々に非ず、從而事「野村」に關する限り、證券界の事に關する限り、細大洩さず知らざる所なき博學多識たり今や右手に野村證券を、左手に野村信託を擔りて新興野村財閥の巨頭として關西財界に雄飛し、社會的にもその將來の活躍を期待さるること多大なるものあり。

（所在地　大阪市東區安土町二丁目）

醫學博士　三矢辰雄

名古屋醫大助教授にして醫學博士たる三矢辰雄氏は、臨床學界に幾多貴重なる研究資料を發表し功績顯る顯著にして、氏の將來大いに囑目せらる。由來、三矢家は其の祖先は平維盛の一族にして、名を改めて伊藤氏を名乘る。代々正四位中將たりしが、德川三代將軍

家光に弓矢の妙技を愛せられ、之が客分となりしこと有り、家光嘗て隅田川上流に於て鷹狩の際、上流より流れ來れる桶一箇、家光之れを見て微臣に命じ射止めんとす、皆色を失ひ之れを爲し得るものなかりしが、伊藤氏美事桶輪の中に三本迄矢を並べ立てたる妙技に家光痛く之れを賞し以來、三矢の姓を賜り、厚遇せらるに至る。後宇都宮釣天井の變あり伊藤氏（三矢）平常酒井雅樂頭と交誼ありし爲、寃を享け罪せられんとせるの時、三河西尾の城主松平和泉守家光に謂ふて之れを救ひ從へて歸る。之れ、三河國幡豆郡大戸村の豪族三矢氏の祖なりと云ふ。三矢辰雄氏は其末裔にして、明治二十六年七月に生る。夙に愛知醫學專門學校に學び、卒業後引續き、皮膚科、泌尿器科學教室に於て研究し後、同校助教授を拜命、大正十五年五月、高等官五等を以て遇せらる、同年九月、醫學博士の學位を授與さる、昭和二年四月、日本皮膚科泌尿器科學會總會に於て、名譽ある特別講演、研究資料發表等數回に及び、多大の賞讃を博せり。昭和四年七月、文部省より歐洲留學を命ぜられ、滯歐一ケ年多くの研鑽を積み、五年十一月歸朝し、高等官五等從六位に叙せらる、更に昭和六年五月、同大學官立移管により、名古屋醫科大學、皮膚泌尿器科助教授に任命せられ、同十一年高等官三等、從五位に陞叙せられ、幾多の學徒を養成して社會に送り、功績顯る大なり。因に次兄健次氏は家督を繼承し、長兄萬次郎氏は三河新川に病院を開業、次弟醫學博士飯田義士氏は、名古屋市の中心地新榮に產婦人科醫院を開業、末弟寛博士は淡路洲本病院耳鼻科部長として勤務す、兄弟三人博士號を有するは、誠に稀に見る處にして、正に家門の榮譽之に過ぎざるものなし。

（住所　名古屋市中區南伊勢町二丁目）

紡織機械用品株式會社

創業以來年處敢て多からずと雖も、既に堂固不搖の業礎に立てゝ躍進發展し、其の業勢隆々たる、恰も旭日昇天の慨あるを、紡織機械用品株式會社となす。而かも其の各種製品何れも性能優秀、構造堅牢を以て鳴り、周く需要界に好評嘖々たる處、斯界有數の模範的會社と推稱するも、敢えて過褒の辭たらざるべし。抑も當社は昭和四年十月、資本金二十五萬圓（全額拂込濟）を以て設立營業の端を發し、專ら一般紡織機械及用品雜貨具等の製造販賣を業とす。爾來本邦紡織界の急激なる發展進歩に伴ひ、順風滿帆、着々業績擧りて躍進に躍進を累ね、遂に今日見るが如き盛運を贏ち得たり。其間素より經營主腦者の一絲紊れざる統制下に、全員一致協力、克く業務に精勵し、不撓研鑽只管技術の向上、製品の改良を圖り、亦た堅實主義を標榜なして拮据經營する處、其の製品は優秀堅牢を以て嶄然他社製品を凌駕し、國產優秀機器たるの聲價藉甚たり。而かも將來益々衣服文化進展し、一般紡織界の好轉窺知するに難事たらざる處當社前途の一段たる飛躍發展こそ、眞に期待すべきなり。因みに當社重役陣容を瞥見なせば、取締役社長に古市勉氏就任し、以下取締役吉田勝一郎、同澤野實、同永井八郎、監査役小澤文太郎、同今西信太郎諸氏の人材、夫々責務を擔いて間然する處なく、以て社業興隆を圖りて善處し居れり。

取締役社長　古市勉　埼玉縣古市直之進長男として、明治二十年十二月に誕生し、學序を經て東京高等工業學校紡織科に入り。同四十二年優秀拔群の成績にて卒業後、下野紡績に入社して斯界にスタートを切るに至れり。其後高田商會を經て三井物產に轉じ、大阪、紐育、倫敦、上海等各支店に歷勤し、其の天賦の才幹手腕は、不屈の勞力奮闘と相俟ちて、異數の功績を擧げ、同社機能の一分野を守りて貢献寄與せる處多大、現に同社囑託たり。亦た當社長の樞椅を占むるや、渾身の努力を傾注、以て社運の伸展發達を圖り、其

の非凡の手腕遺憾なく發揮さるゝ處、遂に今日の盛榮隆昌を見るに至り、更に一方、メリヤス機械用品、繊維研究所各代表取締役、東洋針布製造取締役を兼ねて、斯界の進歩發展に處せる功勞尠なからず。今や令名嘖々として業界を風靡し、其の一擧手一投足、悉く斯界注視の的たらざるはなし。資性温厚明朗にして亦た洞達、頗る研究心强く、頭腦敏密にして事業企劃の周到綿密なること、正に驚嘆に値するものあり。

（所在地　大阪市西區新町南通三丁目）

實業家　石黒平吉

東北肥料界にありて、逐年巨額の製品を製造し、その販賣高又莫大なる額に達し、事業頗る殷盛を極めて信用高きを石黒平吉商店とす。當店の創業は大正十一年のことなるが現店主石黒平吉氏の努力奮勵によりて、短日月の間に今日の如き發展を齎らされたるものなり。氏は福島縣伊達郡飯田村に生れ、早くより鹽釜町に來り、夙に肥料業に從事せしが、斯業の將來性あるに着目し、種々と研究して他日に備ふる所あり。獨立創業なすと共に拮据奮闘して經營に專念し、遂には東北有數の大肥料商として驚異的躍進をなすに至れり。

その營業種目を見るに肥料（魚肥）魚油鰹節鮫鰮、オキコを取扱ふ）あり。肥料製造工場は鹽釜町中ノ島に三棟、又倉庫は同町港町三番地にありて規模甚だ大にして、その原料仕入先は三陸、北海道、鹽釜、常磐線方面にして、廣く各地より供給を受く。販路に至りては全國各地に及び魚肥は主として北は小樽より南は尾道に至る各地と盛に取引せられ、又魚油は東京、横濱、大阪、京都、神戸、和歌山、東北地方の各地より北陸方面等に及び、一ヶ年の販賣高は百五十萬圓に達し、頗る盛況を呈せり。その規模の大なること當に鹽釜町屈指の大商店たるに止まらず、東北有數の大肥料商たり。以上の營業の外に住友中性硫安特約店を始め、内外肥料各會社の特約店を兼ね、或は住友生命保險株式會社、横濱火災海上保險株式會社代理店たり。氏は剛毅果斷にして、意志强靱の努力奮闘の士なり。而も頭腦俊敏にして洞察力に富み、一度肥料業の有望なるに着目するや、孜々として專心之に傾倒し、如何なる障害にも屈せず邁進して、氏は遂に今日の榮冠を獲得したるものにして立志傳中の人として青年子弟に多大の教訓を與ふ。氏資性頗る温厚にして圓滿、店員職工に對しては慈父の如くに慈しみ、又町民の爲めには如何なる犠牲をも惜しまず寄與して、崇仰せらる。現在鹽釜海産物組合長、鹽釜商工會常議員、宮城縣肥料同業組合役員、滅判所調停員、衛生組合長、自警團顧問等の公職にありて活躍せり。

（住所　宮城縣宮城郡鹽釜町築地中通二丁目）

株式會社　野村製作所

野村製作所は現同所顧問野村喜代太氏が大正二年大阪泉町に小規模の工作機械工場を設立したるに始り、時代の進展に伴ひ機械工業界の急速なる勃興の波に乘り、昭和八年、野村製作所と名付けて大工場となし斯界に進出す。その優秀なる技術と製品の優良は全國各方面の大會社よりの註文殺到したるを以て、昭和十二年十月時運に卽應、之を百五十萬圓の株式組織に變更し以て今日に及びたるものにして、今や我國斯業界に堂々其の存在を知られ隆々たる躍進を遂げつゝあり。

顧問　野村喜代太　身を一介の職工より起し、今や其の卓越せる技術に於て赫焉たる名を博して、全國機械技術界に儼乎たる存在を示し、野村製作所の顧問として同社の躍進を双肩に擔へり。

氏は明治十一年二月、福井縣吉田郡野村喜三郎氏の男として生る。幼少にして技術立身を志したる氏は同三十六年、廣島縣呉海軍工廠に見習職工として入廠、懲ゆるが如き決意の堅固さは日と共に練磨され、熟練工となり認められて二十三歳にして伍長となる。斯かる若齢を以て伍長に陞進せるは、同廠開廠以來氏を以て嚆矢と爲す。以て氏の如何に技術に優秀なりしかを窺察せらるべし。氏は旋盤工として特に其の技術を謳はれ、十四年間一日の如く精勵之れ勤めたり。其の間、日露、日獨の兩戰役には氏の技術の優秀卓越せるより抜擢せられて、艦船機關の修理に當り、國家の爲盡瘁し度々上長より表彰されたり。後氏は獨立を志し、大正二年、大阪に來り、工場を設立、獨得の技術を發揮し、各方面よりの絶大なる信望を博し、業況は逐次隆盛を極め、昭和八年現在の場所に大工場を設立し、數百人の職工を使役して堂々斯界に頭角を現はすに至れり。然も氏は自から陣頭に立ちて、外交に設計に技術に全力を傾注したりしかば全國より氏の人格と技術を買はれ註文殺到、克く今日の基礎を築き上ぐるに至れり。遂に昭和十二年十月、資本金百五十萬圓の株式會社野村製作所を設立するに至りたり。而も努力は認へられて最高顧問の榮職に就きたり。氏は常に天賦の職責に邁進するを以て、至上の光榮を感じたる稀に見る立志傳中の異彩なり。父君喜三郎翁は昨十二年氏の成功に滿悦し天壽を全うして病歿さる。母堂マサオ刀自は名門の出にして、氏をして今日在らしめたる高德の女性にして著聞せり。タネ夫人は德島縣勝浦郡米津藤次郎氏の長女にして明治十一年の生れ、賢夫人の譽れ高し。家庭には嗣子喜久夫君（大正十年生）大阪桃山中學四年在學、長女喜多子女（大正二年生）の夫君（養子）智氏は帝大工科卒業の秀才にして、目下飛行隊付として北支戰線に活躍中なり。

（住所　大阪市住吉區左衞門町三ノ一）

野村製作所外觀の一部

實業家　佐々田懋

多年政界に馳驅して、我憲政の發展に貢献する所絶大にして、事業界に活躍しては多大なる業績を收め、識見高邁にして手腕卓拔、その名望赫々たるを佐々田氏とす。當家は島根縣下に於て聞えたる名家にして、雲州城主尼子家の後裔たり。永祿年間尼子義久、毛利氏と和するや、其祖隆久弟倫久と石見に移りその子孫代々津和野城主藤井氏に仕へり。六世通久に至り、母方の姓を名乘り、佐々田と稱す。大庄屋より郡代官を勤めて頗る聲望高し。家門大いに榮えて縣下屈指の豪農たり。氏は佐々田逸翁の長男として、安政二年十一月に呱々の聲を擧ぐ。若冠にして剛邁果斷、俊敏の才衆に傑出す。明治七年往時の濱田縣會議員に選出せられ、大いに其手腕を發揮名聲を揭げ、翌年濱田縣十五等出仕となり、同縣行政に參畫して寄與する所多し。後島根縣會議員となりて活躍せしが、衆望を擔ひて縣會議長となり、その勢望縣會を壓す。國會開設と共に第一回衆議院議員に選ばれ、猶を自由黨に措き、縣政の爲めに八方奔走して、その材幹は黨内に重きをなせり。衆議院議員に當選すること引續き三回、明治四十四年には

貴族院多額納稅議員に當選し、以來大正七年まで貴族院に議席を有し、國政に盡瘁して、政界一方の雄として推重せられたり。氏は政界に活躍する傍ら、財界に進出して畫策する所ありて、明治二十六年故安田善次郎翁と提携して東京火災保險の整理に當り、同社の基礎を强固となして今日の繁榮を齎せり。現に評議委員として同社の事業に參與す。又日本電燈の創立に參畫して電燈事業の發達に貢献する所多し。其の他各種の事業の發展に盡せる功績枚擧に遑あらず。大正十一年には佐々田合名會社を設立して社長に就任。その外現在、出雲電氣取締役社長、揖斐川電氣、王子電氣軌道、特殊鋼合金各取締役、日本人造羊毛監査役及び東洋火災保險相談役等々の要椅にありて、財界の信望甚だ高し。頭腦明晳にして裁斷神速たり。政界財界その往く所天賦の快腕を揮ひ、多大の事績を殘せり。一面公共事業慈善事業には惜しまず財を投じ、大正十年に紺綬褒章を、次で昭和二年紺綬褒章飾版を授けらる。尙ほ縣治の改善、地方副業の發達、其他公衆の利益を興へし事績著明の廉を以て、昭和三年八月藍綬褒章を賜はる。又日獨事件の功に依り勳四等に叙せらる。高義清節にして清廉潔白、その高風遐く人の仰慕する所たり。驪堂と稱して詩に深諳あり、達趣あり、自ら獨造自得の境を占め、斷じて他の羈下に立つるを屑とせず、古體律絶往くとして可ならざるなき盛名あり。碁は三段にして撞球に巧なり。その他趣味多し。

（住所　東京市京橋區築地一丁目）

浦和市第五小學校

第二の國氏を薫陶するの使命ある初等教育は、その任務の重大にして、その事業の困難なること、諸他の教育の比較し得る所ならず當浦和市第五小學校に於ては歴代校長よくその職務に精勵し、熱誠施設の充實に專念し、身を以て學童の薫育に碎心して多大の實績を擧げ、その内容の整備せると學績の優秀なるとは縣下に嘖々たる名聲を博せり。現校長小峯氏命を受けて當校々長の椅子に就くや、千思萬慮、愼重に考慮を拂ひ、諸般の事情を省察し、當校の傳統を生かして新らたに教育方針を樹立して、その職に當る。教育のことたるや教育の任にある士の眞に献身的犧牲的精神と實踐とに依りて始めて其實績を期待するを得るものたるが、小峰氏はこの點に思を致し職員の和衷協同に力を注ぐと共に、各自眞摯その職に恪勤なすべく鋭意これが奬勵に努め、更に率先實踐躬行してこれが範を示せり氏の烈々たる熱情は深く他に感動を與へ、職員は研精修養に勵み、小峯校長の精神を帶して學童の薫陶に傾倒、以て多大の成績を擧げつつあり。小峯校長は第二の國氏の理想的人格を育成するが爲めに、知育に偏重するを避けて、德育體育にも意を注ぎ、諸種の施設を創案し、各種の集會を催す等、幾多新機軸を出して縣下教育界を瞠目せしめつゝあり。尙ほ當校は曩に新校舍の落成を見たり。内容の充實せると共に外觀又堂々たるものありて、眞に名實共に一流校の名に恥じざるものあり。

校長　小峯恒三　氏は埼玉縣入間郡の出身にして、浦和市第一小學校首席訓導を經て當校長に拔擢せられたり。頭腦明敏にして周匝緻密、頗る學校經營の手腕あり。第一小學校時代其卓拔なる才腕には校長も深く敬服して、校務は殆んど氏に一任し、氏の眼を通さざれば如何なる事も爲し能はざるの信望ありき。而も氏は質實堅確、素志堅剛の人として早出晩退して、その職に恪勤し、孜々營々として倦むことを知らず。氏のこの手腕と努力は大いに認められて、儕輩を拔いて榮進し、遂に今日の地位と聲望を得るに至れり。資性溫恭にして謹厚、宏量にして寛容。人情の機微に通じて世故に長け、圓滿にして練達

せる人物なり。浦和市會に於ても氏の敬慕者多く、又市内各學校の職員の間に於ても氏の爲めに犬馬の勞を惜まざる者鮮少ならず。氣恪俊邁にして心性溫白、埼玉縣下教育界屈指の俊傑として鳴る。

（所在地　埼玉縣浦和市）

片倉製絲紡績株式會社

我國製絲界に最大の設備を擁し、内容充實して業績頗る優秀、生糸日本の名聲を海外に轟かせるに甚大なる役割を果たせるが當社なり。その營業種目甚だ多岐に亘り、蠶種、生糸輸出、醬油釀造、肥料、蠶業及栽桑試驗所等とす。大正九年三月資本金五千萬圓を以て創立せられ、累次增資合併を經て同十三年四月には傍系會社日東製糸、備後製糸、片倉越後製糸の三社を傘下に收めて五千八百二十五萬圓（半額拂込濟）に達す。當社は我國財界に一大王國を形成せる片倉合名會社の直系會社にして、日本紡績、日華蠶糸等十八會社をその傍系に擁し、關係會社に片倉生命、中央電氣、富國火災、朝鮮土地等の有力會社あり又川岸、平野、尾澤、下諏訪以下全國各地に四十一工場を設け、釜數一萬七千餘を擁し、其他試驗所を三ケ所、蠶種製造所九ケ所、醬油釀造所、出張所等を各地に設置せり。從業員三萬一千餘名に上る。其規模宏大にして、設備頗る整備し、その製品又甚だ優秀を以て名聲を博せり。最新式の技術を採用して設備の充實に意を注ぐと共に、從業員の訓練に力を盡くして製品の品質向上を圖れり。即ち、長野縣川岸村に片倉蠶業講習所を開設して、蠶業に關する學理と技術を授け、尙ほ國民生活に必要なる教育を施し、德性の涵養に努めて優秀なる從業員の養成に努む。又各地の製絲工場には教育主任を置きて、從業員の教育薫陶に當らしめ、交替休業時間或は餘暇等に修身、國語、算術、博物、裁縫その他の教育を施し、又隨時講師を招聘して講話會を催し或は圖書室を設くる等從業員の讀者修養の奬勵に努めて、幾多の施設を設置す。尙ほその他に從業員の爲めに各種福利施設を設け、從業員の生活向上に力を注げるを以て、勞資の關係まことに圓滿を極め、上下戮力一致して能率の增進に努め社業の發展に盡瘁して、他工場の模範をなせり。當社の生糸製造高は一年約十二萬俵に達す。この内約八割は直接製絲にして、殘り二割が投資會社の製絲たり。優良糸の製造に力を注ぎ、製品は專ら米國向にして、婦人靴下に使用せらる。近來又英國佛蘭西、濠洲、印度、ブラジル方面への輸出大いに激增せり。當社の製品のうち内地向は二割にして他は海外に輸出せられ、我國際貿借上當社の貢献せる所まことに多大なるものあり。近年世界的景氣恢復と米國に於ける生糸消費の增加に依り、我國製絲業は著しく好調に向ひ、當社の業績、これに依りて非常なる向上をなせり。他面投資會社の配當金の增加副業收入の增大等もありて、その成績の躍進に資する所多大なり。九月三十日末を締切となせる十二年上期決算を見るに、總收入三千六百九十二萬六千圓、他方總支出三千三百八十三萬三千圓となり、差引當期利益金二百九十九萬三千圓を擧げて一百七萬一千圓を株主に配當す。其の率八分なり。當社は毎期多額の内面銷却を行ひ、決算は常に内輪になして堅實を旨とせるに依り資産内容頗る充實せり。當社の今後こそ實に洋々たるものあり。近時國際關係の重大化に依りて貿易統制は愈々强化せられ、輸出の增大を圖るは一段と急務となれる折柄、當社の活躍こそ國益の增進に資する所多大なるものあるべし。尙ほ當社の常勤重役は以下の諸氏たり。即ち、取締役會長片倉兼太郎、取締役社長今井五介、取締役副社長片倉勝衛、常務取締役片倉武雄、常任監査役小口友廸の諸氏とす。

取締役會長　片倉兼太郎　先代片倉兼太郎氏の長男として明治十七年九月に生る。多く

を語らず孜々として事業に邁進し、質實堅確の士たり。溫恭謙恪にして身邊常に春風駘蕩たるものを發散し、まことに長者の風あり。襟度宏く抱擁力ありて、溫情滾々として盡きず、片倉王國の統率者として絶大なる崇敬を受く。道念堅く操行嚴正にして、心情萬だ皎深たり。我國事業界に於ける龜鑑たるべき人物にして、衆庶の深く畏禰する所たり。

（所在地　東京市京橋區京橋三丁目）

株式會社 大阪美術倶樂部

古來幾多の巨匠名工、其の獨自の祕藝を傾倒して神品逸物を世に殘し、今や之等藝術品の眞價愈々高揚され、單に鑑賞玩味の的たるのみならず、亦以て商品として價値多大、從つて之が交換賣買の機關夙に設立營業の端を發し、各地に夫々見るべき業績を擧げつゝあり。大阪美術倶樂部は此間に處して異彩赫々たる存在を示し、常に斯界の進歩發展に献替して、功業顯然たる代表的業者なり。抑も當倶樂部は明治四十三年十一月、資本金二十萬圓を以て、大阪市東區唐物町大阪商盛組合内に設立され、翌四十四年現地に約六百坪の敷地を購入、三百坪餘の純日本式二階建家屋を建築し以來專ら書畫、骨董、茶器、道具類の入札及び交換會場に充て、併て一般美術品展覽會其の他の諸會を開催し來れり。而して經營宜敷を得て着々基礎を固め、業運を伸展せしめたる結果、大正四年資本金を二十五萬圓に增資すると共に、時勢に順應して、鋭意業務の發展充實に努力を傾注、斯くて益々業績擧り、遂に現在の如き隆榮盛大なる社運を招來するに及べり。創立當初は未だ斯業の使命克く理解されず、出資者と雖も大株主たらんする意志毫もなく、一時創立をも危惧されたる程にて其業績の如きも第一期即ち明治四十三年より翌四十四年に亘り入札交換會の開催三十六回、賣上金僅か三十六萬圓に過ぎざりしが、第十九期には入札交換會六十八回、賣上金八百十八萬圓を算するに至り、事業頓に盛況の域に達せり。斯くて財界變動に際するや、其影響甚大なる業體なるに拘らず、克く堅實に發展隆榮せるは、素より萬難障碍を突破せる經營首腦者の不撓努力の賜と云ふべし。而して創業以來昭和十年に至る間、入札及交換會を開催せしこと千六百餘回、賣上總額實に八千數百萬圓の巨額を算する狀態なりき。これ即ち大阪市に於ける美術骨董品移動に伴ふ一部愛好家の力量多大なるを以て推察するに難たからず。蓋し當市斯界發達の爲め、慶賀すべき所以なり。而して同年創立二十五周年記念雅會を開催し、斯品蒐藏の大を以て著聞せる鴻池、根津、大原等三家に懇請、各家門外不出の貴寶名什の出品を仰ぎ、以て燦然絢爛たる一大美術の曼陀羅を作り、來場せる華客貴賓の絶讃好評を博せり。爾來今日に至る二星霜、活氣横溢せる經濟界動勢の好影響を蒙り、社業繁榮せること斯界稀有のことゝ稱され、幾多の大入札會及交換會相次で開催、殊に昭和十二年度六月末に於ては、其の取扱高實に一千萬圓を超過するの新記錄を樹立し、同年前途の業績尙ほ隆盛を期待されたるも、支那事變勃發と共に業界不振沈滯の極に達し、爲めに其後業況活潑なるを得ざりしと雖も、該年度利益金十三萬六千八百餘圓を擧げ、更に前年度繰越金六千四百餘圓と合算、總計十四萬三千二百餘圓に達し、之が配當金の如き、實に二割五分七萬八千百餘圓の好配當を存せり。斯くて今や關西斯業界に巨大卓然たる存在を謳はれ、業績顯著なる當社の使命たるや、益々重且つ大と謂ふべし。因に現陣容は相談役兒島嘉助取締役社長太田佐七、取締役山中吉郎兵衛、同坂田作治郎、監査役水原金兵衛、同井上熊太郎、同戸田彌七等の諸氏にて斯界錚々たる偉材一致協力し、卓腕を縱横に發揮して愈々業績の向上を圖り居れり。

取締役社長　太田佐七　慶應三年十月、

大阪市北區源藏町に生れ、夙に美術商中野商店に入りて研鑽修業を積み、同二十七年獨立して太田佐七商店を經營す。爾來誠實主義を奉じ、且つ機敏縱横の商略を以て拮据經營する處、業績着々擧りて信望を博し、漸次業界に重きをなせり。其後兒島嘉助氏と協力奔走して當社を設立し、以來幾多の難關を突破して遂に今日の盛大を招來、今や關西業界の元老巨擘として絶大なる信頼を聚め、其の人格亦圓滿、且つ鑑識眼の透徹非凡なる、正に斯界稀有の偉材たるを失はず。因みに日蓮宗に歸依厚く、趣味として茶道、書畫に造詣深きは論なき處なり。

支配人　武田龍堂　生保界に貽せる幾多の手痕足跡の巨大なるは、今更言はずもがなは其の精力の絶倫なるその道念の至純なるを以て令名を馳する俊邁たり。氏は夙に日本生命保險會社に精勤し、克く憐輩に垂範の實を示して勤續すること二十有餘星霜、昭和六年七月、當社に入社して支配人に推さる。爾來、專心斯業の研鑽攻究を忘らざると共に、天禀の犀利縱横たる手腕を遺憾なく發揮し、業務執掌に献身的努力を傾け、今や斯界に信望頗る厚く其の稀に見る卓腕は、業者の齊しく讃嘆を惜しまざる所以たり。

（所在地　大阪市東區淡路町四丁目）

合資會社福場商店代表社員 福場靜夫

福場靜夫氏

筑豐炭田の中心地直方市に於ける礦山用諸機械金物商として、同地斯業界の最高峰を往くものは、我が福場商店にして、其の躍進振りは、石炭界の好況の波に乘じて未曾有の發展道程を辿り、就中同店特異の製品、福場式デートポンプ及び電氣捲上機の如きは、到底他の追從を許さざるものにして、唯一無二の良製品を以て業界に聲價を高むると共に、三菱鑛業、日本化學、三井鑛山、日本炭礦其の他十數ケ所の大鑛山に販路を有し、同店の業績は旭日昇天の勢を以て隆々の繁榮を極めつゝあり。之れ實に店主福場靜夫氏の苦心經營のよろしきを得たる結果に外ならず、その間幾度か襲ひ來たりし經濟的嵐によく抗し凡ゆる苦闘辛酸の道に遭遇したれども斷乎所信に邁進遂に今日の業礎を贏ち得たるものにして今や直方市に於ける氏の偉大なる存在は炭都直方の將來を双肩に擔ふの偉力となるに至りたり。然れども稔れる稻穗は益々頭を垂れるの諺の如く、人格識見共に衆を壓したる氏は過去に於て幾度か公職に推擧されしも、之を固辭して受けず、當に先輩を推して裏面工作にのみ腐心されし事を以て觀るもその偉大なる人材たるの一斑を窺知するを得べきなり。天性極めて實直にして精勵事に當り、勤勉業に力むる事洵に衆に憚ちざるものあり、殊に正義を尊ぶの念に强く、事を爲すに決して之を疎かにすることなく、只管公衆の福利增進を所期す。今や腕の人、力の人として、業に圓熟されたる今日、影の舞臺裏より出でゝ積極的に表舞臺に飛躍すべきを直方市繁榮のため待望してやまざるところなり。

（住所　福岡縣直方市原田町）

酒井工作所主 酒井金之助

近時我が機械工作業界の飛躍的進展は、實に目醒しきものありて、今や世界列强の驚異と爲すところにして、造船に、造機に、將た亦航空機製作に、堂々八紘にその貫祿を誇示

するに至れり。然も之等重工業の殷盛の中に在りて、個人經營を以て克く斯界强豪に伍して堂々たる地歩を獲得、名聲赫々たるを謳はるゝ酒井工作所は酒井金之助氏の主宰なり。氏は明治二十八年七月、海軍大軍醫從六位酒井友賢氏令孫として福島縣に出生。垂髫の頃より機械分解に趣味を有ち、長じて機械工作を以て立身出世を爲さんと欲したりき。されば先づ佐藤機械製作所に入りて、文字通り之れに熱賜を傾けて從事すると共に、機械工作の研究に沒頭して技を磨く。上京後はモータートラック商會に入りて自動車修理に從事し更にエンヂンの研究に彫身す。弱冠二十一歲を以て獨立し、爾後不退轉の努力を斯業に傾倒し、以て今日に迨べるなり。其間機械的技術は天才的に拍車をかけ、漸次深諦の域に達し、道路平均壓壓差動裝置を完成し、新案特許を得て凱歌を奏せり。今やその優秀なる技術は洽聞すると共に、三井物產を始め大倉商事、岩崎レール其他著名會社に納品するの外帝室林野局への納品も多數に上りつゝあり。之れを要するに氏の今日在るは、一人一業主義を以て不撓、朝暮精勵の賚に外ならざるなり。氏未だ年齒不惑の央にして、その活躍は寧ろ將來に期待するところ多きは更に冗言を要せざるべし。

（住所　東京市芝區西芝浦三ノ一）

三菱重工業株式會社

支那事變に遭遇せる我國は必然的に財政經濟の諸政策を戰時體制化し、生產力の擴充は遂に重要國策の一に擧示せられしが、この生產力擴充の緊要を最も痛感せしむるものは軍需工業なり。斯る情勢裡に我が三菱重工業は軍需豫算膨脹にて、軍需的色彩益々濃化し、最近に於ては其全生產の八割迄は軍需品にて占められ、而も主要部門たる造船部を初め航空機、自動車等軍需生產力擴充の大方針に副ひて多分に建設的色彩を含む部門の積極的擴張を敢行すべき段階にあり。

抑も當社の造船事業は遠く安政三年德川幕府が、長崎に海軍修理工場を創設せるに淵源を發し、爾後工務省の所管となり、明治十七年三菱の經營に移りたるものなり。大正六年十月分離して資本金五千萬圓の三菱造船會社を設立し、昭和九年四月三菱航空機會社を合併、五千五百萬圓に增資し、之を機會に三菱重工業と改稱す。踵で昭和十年横濱船渠會社を買收、資本金六千萬圓となし、更に同十二年五月一擧倍額增資を斷行一億二千萬圓を擁するに至る。而して資本系統は會社創立の事情が語るが如く株式會社三菱社なり。總株數二百四十萬株の內、三菱社は百十八萬九千五百六十六株を占め、三菱財閥の代表者を以て堅固なる重役陣を布陣せり。今や當社は規模宏大、經營堅實無双にして、本邦代表的軍需工業會社として巨然たる存在と爲れり。

扨て當社の近業として、昭和十二年下期の業況を總覽するに、純益金は五百九十六萬九千圓なるが、之に支出に屬せしめる償却金一百九十萬圓、職員職工退職慰勞基金繰入增九十五萬圓、合計二百八十五萬圓を加算せば、實際利益は八百八十二萬圓、利益率二割二分七厘に達す。此の內五百九十一萬圓、實際利益の六七%を社內に保留し、餘裕裡に七分配當を踏襲せり。而してその總資產（未拂込株金三千萬圓を控除）三億八百三十三萬圓中、固定資產は六千九萬五十六萬圓、之より土地並に建設途上の起業費勘定を差引けば、要償却固定資產は三千六百九十九萬圓にて、之を同期の償却金一百九十萬圓に對比せば、償却年限九年七ケ月、卽ち十年以下なり。更に右の固定資產總額（土地をも含む）より起業費を差引きし殘額五千一百六十九萬圓を同期の作業收入に割當てれば、所謂固定資產回轉率三倍强の高率を示せり。斯の如く償却を觀點として當社の業績を窺ふも異論の餘地なし。

當社は周知の如く時局以來一貫して工場生產力の擴充改善に奔命し來り。斯くて當社は

現在、長崎造船所、神戸造船所、彦島造船所、長崎兵器製作所、名古屋航空機製作所、東京機器製作所、横濱船渠、長崎製鋼所、東京自動車工場（假稱工場名未決定）の九大工場と職員職工五萬三千名（十二年末）とを擁し生產高は景期飛躍的激增を示現しつゝあり。卽ち十二年六月工事引渡高は六千四百五十八萬五千圓、同年十二月のそれは七千七百八十八萬七千圓、卽ち昨年下期は上期より一千三百三十萬圓增、九年上期の一千七百七十萬九千圓に比較せば實に四倍强の激增なり。換言せば夫れだけ生產力が擴大强化されたるを立證するものなるが、刻々殺到する新需要の前には右の擴充改善も尙ほ遠く及ばず、今後更に一段の設備充實を要求さるゝ現狀たり。試みに十二年下期末受註額を見れば同年上期末の二億七千萬圓に比して、僅か半歲間に一躍九千萬圓を激增し、實に三億六千萬圓の巨額に達したり。而して現時の受註は恐らく四億圓に達するものと思惟せらる。この現況に於ては如何に能力一杯に發揮せしめても手持ちを一掃するのみにて數期間を要すべし。當社は本年二月、總額三千萬圓の無擔保社債を發行し、右の社債は主として長崎造船所、名古屋航空機製作所、下丸子自動車工場を始め、在來の全工場の全面的なる擴充强化に充當さる

因に同期中（十二年下期）に引受並に完成せる艦船其他の概要を述ぶれば、新造艦船建造引受の艦船は貨客船七隻、貨物船一隻其他五十七隻合計六十五隻。竣工したる艦船は貨客船五隻、貨物船九隻、油槽船七隻其他十二隻合計三十三隻。修理船隻數八百五隻、修理船入渠隻數五百二十六隻にして、引受及び完成製作品の主たるもの各種水管式汽罐、各種スチーム・タービン發電機、各種水車其他艦艇用補機類、鋼鈑製槽類、各種機關車、空氣制動機等、完成製作品、各種デイゼル機關、各種引受並に完成せる航空機其他兵器類若干なりき。要之、當社は現時戰時體制下にありて、近衞內閣の所謂三原則中の生產力擴充の衝に當れる巨豪にして、終始一貫國家的奔命に依り燦然たる業績を昂揚せるは同慶に堪えず。而も其將來は洋々たるものありと言ふべし。

取締役會長斯波孝四郎　常務取締役郷古潔
同伊藤達三　同元良信太郎　取締役岩崎彦彌太　同岩崎小彌太　同三好重道　同後藤直太
同伊集院清彥　同原耕三　同笹本菊太郎　同玉井喬介　同松井小三郎　同牛丸福作　監査役山室宗文　同武藤松次　顧問梅津良太郎
同陰山金四郎　同刈谷秀雄

取締役會長　斯波孝四郎　今次の支那事變に世界各國環視の中に於て堂々海の荒鷲、陸の車が猛威を揮ひ如何に活躍しつゝあることか。財閥三菱が八紘に誇り得る事業は、實に造船と航空機製作なり。しかもこの造船と航空機製作を統率する三菱重工業會長こそ、我が斯波孝四郎氏なり。人も知る氏は長崎造船所を手塩にかけて、終始努力し來りし純粹の技術家にして、東大造船科出身の工學博士、現に造船聯合會々長にも推輓さるゝ造船界の最高權威なり。然も氏は先年物故せる彼の本邦工業界の鴻鵠斯波忠三郎男の令弟。資質剛直にして達眼、統制的手腕にも長じ、勞働問題にも通曉し嘗ては全產聯常任委員長の下馬評ありし賢材なり。

常務取締役　郷古　潔　性格淡々として水の如く世俗に超越して、自らは何等求むるところなき公正無私の圓滿なる人格の所有者にして、大三菱に入社して三十有餘年、一瞬の息をつぐ間なき眞摯努力を以て今日の地位を贏ち得たる才物たり。

明治十五年十一月、郷古玉三郎氏の長男として岩手縣に出生。同四十一年東京帝大法科を優秀の成績を擧げて卒業し、直ちに三菱に入社し、同社鉱田炭坑、門司、若松各支店に歷勤、三菱商事庶務課長、同社漢口、若松各支店長と軒昂たる意氣を以て榮進し、後ち三菱造船總務課長、神戸造船所副所長、同社取締役に推擧せられて、漸次頭角を顯はし、昭

和九年三菱重工業常務に就任し今日に至る。現に滿洲航空取締役を兼ぬ。

常務取締役　伊藤達三　我邦造船技術界一方の旗頭たり。明治三十七年東京帝大工科造船科を拔群の成績を擧げて卒業、翌三十八年三菱長崎造船所に入社、爾來三十餘年、聰明なる造船技術の才幹を以て、斯波會長の良佐として終始一貫し社内の信望亦重厚なり。

常務取締役　元良信太郎　伊藤常務と共に當社技術部門の領袖たり、明治十五年八月故文學博士元良勇次郎翁の長子に生る。生來頭腦明晰、同三十八年東京帝大工科造船科を卒業、爾來三菱造船所設計長、造型、試驗所長長崎造船所長に起用せられ、其間九州帝大講師に任ぜられ、大正九年工學博士の學位を授與せらる。

（所在地　東京市麹町區丸之内二丁目）

整形外科　醫學博士

金井良太郎

東都最高の學府たるのみならず、我が國文敎界に特殊の地位と功績を謳はるゝ東京帝國大學には、素より幾多中堅有爲の學徒を擁すと雖、就中我が金井英太郎氏の如く、本邦整形外科界に貢献寄與せる處洵に甚大なる偉材は稀に見る處にして、學生間に人氣湧くが如きは勿論、先輩碩學國手間に好評嘖々たるものあるも、寧ろ當然の歸趨と云ふべきなり。

氏は栃木縣の出身、明治二十八年十二月を以て、同縣人金井廣吉氏長男に生れ、幼にして聰明頴悟、將來醫家たらんと決意を固む。斯くて學序を經て東京帝大醫學部に進み、研鑽勉學寸暇を惜みて精進せる結果、遂に醫學に通曉、優秀拔群の成績を以て大正十一年に卒業す。而も其の眞摯熱誠なる研究態度と、天賦の頴才とは夙に大學當局の認むる處となり同年卒業と共に同醫學部講師に任ぜらる。爾來、至誠一貫、能く蘊蓄を傾けて學生指導に當り、傍ら整形外科の眞髓を究はむるべく更に鍵骨研究すること幾星霜、遂に其の秘奥に達し、多年苦心研究の結晶たる論文を提出するや、美事選格無比なる檢査を突破して醫學博士の燦たる榮冠を獲得す。時に昭和二年にして斯界に堅固不動の地位を占むるに至り名聲亦た頓に光芒を發せり。而して一方、現所に堂々四隣を壓する病院を設立し近代的諸施設を完備せしむると共に、幾多優秀なる醫師看護婦等を指導鞭撻しつゝ誠心誠意、只管醫業報國をモットーに患者に接し、其の現代醫學の粹を執りたる颯腕神技と、懇切叮嚀なる診療態度は相俟ちて、絶大なる賞讃を博し信望隆々として高まり、診察手術を乞ふ者踵を接して、門前恰も市をなすが如き盛況を呈しつゝあり。是れ實に氏が醫業の根元精神を堅持高揚し、博愛仁慈の大精神を以て患者に接するのみならず、本邦整形外科に一新紀元を劃せるが如き、神妙優秀なる技倆を發揮して聞然する處なきに因る。亦た曩に東京石川島造船所健康保險組合病院長たりしことあり、其間素より至誠努力、克く職責を完遂せるは玆に嘱々の言を要せざる處なり。斯くて名實共に斯界に君臨せる氏は、資性溫厚篤實にして謙讓の美德に富む處、些も功を誇らず、名を衒はず、常格不斷　專心斯學の研鑽に益々精進を累ね、其の燈烈旺盛なる研究心亦た稱讃に値すと云ふべきか。而して人格の高風玲瓏たること論を俟たず、接する者齊しく其の洋々たる宏量仁德に打たれざるなしと云ふ。因みに趣味頗る高尚雅淡にして實生流謠曲に妙技を有し、或は俳句和歌等に深甚なる興趣を抱きて、秀句佳吟亦た多し。

（所在地　東京市下谷區池ノ端茅町二丁目）

旭屋硝子店主

篠原光三

由來近江人は卓拔たる商才を有することに依りて有名にして、其の肇固たる意志と忍耐とに依りて東に西に、偉大なる勢力を伸暢しつゝあるは周知の如し。而して近江商人の地盤は風雲に乘じての所謂成金的なる地盤にあらずして、既に遠遐德川中葉頃に築き上げたるものあり。從てその傳統的の力も時代の幾變遷を乘り越えし故を以て、益々其覇勢を恣にしつゝあり。この卓拔なる商才と度膽を拔く機敏と果敢は實に絶讃さるべきものあり。玆に傳せんとする我が篠原氏も此近江商人の典型的人材たり。明治二十四年野洲町に生れ乘髫にして上阪し、二十八歳にして大阪市京町堀三丁目に硝子商を開始し、孜々營々堅忍不撓克く業務に精勵し、爲に繁榮を極む。次で大正十年に及んで令弟健三氏に同店を譲り氏は上洛し、直ちに硝子商を創む。時恰も財界は好況の域に入り、商勢大いに順調を辿り遂時業礎を確保し、昭和五年日本板硝子會社の特約店を引受け、爰に京都一流の硝子店として名實共に備ふるに至れり。更に昭和十年旭硝子京都優遇店となり、近く同社の特約店たらんとしつゝあり。而して氏は人格清廉を謳はれ、子弟の訓育に頗る厚く、半面同業者間に於ても其德望を欽仰され居れり。殊に昭和九年突發たる關西大風水害に際して建築諸材料は一齊に暴騰し、罹災民を恐怖せしめし時氏は此事實を極度に憂ひ率先して之が暴騰を抑制すべく、奔走盡力を惜まず、先づ源利多寶の念は慾え、殊に罹災學校の建築に於ては犧牲的精神を發揮し、市氏より紳商として稱へられし事は氏の人格を立証する一佳話たり。斯くの如き氏の義俠と熱情とは、如實に旭硝子店に反映し、店勢は益々榮え、今や京都市内一流の斯業店として印綬を帶ぶるに至れり。現に支店を同市下京區河原町通り松原南入に構へ健實なる營業を爲し居れり。氏は今年四十六才の働き盛り、爾今の活躍こそ期して待つべきものあらん。

（住所　京都市下京區萬壽寺西洞院西）

故中倉萬次郎

その聲望長崎縣下を風靡し、名聲九州財界に冠たりし、中倉萬次郎翁、今日幽明境を異にせると雖、今猶翁の德望を偲び翁に寄す感謝の念絶大なるは、如何に在世時代の功績顯著なるかを物語る良き證左たり。

翁は嘉永二年十二月、長崎縣北松浦郡世知原村の農家に生る。幼にして頴悟、氣宇潤達にして個傳不軌、豪宕なる氣骨と高邁なる覇氣は世人の推敬を受くること深く、明治十六年九月、早くも縣會議員に當選し、政界に羽翼を伸すことゝなれり。爾來當選をすること再三、前後拾有餘年に亘る間、縣政に沒頭し縣治の爲に盡す事著大。殊に農政改良の必要を痛感し、之れが發展は國本培養に不可缺なりとして、明治二十五、六年頃より、故前田正名翁等と相謀り、同氏監督下に組織されたる、中央農事會の事業に參畫し、翁卒先此れが會員となり、農會法、產業組合耕地整理法制定を政府に建議、其の實行に努めたり。又明治三十年、農工銀行法發布に際し、長崎縣農工銀行設立委員に囑託され、銀行成立初期の頓取に推擧せらる。明治三十三年には衆議院議員に當選、以來在職、大正十三年二月に至る二十有五年の長期に亘る。此の間同院委員長に推されたる事一回、同三十七年三月、中央實業會評議員囑託、同四十三年、帝國農會議員、同四十四年七月、長崎港臨時調査委員囑託、大正五年八月、大日本農會地方參事委囑、大正八年、佐世保鐵道株式會社創立に參與、同社の取締役社長に當選し、爾來翁在世中之れが社長となり、社務を總覽す、大正十年八月、東京農業大學名譽校友に推擧せられ大正十三年、平戸島電燈株式會社を組織し創立總會に於て取締役社長に推されたり。翁、農に明治三十五年九月、日本赤十字社より、終身社員の資格を與へられ、同四十四年三月長崎市宅地價調査會より宅地價修正事業に盡瘁の故を以て記念品を受く、明治三十七、八年戰役の功により、勳四等旭日小綬章を賜る

同四十三年八月、韓國合併に、記念章を下賜され、大正三、四年事變の功に依り、勳三等に叙せられ、瑞寶章を賜ふ。同五年八月、大日本農會より多年農事盡瘁の功により、紅白有功章を授與され、次で大正八年二月、多年衆議院議員の職にあり、その功勞を嘉せられ旭日中授章を賜ひたり。如斯、縣治、國事に貢献する處絶大にして、偉大なる翁の功績はその德望と共に永久に燦として輝けり。

翁在世中の青年子女育英に盡瘁する處又頗

故中倉萬次郎氏

る顯著なるものありて、代議士として滯京の砌、其の旅舍の如きは學生下宿に等しき館に悠然構へ何等邊幅を飾らず、專ら質實剛堅の氣風を貴び、節儉の範を夙に示せりと雖、一度縣人翁の旅舍を訪れ苦境を述べんか、翁財囊を振つて之れを與へしと云ふ。以て翁の片鱗を知る可し。多年政界に走驅手腕又卓越なるは西園寺公、故原敬氏等の知遇を受け、信認頗る厚かりしに徴するも諸かるべし。故原敬總裁、翁を重んじて、政府重要地位に迎へんとせるも、名利に恬然たる翁は常に之を固辭して受けず、後進に途を讓りしは翁の高潔なる胸底を窺ふを得て洵に奥床しき極みと云ふべし。一世の賢材中倉翁は昭和十一年二月八十六歳の長壽を以て永眠せらる。逝去の報一度傳はるや、衆庶は深くこれを悼み、葬儀に參列せし者數千に上りしと傳ふ。翁の後を中倉一氏襲承し、嚴考の遺志を奉じて地方殖産興業の發展に專ら奔命して、大いに名聲を博せり。同氏天性頴脱の才あり、資性溫恭なるに依り、家道愈物興を見ることならん。

（遺族住所　長崎縣北松浦郡世知原村）

株式會社 茨城農工銀行

茨城縣下十八萬戸の農家を對象となして、不動産を主體とする農村金融の中心的動脈たるの存在をなすが、當茨城農工銀行たり。當行は明治三十一年四月に創立せられしものにして、農村金融機關たるの特殊の任務を帶び て活動を開始し、爾來今日に至るまで幾多の財界の變動にも微動だにすることなく、飛躍亦た飛躍、今日の堂固なる基礎と、全縣下隈なく張られたる營業網の擴大强化を見るに至れり。創立當初六十萬圓に過ぎざりし資本金も數次の增資に依り今日に於て三百萬圓の全額拂込濟となる。創立當初本店は水戸市馬口勞町に設置せられしが明治四十年仲町に新築移轉し、更に昭和七年二月現在の鐵筋コンクリート二階建本館二百三十八坪の堂々たる近代的建築として躍進せり。現在土浦、下館、水海道、太田、麻生の四支店を設置して、農村金融擴充の爲めに全縣下に働きかく。昭和十二年上期末に於ける各種積立金三百三十四萬圓、債券發行高二千一百萬九千圓、預り金六百八十一萬四千圓、貸付金二千七百七十萬一千圓に達し、三十萬五千圓の利益金を擧げ、八分配當を行へり。内容充實し、業績又甚だ良好にして、行運の發展隆々たるものあり。當行は農工銀行本來の使命に鑑みて農村振興の爲めに意を盡くし、縣下農民より絶大なる感謝を受け居れり。

頭取　江幡　新　氏は多年川崎銀行水戸支店長として恪勤したるが、後ち常磐銀行に聘徴されて頭取に就任その手腕を謳はる。更に茨城農工銀行頭取に迎へられ、農村金融の爲めに畢世の努力を拂ひて貢献赫々たり。氏現在水戸商工會議所會頭として活躍せる外茨城瓦斯、川崎倉庫各取締役等に列して、財界にその才腕を發揮す。氏は老境に在りと雖も、矍鑠たる元氣は壯者を凌ぎ、柔和なる童顔は慈父に接するの感あらしむ。人格高潔に

して清廉、至誠の人たり。縣下農村の振興には千々に心を碎きて盡瘁し、まさに救世主の如くに崇仰せらる。その高風又遐く衆庶の欽慕する所たり。

取締役支配人　風戸　元愛　川崎銀行或は川崎第百銀行に職を奉ずること多年、その手腕を認められて川崎第百銀行水戸支店長に抜擢せらる。

財界各方面の消息通を以て聞え、江幡頭取の懇請を受けて當行に入る。少壯氣鋭の敏腕家にして、多數行員を統率して頭取を輔佐し第一線に立ちて活動す。頭腦明晳にして銀行の理論と實務に精通せる練達堪能の士たり。縣下金融界に重きを爲し、その將來多大に嘱目せらる。多趣味多藝の人にして特に工藝に秀づ。

（所在地　茨城縣水戸市仲町）

明治製糖株式會社

明治三十七八年皇軍の世界戰史に光輝赫耀たる大捷を記錄せる日露戰役の後、卽ち、明治三十九年十二月優秀國産品の産出をなして輸入術を本邦より驅逐し、國際貸借の改善を行ふと共に新領土臺灣の天與の資源開拓の目的を以て、本邦産業界の始祖と仰ふがれし故子爵澁澤榮一、故男爵森村市左衛門、故小川鈊吉、故男爵武井守正、淺田正文、相馬半治植村澄三郎、山本直良氏の外數氏を發起人となし、資本金五百萬圓を以て明治製糖株式會社創立せらる。その規模の宏壯なると基礎の堂固なるとは當時臺灣製糖と併稱せられ、我事業界に一大偉觀を現出せり。創業當初は甘蔗の栽培と粗糖の製造を主眼となし、臺灣屈指の甘庶適地として著名なる臺南州麻豆に所在せし麻豆製糖株式會社を買收して、明治四十年八月始めて斯業に着手し、翌年十二月佳里に蓮龍工場を建設して粗糖竝びに白糖の製造をなせり。四十三年十一月には蒜頭に粗糖工場を設立し、四十四年に至り同工場内に酒精工場を設け、同年麻豆に總斧工場を建設して精糖の製造をなし、翌四十五年一月川崎市の横濱精糖株式會社を併合して之を川崎工場と稱し始めて精糖の製造を開始す。之に依りて資本金は一千萬圓となれり。大正二年七月には臺中州南投の中央製糖株式會社を手中に收めて一千二百萬圓に增資して之を南投工場と稱す。同四年川崎工場に角砂糖工場を設け、翌五年九州戸畑に精糖工場を設立し、七年には蓮龍工場を耕地白糖製造に改造し、超えて一躍資本金を三千萬圓に增額せり。同年臺中州溪湖の大和製糖株式會社を合併して、之を溪湖工場と稱して粗糖を製造し、十一年には南投工場に酒精工場を設け、戸畑工場に角砂糖工場を新設し、翌十二年北海道十勝國の日本甜菜製糖株式會社を合同して、清水工場と名づけ、新らたに甜菜糖、甜菜パルプ及乳製品の製造に手を染め、資本金又三千七百五十萬圓に增加す。十二年十月帝國製糖株式會社神戸精糖工場を買收して神戸工場と稱し、翌年震災の被害を蒙りし川崎工場を最新式の設備に改め、翌十三年支那に販路を擴張するの目的を以て、上海に精糖工場明華糖廠を設置し、昭和二年九月に至り新明治製糖株式會社を創設して、臺南州の東洋製糖株式會社の南靖竝びに鳥樹林兩製糖所を買收し、更に之を當社に併合して、前者を南靖工場、後者を鳥樹林工場と稱し、四千八百萬圓に增資せられるに至れり。昭和四年には南靖、蒜頭及溪湖工場の能力を增大し、翌五年溪湖工場に酒精工場を增設し、爾來年々設備の改善擴張をなし來りしが、昭和十二年九月、飴類、玉蜀黍糖及コーンシラップ等に進出するの目的を以て、資本金二千萬圓の明治農産工業株式會社を新設し、同年十二月之を當社に合併したるに依り、資本金は五千八百圓（拂込四千一百七十萬圓）に達し、その躍進頗る目覺しきものあり。最近の生産能力精糖八千七百十米噸精糖一千五十英噸、甜菜糖一千二百米噸に達

し、その規模の宏大なる設備の完備せるは我が糖業界屈指を以て稱せらる。昭和十二年に於ける作附は甘蔗二萬二千二百六十甲、甜菜八千五百二十九町歩に上り、又十二年下期に於ける甘蔗の壓搾高は十億一千七百三十八萬五百五十瓩斤なれり。十三年上期決算に於ける利益金は五百四十一萬八千圓、之に前期繰越金八百十七萬一千圓を合算して、一千三百五十八萬九千圓を計上し、之れを處分するに法定積立金五十萬圓、株主配當金二百五十二萬七千圓（明治農産合併交附金共、年一割二分踏襲据置）配當準備積立金一百萬圓、別途積立金一百萬圓、後期繰越金八百五十六萬二千圓と餘裕裡に行ひたり。前述の如く當社の事業地の大部分は臺灣の南部糖業の中心にあるを以て多大の便宜を得、而かも固定資産甚だ剴安なるを以て利する所多大なり。業績に資産内容の良好なることに於て、業界屈指の優良會社たり。當社の事業は粗糖、耕地白糖甜菜糖、酒精、甜菜パルプの製造販賣をなしつゝあるが更に各種の事業會社に投資せり。卽ち、明治商店、明治製菓、明治製乳、西河鐵道、明治鍾淵工業、朝日牛乳、極東煉乳、樺太製糖等の各社ありて、その投資額二千三十二萬九千圓に達せり。何れも相當の好成績を擧げて當社の收益增加に資する所多し。因に當社重役以下の如し。社長相馬半治、副社長有島健助、專務藤野幹、常務山田貞雄、同中川蕃、取締役久保田富三、同佐々木定證、同大日方金太郎、同稻見忠、同多賀敏男、同今村藤市、監査役男爵森村市左衞門、同葦顯榮、同原邦造、同大橋新太郎、同江口定條の諸氏なり。

取締役社長　相馬半治　氏は卓犖豪放にして器局の宏量を以て糖業界の巨擘として欽仰さる。尾張國舊犬山藩士田中龍翁三男として明治二年七月を以て生る。同三十一年相馬精三翁の養子となりて家督を繼ぐ。夙に東京高工を卒業して後、同校助教授に推され、二十三年石油及製糖事業研究の爲め、獨米に留學す。歸朝後東京高工教授に任ぜられ、三十七年臺灣總督府技師となり、適々當社の創立せられるに當り奔走して大いに手腕を揮ひ、專務に選出せらる。爾來今日に至るまで糖界に活躍して、その貢献まことに多大なるものあり。蘊蓄該博たると共に識見甚だ高邁にして、財界に勢望甚だ高し。

取締役副社長　有島健助　人格清白高朗にして淡如泊然、威望隆々たり。由來當家は平親王葛原親王の後裔行貞の子孫なるが、夙に島津家に仕へて典醫として令名あり。氏は夙に造士館に學び、明治二十六年大藏省に入り、後臺灣民政府に轉じて稅關事務官となりしが、事業界に雄飛せんとして炭礦業を始め明治四十一年懇望せられて當社に入り、大いに頴才を發揮して簡拔せられ、遂に今日の如くに當社の柱石として重きをなすに至れり。資性溫恭謹愼、溫情豊かにして、八面玲瓏まさに玉の如し。社員從業員より師父の如くに尊崇せらる。

常務取締役　山田貞雄　我國糖界の頴材として名聲顯然たる氏は、犀利緻密にして俊英敏才、世に智慧伊豆の評あり。思慮愼重にして明斷敢爲、その群拔の才腕は斯界に名聲赫耀たるものあり。明治四十三年東京高等商業學校を卒業して直ちに當社に入る。機鋒を現して大いに登用せられ、累進して常務の要職に擧げらる。餘暇には禪を以て精神の修養に努め、高き悟道の境地に入れり。明治二十一年三月に生る。

取締役兼秘書係長　今村藤市　明治十二年四月宮城縣人今村市太郎氏の三男として呱々の聲を揭ぐ。夙に慶應義塾理財科を卒業して後外國貿易會社に入りしが、轉じて當社に入社し、累次榮進して戸畑工場長となり、更に現職に就任す。資性溫厚、篤實にして質實堅確、頭腦聰敏にして才氣煥發、當社に於ける

屈指の俊傑として、その將來を囑目せらる。上下の信望甚だ厚し。

製糖部長　小塚泰一　眞摯社業に傾倒して八方馳驅し、賦稟の才腕を揮ひて多大の成績を擧げ、業界に名聲を博せり。幼少より頴悟にして學業甚だ優秀たり。夙に東京帝大法科を拔群の成績を以て卒業し、直ちに當社に入る。その材幹を認められて簡拔せられ營業部長の要職に擧げらる。資性謹恪溫厚にして心性皎潔、頭腦明緻にして氣格俊邁、將來大成の兆歴然たり。（臺灣在勤）

庶務係長　上野勇次郎　早出晩退、精勵恪勤して業務に盡瘁し、快刀亂麻を斷つが如き裁斷を下してその敏腕を謳はれる人に上野氏あり。溫恭にして謙讓、その擧措まことに溫情に溢れ、襟度甚だ濶大たり。内外に信望高し。

（所在地　東京市京橋區京橋二丁目）

彌生無盡株式會社

無盡は我國獨特の庶民金融機關として都市農村の至る所に於て、その有用なる機能を發揮せり。然かも會社組織を以てせる無盡會社は、その數夥しきものありと雖も、その内容堅にして信頼措くに足るものとして、世に推薦なし得るもの極めて寥々たり。當社の如きはその内容堅實無比にして、當社の無盡は幾多の特徴ありて、世の絶讃を博し、我國無盡會社中一流の優良堅實の大會社たり。抑々當社は我國特有の無盡に種々と改革を施し、相互扶助の精神を加味し、社會政策的意圖を含めてこれが創立を圖りしものにして、財界の最も不況を極めし大正十五年六月に創立せらる。爾來十有餘年、一般景氣の消長にも何等の影響を受くることなく、當局者又一人一業主義を守りて經營に專念し、事業の刷新、經營の合理化を計ると共に、加入者の利益の爲めに掛金表の合理化、取扱の懇切確實化に力を致す等多大の努力を傾注せり。これによつて内容に事業に頗る整備充實を見るに至り、加入者增加して社業大いに興る。當社の無盡の特色とするは、(イ)掛金の合理化、金融貯蓄何れよりするも利廻公平なること、(ロ)資産豊富、極めて低利にて無盡以外の金融にも應じ得られること、(ハ)入札手取金額（九割）(ニ)落札の機會多きこと、(ホ)無盡金の支拂迅速次回掛等の條件なきこと等、加入者にとり、種々有利點數多あり。之が爲めに加入者多いに增加し、事業頗る繁榮を呈せり。昭和十二年六月末現在契約高は一千六百萬登圓、無盡支拂金累計二千九百餘萬圓、貸付金二百餘萬圓に及び、信用大いに加り、社業愈々隆昌に向ひ、一般社會層に寄與する所大なるものあり。當社は總工費二十五萬餘圓を以て、建坪百五十餘坪、地下一階地上四階、延坪六百五十七坪の鐵筋コンクリート、タイル張りの堂々たる新社屋を銀座の一角に建築す。斯くして内容外觀共に充實するに至れり。

尙ほ重役陣を見るに常務取締役高橋通、取締役小林誠一郎、常任監査役秋山妙治、監査役金子有鄰の諸氏あり。

取締役社長　高橋久吉　氏は當社創立前帝國生命の部長、課長或は支店長等の幹部として活躍すること三十年。頭腦緻密にして計數に長じ、老練の才腕を揮ひ、當社の爲めに寄與すること多大なり。氏は清廉熱誠の人にして人格者として信望あり。現在明治大學の理事として教育事業に携り、同大學の爲めに貢献する所多し。

（所在地　東京市京橋區銀座西七丁目）

大牟田市長

前田愼吾

九州筑田の首都たる大牟田市は、市勢愈々隆々として興り、商工業頗る活況を呈せるが

前田氏は大牟田市長として同市々政を秉掌して、大いに手腕を揮へり。大牟田市は炭業の發達と共に發展したる新興都市にして、市民は概ね他より移住し來れるものにして、市政甚だ複雑多端なるものあり。氏の手腕はよく幾多の困難を克服し、大局的見地より裁斷して市政の運用を誤らず、同市の發展に貢献する所多し。又當市は勞働者階級多く、社會政策的施設を特に必要とするの事情にあるが、氏はこの點大いに意を用ひ先年來より家庭副業の奬勵を爲して頗る實績を擧げつゝあり。聰敏にして思慮周到、果斷決行の實行力は何物も抗するを得ず、高邁なる識見、遠大なる抱負を以て多大の敬服を拂はれ、市會は擧つて氏を支持する所たり。資性溫藹にして人格皎潔、人望甚だ高し。氏は明治四十年京都帝國大學法科を卒業す。夙に高田第十三師團法官部理事に任ぜられ、續いて警視廳警視となり四谷警察署長に補せられ、其後荏原郡長、青島守備軍民政署長等を經て、大正九年に至り愛知縣産業部長に拔擢さる。昭和二年には岐阜縣書記官内務部長に任ぜられ、翌三年勅令第八十一號により大禮紀念章を授與せられたり。昭和七年に至りて岩手縣書記官内務部長に榮進し、翌年四月内務部經濟更生課長事務取扱を命ぜらる。翌九年五月大牟田市會に於て壓倒的多數を以て市長に當選し、その聲望もだし難く、同年五月四日現職を退き、直ちに大牟田市長に就任せり。多年官界にありて手腕を揮ひ、至る所に功績を殘せり。職務に精勵し、常に研究的態度を以て臨み、地方行政に精進すること深し。廉直の士として名あり。明治十一年十二月鹿兒島縣揖宿郡喜入村に生る。因に令兄慶光氏は鹿兒島縣々會議員として縣政に盡瘁すること多年。現在縣會副議長にして喜入町長を兼ね名望頗る高し。兄弟相共に地方自治に多大の功績ありて、鄕黨の敬仰を受くること深し。

（住所　福岡縣大牟田市原ノ山町）

株式會社 細田商店

京都屈指の半襟並に染呉服製造卸として堅實なる營業に任じ、斯業界に歴倒的の聲望を受くる當社は、大正十五年十二月細田永輔氏の創立するところに係り、資本金壹百萬圓、全國各地に營業所を置き、資産内容の富裕なると基礎の鞏固なるは世人の夙に熟知せるところなるが、近時彌々超群出色の活況を呈し之を前期の業績に徵するも、利益金十八萬一千五百八十九圓、配當金十萬圓にして年一割の配當を續けつゝも、尙綽々たる餘裕を示し進展隆昌の一途を辿りつゝあり。同社の首腦部は細田一族を以て結成し、識德双全の細田永輔氏を戴き、常務は俊秀敏達の細田眞治郎氏を筆頭として、智謀百出の細田又吉、同秀治郎の兩氏之に次ぎ、取締役に斯界の苦勞人たる和田瑯一郎氏あり、監査役に高島與市郎味岡信治郎の兩氏あり、間然するところなき堅實なる陣容を誇れるが、これに一層の生氣と活力を賦與するものは、常務兼支配人の細田秀治郎氏にして、潤達明朗の爲人と卓絶せる力量才幹を以て名あり。同社近年の飛躍的發展が同氏の推進力に負ふところの大なるは一般人士の夙に認識するところなり。

社長 細田永輔　氏は京都府の名望家細田善助氏の三男にして、明治六年六月出生京都實業界の一權威細田善兵衛氏の令弟にして上記眞治郎氏の叔父に當る。幼少より父兄に從ひ、家業に從事し、明治二十五年分れて一家を創立す。明治四十三年一月細田合名會社を創立して、業務執行社員となり、昭和二年一月組織を改めて、株式會社細田商店とし從前の方針を襲承して社長に就任、昭和十二年二月細田眞治郎改め細田善兵衛氏に讓り、取締役となり現在に至れるが、其非凡の商才と忠信穩健なる人格は氏をして單一なる斯界の成功者たるに終らしめずして、更に社會的榮譽の段階を辿らしむるに至れり。卽ち明治

三十八年京都半襟商組合幹事に就任したるを首めとして上京區第二十五區會議員、市學務委員、京都剣糸同業組合代議員、同評議員、同組合長、商工會議所議員、京都地方裁判所商事債務調停委員を歴經し、現在猶幾多の公職を帶び、名望嘖々、氏は極めて友情に富み社員を遇するに溫情を以てし、信認愛撫の狀骨肉に對するに異ならず、此を以て社員の氏を視ること慈父の如く、上下和親、社内は常に春風駘蕩たる狀景を呈し、隨つて能率も自ら增進し昌榮の氣分盈々として、人をして羨欣の情に耐えざらしむ。

（所在地　京都市中京區富小路御池上守山町一六〇）

株式會社 山田機械製作所

近時軍需工業を中心に一般事業界は多大の活況を呈せるが、更に政府の生産力擴充政策と支那事變の勃發等に依り、この趨勢一段と激成せられ、その殷盛振りまことに顯著なるものあり。當社は東京市城東區大島町に本社工場を、同北砂町に分工場を設置し、鑛山用諸機械、各種機關、デイゼル・エンジン、化學機械その他の製作をなし、その製品の優秀なるを以て名聲高し。尙ほ最近商工省が斯界の權威を網羅して設計せし燃研式木炭瓦斯發生機製作を、技術の優秀なる所より特に當社が選定せられて之に當ることゝなれり。同品は他に類例を見ざる優秀品にして、燃料節約の國策に寄與する所甚し絶大なるものあるべし。當社は之が爲めに工場の一大擴張を斷行し、月産五百臺の大設備を有することゝなれり。尙ほ同品は專ら株式會社高田商會に於て一手販賣を行へり。尙當社近時の發展にはまことに瞠目すべきものあるが、斯る新製品の製作に手を染むるに至りたるに依り當社の今後まことに刮目すべきものあり。

社長 山田清志　山田機械製作所主として、近時斯業界に頭角を現せる氏は、頭腦縝密にして蘊蓄該博を以て斯界に多大の推敬を受く。氏は夙に大阪事業界にその規模の宏壯なると、設備の最新式を以て著名なる洗車製造株式會社設計部に入り、大いに技術の研修に力を注ぎ、その類才を砥礪して上下の信望を集むるに至れり。氏の學殖と手腕は斯界に認められ、後藤村機械製作所より繫望されて工務課長の要職に就任せり。至誠熱直を以て業務に淬勵し、夙起晩寢して事業の發展の爲めに心魂を注ぎ、新知識の研鑽をなして同所の設備の改善、製品の改良に力を盡くして貢献する所多大なるものあり。後上京して奥機械製作所に入りて、同所工場長の要職に推され熱心に同所の爲めに盡瘁して、その功績僅少ならず昭和三年に至り、多年の蘊蓄經驗を以て事業界に鵬翼を張らんとして山田機械製作所を創始せり。創業當初幾多の障害ありしも不撓不屈これを克服して遂に現時見るが如き發展を遂ぐるに至れり。至誠溫厚篤實にして素志堅確人格廉直にして心性皎潔今後事業界に一段とその飛躍を伸すに至るべし。

（所在地　東京市城東區大島町一丁目）

事業家 青木幸平

株式會社青木商店社長たる、青木幸平氏の偉大なる功績は佐賀縣下に燦然と輝き、佐賀財界の元老として、その威勢誠に赫耀たるものあり。

氏は今日業界に鞏固不動の地位を得たるとは雖、そは一夕一朝に之を獲得したるものに非ずして、斯業に於けるその苦心又想像に餘りあるものありて筆舌よく盡し得ざる處なり。氏の主宰する青木商店は、資本金三十萬圓にして、營業積目頗る多岐に亘り、その製産能率又誠に驚異すべきものあり。卽ち電氣用高壓・低壓碍子・碍管、附屬金物、電氣機械器具材料等ありて、その製品は何れも他の追隨

を許さざる優秀品の名を博せり。今や時局は戰時體制下にありて、之れが需要は多大に增加を要求し來り。當社此の需要增加に周到なる準備を行ひて、此處に工場內部の刷新に努め、新設備をなして萬遺漏なきを期せる等、更に超飛躍的準備を完了なすに至れり。

氏頗る斯業に對し精勵せるが、更に一家一族擧つての淨勵振は正に世の範たるに足る處にして長男定雄氏は當社の常務取締役としてつあり。斯くて店運益々繁榮せるは一に當店製品の優秀卓逸なるを物語る處なり。

氏の地方に於ける信望愈々加り、斯業の傍ら、恭益銀行取締役、肥前陶器取締役の重職にあり、時局重大の秋、我國生產力の擴充の見地に於て、氏の活躍を望む處頗る多大なるものあり。

（住所　佐賀縣西松浦郡有田町）

青木幸平氏

機略縱橫の手腕を揮ひて活躍目覺ましく、次男類次氏は早大商科を卒業するや、直ちに斯業に從事し、今や京城支店長として第一線に立ちて、孜々營々たる精勵に努め、同店の基礎盤石の上に置かれたるが如く、强固堅實たるものあり、當社の業績年と共に向上し、今や年總賣上高は一百萬圓を突破するの盛況にして、販路亦擴張され、滿洲、北支方面に及び、同方面は專ら同店代理店たる岡谷商店是れに當り、全力を傾注し益々販路開拓に努め

ホシノフオン研究所

醫學博士星野行恒氏の發明に係る耳遠き人の自由に聞ける器械「**ホシノフオン**」は、同博士多年研究に沒頭せられし「齒牙ヨリスル普傳達の研究」の理論に基き、從來の空氣傳導、骨傳導に比して齒が最もよく音を傳へ、殊に談話音閣を選擇的に能く感じて、雜音は大部分骨質に吸收され、聽話に支障を起さぬ事實に着眼して之を實用的に考案せられたる聽話器なり。既に聾唖學校教授用、醫師聽力檢査用、家庭机上等數種を完成して各方面に頒布し、學界並に一般聾唖者の家庭より、多大の好評と感謝を受けつゝあり。一方普通人に於ても、耳を密閉して齒よりよく聽話し得られるためにホシノフオン航空機用交話裝置は今日まで場音の爲に不可能とされし、飛行機上の會話を自由にし、軍事上に貢獻するところ亦多大なりとして、新聞紙上にも屢々報道せらる。而してホシノフオン研究所は所長星野博士指導の下に、現在尙各種の應用方面の研究に從事せるが、諸方面よりホシノフオンの性能及利用價値を認められ、早くに耳の不自由なる人々より、携帶用小型補聽器としてのホシノフオンの製作を希望せられたれば玆に最も優秀にして實用的携帶用ホシノフオンを完成し、頒布價格は殆ど實費にて提供し當研究會が社會に對する奉仕を念願として、販賣せられたり。今やホシノフオンの眞價は全國津々浦々に喧傳され、雜聽者に一大福音を齎せり。

所長　星野行恒　氏は明治二十六年八月長崎市に誕生す。資質頭腦明晰研究心に富む。長じて上京日本齒科醫學專門學校に學び大正七年優秀の成績を以て之を卒業、直ちに同校附屬醫院助手となり、更に斯學の研究に沒頭せるも、後東京帝大齒科學教室石原教授の門を敲きて、其指導を受けて研鑽し、同十年長崎市に歸りて、齒科醫院を開業せるが向學の念止み難く、同十五年再び離鄕し京都帝大耳鼻咽喉科室に於て、耳鼻科の泰斗星野教授の指導を得、切磋琢磨、眞摯學に就く事七箇年、昭和七年五月に及んで京都帝國大學醫

學部に研究論文「齒牙よりする普傳達の研究」を稿し、之を提出美事醫學博士の學位を授與さる。氏の面目躍如たるものあり。同年十二月京都市四條河原町並に上京區鞍馬口通烏丸東入に齒科醫院を開設し、傍ら該論文を基調として齒牙傳導聽話器卽ち「ホシノフオン」の發明を完成し、醫學界に一大センセイションを起したり。而して氏は日本齒科學會より該研究論文に對し表彰せられ金牌を授與さるゝの光榮を擔ふ。玆に特記すべきは氏は「ホシノフオン」の發賣に當りては絕對に營利を捨てゝ飽くまでも聾唖者救助と社會的貢獻を念となして、實費を以て頒布に努め、其超然たる態度は敬仰するに餘ありと言ふべし。

（所在地　京都市中京區四條河原西北角）

桝茂登店主　大須賀富次郎

中小商工業の疲弊の叫ばれること旣に久しく、商權擁護運動、或は反產運動として種々の自衞運動行はるゝは、夙に重大なる社會問題として爲政家の關心事となれり。然るに東京市麻布區市兵衞町に本據を構へる酒類商桝茂登は、斯る情勢を外に年々商況發展し、同業者間の驚異の的とせらる。氏は明治二十二年一月二十一日愛知縣幡豆郡上橫須賀村に呱々の聲を擧ぐ。幼少より聰敏にして、大志あり。鄕黨を終へるや醇朴たる野望抑ふる能はず、將來實業界に身を立てんと欲し、笈を負ふて上京す。桝本商店に入り、勤勉努力して眞摯その職務に精勵し、朝は他に先んじて起き、夜は人の寢ねたる後に寢ね、孜々營々として、藤日向なく働きて、氏は他の店員の模範とせられ、店主より頗る重用せらる。二十六才の時獨立して酒類販賣業を創始し、店主は氏の多年の功勞を賞して桝本の商號を頒て り。愈々事業經營の衝に當るや、氏は一段と努力奮鬪をなし、專心これに沒頭し、その努力は大いに現れて、次第に繁榮に向へり。氏は顧客に對して懇切丁寧にして、良品を低廉に販賣し、薄利多賣を旨となし、斯くして顧客は增加し、商況頗る殷盛を加へり。現在東京市內に支店二ケ所を有し、資產十數萬を數ふるまでの繁榮をなせり。氏は公共の爲めには多忙の時間を割きて盡瘁し、寄與する所甚だ大なり。現在推されて町總代、學務委員、同業組合役員その他の役員に就任し、町內の信望頗る厚し。溫輭謹恪、質實堅確の士たり仁俠の人にして人の困窮せるを見ては、惜しまずに私財を投じ、店員を愛すること我子の如く之を遇せり。氏の溫情に對しては店員も深く悅服し、一致協力して店務の繁榮の爲めに努力を盡くしつゝあり。シン子夫人は鄕里愛知縣の豪農岩瀨重市氏の令妹にして、當家の繁昌に對する隱くれたる功勞者たり。五女を有する子福者にして家庭はま寔に和氣靄々として堂に充てり。

（住所　東京市麻布區市兵衞町二ノ二五）

壬生寺

當寺は一に寶幢三昧院、亦た寶幢寺心淨光院地藏院等と號し、律宗別格本山にして舊時洛陽六地藏の一たりき。抑も閻魔五身を現じては一切衆生の作惡を靜め、六地藏と現じ給ひては、六道に遊化して苦を拔き樂を與へ給ふ。占察經の讚談文にも、六道能化の救世、眞に二佛中間の大智開士と說けり。然れば則ち此の現世の衆生は、旣に地藏菩薩恩顧の者と云ふべく、何ぞ六道一切の衆生現として豈此の菩薩を敬仰せざらんや。故に我國朝、上王侯より下士庶に至るまで、歸仰尤も盛にして、諸刹の堂宇、木を以て彫み、石を以て彫り、金を以て鑄て供養せざると云ふことなしされば全國所々、靈驗奕々たる地藏尊像なきにしも非らざるも、就中當時泰安する處の靈像は、一條帝御宇正曆二年圓城寺の僧　快賢僧都、佛工定朝法橋をして彫刻せしむ。法橋命を受け、齋戒沐浴して斧斤を運ぶ。一刀を

下す毎に僧都傍に在りて香を焚き三禮し、一日千の丹誠を凝し、終に其功を念うす。斯く僧教實信の感ずる處、法橋妙手の成する處、梵相瑞嚴恍として佉羅陀山に跨りて、親しく菩薩に遇ひ奉るが如しと。故に一度參堂結緣爲す者は速に八怖を除き、直に十福を與へ、所求する處應ぜざると云ふ無し。爾今都鄙より參拜する者四時踵を接し、靈像の石自ら世に顯著たり。卽ち當寺本尊は此の靈像にして天平寶宇五年、鑑眞僧教堅武天皇の勅を奉じ創建せる靈利の古址なりと稱す。而して快賢僧都寛弘二年本堂を完成し落慶供養を修す。時に一條天皇の勅願寺となれり。後年白河天皇靈像に祈りて、皇太子を得玉ひしを以て、天情大に悅びて益々恭敬を加へ、承暦元年勅して伽藍を修造しめ、御幸ありて禮拜供養し詔して地藏院の勅願を賜ひ、勅願道場に定め給ふの靈場なり。之れ實に吾が本願大念佛供養道場として右に出づる處なしと隨喜渴仰し正嘉元年五月二十九日を卜して持齊融通大念佛會を開始し、世に顯著なる壬生狂言の起源となると云へり。時に平政平藝に類燒灰燼に歸せし諸堂を重建、更に隨喜の余り念佛所用の爲め金鼓一口を寄附す。是れ今に現存して毎歲所用し來る處國寶に指定され、末代の保存物となる。而して寺號を改め寶幢三昧院と號し、其後正安年間、圓覺僧都堂宇を修覆し新に坊舍を興し、寺號を心淨光院と稱す。爾來星霜を經、康永年間、新田義治の一黨香匂高遠足利方に攻めらるゝや、難を本寺に避け亦た寶正五年足利義政の歸依頗る厚く伽藍を修覆するあり、後慶長十六年後陽成天皇國家鎭護の御立願あり、本堂臺座並に諸堂宇を修營せしめらる。當時僧堂坊舍甍を連ね、結構莊麗寔に洛西の一偉觀たりしが、天明八年正月二十八日、洛中の大火により一山堂房燒盡せる爲、文政八年再建さる。往時十支院を有せしが、現に白河天皇宇代宮殿を移建創立し文化八年再建、更に明治四十三年修造になる地藏院卽ち本坊及び、寛永年間本良僧都創建し、文政十二年再建、大正二年三月改築になれる兩院の外、悉く廢頽すと。亦た寺域三千二十二坪　境内樹木蒼々として木石の配置妙を得、清淡枯雅、登臨なすもの羽化登仙の感を覺ゆ。主なる堂宇に本堂、觀音堂、阿彌陀堂、一夜天神堂、辨天堂、六所明神社、思靈堂、鐘樓堂、東高麗門、南所、茶所、西門等を具備し、寺寶中本尊地藏菩薩像は本造坐像一基。肉身金泥塗にして着色極彩色、左手に寶珠、右手に錫杖を有し、左足は蓮座より下し延命形と稱する金箔の光背を具ふ。また運慶作四天王立像四軀、快賢增都の將來せし異形他に類絶せる錫杖一枝、更に前述平政平寄進になる金鼓一口に壽を藏し、石七點現に國寶に指定せらる。其他佛像、佛畫、古經、古文書、扁額、法器、假面等數百點有りて枚挙に遑なし。附近に尼ケ池、壬生忠岑舊址、人丸塚、田中城等の遺跡あり。四季參觀者絶ゆる間なく、法燈愈々熾なり。

（所在地　京都市中京區壬生郷ノ宮町）

千葉縣立　松戸高等女學校

嘗て我國教育界は歐米諸國の教育方法に範を採り、各種の主義主張を迎ふるに急なりし爲め、徒らに新奇を衒ひて得々として、彼の國の後塵を拜し、稍々もすれば我國固有の國民道德を輕視するの弊風すら醸成せられたり。然るに近年斯る風潮は大いに改まるに至りしが、本校の如き夙に我國特有の美德を教育の本義となして、生徒の訓育を行へり。即ち、我國社會制度の根本が家族制度にあり、家族制度の中心が親子の關係にあるに鑑みて、本校に於ては「親心卽師情」なる信條を掲げて教育の基本的精神と爲せり。父の嚴格と母の慈愛を兼ねし宏大無邊の愛情こそ、教職にある者の本ずべき至高の心情にして、又之れに依りて教育の本務をも全うし得らるべし。親心卽師情」を信條とせる當校は他校に見る能はざる師弟の間に躍しき關係ありて、茲に本

校の著しき特色あり。兎角女學校の教育が實際に遠く、卒業生が家庭に入るに及んで實務に疎しとの非難の往々起るに省みて、教科書の教習以外に家政の實習に力を盡し、この目的を以て家政寮を經營して家政一切の實務を習得せしめ、又學科中に家庭科を設け、夏期休暇中裁縫講習會を開き、朝禮に於て教育勅語奉誦、天祖の神語奉誦、國旗揚揚及國歌齊唱、校訓宣唱、校歌齊唱、校長出題による默想を一週中毎日順次これを行ふことゝせり。當校の教育方針にその施設に、薫陶に、幾多の特色を有して、他に見ざる完備充實をなせり。斯くて當校の實績頗る擧り、縣下屈指の女學校としてその優秀を稱讃せらる。

校長　吉田　保治　氏は大正五年三月東京高等師範學校を卒業し、直ちに群馬縣立沼田中學校教諭を拜命大正九年十月茨城縣立水戸中學校に轉ず。大正十三年千葉縣立師範學校に轉任し、校務の劇新施設の充實に力を盡して顧る功績あり。氏の人物手腕は大いに認められ、昭和十年十月松戸高等女學校々長に榮進す。赴任するや前述の如き新教育方針を樹立して大改革を爲し、優秀なる成績を擧げて人の躍目する所となる。氏溫恭謹直、名利に超脫せる高義正節の士たり。溫情に富みて人の爲めに盡力を惜しまず、志操堅く信念の持主たり。氏の高潔なる人格は人の長嘯措かざる所なり。劍道は初段の腕前を有し、油繪、寫眞等の優雅たる趣味あり。又小型自動車の運轉をもよくし、旅行をも好む。教育界に稀なる趣味人たり。

（所在地　千葉縣東葛飾郡松戸町）

事業家　山口時一郎

西肥自動車株式會社專務取締役たる山口時一郎氏の九州自動車運輸業界に於ける榮譽赫々たるものありて、今や九州一圓に亘りて斯業のリーダーとして重きをなせり。氏は明治二十二年一月、一農家に呱々の聲を擧ぐ。幼少より慧敏にして長ずるに及び愈々其の鋭鋒を顯はし、地方產業の發展に寄與せんことを志し、國益增進の第一歩は、地中埋藏の寶庫を開くに如かずとなして、鑛物學の智識を得べく、斯業の學修に實驗に傾倒し、或る時は自ら炭坑に入りて之れが體驗を收め、或る時は各地の炭山を歷訪して多種多樣の設備、機構を研究し、深く斯業に通曉するに及べり。この間の苦心筆舌に盡し難きも、獨立自尊の氏能く難事を克服し、大正十四年に至り獨力を以て炭坑經營を始め、自己經營の初一念を貫徹するに至れり。卽ち深江炭礦を創業して其の衝に當り、拮据經營能く其の功を收め將來發展の基礎强固となれり。氏の前途は此處に愈々開拓されるに至れり。

氏業礎成るや、熱心に事業に淬勵し、昭和五年西肥自動車會社に着目、交通運輸業の重要性を悟り、同社の重役に就任して交通事業界に進出す。當時同社は北松浦郡内の微々たる乘合自動車會社に過ぎざりしが、氏一度重役となるや、天禀の手腕此處にも顯はれ、同社の業績著しく揚るに及び、更に賜翼を北九州に擴大し、福岡市内所在の乘合自動車の買收をなして、之れを同社の掌中に抱握するに至る。その敏腕想見するに足らん、氏乘合自動車業の亂立不統制に痛く慨歎し、斯業を統一するに非ざれば到底業界の進歩發達は素より、運輸交通の利用者亦不便尠からざるの理を悟り、驟然此處に統制を計るべく、牢固たる決意を胸中に藏し、之が實現の緒に着く。卽ち、地元長崎縣は勿論、佐賀、福岡、大分の各縣に亘りて買收統制に着々豫期の效果を齎らせるは既に世人の知れる處なり。最近にありても、別府、龜の井乘合自動車の買收に成功し、同縣下の乘合買收統一にも進出目覺しき活躍を爲せり。斯くして氏が敏腕を揮ふや、道路を改修し地方民の便益に資するもの多大なるものあり、卽ち筑隈なる道路は擴大され交通量は增加し、加ふるに、舊式小型自

動車を排し、最新式大型車を用ひる等、眞摯熱誠業界のため挺身する傍ら、尙日夜我が自動車業界前途の動向に思ひを走せ、自動車道路の敷設に、斯業統一畫策に餘念なく、九州交通運輸界の爲めに獻身的活躍して、その貢獻する所絶大なるものあり。他面、佐世保商工業界の爲めにも百方奔走し、佐世保商工會議所議員の要職に選出せらる。

氏既に今日、業成り名遂げ產を成して自宅を增築し寸暇には閑日月を樂しみ、訪客に對しては餘裕綽々たるの應對振をなし、その襟度の宏きと器局の大なるとは衆庶の景仰する所たり。

（住所　長崎縣北松浦郡江迎村）

合資會社

日本燈具製造所

四面環海たる我日本海運事業の世界的進出の背後には、造船技術に他の追隨を許さざる優秀卓越せるものあると共に、又船舶の附屬具たる船燈、救命具、信號器等の製品に於て外國品を遙かに凌ぎ、特に船の外廓或は內部を飾る照明器具機械の進歩發達に於て顯著なるものあるを看過すべからず。之れ遏に關係業者並に技術家の苦心研精の賜にして、我海運事業の發展に就き寄與せる所絶大なるものあるを銘記すべきなり。日本燈具製造所は古くより燈具の製造に從事し、技術の改善進歩に就いては滯勵刻勉して研究を續け、斯業の發展に就きて貢獻せる所多大なり。當社の製品は優秀なる上に價格又頗る低廉なるを以て海運界に於て絶讃を博せり。その有せる實用新案はまことに多數に上り、製品に就いては常に新機軸を開き、先年發令せられた船舶安全法に依る電氣船燈、油船燈及消火器等、遞信省に於て受驗すべき標本を他に先んじて製作完成して、業界をして瞠目せしめたり。更に引續き同法に依る信號燈の標本の製作をなして、感嘆の聲を放たしめ、斯界の最高峰として讃仰さる。當社の製品は海運界より非常なる歡迎を受け、大阪商船を得意とする外、一流船舶海運會社より大量の注文を受け、全國船燈具製造高の大半は同所の製作に拘る所にして、斯界を獨占するの盛況たり。その資本金五萬圓、資金必ずしも多しと云ふを得ざるも、工場は操業頗る繁忙を呈し、殺到する需要に應ずるを得ざるの活況にして、今後の發展大いに期待すべきものあり。

代表社員　林　定一　日本燈具製造所を創始して、斯業に携ること多年、製品の改良に就いては、日夜苦心研究を怠らず、斯業の發展に關して、その功績沒すべからざるものあり。卽ち日本船燈株式會社なる共販會社の設立發起人として八方奔走し、或は社團法人船用具協會の設立發企人となりて獻身的に活躍して、業界の爲めに盡瘁する所多し。資性淵達磊落、熱情熱血の士にして業界の發展の爲め一身の利害を顧みず馳驅し、その信望甚だ高くして斯界に於ける第一人者たり。

（所在地　大阪市港區富島町五〇）

事業家

江藤米作

筑豐の地は由來人傑を產す。幕末維新以降政界、官界、學界、實業界、其他各方面に亙りて彬々として輩出せる不群出色の俊髦擧げて數ふ可からず。各界各層を通じて筑豐所產の人物、概ね豪放濶達にして進取敢爲の氣象に富めるの事實を見るに於て「秀山水は偉人を生ず」の語の切當なるを感ぜずんばあらざるなり。玆に傳せんとする江藤米作氏の如き、日本的大成者の範疇を隔つる事遙かなりと雖亦筑豐人士の美點特徵を多量に具備せる一種の人傑にして、氣格の俊異なる、抱負の雄大なる、敢て鄕土の山水に愧負せざるものなり。氏は幕末の儒傑廣瀨淡窓、近世の名匠田能村竹田を出せる豐後日田の產にして、幼少より耶馬、彌彥の雄姿に親炙して凌雲の

氣を藏し行藏疎放にして頑童の名を博せり。弱冠にして日田木竹組大川出張所員となり、月々の收入僅に十數金に過ぎざりしも、拮据數年の間に於ける無形の所得は多大にして、これに依つて與へられたる信念を基礎として自主獨往の決心を定め、大正四年月百圓の賃借にて工場を領有し製材事業を創始せり。爾來職工と共に工場內に起居して名狀す可からざる艱苦と戰ひつゝ晝夜の別なく、精勵健鬪

江藤米作氏

僅に數年の間に大に業績を擧げ、相當の資財を得ると共に取引の堅實なる點に於て斯界に絶對的信用を博せり。此に於て望蜀の念將勃として禁じ難く、大正九年を期して大飛躍を策し資本金五十萬圓の株式會社山口製材所を買收、此れを解散して個人經營として斯業に邁進、年來艱苦の效果は玆に現れ、見る見る旭日昇天の勢を示すに至るや、大川町同業者の嫉視するところとなり、其脆計に基く需要者の不買同盟、其他幾度の障礙に遭遇したるが、健腕能く此を排除して躍進又躍進、遂に北九州に於ける屈指の木材業者として斯界に覇を稱ふるに至れり。夫れ木材の用途の多端なる、姿態優美にして床材に適するあり、木質堅硬にして植桿に用ひらるゝあり斷面華麗にして家具什器として珍重せらるゝあり。又樹幹長大にして棟幹の材たるあり。人も亦斯の如し。然も規模雄大にして多年の風霜を凌ぎ來りて根幹鐵の如くなる棟梁の材に至つては容易に求め得べからざるなり。顧ふに氏の如きは其得易からざる人中の巨材たるに幾からん歟。氏は血性の男子にして、事に當つては精悍虎豹の如き概を示すと雖も、一面溫情盎々として人を容るゝの雅量あり。之を以て鄕黨の間に信望厚く、大川町議に當選すること四回、商工會議所副會頭に推さるゝこと二回、現在其顧問たり。イツ子夫人との間に四男四女あり。長女文子嬢は秋官副島次郎氏に嫁し貞節を以て稱せらる。

（住所　福岡縣三瀦郡大川町向島）

目黑蒲田電鐵株式會社

多年順調なる業績を顯揚して高率配當を堅持し、逐期運輸收入の增大を示現せる斯業界の俊銳たり。當社は大正十一年九月、田園都市株式會社の鐵道事業部を分離し、資本金三百五十萬を以て創業せるに端を發す。以來同十三年三月百五十萬圓、同十五年七月六百萬圓を各增資し、昭和三年五月田園都市會社を合併、二百二十五萬圓を增加して資本金一千三百二十五萬圓となし、曩に池上電鐵會社を合併以て現資本金一千七百十萬圓を抱擁するに至り、東橫電鐵、目蒲乘合、多摩川園等に五百數十萬圓を投資し居れり。而して當社の現勢を見るに營業部門は、鐵道業を主とする外、ゴルフ場、土地住宅、遊園地、電燈電力供給、乘合自動車を兼營す。其事業規模並に設備は鐵道軌道目黑—蒲田。五反田—蒲田。大井町—二子玉川の三線を生命線と爲し、其延長三十四粁五、設備費一千八百八十三萬二千圓を算し、乘合自動車に於ては十八粁八、この設備費四十五萬八千余圓、土地住宅卽ち田園都市設備費一百五十三萬三千圓。電燈電力供給三萬六百余燈、この設備費十八萬三千圓、ゴルフ場並遊園地設備費一百七十七萬九千圓を計上す。尙擴張計畫として既免許線自由ケ丘—成城學園前を有し居れり。輓近當社の收入增加率著しく向上を辿り來れるが、その因據は運輸收入にして沿線の定住客の著增に他ならず、沿線が如何に住宅區域、果た亦工場地帶（多摩川沿岸）として絶好なるかは忖度に餘りあり。當社は周知の如く一朝の高

率配當を恒例となし來りしが、この源泉は副業たる土地經營の艱苦なる成績に依るものにして、一方首腦部は常に積極的方針を堅持し新牧益源の確保に努力せる結果、投資關係の好轉にも依因すべし。

十三年上期利益金九十八萬六千圓、前期繰越金十七萬圓合計百十五萬六千圓を擧げ、期末拂込金一千圓に對比せば益率一割三分九厘前年同期より八厘の向上にして配當は依然一割を踏襲之を据置きたり。而して當社は十二年十二月目黒自動車運輸、芝浦乘合自動車兩社の吸收合併を實現したるが兩社とも依然躍進的成績を保持せる結果、資本負擔が增加し乍ら利益率の低下を補ひしものなり。因に當社現資本金は三千萬圓なり。當社現重役には取締役社長五島慶太、專務取締役篠原三千郎、常務取締役丹羽武朝、取締役緒明圭造、同中川正左、同兼支配人松浦由太郎、常任監査役澁澤秀雄、監査役石川善太郎、同小宮次郎、庶務課長若橋一の諸氏なり。

常務取締役　丹羽　武朝　明治十八年九月佐賀縣士族丹羽龍之助翁の長男として呱々の聲を擧ぐ。幼童にして既に利發鄕關に著聞す長じて東京帝大法科獨法科に學を修め、明治四十四年優秀の成績を以て之を卒業、高等文官試驗に見事合格、官界に入りて鐵道院副參事、同參事官、鐵道書記官、鐵道大臣官房人事課長を經て、名古屋鐵道局長に榮轉して敏腕を揮ひ、次で鐵道省監督局長に就任し、その茫鋒を謳はれたるが、昭和六年惜まれて官界を辭す。後當社常務取締役に推擧され今日に迫ぶ。傍ら中仙道乘合自動車專務、東京橫濱電鐵常務、目黒興業、南武鐵道、各取締役を兼ね帝國鐵道協會理事たり。

（所在地　東京市澁谷區大和田町）

保證責任 米澤織物製造信用販賣購買組合

米澤織今日の名聲は遍に上杉鷹山公の賜にして、公の熱心なる奬勵に依りて米澤織の素地成り、米澤市の基礎産業は扶殖せられるに至れり。その名の全國に知られし端緒は、安永五年綿役場を設け、越後小千谷より松山源右衛門を招きて家中の子女をして、麻布の織り方を教習せしめし以來、技術大いに進歩し寛政三年には絹龍文（綾織）の製作に成功し玆に始めて米澤は絹織物産地として世間の注目を惹くに至りたり。爾來歷代藩主は熱心にこれが改良に力を注ぎ、大いに向上進歩を遂ぐ。明治二十五年には同業組合設立せられ、三十五年に至りて力織機採用せられる等、維新當時の混亂による打擊を克服して、年を遂ひて飛躍的發展をなせり。大正十年後の好調時には百七十萬點、二千萬圓の年産額を見たり。然るに經濟界の逆轉に依りて衰運に陷りこれが頽勢を挽回する爲めに當組合を創立せらる。而して品質の改善、時代の趨勢に順應する色彩、綿柄等の考案、粗製濫造を防止する爲めに嚴重なる檢査の勵行等を行ひ、鋭意これが恢復に努めたる結果、漸次立直りを見るに至れり。昭和七年度に於ては物價の下落に依り、金額は五百七十萬圓に減少せしも、數量に於ては百四十餘萬點に增加せり。爾來愈々好調を辿る。主なる製品にして一般世間に好評を博しつゝあるは、袴地、着尺及羽尺みづほ錦紗、生地加工品、帶、女物、輸出織物等なり。みづほ錦紗は大正末期に創製せられたるものにして、人絹應用の白生地にて京都に於て加工さる。九年度の産額五十萬反にて第一位に位す。輸出織物は非常なる好調を呈し、ニノンと稱するボイル類似の双人絹を主となし蘭領印度、埃及等に輸出せらる。この他縮緬、ジョウゼット、みづほ廣巾、敷物等も前途頗る有望なり。內外の需要年々增加をなし今後の發展には期待すべきものあり。當組合は組合員に對して特別積立、手形貸付擔保附手形貸付、組合員貯金、購買、委託販賣等の事業を營み、斯業の發展に貢獻する所まことに大なり。當組合の役員には專務理事高橋廣吉、理事（顧問）行方清次、金子功太郎、猪俣政次郎、遠藤金兵衛、賀川信一、篠榮義、角鐵藏、岡崎倉造、神尾富彌、林崎重次郎、安部吉藏、監事熊倉要助、今泉與惣次佐藤理助、普後要助、山岸新造、信用評定委員田中駒藏、澁谷誠助、遠藤茂兵衛、齋藤秀彌、中村鐵藏の諸氏なり。

（所在地　山形縣米澤市大町）

株式會社 各和製作所

世界戰史上空前の大成果を收めし、今次支那事變は大勢既に決せりと雖も、其の派生的前途の進展奈邊に及ぶ可きか容易に豫斷を許さず、されば之が最先端を往くべき軍需工業は、更に驚天動地の躍進發展を具現し、全國當業者の繁忙盛況たるや、實に言語に絕すと云ふべし。我が株式會社各和製作所は此間に處し、帝都の新興工場地帶とも云ふべき、板橋區志村に宏壯雄大、且つ最新式生産施設の完備を誇る理想的工場を構え、航空兵器、航空機部分品、兵器部分品、自動車部分品及び其他精密機械類を主要製品となして、帝都斯業界を席捲し居れる代表的中堅工場たり。

抑も當社は大正九年現社長各和福次氏が單獨經營以て、創業せるに其の端を發し、爾來不斷の精勵努力を累ねて、或は製品の改良、技術の向上、或は經營方針、販路開拓等、凡ゆる方面に亘りて拮据經營せる結果、更に事業を發展せしめ來たり、殊に滿洲事變勃發するや、俄然現出せる軍需工業黃金時代の好況に乘じ、躍進又躍進。遂に昭和九年六月、資本金六十萬圓を以て株式會社に改組、業容を擴充せしめ、更に同十一年十月一擧資本金を從來の倍額百二十萬圓に增加するに至りたるのみならず、同時に現地を相して廣袤數千坪の工場敷地を購入、以て諸設備完全なる工場を設立し、以來全能力を發揮して生産に從事せるも、其後需要益々增加し、殊に航空機部分品の受註激增を見たる爲、該生産能力の不足を告ぐるに至れり。玆に於て隣接敷地二千坪餘に工場を新設、更に昭和十三年三月、一躍資本金を三百萬圓に增額し、其の第三次擴張計畫たる工場五棟の竣成せる結果、今や堂々四隣を壓する工場規模は正に當地の一大偉觀たるを失はず。而かも最新設備の完璧なると、優秀熟練工を多數擁せる處、其の諸製品の斷然斯界に誇るべき逸品たるは、他社の匹儔を許さずして、各方面より絕對的好評を博し居れり。而して其の信望殊に軍部に厚く、現に陸海軍指定工場たる光榮を擔ひて業礎の確固不動なるを保證され、現に各工廠及び航空廠を重要納品先とする一方、亦た中島飛行機、川崎造船所等、民間一流會社を得意先に有し、業績顯然たること正に斯界屈指のものたり。

因みに昭和十二年下半期決算に據れば、總收入六十萬九千餘圓、總支出五十一萬千餘圓にして、差引當期純益金九萬七千圓を算し、當時の資本金百二十萬圓に對する一割六分の利益率に相當し、之が株主配當は前期より一分增配、卽ち九分の好配當をなせり。尙ほ現在重役は取締役社長各和福次、取締役和田嘉衡、同松井利三郎、同高橋和人等の諸氏にして、夫々業界有數の人材たり。

取締役社長　各和　福次　氏は栃木縣を搖籃の地として、明治二十一年三月に出生す。夙に聰明俊敏、而かも機械類に深甚の興味を有し、奮然陸軍造兵廠に奉職して精勵恪勤を累ね、次で東京計器に轉ずるや、天禀の鋭鋒隨所に光芒を發し、加ふるに不撓研鑽の賜は克く儕輩を拔んじて卓然たり。上長の信認頗る厚く、名聲嘖々たりしも鵬雛何んぞ永遠に羽翼の疵護に甘んぜんか、其の獨立不羈の精神勃然發して、玆に各和製作所を獨立創業せり。爾來努力健闘、克く業運を發展せしめたるは論を俟たず、遂に最爾たる一小工場を今日の大に築き、今や帝都業界稀に見る俊髦として勢威隆々、恰も旭日昇天の概を示し居れ

り。天資英邁剛毅にして識見高大、而かも頗る溫情に富み、渾然驩の如き人格を謳はるゝは、卽ち多年に亘りて堅忍不拔、克く創業當初の辛苦障碍を突破せる試練の賜と云ふべきか、其の襟度宏量寛に敬仰に値すべく、亦た從業員に接するや、恰も慈父の子に臨むが如き概あり、常に其の福利增進を圖りて私財を投じ、或は人材を登用するに吝かならず、適材適所主義を奉じて能く各自の天分を發揮せしむる處、創立以來の從業者多數ありて、現に夫々重責を完遂しつゝ、獻身的活躍をなし居れり。斯くて威望隆々として全員の尊崇敬慕の的たると共に、更に敬神崇祖の美風を顯揚せしむべく、工場内に神祠を建立、以て毎朝操業前擧社參拜なすを忘らずと聞く。されば社風堅實にして亦た奉風駘蕩たるの感あり斯界の模範的工場たるの面目躍如たり。而して一方刻勉精勵、克く早朝出社なして社務總攬に當り、天賦の卓腕を縱横に發揮する傍ら亦た常に從業員の素質向上を圖り、著名學者或は技術家を招聘して講義せしめ、更に出征兵士の歡送は勿論、其の家族に親身も企及し難き、思慮を施す等、其の溫情流露たる德行に畏服せざるものなしと聞く。

蓋し當代稀觀の偉材にして、推奬すべき存在ならん。

（所在地　東京市板橋區志村前野町）

惠比壽屋 粕谷健一郎商店

時局の重大化と共に未曾有の財政膨脹を來たし、低金利、物價騰貴と貨幣價値低落して國民各階級證券投資に多大の關心を拂ふことゝなれり。乍併、株式の清算取引の如き該方面に知識經驗乏しき人には、取引員の選定に愼重なる關心を要し、而もその取引には深甚なる考慮を必要とす。當店は東京株式取引所々屬短期清算取引員と實物取引員とを兼ね、屋號を惠比壽屋と稱し、兜町に於ては多大の信用あり。日露戰爭の直後の明治四十年三月證券界の大活況期に始めて創業し、春風秋雨三十餘年財界の幾多の變動にも、微動だにせず、商況順調を辿りて發展し、大正十一年東株實物取引員となり、續いて短期取引員の免許を受け、遂に現時見るが如き繁榮を見ることゝなれり。日露戰後、歐洲大戰時の活況、大正八、九年に於ける大變動等にもよく善處をなし、關東大震災に於ては帝都の焦土の中に率先して開店し、顧客には多大の便宜を供して、斯界の巨豪を眸睨睥睨たらしたり。その營業方針は堅持して曲げず、懇到親切を旨として顧客本位をモットーとし、投資家の間に嘖々たるものあり。その取引範圍は全國各地に及び、堅實なる信用を聞き傳へて九州、臺灣、朝鮮、北海道、樺太、滿洲より取引を求めて顧客の照會引きもきらざるの狀態なり一度當店と取引をなせる顧客は、その親切にして堅確なる取引に滿腔の信賴をなし、多年永續して取引を續けつゝあり。當店は取引の堅實と敏活に意を注ぐと共に、顧客の爲めに種々の參考資料を提供し、親切に相談に應ずる等、經驗知識に乏しき投資家も安んじて取引をなし得るの商店たり。即ち調査部を設け常に内外經濟及び各種會社の内容は勿論其他株式市場の變遷狀況等を詳細に調査しつゝあるを以て、頗る豐富なる資料あり。顧客の需に應じて特別便によりて詳細なる回答をなすことゝせり。又惠比壽證券日報及週報等の印刷物に依りて日々或は週間の市場の動向を顧客に通信す。以上の如く顧客の奉仕に力を注げるを以て日を逐ひて商況繁忙に向ひ、非常なる活況を呈せり。

店主　粕谷健一郎　智能鋭敏にして奇略縱横の粕谷氏は、斯界に於て八方活躍し、その神籌の鬼策は人の嘆服する所たり。栃木縣人粕谷善吉氏の長男として明治十一年三月呱々の聲を擧ぐ。日本林業、日蘭公司等の重役に列し、事業界に於て天禀の才腕を揮ひしが明治四十年三月證券業を創始す。資性剛毅闊

達小事に拘泥せず、豪放磊落にして氣恪又頗る俊邁たり。矩期取引員組合委員並に實物取引員組合委員に推されること數次、業界に信望高し。

（所在地　東京市日本橋區兜町東株ビル内）

日本金液常務取締役 落合茂

氏は日本金液株式會社に常務取締役として列し、犀利敏捷、手腕卓拔の青年實業家を以て其名を謳はる。抑々日本金液株式會社は嚴君落合兵之助氏の創始せるものにして、大正七年落合化學工業所を設置せるがその濫觴たり。大正九年夏季に至り日獨化學工業株式會社を創立して、事業一切を同社に於て引繼ぎ嚴君兵之助氏社長として同社を總攬す。事業順調なる發展をなし、社礎大いに堂固を加へしが、大正十三年に及び日本金液株式會社と名稱を變更して規模を擴張すると共に、杉浦茂左衛門氏新に社長に就任せり。續いて昭和九年七月に杉浦圭介氏社長となり、同社は社業好況、業績又頗る良好なるものあり。落合茂氏は大正十二年に名古屋育英商業學校を卒業し、爾後專心陶器の顏料の研究に從事す。頭腦極めて緻密にして孜々として倦むことなく研鑽し風起晩雲大いに努力をなせり。斯くしてその研究大いに進み、何等專門的教育を受けざるにも拘らず、陶器の顏料に關する知識は頗る該博なるものあり。昭和三年日本金液株式會社に入りて、直ちに取締役兼技師長に就任す。氏は同社の爲めに幾多の研究を完成してこれを實地に使用し、頗る優秀なる成績を擧げて、其の功績まことに大なるものあり。嚴君兵之助氏昭和七年に逝去す。氏は同年四月常務取締役に選任せられ、嚴君の遺志

落合茂氏

を襲ぎて精勵刻勉その業に力を注ぎ、社業の發展に貢獻する所まことに大なり。製品の需要先は主として陶器商なるが、硝子業界にも大いに註文ありて、近時販路擴まり、業績頗る好調を示せり。これまで會社は名古屋市中區小林町に設置され居りしが、相次ぐ事業の膨脹に依りて狹隘を告ぐるに至り、昨十二年東區松原町三丁目八番地に新築移轉せり。斯樣に當社は年と共に躍進をなして雲昇注視の的となれるが、これ遇に落合茂氏の手腕に負ふこと大なるものあり。資質溫恭謹恪にして悠揚迫らず、その寛厚なる擧措と、高貴なる品格とは、若冠ながら長者の風慨あり。聰敏にして事業的才腕に秀で、剛毅高邁の氣骨を有し、濱々として盡きることなき溫情ありて、嚴君の名を恥づかしめざる實業家あり。明治三十六年七月に落合兵之助氏の二男として生る。その前途まことに春秋に富めり。尙ほ氏の令弟實氏は同社取締役兼技術部長の椅子にありて活躍し、又令弟保氏は同社營業部に勤務してその前途を囑目せらる。

（住所　名古屋市中區古澤町六丁目）

新潟合同運送株式會社

當社は昭和二年新潟縣に於ける運送店の大同團結に依りて創立せられたるものにして、同縣下産業界の發展に或は文化の向上進展に寄與せし所僅少ならず、新潟財界に於ける信望まことに絶大なるものあり。現時公稱資本金三十萬圓、その金額必ずしも大なりと云ふを得ざるも、利益良好なる成績を擧げ、資産内容又甚だ堅實なるものあり。九月末を締切とせる十二年度上期成績を見るに一般貨物の移動は特に顯著なる增加なかりしも、近來に

於ける新潟市の發展に伴ひ取扱貨物は期を逐ひて增進なしつゝあり。他方時局關係の影響を受けて勞働賃銀を始めとして自動車、馬車等の小運搬賃高騰せしも、期末に取扱料金の値上げ實施せられたるに依りて相殺せられ、結局前年同期に比較して相當增收をなせり。同期に於ける總收入四萬八千圓、總支出三萬二千圓、差引當期利益金一萬六千圓に達す。尙ほ今後は支那事變に依りて更に拍車をかけられたる戰時體制强化に伴ふ諸影響と、小運送料金の引下げに立脚せる新公定料金の實施に對應して、當社首腦部に於ては業務の進展と經營の合理化の爲めに多大の苦心を拂ひつゝあるを以て、當社今後の發展には多大に期待すべきものあり。尙當社重役は專務取締役中島亨次郎、取締役荒川才二、同高橋助七　監査役豊住輝日出、同若木東一郎の諸氏なり。

專務取締役　中島亨次郎　運輸事業に携ること多年に及ぶ中島氏は、夙に斯界の權威として令名ありて、豊富なる經驗と高邁なる識見とは業界に竝ぶ者なく、俊敏萬才にして周匝緻密、群拔なる才腕を縱横に揮ひて、社業を拓開し、業績年と共に向上を辿りつゝあり。資性敦厚にして寛容、器局宏量にして情誼に厚く、好んで人の爲めに難に赴く高義淸節の士たり。尙ほ氏は明治十九年山形縣に生れ、同四十一年內國通運會社に入りて始めて斯業に携る。爾來運送業界に馳驅して馱輦の手腕を發揮し、忽にして頭角を拔んづ、各地支店を歷任して、昭和二年新潟支店長に轉じ同年新潟合同運送の創立せられるや、國際通運を代表して專務取締役に推さる。當社今日の發展は一に氏の手腕に負ふ所たり。先年新潟商工會議所常議員に選出せられ、現に同議員たり交通運輸上幾多の懸案を有する同市の爲めに奔走して商工業の繁榮に寄與せる所尠からず。更に新潟鐵道局管內指定店聯合會々長として新潟、長野、山形、秋田各線鐵道省指定運送店の指導啓發の任に當り、尙新潟港運送、關屋合同運送各取締役、佐渡通運、矢代田合同運送各代表取締役たり。

（所在地　新潟市流作場）

山下汽船株式會社

現時の我が海運界を概評すれば、之れ將に櫻花一朶の芳香を迎りて、陽光春既に動きて百花燎亂たる蘭春の感あり。斯かる一般海運界の黃金時に際會し、斷然古豪先輩會社を壓倒し、以て未曾有の好成績を九天の高きに顯揚せる旗手を我が山下汽船株式會社と爲す。由來當社は歐洲大戰の渦中、大正六年五月を以て、事業界稀世の鵬翼たる現社長山下龜三郎氏設立せるものにして一歷史は直線を描かず一の譬の如く、興替浮動、大正九年頃の不況時に迫んでは缺損續出し、能く苦酸を嘗めて去就を過たず、時局發生以來海運界の好轉に惠まれて輦々たる成績を擧ぐるに至れり。昭和十二年下期の業績を見るに、同期はスペイン內亂を中心とする歐洲政局の不安、極東に於ける日、ソ、支間の摩擦は世界的に物資移動の增加を來し、惹いて前期中近年稀に見るの好況を呈したる當業界は、本期に入り更に一層の好況を示現するに至れり。而して七月に入るや日支事變の突發と共に、我が海運界は俄然緊張を加へ、殊に近海方面船腹の不足は忽ち運賃、傭船料に反映し、倫敦市況亦强調を示さんとするの情勢を馴致したり、此間海運自治聯盟の活動、臨時船舶管理法の發令等、我が海運界は著しく非常特色を帶ぶるに至れり。然るに其後爲替管理法の改正或は貿易及關係產業調整法の發布を見るに至り、爲に輸入貨物の減少を招來したるも、根本問題たる本邦船腹の不足は依然緩和さるべくもなく、一般に市況强調に經過せるが、此間當社に於ては前期以來計畫中の日本紐育南米間の定期航路を開始し、前期同樣常時約八十萬噸の船腹を運營し、極めて良好の成績を擧げたるのみならず、更に當期に於ては上

海丸並に亞丁丸の購入其他關係會社の新造船五星丸、山里丸、武庫丸、浪速丸四隻の竣工するありて、當社のフリードは頓に充實し、活動力一段と强化せり。而して當期の利益金は四百六十六萬一萬餘圓、之に前期繰越金百二萬四千餘圓を合して五百八十八萬六千餘圓を計上し、普通配當八分の百八萬八百八十圓特別配當一割四分の百八十九萬一千五百四十圓を分配、之を本邦代表的海運會社に對比する時、二割以上の配當を二期一貫するもの見出し難く、敢然當業界の盛運が當社に依りて昇揚されしと稱すべきなり。斯くの如き業績を誇示する一面に於て、當社連年の利益金を基礎として、從來の中古船買收を捨てゝ優秀船新造へと轉換しつゝ逐次船腹の增加を圖り來りて、この結果は今や當社は多大の自社船勢力を擁するに至り、現在の船主的地位は郵商兩社を除く社外船界に之亦第一位を獲得するに至れり。即ち社船に加ふるに準社船（半額以上の投資に於て自社に繫留するもの）を以てして合計三十五隻、二十九萬六千噸の數字を示し、各僚社の首位を占有す。

元來山下汽船の聲望はオペレーターとしての首座を傳統的に確保し來れる所に其本領を存し、依而配船數が常に社外船第一位に在る事終始を通じ渝る所たきも、それが近來に於て船主としても社外船界第一位を占有せる事は當社將來への自主的發展を彌が上に强化せしものと謂はざるを得ず。

當社が如斯大增益を獲得せる原因は時局に負ふ所多大なるも、一面共存共榮主義を信條として終始之を實踐し、加ふるに主腦部協力の收獲と稱すべし。當社は福本、玉井時代を經て現在の長子太郎氏時代に入りて、專務制を確立し、動搖なき一貫の實質的經營が遺憾なく行はれ、順風快調に棹するの黃金時代を具顯せしものにして、太郎專務を輔ける各幹部の配置亦甚だ當を得たるを稱讃せずんばあらず。即ち最後に當社現幹部機構を掲ぐべし。

社長山下龜三郎　專務山下太郎　常務礒村正之　同納賀雅友　取締役川崎玄二郎　同金井久昌　同勝俣直治　同野坂喜代志　同高橋勇　常任監査役坪井俊三　監査役堀井勇三郎　經理部長兼會計課長小島伍朗　總務部文書課長長門松經元　同庶務課長横田愛三郎　營業部業務課長弓場好三郎の諸氏なり

取締役社長　山下龜三郎　氏は慶應三年、山下源次郎翁の三男として愛媛縣に出生。夙に學を明治法律學校に修め、若年にして鐵業船舶界に從事す。途上槍襖裡に幾多の苦難を突破し盡して餘すなく、日露歐洲兩大戰に乘じて奇利を得。資信豪膽にして寛恕。克く善積して能く散ず。曩に陸海軍航空設備費として巨金を献納す。其他私財を公共事業に投ずる事枚擧に遑あらず。往年朝廷其功を錄して勳三等に叙し瑞寶章、紺綬褒章同飾版を賜ふ。今や曩古非常の戰時に際會し、擧國一億の心は一層緊張の度を加ふ時、國民の軌範たる氏の健闘を祈らん。

專務取締役　山下太郎　父君龜三郎氏の大器を享けて資性剛直にして利根、而も圓轉滑脫の人材たり。學を慶應理財科に修め、後ち米國ハーバード大學に留學、大正十年當社に入社し、曩に專務取締役に就任以て今日に迨ぶ。傍ら阪神築港を初め、數社の重役を兼ね、その將來を囑望さるゝこと多大。

（所在地　神戸市榮町）

生長の家本部

嘗て我國思想界を混亂せし、唯物論的思想の退場の後を承けて、宗教復興の新時代到來して淫祠邪教の僞似宗教氾濫し、大衆を惑し世情を汚濁せること尠しとせず。然るに獨り生長の家のみは大衆の宗教的の渴望を充たし常に新鮮潑剌の新精神を注入せる功まことに沒却すべからず。然らば生長の家とは何ぞ？これを一言にして盡くせば、一宗一派を超越

せる人類光明運動に外たらず。卽ち、如何なる宗教宗派を信奉する者も、その奉する宗教宗流の直臨を味倒せしめ、聊かも改宗背教せしめずして、自己の生命久遠に生き、大生命に繫る不壞不滅の生命たる大自覺に到達せしむるものたり。現に生長の家本部を訪れる者には神道、佛敎、基督敎の各宗派の篤信者網羅せられ、各々信敎を異にせるに拘らず、肩を竝べ膝を接して「道」の講話を傾聽せる狀景を見るも、その敎義の何たるやの一瑞を知るに足らん。癈ね宗敎は排他的にして一の宗敎に入らんとせば他の宗敎を信ずるを許さず然るに「生長の家」は從來の宗敎を信奉してこれが敎理を知ることに依りて從來認識せざりし深淵なる敎理を自己の宗派に發見し、更に深く信仰に生くることを得るなり。人間たる者神の子或は佛の子にして、不苦不惱絶對金剛不壞不滅なる生命の實相を悟得せば、生命力は自ら潑剌と湧き上り、而も世の一切を神の命、或は佛の命の顯現として拜し得るに至る。斯くして謙讓の精神と感謝の法悅が日常生活を包攝し、家庭は光明化して肉體は健康となり、志自ら成就するを得るなり。眞の宗敎こそ生命を飛躍させるものにして死後の用に非らざること、生ける宗敎「生長の家」に於て始めて體得するを得べし。現に玆に光明を求むる者、本邦內地を始め朝鮮、臺灣、樺太より遠く南洋、南米及び北米にありて、その數は數萬を突破し家名汪洋たり。

創始者 谷口雅春 氏は天禀の哲學者にしてあらゆる宗敎の眞理、眞隨を悟得し、これを最も新しき辭句を以て表現し、綜合統一して新時代を生かし、以て「生長の家」の光明眞理を創建せり。氏溫雅高潔の人格の持主にして混迷せる時代の救世主たる人物なり。明治二十六年十一月神戸市外島原村に生る。氏幼少にして頴悟、文學に興味を抱くこと深く、早稻田大學文科に入學す。氏は藝術至上主義的文學に心醉すると共に又人道主義の影響をも多分に受け、後紡績工場の技術練習生となり、更に婦人問題社會問題の研究より人生救濟の道を發見すべく佛敎、基督敎、一燈園等の敎理をも究め、一時大本敎に入り樞要の位置に就きしが、同宗派の敎義に不滿を感じて後「生長の家」を創始す。氏の著述には「生命の實相」(十五卷)を始め、十數篇に上り外に月刊「生長の家」その他數種の雜誌を監修しつゝあり。

(所在地 東京市赤坂區檜町五)

三菱重工業技術顧問 阿部政次郎

歐洲大戰後急速の發展を遂げし我が海運界は殊に造船技術界の進步は、世界列强の驚異するところにして、今や其の船體、機關共に世界の覇者たるの實績を示すに至りたるは、邦家の爲め欣快措く能はざるところなり。玆に論評せんとする阿部政次郎氏は、我が造船技術界のホープにして、三菱重工業長崎造船所の船用機關の最高權威として、永年同所隆盛裡に在りてエキスパート的存在を謳はれ、現に同社の技術顧問として同社造船史上、否日本造船史上に偉大なる足跡を印したる至寶的人物なり。

氏は愛媛縣阿部芳太郎氏の令弟として明治十年一月を以て生れ、同三十四年東京帝國大學工科機械科卒業後逓信省管船局に入り、同省にあること五ケ年、海事官としての氏は我が海事行政史上數々の功績を殘したれども、惜まれて同三十九年、三菱造船所に轉じ技師となり、爾來機關工場支配人、造機部長、造船所副社長、同取締役兼造船所長を經て現職に就きたるものにして、其の累進の目覺しさは以て古今東西に類例少なく、如何に氏の非凡優秀なりしを物語るに足らん。其間、長崎商業會議所特別議員に擧げられたるあり、財界人としても堂々たる貫祿を有す。夙に歐米各國を視察、廣汎多岐の研鑽を積みたり。現時船用機關は長足の進步を遂げ、蒸氣機關より、タービン、デイーゼル、電氣機關と推移

變轉したりと雖も、氏はよく其の短長を極め、而も經濟的見地に立脚、設計製作指導に蘊蓄を傾むけ、同所が持つ幾多の優秀機關は氏に負ふところ尠しとせざるなり。責性豪放果斷にして周到緻密、而も一面人情に篤く、社會公共事業に盡したる功績又尠からず、技術家特有の謹直恪勤は人の知るところにして崇高なる人格の所有者なり、趣味は謠曲、登山にして、登山は今尙壯者を凌ぐ健脚を以て知られ、謠曲は夙に素人の域を脫す。現に東京計器製作所、東京航空計器各取締役を兼ぬ。

(住所 東京市小石川區原町一三)

浦賀船渠株式會社

過去十數年來不況裡に呻吟せる我が造船界は數年來突如一大飛躍を爲し、殊に最近に於て驚異的發展を遂げつゝあり。これが好轉の因由は金再禁止以來海外貿易の急激なる進展に依る海運界の好轉軍事豫算の膨脹、更に政府の實施せる船質改善助成施設、並に日支事變の勃發は不經濟船の解體、新船建造の機運を釀成す。浦賀船渠はこの間に在りて四十餘年の經驗と優秀效ぶなき技術により、絶大なる信用を博し、需注の殺到、兵器類の註文旺盛を極め眞に盛觀を呈しつゝあり。當社は明治三十年資本金一百萬圓を以つて創立。爾來迂餘曲折屢次增資を累ね、昭和十一年末資本金一千五百萬圓に膨脹、現在一千一百萬圓拂込なり。輓近兵器製作にも進出せるも事業の中心は依然造船に在り、工場を東京灣口たる浦賀、富岡、横濱に置き、地理的好條件に惠まれ、三菱横濱工場、鶴見造船製鐵と並び東日本に於ける最良の設備を有し、殊に當社は經營堅實主義に一貫し、海軍當局の關係密接にして、補助艦の建造に優先權を有する點等業界の白眉たり。昭和十二年下期利益金は百五十一萬六千圓にして前期に比し、十二萬三千圓の增益を見たり。斯の如き飛躍的好調に依り、普通配當恒例八分を踏襲し、後期に百十四萬七千圓を繰越したり。斯かる好成績より觀て二分增配の一刻配當は裕に行はるゝに拘らず、自重以て恒例八分配當に止めたる點當社の堅實無双の經營振を窺知せらるべし。而して現在繰越契約高は、三千八百萬圓を突破し新規契約一ケ月百五十萬圓內外に達する狀態にて今後二ケ年間の仕事に差支へざる活況を呈し居れり。時局以來內容の充實を考慮して消極經營に傾きつゝありしも、造船景氣の進行譜に乘り、敢然倍額增資を實施し、造船設備の擴張に止らず、兵器製作にも進出し、多角經營に移行せることは國家の要求に順應せるものにて賢明の策と稱すべし。當社は局面打開の對策として、前述富岡に兵器工場を設置し、現に本格的利益を擧げつゝあが、製作の多忙と新規計畫に依り、愛に資金の要に迫まれるが未拂込は僅か四百萬圓に過ぎず近々增資を斷行する氣運濃厚たり。

當社の現重役は取締役社長寺島健　取締役竹內正三　近藤昇次郎　椿宜次　足立盛夫　山本韓之助　重光簇　甘泉豊郎　中川駿　町田幸吉　監査役山下太郎　南波禮吉　相談役山下繼三郎　顧問永村淸　副支配人石原勵

社長 寺島 健 和歌山縣の產。明治三十六年海軍兵學校を卒業し、海軍少尉に任じ、昭和七年同中將に累進す。其間海軍大學校を卒業し、軍令部參謀、第三艦隊參謀、佛國在勤大使館附武官、海軍省副官、山城船長、第二第一及聯合各艦隊參謀長、軍令部出仕等に歷補し、昭和五年海軍省教育局長に補せられ次で海軍軍務局長並海軍將官會議員を經て、同八年練習艦隊司令官を經て同年九月軍令部出仕を命ぜられ、同九年豫備役編入仰付らる同年當社長故今岡博士の後裔として、當時大角海相の推薦に依り當社長に就任、以て今日に迨ぶ。天禀豪快潤達にして酒脫、直截淡白の風格は自ら大器を爲す。今や國家非常時に當り造船界亦多端。全工場の絶對的信望を身に集め、颯爽事業界に雄飛しつゝあり。氏今

年齢五十七、正に男子活躍の最高潮期にあり、前途一層の奮勵を祈念す。

（所在地　東京市麹町區丸ノ内一丁目）

東洋レーヨン株式會社

三井王國を背景に擁して、資本力豊富、工場設備の充實愈然として、生産規模の宏大を誇示し、而も硫酸自給を確保する他、苛性曹達の過半をも自給し、累期跳躍的進展を辿り我が産業の世界的制覇に著大の役割を演する我が人絹界の巨豪たり。

當社は大正十五年、即ち我國人絹工業第一期發展期に於て、三井財閥の一陣營たる三井物産内の纖維工業部門を主力として、資本金一千萬圓を以て設立され、昭和八年現在の三千萬圓に増資、今日の偉業を完成せしものなり。

當社は本社を東京市日本橋區室町二丁目に置き、工場を大津市石山に滋賀工場を、滋賀縣栗田郡瀬田町に瀬田工場を擁す。滋賀工場は瀬田川畔の廣袤十七萬八千餘坪の地に、偉容を誇る我が人絹工業最高の殿堂にして、今や第一、第二、第三の工場と擴大され、其建坪約五萬坪、延坪八萬坪、紡糸機約五萬錘を有し、日産能力八十七瓩にして、一工場にて斯の如き大生産能力を有するもの世界廣しと雖も其類例なく、如何に當社の事業規模の大なるかを窺知せらるべし。

瀬田工場は現在非常時局下に於ける産業界の寵兒たるステープル・ファイバー生産を目的として建設せる新鋭工場にて既に十二年末より操業を開始し其躍進亦目覺しきものあり。

當社製品の優秀さは、玆に冗言の要なきも其種類、特長は左の如し。

一、普通糸各種
一、東洋マルチ糸＝七五、一〇〇、一二〇、一五〇デニール
一、超マルチ糸＝一〇〇デニール、一〇〇フィラメント即ち一フィラメント當り一デニールなれば、天然絹糸よりも細く、從て手觸り等、高級マルチ糸に比し遙かに優良なり。我國に於て商品化されし單糸デニールの最も細きヴイスコース糸なり。
一、セルトーヨー、空洞糸＝艶消の程度優雅にして保温性に富む。見掛の比重は一・三四なればレーヨンより輕く、羊毛、天然絹糸と同程度なり。
一、ラナヨン、レーヨン毛糸＝人織紡績法に依らずしてレーヨンに物理的化學的加工を施し連續纖維の形態のまゝ毛糸化せる製品にして、彈性、保温性に富み輕し。精練、漂白、染色、洗濯に對し毛糸狀態を失はず。
一、ステープル、ファイバー各種
一、ステープル、ファイバー紡績糸各種

而して當社は工場設備は充實し、人絹界の寵兒たるのみならず、人織紡績にも進出し、以て纖維國策樹立に寄與し、我國非常時の國際貸借改善に貢献せる事甚大なるものあり。尚三井系東洋棉花と、共同出資の下に、人織專門工場の東洋絹織株式會社（資本金一千萬圓）を創立、人織製造並に紡績織布事業にも進出せり。一面傍系レーヨン曹達株式會社、は、人絹製造に必須缺く可からざる苛性曹達硫酸等の藥品製造に從事し、當社の藥品自給確立に邁往せり。

因に當社首脳部は、專務取締役辛島淺彦常務井上治一　同小澤武　取締役若林卯三郎同笹木楠　同石田禮助　同佐々田彰夫　同田代茂樹　同高木宇吉　同佐羽太三郎　監査役秋庭義清　同宍道千穎　參事中島恒雄

專務取締役　辛島淺彦　新興産業たる我が纖維工業界の功勞者たり。三井財閥が帝國人絹に、斯業の先鞭を付けられ乍らも、克く現時の制覇權を把握せしは、蓋し辛島式の眞摯熱腸の奮躍力に依ること言を俟たず。其頭腦の緻密なる、その意志の堅固なるは知る人ぞ知る。終始作業服を着用しての努力研究は遂に今日の東洋レーヨンを築き揚ぐ。今や東

洋レーヨンは世界何處より求むべき技術的智識を要せず。之を換言すれば當社製品こそは世界最優秀なればなり。而して氏の業に忠實なるは、自づと全從業員に以心傳心して欽慕せざるなし。堂々たる體軀に温容の態度は、清廉寡慾に拍車して、氏の風格を嶷然たらしめ、接する者をして敬仰の情を傾倒せしむ。偉なる哉。辛島淺彦氏。

（滋賀工場所在地　大津市石山町）

鐘紡大阪工場長

武藤絲治

武藤山治氏逝いて既に數年、政界財界の兩面に貽せる其手痕足跡の巨大なるは更にも言はず、其精力の絶倫なる、其道念の至純なる如今業界に此種の人を見ず、索寞の感を懷く者何ぞ限らん。嗚呼此種の人眞に在らざるか此種の人逢に出でざるか。社中同人綏談の時偶ま此れを念ひ此れを語れば、外勤子卒然として謂て曰く「武藤の後に武藤あり、請ふ意を安んぜよ」と。既にして其武藤絲治氏なるを知るを得たり。外勤子更に說いて曰く「責質行藏先考に彷彿たり」と。異日機を得て往いて此れを見るに、其人眞摯謙抑にして多く「自己」を語らず。乃つて側近者及他の睨察者に就いて行藏を乱し、其嚴君と多くの相似點を有するの事實を知るを得たり。何をか相似點といふ。曰く、眞率、膽大、心小、精悍、濃情、清廉、則ち是れ。喬木風の嫉むところとなりて一朝倒覆の後、樹根より生ずるところの蘖枝いつしか長じて巨幹亭々、枝葉蔚然として蒼穹を摩す。小武藤氏を見て眞に這の感なきを得ざりき。氏は先考の次子にして、慶應大學を出でて英國に遊學し、研鑽多年、大に得るところあり。朝歸後直ちに鐘紡に入り、蠶業課長たること數年、人格材幹ともに上長の信認するところとなり、一躍京都下京工場長に榮進、爾來鋭意健闘、舊來の弊竇を芟除して事務の刷新を圖り、各般の施設に改善を加へ、且暮營々として倦むことを知らず其不群の熱誠と嚴君に彷彿たる清廉高潔なる風格とは上下の信望を繫ぐに十二分にして好評嘖々、全員欽仰の的となり、ために風規大に革まり、能率増大し、數年を出でずして面目を一新するに至れり。氏は實踐躬行の人にして、日々工場に出頭するや直ちに工場服に身を改めて事務に當るを常とし、職員をも之れに倣はしめて、精神の緊張に力め、常に職工と同一の食を攝り、煩を煩とせず、勞を勞とせずして自彊精勵一日も忘らず。其狀宛ら工場を家とし勤勞を妻とせるに似たり。氣骨の宣潤たる、温情の盈々たる、夙に世人の讃嘆する處にして、部下從業員に對するに骨肉の情を以てし、又鰥寡孤獨を憐むの心深く其窮厄を看過したること無しといふ。武藤山治氏死して後あり。業界のため聊か意を强うするに足る矣。現に昭和産業取締役を兼ぬ。

（鐘紡大阪工場所在地　大阪市旭區鴫野町）

大日本雄辯會講談社

その社礎、その社是、その社業隆々乎として歳と倶に燦然中外を光被し、世界斯業界の白眉冠冕と讃嘆久しきに亘る我が大日本雄辯會講談社は出版界の巨人野間清治氏の主宰するところなり。當社は現社長野間清治氏が過ぐる明治四十三年二月十一日、紀元節の佳辰を卜し、皇國享生の恩澤に感激し、齊戒以て悠久建國の古を仰ぎ、曠大無邊の聖慮に奉ずべく、素懐を公して言論報道文章報國の熱意を以て國民彝倫の向上啓發に資すべく大日本雄辯會を組織し、雜誌「雄辯」を創刊す。之れぞ氏が今日全世界に聲譽を馳するに至れる記念すべき首途にして、當社の淵源と爲す。翌同四十四年講談社を設立すると同時に、雜誌「講談倶樂部」を發刊して、社名を大日本雄辯會講談社と改稱す。當社當初、苦闘に直面し加ふるに資金豊富ならざりし爲、南風戯はず、其經營容易ならざるものありしも、氏

は天稟の才能を驅驅し、拮据孜々能く素懷に忠實以て邁往すること三年、愛に基礎漸く成るに迨び、擡て小學兒童教養の鉗鎚たらんとする氏は大正三年仲秋雜誌「少年倶樂部」を鈴架して全日本少年の精神陶冶に資するところあり。踵で同五年雜誌「面白倶樂部」を、同九年雜誌「現代」並に「婦人倶樂部」の兩誌を、同十二年に至りて更に「少女倶樂部」と、矢繼ぎ早やに續刊して各讀者層に適宜なる趣味と教養を與へ、同十四年雜誌「キング」を創刊、更に翌同十五年正月より「幼年倶樂部」を發刊し、玆に九大雜誌を完成せしめ何れも躍進亦躍進、竟に本邦雜誌界の覇權を掌握するに至る。就中「キング」の如きは現に其發行部數毎回百數十萬部を下らず、今や世界的大雜誌と稱せらるゝ盛況なり。斯かる盛業は社會人心の收攬と指導に彫身し、一世の木鐸に任ずる野間社長本來の念願貫徹に依るところ多し。尙何れも其内容娯樂興味浸々たるに止らず彝倫の顯揚に努め、公義正論を以て終始し、加ふるに有益なる附錄を添附するを常とし爲し、其經營漸次公共的色調を帶ぶるに至れり。昭和三年一月「面白倶樂部」を廢刊し、之れに代ふるに「富士」を發刊す。現在當社發行九大雜誌の總部數は、毎回實に數百萬部を計上し、本邦發刊雜誌の七割强を占有す。全國一萬數千の書肆、雜誌店々頭は常に當社の雜誌を以て埋むるの盛觀たり。しかも當社は夙に良書の出版廉價販賣に意を潛め、既刊の單行書無慮數百種の多きに達し、その悉くは社會人倫の啓蒙向上を稗益するところ尠からず。殊に大典記念事業たる「大日本史」の刊行を始めとして「修養全集」「講談全集」等々各種全集並に明日の日本を背負ふ第二世の心理的効果顯著なりとの好評嘖々たる各種「繪本」の近刊は、實に我國出版界劃期大事業と云ふべし。而して當社は夙に代理部を設置し、專ら良品の廉價販賣に留意すると共に、滋味飲料の王たる「どりこの」を始め、新藥「イノール・トラシン」の如きは內地は勿論、遠く海外にまでその靈効を讃稱せられつゝあり。嚮に「レコード部」を新設して斯業界に進出して業績亦好調を擧げつゝあり。之れを要するに當社今日の偉業昭々たるは實に努力奮鬪に依る成果に止まらずして、終始一貫その運營は高潔なる人格を欽仰さるゝ野間社長の風骨を反映せしめて國本的、良心的經營の然らしむるところなり。

因に當社の陣容は、社長野間清治　キング編輯局淵田忠良　同橋本求　講談倶樂部編輯局岡田貞三郎　雄辯編輯局宮下丑太郎　大女倶樂部編輯局宇田川釣　幼年倶樂部編輯局西村俊成　大年倶樂部編輯局須藤憲三　現代編輯局渡邊茂雄　富士編輯局林公平　婦人倶樂部編輯局茂木茂　同原田常治　出版部新井兵吾　同天田幸男　營業部堀江常吉　宣傳部高會哲之助　同馬場三郎　廣告部水谷鑑太郎　代理部小池金作　商事部小暮辰衛　レコード部代島周次郎　同城井清澄　同鈴木金吾　經理部高木義賢　同長谷川卓郎　調査部飯內元　同加藤謙一　同奈良靜馬　庶務部吉田和四郎

社長野間清治　明治十二年十二月、群馬縣士族野間好雄氏の長子として桐生に出生す。嚴君好雄氏は幕末の劍客千葉周作四天王の士たる森要藏翁門下の逸足にして、常に維新興國の大精神を體得し、一死盡忠の大覺悟に傾倒し、其風格正に南洲翁に髣髴せりと聞く。冬子母堂は要藏翁の長女にして夙に父君に擊劍、薙刀、鎖鎌等の武藝を習得し就中薙刀に圓熟の名技ありしと謂ふ。斯かる環境裡に生育せる氏は幼にして俊敏克己、先見にして明智、其將來を囑望さる。嚴格なる薫陶を享けて十五歳を以て小費を卒へ、軍人を志願すべく烈々たる意志を持して陸軍幼年學校、に笈を負はんとせしも體格檢査の結果容れられず、止むなく歸鄉、偶々勸められて小學校教員を拜命せしが、向學の志ありて幾許もなく群馬縣師範學校に入學、明治三十三年之を卒業、直ちに小壯教育家として縣下教育界に獻身せんとせしも小成に安ずるを許さず、二

ケ年恪勤後、同三十五年東京帝大教員養成所を修學、同三十七年遠く沖繩中學校教諭に任ぜられ、次で同縣視學に拔擢せられしが、年餘にして東京帝大書記に任ぜらる。時偶々辯論勃興の氣運滔々たるに際し、氏は傍ら法科大學內に辯論會「綠會」の設立に奔命すると共に、自ら壇上に起ち、侃々諤々の論を吐き威望嘖々たり。其間辯論雜誌の發刊をも企畫するに至れるが、之が動機として赫耀たる大日本雄辯會講談社の發祥とは爲れり。氏は亦國運の隆興と民衆指導の念に厚く眞に社會の木鐸たるべき新聞の生誕を要望すること、既に久しかりしが、偶々昭和六年六月に迨んで當時報知新聞社長大隈信常侯の懇請默し難くその後任を快諾して同社々長に就任す。玆に於て氏は社內各部門に一大刷新を加へ善戰健鬪着々功を收め、擧措悉く機宜に適ひて、中興の氣運稔々として磅礴し斯業界に一大衝動を與へ、同社現時の隆興を遂成す。一面氏は百錬の鐵萬朶の花凝つて發する武士道精神の涵養に寄與するところ多大にして「野間道場」を建設公開し、天下の劍客常に相集ひ之れが顯揚に精進しつゝあるは周く知るところなり而してその至誠を披瀝するに「體驗を語る」或は「榮え行く道」其他數編の名著は、神州享生の尊きを知らしめ、氏個人一切を沒却せしめたる純忠赤誠を訴へし萬古不易の道德の指針として衆庶座右に措くべき名編なり。曩に各業界の人士相謀りて人倫に則り、建國の精神に鑑みて「野間會」を創設す。蓋し氏の人格欽仰に據る證左たりと言ふべし。

現に氏は前叙兩社を總攬するのみならず、日本製紙、中外印刷各役員を兼ね、傍ら日本雜誌協會長に推戴され、東京府多額納稅者たり。曩に、ルーマニア、フランス共他諸國より各勳章を贈らる。

（所在地　東京市小石川區音羽三丁目）

日本石油株式會社

石油は國防上に交通上その他各種產業に頗る重要なる役割を有し、一國の勢力の消長も一に石油資源所有の多寡に依りて、決せられるといふも過言に非らざるなり。我國に於ても斯業の重要性に鑑みて、曩に石油業法を制定し、或は揮發油及びアルコール混用法を實施する等石油國策に多大に力を注ぐ所あり。我國の油會社中その規模群を抜き、多量の國產油を產出し、內容業績頗る良好にして斯業の覇者を以て目されるが當社たり。その創立頗る古く明治二十一年五月資本金十五萬圓を以て創立せらる。時代の進運と共に石油の需要は大いに加り、逐年事業は發展して增資八回に及び、大正十年公稱資本金總額八千萬圓に增加せられて現在に及べり。拂込資本六千二百萬圓なりしが。昭和十三年一月末一千萬圓の拂込徵收せられて七千二百萬圓に達す。當社の鑛業所は柏崎、秋田、北海道、臺灣、樺太の各地にありて昭和十二年九月末に於ける鑛區四億三千百九十三萬坪に達し、尙ほ新潟縣各地に石炭及金屬鑛區四十二萬三千坪あり。各油田とも何れも好調にして、秋田縣下の八橋、院內兩油田に於て良井出現し、新潟縣下東山油田の堀下井及下郷津油田の新堀井北海道日梨油田の新堀井何れも產油增加し、又臺灣の牛山及六重溪兩油田に於ける數坑の瓦斯井成功し、更に錦水油田も今後大いに望を囑さる。時局關係よりして製品需要は益々加り、內外原油の處理量大いに激增す。各製油所ともに作業甚だ繁忙を極め、一面生產費の輕減品質の向上に努めて製造方法の改善を圖り、新製品及試製品の製出に成功せり。事變の勃發などありて、揮發油の需要は激增し重油又重工業、漁撈方面の好況よりして販賣高又著增せり。斯くして近年收益頓に增加して業績頗る順調なり。十二年九月末締切の下期決算に依れば總收入五千七百十三萬四千圓總支出四千五百九十八萬圓、差引當期利益金一千一百十五萬四千圓に達す。前期に比して百三十一萬六千圓の增收なり。右利益金

より四百萬圓を資產償却に、四百十八萬圓を各種積立金に計上せり。利益金は拂込資本に對して三割六分の利益率に當る。それに對して八分配當据置きとなせるを以て、利益金は多額に內部に保留せられ、實に餘裕綽々たる決算なり。每期利益金を多額に內部に保留せるを以て、資產內容甚だ堅實を極めり。業界の統制大いに强化せられ居るが故に、輸入原價の騰貴、關稅引上、消費稅引上、タンカー運賃の騰貴等も些したる打擊を受くることなく、他面製品の値上げは着々として實行せられつゝあり。需要の增大と共に價格の好調に依り、將來の發展大いに期待せらる。十三年一月の拂込徵收を以て、帝國燃料興業へ投資し、更に試掘資金、クラツキング設備竝に高級油製出設備、酒精會社新設等に充當する筈なり。當社重役は取締役社長橋本圭三郎、專務取締役中野鐵平、同水田政吉、同川久保修吉、取締役山口誠太郎、同白勢春三、同西藤濟三郎、同鶴見左吉雄、同渡邊讓吉、常任監査役渡部介、監査役山本留次の諸氏なり。

取締役社長　橋本圭三郎　資性溫籍謹恪にして圭角とれ、官吏出身に稀しき圓轉滑脫の士なり。溫情に富み、襟度宏く、抱擁力大なり。我財界の耆宿として深く尊崇せらる。頭腦明晰にして匝周犀利、思慮又頗る周到なり

專務取締役　中野鐵平　氏は明治二年一月新潟縣中野禎吉翁長男として生る。明治二十四年早稻田大學法律科を出で、後當社に入る。鑛業所長、庶務課長、支配人、常務取締役等を歷任して現在に至る。資性眞摯質實にして素志甚だ堅剛、熱誠その職務に勵精して多大に實績を揚ぐ。傍ら日本鋪道取締役、合成工業監査役を兼ぬ。人格淸廉の士たり。

庶務課長　奥田雲藏　奥田氏は新潟奥田峯次郎氏の長男にして、明治十九年四月を以て生る。四十三年早稻田大學政治經濟科を卒業す。溫厚篤實にして責任觀念に强く、精勵恪勤してその職に盡瘁し、上下の信望頗る厚し。俊敏爲才の人なれどもその機鋒を內に深く蔵し、その態度まことに謙虛にして名庶務課長として內外に好評を博せり。將來大いに頭角を現す人物として多大の期待を以て囑目せらる。

（所在地　東京市麴町區丸ノ內三丁目）

株式會社　伊藤喜商店

產業、工業の發展は凡ゆる機關をして能率增進の高唱を來して幾多の新式器具機械は人力代用化の域に達したると謂ふべく、今更の如く人智の偉大なるに感嘆するところなり。我伊藤喜商店も又この時代の進運に即應し、其の優秀なる文化器具機械の販賣商としてデビューしたる特殊會社にして我國斯界に於ける最高權威として自他共に許すところなり。其の製品內容を見るに、當商店は昭和八年十二月株式會社設立となれるも、創業沿革は既往四十有餘年に及び當店の我が國文化向上に貢獻した功績尠からず、取扱ひ製品は我が金庫界の王座東京竹內製金庫を初めとして、全國銀行、會社、工場、乃至官廳に必須欠くべからざるカード、タイムレコーダーあり、モナーク自働時刻記錄器あり、停車場、百貨店、ビルディング等に於て、多數の時計を手卷するの至難を補ふ「シンクロン」あり、その神秘的快速と正確を誇るノーヴア、ブルンスピガ計算器あり、タイプライターあり、證

券ライターあり、各種鋼製整理保管器あり、特許ゼニアイキ金錢記錄出納器あり、實に凡ゆる事務用新鋭器を網羅したる其の絢爛たる內容製品の整備に一驚す。而も當商店所屬權利中、特許、新案意匠八種の他、東京竹內製金庫、堀井謄寫版、東京タイプライター、アングウツトタイプライター、ノーヴアアブルンスピガ計算器、シンシナチタイムレコーダー東京「シンクロン」電氣時計會社、トツド會社、Yエンド E會社、エンダースレザー會社等の代理販賣權を有し、今や確實優秀の定評を以て躍進に次ぐ躍進を以て旭日の隆盛を遂げつゝあり。

社長　故　伊藤喜十郎　先々代喜十郎翁は文化史上特筆すべき功勞者として、斯業以來四十有五年、終始一貫斯業開發の爲盡瘁せられたるものにして、大正十五年一月、畏くも、多年發明考案の普及宣傳並發明者保護奬勵に盡力、斯業發達の爲、功勞尠からざるを以て銀杯一瓶を賜ひ表彰せられたる光榮を擔ふ我が國文化事業界の重鎭にして、大阪の人、安政二年三月十六日、小野千右衞門翁の六男を以て生れ、伊藤喜兵衞氏の養子となる、夙に時代の進運に目醒めたる氏は當時電燈を以て豐澤なりと斷ぜし頃、早くも斯業立身奉公を志し、或は發明考案の普及宣傳に或は海外文化新式器具の輸入紹介に日夜を問はず活躍し今日の大を成せしが昭和十一年天壽を全ふして逝去し。嗣子善之助氏は大阪高商出身の敏英にして襲名。其の齋を承け大阪市會議員、大阪商工會議所議員たり、又大阪府多額納稅者にして關西財界に重きをなし、日本債券取締役として才腕を謳はれ、資性溫厚篤實にして而も淸廉淡白、屢々社會公共事業へ多額の私財を投じて盡力したりしが、惜むべし、去る四月二十八日五十八歳にして急逝せらる。嗣子善雄氏直ちに相續せらる。

（所在地　大阪市東區平野町二丁目）

事業家　石田德三郎

巴製鋲所の經營者として中京事業界に活躍し、その鏘々たる材器を稱へられるが、石田氏とす。夙に名古屋高等工業機械科を明治四十二年に卒業し、後第三師團工兵隊に入營し少尉に任官す。除隊後名古屋砲兵工廠に入り技手として勤務、早出晚退、精勵恪勤孜々としてその職に勵み、奮勉砥勵して盡瘁し、餘暇には新技術の研究をなし、新知識の攝取に怠らず、斯くして工廠內に於て模範技術家として、上長より多大の信賴を得たり。獨立不羈の機會だに至らば鵬翼を張りて、事業界に飛躍せんものとその機の至るを狙ひしが、大正六年敢然として蹶起せり。巴製鋲所を創立して事業界に打つて出で、縱橫にその才腕を發揮す。創業當初は種々と困難に遭遇せしも少しもひるまず勇往邁進して全力を傾注し、朝は星を載きて家を出で、夜は月を負ふて家に歸るを文字の如くに實踐して、現場に於て油に染みて職工に交り、技術の研究に熱中し或は販路の開拓に百方奔走する等、その活躍まさに八面六臂の目醒しきものありたり。これに依りて設備は充實し、技術は優秀となり製品頗る優秀を以て、注文は八方より來り、需要日に日に增大して業績頗る擧れり。昭和七年には組織を變更して合資會社となし、昭和八年十月には株式會社に改組し、次の飛躍に備へし所十一年十月、或る事情に依りて合資會社に改む。社業は年と共に發展し、殊に近年の軍需景氣は當社を潤すこと著るしく、注文殺到して操業繁忙を極め、晝夜兼行して作業を行へり。現時從業員は百名に垂んとしその生產設備頗る完備せり。氏は元氣潑剌、精力絕倫にして內外に八方活躍して、倦むことを知らず。社運頗る隆盛を極めて、中京財界に大いに頭角を拔んず。明治二十一年七月愛知縣石田松藏氏の二男として生る。

（住所　名古屋市中區池內町三六）

合名會社

和田算盤店

算盤は計數の迅速にして正確、まことに至便至利の器具にして、眞に全世界に誇るに足るの日本文化の所產の一をなすなり。先年萬國教育會議の東京に於て開催せられ、全世界より教育家參集せしが、我國實業教育の諸施設中彼等をして最も驚嘆せしめしものは、算盤の實習なりしことは過く人の知る所なり。萬國無比の我算盤は古くより商業界に使用せられ來りしが、關西に於て著名なる和田算盤店はその創業まことに古く、往時より當店の販賣する算盤は大阪商人の間に愛用せられ、その品質の優秀なるを以て多大の好評を博せり。當店の創業は今より二百數十年前の古に始まり、代々和田治郎兵衞と稱し、算盤の改良に力を盡くして、他店の追從を許さゞる良品を販賣して、累代多大の繁昌を至せり。その家柄の古きと家道連綿として榮え來れるに依り、大阪商店界に於て屈指の名家として仰ふがれ、非常なる崇敬を拂はれ居れり。近代の企業組織に於ては事務まことに復雜を極め合理的統制と整然たる秩序を以て大いに機能を發揚し、更に各種の最新發明になる事務用品を使用しつゝあるが、算盤の需要は毫も減ぜず、往古の發明品が現代に於て益々重用されつゝあるはまことにその利便の偉大なるを示して餘りありと云ふべし。當店に於ては事務の迅速と確實を重んずるの立前より、算盤の改良には鋭意力を注ぎ、優秀製品を低廉なる價格を以て供給し絶大なる好評を博せり。近時大銀行、大會社方面よりの需要大いに加り、何れも殆んど當店の算盤を使用するの有樣なり。昭和九年十二月組織を合名會社に變更し、事業の大擴張を圖りて、業務に大刷新を行へり。爾來一段と躍進を遂げ、業況愈々增大を見つゝあり。

代表社員　**高橋誠一郎**　高橋氏は資性勤勉溫厚にして事業の經營には眞摯熱直を以て當り、その才腕は斯界に多大の推敬を受くる所なり。人格頗る清廉にして思慮練熟し、慈心に富みて世上の爲め種々盡旋し、或は社會公共の爲めに寄與する等、氏の活躍は衆庶の嚮仰すること甚だ深きものあり。氏は先代和田治郎兵衞氏の義弟に當り、一門の信望を受けて當店の代表社員として專ら經營に盡瘁せり。明治二十一年六月を以て生る。

因に家庭には順子夫人との間に三男二女ありて、一家まことに興滿にして模範家庭を營めり。

（所在地　大阪市東區久寶寺町四丁目）

名士家

山本權十郎

社會公共の爲めに獻身的に活躍なし、齡米壽に達せるが、矍鑠としてその元氣壯者を凌ぎ、德操堅固にして操行嚴正、一言よく人生の鑑戒となり、一行能く衆庶の典範たるを以て中京に著名なるが我が山本權十郎氏なり。

氏は、安政五年三月名古屋市外西批杷島町の大木家に生れ、先代善次郎翁の養嗣となりて、山本家を繼ぐ。當家は氏に至りて五世、氏祖業を承ぐや、愈々家運の興隆に努む。即ち家業たる、木綿太物の外、厚司織其他を販賣の傍ら、運動具類製造販賣、不動產投資を成し、拮据經營精勵し、能く其の功を收む。尙木綿太物厚司類業を分家山本商店に讓渡し、合名會社山本商店は專ら運動具一切算盤類の販賣を營み、山本殖產合名會社に於て不動產を取扱ひ、氏は兩社統御の責任を帶びて代行社員となり、經營の衝に當れり。就中山本殖產合名會社は、明治四十三年二月資本金十四萬一千圓を以て創立せる處にして、氏獨特の經營其の功を顯し業績頗る好成績を揚ぐ。

家業愈々隆盛を遂げ、その基礎成るや、年來抱懷せる公益方面に寄與せんとする念頭起り、白川小學校學務委員を振出しに、教育會副會長、八幡講理事等に推され、過ぐる明治四十四年に、私財を投じて財團法人、濤世會を創立し之れが理事長となる。又郊外八事の自己所有の山林三萬五千余坪の土地を提供し、四ケ所に教場を設け小學校生徒を收容して林間教育に力を注ぎ、折角市街地少年の體育向上に盡瘁する事多大なり。昭和九年には、陸軍省學藝技術部に巨額の私財を獻金し、紺綬

山本權十郎氏

褒賞を授與され、且又名古屋市より學事功勞者、愛知縣神職會より氏子總代功勞者、愛知縣知事より神社功勞者として表彰され、昭和十年には、名古屋市在鄕軍人會へ金一萬圓寄附の故を以て、陸軍大臣より金牌を授與さるの光榮に再度浴せり。如斯終始公共に意を傾注し、盡瘁すること頗る絶大なり。先是氏は名古屋商工會議所議員、名古屋市會議員、名古屋織物卸商同業組合副合長たりしことあり現に、合名會社蠣岡屋、合名會社山本商店、山本殖產合名會社の各代表社員、京都東本願寺會計常務員、同名古屋別院評議員、西批杷島土地區劃整理組合評議員等の要職にあり。

（住所　名古屋市中區末廣町二丁目）

事業家

簑輪傳治郎

中京名古屋株式界に於て其前途多大に嘱望され株式界の寵兒として推重せられる人に、簑輪傳治郎氏あり。機略縱橫の商才ありて、尙ほ且社交頗る巧にして座談に妙を得、人物甚だ溫厚たり。丸万武田安商店と併稱せられて、その信望まことに顯然たるものあり。氏は、福井縣人簑輪傳兵衞氏の長男にして、明治三十二年二月を以て生る。幼時既に奇才を以て隣人を驚し、その頭腦頗る明晰を以て知らる。夙に鄕閭を出で名古屋に來り、有價證券賣買業、丸万武田安商店に勤務す。年來の大望實現の緖に着くや、早起晩寢して業務に精勵し、朝は夙に店頭に坐し、顧客に對して懇切丁寧に應接し、對談妙を得て門前常に殷盛を極め商賣益々繁盛なし、氏の非凡なる商才には店主も深く嘆服して愈々重用さるゝに至れり。今や店主代理として幾多重要懸案を處理し、丸万商店の簑輪氏か、簑輪氏の丸万商店かと、業界に絶大の信望を博し、その將來の活躍多大の副目に値する處たり。

家庭にはしづ子夫人（三十一才）あり。夫人は名古屋市櫻木孫三郎氏の長女にして、內助の功頗る高く、日本婦人の鑑鑑と仰がる。夫妻間に、長男晋晋君、長女豊子孃あり、和氣靄々として家庭頗る圓滿なり。

（住所　名古屋市熱田區東町夜寒三四）

日立製作所常務取締役

秋田政一

本邦工業界の一大權威たる日立製作所には素より人材豊富にして所謂多士濟々たる觀なしとせざるも、眞に本社の國家的使命を自覺し、其の機能の一分野を守りて堅實且つ敏捷に、樞務を裁斷處理をなす能力手腕を有する人物に至りては容易に多數を求む可らざる處然るに我が秋田政一氏の如き、此の稀觀の偉材として第一指を屈すべきか。即ち思慮周密にして輕々と事を斷ずるなく、而かも一度決すれば斷乎初志の貫徹を圖り、姑息を捨てゝ急進を避け、寸を得て尺に進む堅實なる態度を執り、而して秩序あり、識見あり、才能あり、氣慨ありて渾然融合せる處、其の善處良計、卓犖不羈なる手腕、到底常人凡介の企及を許さゞるものあり。氏は三重縣津市を搖籃の地として明治二十年七月に呱々の聲を擧げ父君を同藩士族森內政德氏と呼びて其の三男

後年秋田彌吉郎氏に養子入籍し、爾來兎姓秋田を稱せりと。學序を經て東京帝國大學工科機械科に入り、其の深奥なる學理を把握し、優秀なる成績を以て卒業するに至る。斯くて勇躍實社會に入り、先づ千代田瓦斯株式會社に職を奉じて精勵恪勤、克く僚輩に垂範の實を示して信認頗る厚く、其後京都瓦斯株式會社、久原鑛業株式會社等に轉じて、卓腕を縱横無盡に發揮せること幾星霜、其間不斷の精勵、不屈の研究心は、天禀の穎才と相俟ちて關係職務を完遂して餘す處なく、着々として地位を向上、名聲を博するに及びたり。而して其後日立製作所鶴戸工場長に就任するや、多年の經驗と豊富なる智識を以て、克く其の重責を果たし、名工場長として聲望頓に昂まり、遂に昭和九年衆議の決する處、推されて同社取締役に就き、次で常務取締役に陞り、社務の樞機に參劃、要務を總攬して間然する處なく、殊に業界一度軍需工業の白熱的盛況に入るや、非凡の識見手腕愈々冴えを見せ、奮然工業報國の大信念を以て邁進する處、社業益々隆榮盛大を加へて宛然一大王國を築き斷然斯界に冠たる當社の至寶的存在たるに至る。資性穏健敦厚、而かも剛毅測達の一面を有し、威ありて猛からず、濃情流露たるものあるは、寔に渾然珠玉の如き人格者と稱すべく典型的紳士の名聲嘖々たるも當然の理ならん。因に國産精機取締役を兼任せり。

（住所　東京市牛込區市ヶ谷砂土原町三ノ一八）

東洋金屬熱錬工業所

未曾有の非常時局に對應して勃興發展せる我が工業界の一大躍進は、寔に本邦産業史上特筆大書に値すべく、金屬熱錬工業の如きも既に異數の進歩發展を實現し、幾多有力工場設立せられたるは枚擧に遑あらずと雖も、本邦屈指の大工業都市、當大阪に於て新興發剌たる業勢を伸べ、其の技術優秀にして信望絶大なる代表的個人經營工場を擧ぐれば、我が東洋金屬熱錬工業所を推さざるはなし。

即ち當所は近來同市屈指の新興工場地帶として發展膨脹を顯示せる西淀川區御幣島の一角に地を占め、其の工場敷地二百余坪、生産施設の整備完全なるは勿論、亦た優秀熟練工其他四十余名の從業員を擁し、創立以來年處未だ淺きに拘らず、既に堅固不動の業礎を築き、更に各得意先に信用隆々たる新興工場中の花形たり。是實に主宰經營たる川崎實氏堅實無比なる營業方針を以て拮据經營し、或は技術の改良向上或は機械設備の完全を圖りて鋭意優秀品製作に邁進努力せる賜と云ふべく斯くて業勢異數の躍進を續け、殊に最近需要界に博せる絶讃好評の如き、即ち當所製品が業界に一頭地を抜んずる優秀品たるを實證すべく、今や註文殺到して日夜繁忙を極め、到底既設々備を以てしては、克く需要を消化充足せしめ得ざるに至りし爲、茲に規模内容の一段たる擴充を圖り、更に一大發展を實現せんと只管增資增産の企劃中なりと聞く、因みに經營主川崎氏、曩に暴支應懲の聖戰に勇躍出征するや、其後經營の重責を双肩に擔ひたる實兄川崎實美氏奮然健闘、克く新興發剌たる業務に、更に一層光彩を添えしめ、以て萠々たる業績を擧ぐるに至りしは、寔に偉とすべきなり。

所主　川崎　實　氏は夙に慧眼克く斯業の將來性を洞察し、敢然業界に身を投じて業務修得、技術練磨に精進すること幾星霜、遂に獨立自營の機會を把握するや、敢然現地に創業し、爾來其の優秀卓拔なる技倆と非凡の經營手腕を以て巧に時流に投じ、着々斯界に頭角を表はせし奮闘家、而かも若冠未だ而立に達せざる少莊有爲の人材なり。資性敦厚篤實頗る人情味に厚く、克く從業員の福祉增進を圖りて間然する處なく、内外の尊敬追慕の的たるを失はず、亦た烈々たる盡忠報國の赤心に燃え、現に戰雲漠々たる中支の山野に

挺身奮戰、世界に冠たる大和塊を昂揚しつゝありと聞く。蓋し吾人の衷心より武運長久を祈る所以たり。因みに令閨末子夫人は才色兼備の譽れ高く、專心銃後の守りを固めて餘念なし。

川崎實美　氏は夙に斯界錚々の逸材として令名嘖々たる人、居常能く卓腕卓識を發揮して令弟を輔佐指導し、更に現在業務一切を執掌して、益々業運を盛大ならしむ。而かも年齢漸く三十有才、其の人物手腕共に愈々圓熟の境に入らんとするに至り、前途の活躍こそ正に刮目に値すべきものあらん。

（所在地　大阪市西淀川區御幣島）

各務商會社長

各務種男

株式會社各務商會社長たる各務種男氏は、陶磁器貿易商として天賦の才腕を揮ひ、今や斯業界に堂々君臨し、小壯實業家として、其將來多大に嘱目せらるゝ處なり。氏は岐阜縣各務千代松氏の長子にして、明治三十三年二月を以て生る。夙に東京高等商業を卒業し後渡歐三ヶ年に亘り、西歐陶磁界を具さに研究し、多大の蘊蓄を積みて歸朝す。次で家業の陶磁製造に從事し、多年の深畫を傾注し鋭意熱誠に業務に淬勵す。事業の躍進は時流に即應すべき合理的資本構成の必要なることを感じ、昭和四年七月遂に個人經營を、株式會社に改め自ら社長に就任し此處に其基礎を確立す。之れ氏の慧眼の時流を抜くを示すものなり。以來一意專心社業に精勵し、拮据經營能く其功を收め、業績頗る向上するに至れり。現に從業員五百有餘人に上り、その年産額百二十餘萬圓の尨大なる金額に達し、販路又大いに擴大され内地は勿論、遠く濠洲、北米、中南米、アフリカ等海外に亘り益々飛躍を辿り、氏の商才亦非凡なりといふべし。

社業の發展に依りて本社岐阜縣土岐郡多治見町（電話多治見一〇番、二二六番）は狹隘を告ぐるに至り、更に又販路擴張の便に資せんが爲、支店を名古屋市東區板屋町三一番地（電話東三八一七番）に設置し、此處に陣容を構へ將來の雄飛に備へたり。氏の熱烈なる業務に對する精勵は夙に地方民の信望を擔ひ同業の羨望もだし難く遂に、多治見陶磁器貿易商組合組合長の要職に推さる。孜々として斯業の發展に力を盡くし貢献する所多し。氏人と爲り怜悧溫厚、圓滿玲瓏にして、人に對して聊かも隔壁を構へず、誠に淡々として凝滯する處なき典型的紳士にして、尚且つ年齒未だ若冠なればその將來多大の期待するものありと謂ふべし。

（住所　岐阜縣土岐郡多治見町）

事業家

谷田可思三

黍團子の製造を以て谷田氏の名聲は北海道全土に於て嘖々たるものあり。一千七百坪の土地に堂々たる工場を建設し、更に新築敷地一萬坪に及ぶ土地に目下擴張工事を行ひつゝある氏は、個人經營の製菓業者として如何にその規模の大なるかを推測し得ん。該工場に於て製造せし黍團子積出に毎日貨車一輛を缺かさぬといふを聞くも、その繁榮の程を想像し得らるべし。氏は元來日蓮信者にして、國家を祈りて佛法を立つべしとの信條を奉持しこの信念を以て事業に當り、今日の成功を見るに至れり。抑々氏が製菓事業に着手せしは大正六年のことにして當初は微々たる飴製造を行ひたるに過ぎず。されど氏の宗教的信念は高遠にして、已を益するに非らず、人の爲めに誠を盡すなりの意氣を以て、火の如き熱情に身を焦がし、刻苦奮勵その業に全生命を投擲し、幾多の難關を突破せり。後黍團子の製造を創始す。氏の營業方針飽くまで堅實にして正直を旨とし、客には懇切を以てし、品質の改善に意を盡くす等、淬勵刻勉業務に實に熱心なりき。斯くして日に日に顧客增加し、實行增加の一途を辿り、工場設備相次いで擴

張されて其規模年々に増大せり。氏の倦まざる研究は、瞬く間に黍團子の美味佳良を以て名を博し、非常なる好評を以て迎へられ、北海道全道如何なる奥地と雖も之を口にせざる者なく更に樺太にまで進出するの盛況を示現すに至れり。現在七十數名の男女の職工を使用しその資産數十萬と稱せらる。而かも尚ほ躍進に次ぐ躍進を以て發展しつゝあれば、將來更に顯著なる進展を達成するものと期待せらる。個人經營の製菓業者としては、北海道隨一の地位にあり。氏の事業精神たるや、單に自己の利益を牧むるに非ず、國家を祈りて佛法を立つるを精神となせる所より製菓事業を經營する傍ら皇軍の糧食問題に思を致し滿蒙にある兵士の糧食問題を解決せんとして幾多の犠牲をも省みず、目下これが完成に鋭意苦心研究せり。その言訥訥にして聊かも飾氣なきも、至誠自ら言動に溢れ、人を感銘せしむること深し。人となり剛健にして意志強く、決斷速かにして實行力旺盛たり。寡默謹厚なれど人の困苦には自己を犠牲に救ふ純情の持主なり。

（住所　北海道夕張郡栗田郡角田村）

日産自動車販賣株式會社

義に我財界の著宿鮎川義介氏は、現代重要

交通機關たる自動車が悉く海外の供給に俟つの實相にあるを慨し昭和八年十二月資本金一千萬圓を以て日産自動車株式會社を創立す。横濱市新子安に敷地六萬五千坪を選定し、最新式の優秀機械一千六百五十基を備ふる大工場を設立し、從業員四千名を使用せり。その規模の大にして設備の完備せること世界有數の大自動車工場たり。當工場に於て製作せらるゝが「ダットサン」並に「ニツサン」の優秀車にして近來全國各地を快走せる輕快無比の小型自動車「ダットサン」は幾多の理想的特徴を有す。即ち、車體の小型なるが爲めに狹隘の道路をも自由自在に馳驅し得て燃料は非常なる節約となり。當局に於ても亦小型自動車の普及に留意して、爲に一定規格の範圍内の小型自動車に對し、無試驗運轉免許、低廉なる課税、車庫設備の不要等の特典を附與せり。これによりてダットサンの乘用者は日を逐ひて激增を見るに至れり。當社は國防の安固、輸入の阻止、輸出の增加、産業の發展を圖らんとするの意圖より、採算を度外視して新興の雜事業に着手し、遂に現時の躍進を遂げ、日産自動車販賣株式會社は日産自動車株式會社より販賣部を獨立せしめ、合理的販賣組織を設置して「ダットサン」並に「ニツサン」の綜合的販賣機關となし、上述の趣旨を達成すべく、昭和十二年三月に創立せられたるものなり。資本金五百萬圓にして、創業以來目覺しき發展をなせり。「ダットサン」並に「ニツサン」の機能の優秀なると共に、同社の販賣組織の活潑なる活躍によりて賣行期を逐ひて增進し、業績甚だ良好たり。當社重役陣を見るに專務取締役山本惣治、取締役村上正輔、内田慶三、小野梧弐、越智貞雄、芦田定次郎、水津亨、後藤成之、久原成之、久原光夫、監査役吉田寅五郎、山田金弐、相談役石澤愛三の諸氏にして、何れも業界に於て重きをなせり。

專務取締役　山本　惣治　氏は新潟縣高田市茶町の素封家山本明治氏の五男として明治二十一年十月に生誕す。高田中學を經て東京外國語學校に入り優秀の成績を以て卒業す。久保田鐵工所長、東洋製鐵調度課長、藤田合名會社主事、共立企業取締役兼營業部長、戸畑鑄物取締役兼營業部長、同工場長、ダット自動車製造株式會社取締役、日産自動車株式會社常務取締役等に就任して現職に推さる。日産社長鮎川義介氏とは多年苦樂を共にして事業界に活躍し、眞に形影相伴ふの感あり。資性温厚にして而も豪放。頭腦犀利緻密にして智略縱横。その手腕俊鋭卓拔なり、他面操行甚だ嚴正、言行苟も道に違がはず。清濁併せ呑むの雅量と燃ゆるが如き强固なる信念とは何人をも畏敬する所たり。一見して無愛想に見ゆるも、一度氏の胸底に入らんか、温情濱々として掬すれども盡きず。慈父の如くに人を魅了するものあり。日産自動車販賣株式會社は氏の手腕によりて今後愈々大を成すに至るべし。日産王國内に於て鮎川義介氏始め上下の信用絶大にして眞に社寶的存在たり。

尚ほ當社には多數の人材網羅せられ、經理の吉澤尚、文書の中根良介、庶務の河合久茂、會計の和田泰正、金融第一の津田禮次郎、秘書の米本新次、金融第二の小出清、檢査の小池光太、仕入の堀池好司、廣告の和木本久、官廳の柴山知之、トラック中央の青木眞吉、乘用地方の中島亮、乘用内務の志儀長、乘用中央の小泉俊英の各部、課長諸氏の如き逸材雲の如くに集れり。文書課長中根良介氏は長野縣の人にして、山本專務と相知りて既に十數年。同專務の寮僚として活躍して頗る信頼厚し。精勵恪勤してその職務に專念し、當社の發展の爲めに全力を盡くせり。優秀敏腕に人にして當社の爲めに貢献する所多く、社内有數の材幹として前途を囑目せらる。雅懐を文章に現し、詩歌に托して深趣あり、獨自獨創の詞藻は斷じて他の遜下に下らず。高朗清白の人格は、人の深く瞻仰する所なり。

（所在地　東京市麹町區丸ノ内二丁目千代田ビル）

出射鐵工所

關西事業界に於て「クランク」界の明星として名聲を擅にせる、出射鐵工所は、明治四十五年本邦斯業の先驅として、先代故出射盛太氏の創設せる處にして、當時幼稚なる業界に於ける困難は、今日想像を許さぬものあり。先代盛太氏夙に鄕關を出で單身來阪したり。先代盛太氏は卒先工業界最高至その將來性あるを看取して鐵工業を志せり。先づ身を業界に投じ著名なる鐵工場に入りて之れが體驗に研究に鋭意奮闘し、眞摯、研修に努力したる効ありて、遂に氏二十六歳の時獨立して鐵工所を興すに至れり。創業當初の苦心はまことに筆舌の能く盡くす所に非らず。して加之に優秀なる舶來品は國内を渉歩し、國を擧げて舶來品を謳歌禮讃せしに依り、氏幾度か難局に逢着したりしが、敢然それに屈せず燃ゆるが如き奮闘心と秀逸なる氏の手腕能く之を克服し、後遂にその基礎を確立するに至る。幾何もなくて氏は卒先工業界最高至難製品たる、クランクシヤフト、コンネチングロツト並に陸船用小型發動機用クランクシヤフト製作に成功し業界を驚異せしめたり。該品成功の報一度傳へられるや、業界擧つて氏の努力を賞讃し爭ひて之を使用するに至り出射のクランクとして名聲大いに揚れり。昭和三年五月には、大日本工業博覽會に於て、銅牌賞狀を授與され、次で昭和十年、日本工業新聞社主催の工業博覽會に於て其の精巧なるを賞せられ、賞狀を授けらる。以て其の眞價を知るに足るべし。

愈々當所の名聲顯揚さるや、之を以て足れりとせず、更に所内の刷新設備の改善に意を注ぎ、參百坪に餘る敷地に建坪一百八拾坪の堂々たる大工場を建設し内部は、近代科學の粹を網羅し、ドロップハンマー、ベルトハンマー、パワーハンマーを備へ、電動機に至りても最高三十馬力外數臺其他、送風機、火床、起重機、重油反射爐等々寔に優良模範工場として業界注目の的となれり。更に當所の特長として材料を撰定し、型入は、八幡製鐵所の赤印を使用し、重量を輕減して經費を節減し、製作品優美にして型狀體裁好く、仕上旋盤工程を省き、工費從來の三分の一を要せず。職工の熟練なる者多數を有し、製品仕上は舶來品を凌駕し、價格低廉にして常に在庫品多數を有せる等斯界隨一を以て稱せらる。營業品目も頗る多種多樣に亘り、小型發動機用、クランクシヤフト、コンネチングロツトカム、バルブ自動車用金物、車輛用品、兵器用品、其の他複雜型狀のものを型鍛製品とし、大型發動機用、クランクシヤフト、コンネチング

ロッド、スラストシヤフト、スパツナ、ナツト、バンド類、貨車用、船用金物、其他諸機械用火造品一式の火造製品に及び益々旺盛を來たし、今や出射鐵工所は注品殺到の盛況を呈せり。將來の活躍を大いに期待せられし時忽然先代盛太氏逝去せられたるに依り、嗣子出射盛三氏遺志を繼承して經營に當ることゝなれり。

所主 出射盛三氏は、先代盛太氏の長子として、明治四十年を以て生る。夙に先考を輔けて精勵、先代に劣らざるの勤勉家なり。思慮亦調密にして、昭和十二年嚴父の死去に際し、家業を繼承す。捲土重來更に業務に盡瘁し、其の努力は業界の嘆服する所となれり。就中、陸船用石油發動機用大型シヤフト類の研究に熱心に沒頭し、着々としてその功現れつゝあり。氏の努力に依りて事業は一段と躍進をなすに至るべし。資性溫厚恭謙にして、溫情盈々として內外の信望頗る重厚なり。嚴父在世中、懇切に孝養を盡したるは洽く人の知る處なり。

因に出射鐵工所は第一工場を大阪市此花區西九條下通り一ノ二二二に、第二工場を、同市同區西九條上通り一ノ六〇に所在す。

（所在地　大阪市此花區西九條下通り一ノ二二二）

東京鋼材株式會社

當社は近年の製品需要の激增に依り、稀有の活況を呈し、操業甚だ繁忙を呈するに至り技術の改善、設備の擴充に鋭意力を注ぎ、業績は累期目覺しき向上をなせり、その製品は電氣爐鋼塊、平爐鋼塊、壓延鋼材、鍛工品、磨鋼、發條、MK磁石鋼、アームスブロンズ窓枠及扉等にして、何れも品質優秀にして斯界に頗る好評高し、當社は明治三十七年に創立せられたる東京スプリング製作所及大正五年に創立されたる東京鋼材製作所を合併して大正六年四月資本金四十萬圓を以て創立さる同年十二月三百萬圓に增資せられ成績順調を辿りしが、歐洲大戰後の經濟恐慌に依る打擊と、大震災に依る損害に依りて業績不振に陷り、十三年二百萬圓に減資す。同年藤田鑛業より廣田製鋼工場を買收。後數度の增減資を經て、昭和八年には當社製品は全部三菱製鐵に於て引受くるに決し、昭和十年八月には增資せられて五百萬圓となり、昭和十年十二月山形縣松田重恭細拂込濟）に達せり。工場は東京、大阪、福島縣廣田に設置せられ東京工場は鋼材、發條、大阪工場は發條、廣田工場は鋼塊をそれ〳〵製造す。從業員約一千名、優秀なる技術者、卓越せる熟練工多數擁し、和衷協同して社業に勵精し、技能を研鑽して當社の爲めに獻身的に活躍せり。當社は數年前迄は社債、借入金等多額の借金を有せしが、現時に至りては負債は悉く一掃されるに至り、他面有價證券手許資金等は豊富となり、資產內容は著しく充實して面目を一新することゝなれり。他方業績に於ても又著しく向上をなし最近に於ては七十萬圓內外の利益金を擧げ、每期一割配當を行へり。時局關係の影響に依りて今後業績は愈々向上を辿るものと期待せらる。當社の今後こそまことに洋々たるものあり。尙ほ當社重役は取締役會長松田貞治郎、取締役三好重道、同永原伸雄同河手捨二、同元良信太郎、同山下元美、同河村驍、同中司寡、同兼支配人藤村薫、監査役加藤武男、同川中源八、同阿久津鋭男、顧問三島德七の諸氏なり。

取締役會長　松田貞治郎　當社近來の發展は取締役會長たる松田氏の努力に負ふ所多大なり。氏は明治十一年十二月山形縣松田重恭氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。明治三十五年東大工科土木科を卒業し、直ちに九州鐵道に入る。資性眞摯にして誠實、大いに業務に精勵し、多大の實績を擧げて植村俊平氏より見出さる。植村氏の信望を得て年と共に累進

し同社の爲めに寄與貢獻する所多大なり。適々九州鐵道の國有となるに及び、同四十一年九州鐵道管理局技師に任ぜらる。同四十四年官を辭して、直ちに大阪市電今日の發展の素地を築けり。大正元年鐵道事業視察の爲めに歐米諸國に赴き、斯業の調査研究に沒頭して多大の蘊蓄を積む。同三年滿鐵に聘せられ、七年三菱製鐵に轉じて本店調査部工務課長となり、續いて兼二浦製鐵所長に拔擢せられ、十二年取締役に榮進し、同十四年專務取締役に推擧せらる。これより先、大正十三年には製鐵事業視察の爲めに再度歐米視察に赴く。氏の高邁なる識見、卓拔なる才腕、豊富なる經驗とは岩崎小彌太、木村久壽彌太の諸氏の認むる所となり、缺損會社東京鋼材の整理を依囑せらる。當時會社は多額の負債を擁し、業態極度に惡化して每期多額の赤字を出せしが、氏は淬勵刻勉して內容の充實に業績の向上に意を注ぎ、多大に心を碎きて八方奔走す。氏の斡旋に依りて三菱より資金提供せられて運轉資金潤澤となり、社業の回復に少からざる便益を受く。更に設備の改善、技術の向上等にも極力社員從業員を督勵して絕大なる成績を收め、俄然その製品の聲價高まりて需要日を逐ひて激增す。斯くして舊來の面目一新して營ての赤字會社は一躍して優良會社となり。社運隆々として興隆せり。現に日本製鐵、三菱鑛業各取締役等に列し、鐵鋼業の發展の爲めに寄與する所尠からず。人格淸廉潔白にして又最近三島博士發明に拘る三島式マグネシウムの製品は斯界に冠絕して世界一の稱あり。東京工場、廣田工場相次いで擴張せらる、右增產設備擴張の曉には當社の生產力は倍加する筈なり。斯くの如き當社の躍進も一に氏の多年に亘る努力の結晶と云ふべきなり。

（所在地　東京市城東區大島町六丁目）

合名會社 村上政雄商店

未曾有の非常時來と共に、國防經濟益々强化され、軍需資材は勿論、一般物資の價格高騰せるは周知のことにして、殊に銅、眞鍮地金等の奔騰顯著なる、寔に驚異的現象と云ふべく、從て該品販賣を業となすもの簇出し、一大豪華販賣戰を展開しつゝありと雖も、本邦屈指の大商工業都市、當大阪市斯業界に於て、創業の古きと基礎の靠固、優秀商品の豊富なるを以て信望藉甚、克く需要先の要望を充足せしめて業績顯然たる合名會社村上政雄商店の如き、蓋し異彩赫々たる存在と推稱すべきならん。卽ち當店は遠く明治三十七年、個人經營を以て創業せるに發端し、爾來業界幾多の變遷推移に遭遇せるも、常に堅實主義に一貫し、且つ經營者の卓見敏腕の然らしむる處、能く障碍難關を突破して着々業礎を固め、發展又發展、殊に近年工業界の黃金時代現出さるゝや、業運の興隆眞に目醒しく、遂に昭和十一年資本金二十萬圓、出資人員十一名を以て合名會社を設立、斯くて益々時流に投じ、而かも傳統的經營方針の堅實なると、取引の迅速叮嚀なる、或は商品の品質優秀、規格精確なる等、斷然他店の範とすべき特點長所を具備して、擧店一致協力、克く經營首腦者の一糸紊れざる統制下に、各員奮勵精進する處、商況愈々繁忙を加へ、店頭店內活氣橫溢せること近隣商家に其比を見ざる處なり斯くて業界稀有の古き店歷を有し、確固不拔の業礎に立つ當店の前途たるや、時局の益々多事多端となるに伴ひ、其の一段たる雄飛發展期して待つべきものあり。

代表社員　村上政雄　氏は大阪府人村上熊太郎氏の長男、明治二十五年五月を以て四國今治市に呱々の聲を擧げ、幼時既に才氣煥發、其の將來を囑望さるゝこと多大なりき。斯くして松山中學校に於て切磋琢磨の功を積

み、優秀なる成績を把持して卒業するや、直ちに家業に從事し、孜々精勵只管父君を扶けて家運の擴張發展を圖り、其後家督を繼承當主となるや、益々努力奮鬪に終始し、而かも天賦の才幹遺憾なく發揮され、活潑縱橫なる處着々業界に頭角を現はし、父祖傳來の家名に一層光彩を添えしめたる守成の功勞者、今や規模敢て大たらずと雖も、一店一社の主宰者として卓腕明識を謳はれ、斯界有數の偉材として令名燦然光輝を發し居れり。資性温厚篤實なる裡に、剛毅不屈の精神に富み、而かも機略縱橫、毫も商機を誤ることなく、其の玲瓏珠玉の如き人格と相俟ちて、典型的紳商の聲望隆々たり。

（所在地　大阪市西區立賣堀北通四ノ三）

事業家　高村善太郎

函館市に於ける元老として、或は北海道財界の耆宿として、名聲全道に顯然たるものある氏は、函館市の發展に又は各種社會事業の爲めに獻身せし功實に多大にして一身の利害榮達をも省ることなく、まさに犧牲的に盡瘁し、その事績長く傳はりて不滅たるべし。他面事業界に活躍すること多年、現に北海道一流事業會社の社長或は取締役等の重職に列し卓拔膂力の敏腕を揮へり。一昨年合同油脂株式會社と合併せる北日本油脂工業株式會社の如き、氏が創立委員長として同社の創立の產婆役となりしものなり。北海道財界には嶄然たる大勢力ありて、函館商工會議所議員に推されて勤むること既に二期八年、同市商工業の繁榮に赫々たる功績を樹つ。氏が今日の輝かしき地歩を築くまでには、千辛萬苦幾多の苦闘をその過去に重ね來たりたるものにして

高村善太郎氏

明治二十五年二十二歲の時單身北海道に渡り函館に於て漁夫の仲間に身を投ず。惡戰苦闘、堅忍不拔身を粉にして奮闘し、乏しき收入にも拘らず毫も無駄使ひをせず、節約に努めて貯蓄に專心し、斯くして三年、若干の資金を得たるにより二十五歲にして獨立を決行して一軒の店舗を購ひて魚屋を開始せり。朝は早朝に起き出で、夜は人の寢たる後まで商賣に精勵して、克苦奮闘大いに努力したるにより營業次第に繁榮に向たり。後海產物の問屋業を營むことゝなりしが、氏の秀拔なる事業的手腕と不屈の努力により、事業は日と共に躍進的に成功を齎せり。相次いで資本を增加し規模又年と共に擴張せられて、後に至り海產物の販賣事業に於ては全道屈指を以て數へられるに至れり。卓犖剛毅の材幹と神籌鬼策の才略を以てその信望一身に集り、推されて各種會社の重役となり、事業界各方面に華々しき活躍を展開す。而も又、公共事業には惜しまずに私財を投じ、或は業界の爲めに多忙の時間を割きて盡力斡旋する等、社會公共の爲めに盡瘁すること甚大なり。斯る氏の至誠奉公の信念竝に行動は世の多大に敬仰する所となり。現在函館市の巨擘として推敬せらる。氏は明治五年四月石川縣金澤に生る。資性朴訥至純にして聊かも邊幅を飾らず、その言飽までも眞摯卒直。剛腹宏量膽斗の如し。世の毀譽褒貶に超脫して終始信念を以て行動し、清濁併せ呑むの宏量あり。現在函館魚商卸賣市場、函青汽船各社長、函館水產販賣常務取締役、函館運送社、三立運輸、北海製氷、函館定溫倉庫各取締役その他の事業に關係し、或は函館魚商組合長、函館海產同業組合評議員の公職を兼ぬると共に、函館市會議員として市政にも關與し、皇國享生の恩澤の宏量無邊に私滅產業報國に精進しつゝあるは正に偉とすべきなり。

（住所　函館市本町二九）

株式會社　關西鑄鐵所

各種鐵工業の發達程度如何は、一國文化のバロメーターなりと謂はる。之實に近來我が國力の益々充實され、文化の飛躍的發展を招來せるに鑑み、斯言の敢て過誤ならざるを知る。而かも當今非常時に際し、生產擴充經濟强調され、機械工業の整備擴張、愈々必要の度を加ふる秋、之等工業の基礎的存在たる鑄鐵業の繁忙多端なるは、素より必然の趨勢にして玆に喋々の言を要せざる處なり。而して本邦屈指の生產都市、大阪市鑄鐵業界に活躍發展を擅にし、其の製品優秀なる代表的中堅會社を求むれば、株式會社關西鑄鐵所に屈指すべきならん。

抑も當社は大正八年十二月の創業に係はり爾來不斷に努力研鑽、只管技術の向上、製品の改良を圖り、或は工場諸施設の完備に處して間然する處なく、而かも常に堅實なる營業方針を以て拮据經營する處、信用漸次高かまり、業績年と共に擧り、斯界幾多の變遷推移に遭遇せるも、業礎泰然不動の如く微動だもせず、斯くて昭和六年、彼の滿洲事變を契機に、軍需工業の黃金時代現出さるゝや、擧社一致協力、克く未曾有の好況に乘じて善處なし、玆に業勢の躍進的膨脹を展開し、遂に隆昌繁榮、四隣を壓倒する如き盛況を獲得するに至れり。現在資本金五十萬圓、內拂込濟十七萬五千圓にして株數一萬株、亦た規模敢て大たらずと雖も、工場施設の整備完全なる、近隣工場に其比を見ず、而かも諸製品の品質優秀、規格精確なる亦た斯界の範たる處、需要界に好評嘖々として註文常に殺到、以て斯界屈指の業績を謳はれつゝあり。因みに當社重役陣に列し、令名業界に洽きは社長角谷元三郎氏を始め、專務取締役吉田榮治郎氏、常務取締役角谷龍三氏、取締役中井利正氏、監査役鹽崎與吉氏等の諸氏なり。

取締役社長　角谷元三郎　氏は奈良縣吉田定次郎氏四男、明治十四年一月の誕生にして角谷宇之助氏の養子となれり。夙に實業界雄飛の覇氣を抱き、奮然斯界に身を投じて努力奮闘すること幾星霜、其の犀利縱橫なる手腕と不屈不撓の勇猛心は相俟ちて着々業界に頭角を現はし、遂に今日の成功を贏ち得たる斯界の重鎭。今や當社々長たる一方、旭內燃機社長生駒商事取締役の重責を擔ひ、機烈旺盛なる工業報國の信念を堅持しつゝ鋭意卓腕を發揮する處、兩社共に業績一段と擧りて社名頓に光輝を加へつゝあり。資性温厚篤實にして頭腦頗る緻密、其の事業上の企圖たるや、一點一劃も苟くせず。而かも一度決心するや、斷乎初志を貫徹せずんば止まざる氣慨に滿ち、且つ識見高邁、人格圓滿なる處、正に業界稀に見る偉材と稱すべきか。家庭には令閨於浪夫人（明治十六年生）ありて內助の譽れ高く其間養子龍三氏（明治三十年生、當社常務取締役）を迎へて淸福圓滿、美望に値すべきものあり。

專務取締役　吉田榮治郎　社長を輔佐して克く業務總攬の大任を完遂し、當社事業の發展興隆に絶大なる貢獻をなす人、卽ち氏の存在たるや、寔に光輝燦として社內外に輝き、今や名實共に當社不可缺の社寶的偉材として全社員敬仰の的たり。資性穩健謹直にして、亦た明晰潤達の一面を有し、而かも溫情溢るゝが如く、常に社員を愛撫指導して心服を得、殊に經營經濟に非凡の識見手腕を謳はれ、實務に則して毫も誤らざる處、正に近代的事業家の範と稱すべきか。斯くて其の高潔淸廉なる人格愈々光彩を添え、斷然斯界の重鎭たるの觀あり。

（所在地　大阪市浪速區反物町一三三四）

事業家　小林米三郎

當家は先考酒造業を營みて、家產を大いに

蓄積せられ、氏又各種の事業を經營し、或は社會事業に活躍して頗る名聲あり。氏資質溫籍、起居動作謹直にして操行證正たり。志操堅固にして氣慨に富み、終始一貫して變ることなく、責任觀念まことに强し、仁俠の士にして人の爲めには助勢を惜しまず。世故に長けて人情の機微にも通達し、人との交際圓滿無礙を以て名あり。地方民の信望まことに高し。先考小林米三郎氏明治十二年札幌に於て酒釀業を創業し、事業發展の爲めに多大の奮闘をなせしに依り次第に發展し、後夕張郡角田村栗山に事業の本據を移す。明治三十七年先考米三郎氏の事業を襲承して襲名す。氏一意家業に沒頭し、日夜を分たず努力せしに依り一段と繁榮に赴けり。其吟釀に係る銘酒「北ノ錦」は釀造石數は現在年産八千石に及び、品質優秀にして益々好評を博し、販路大いに擴大せらる。家業の隆昌に伴ひ、北海道殖産銀行頭取、夕張鐵道、北海道コンクリート工業社長等を始め、各種事業の重役に選任せられ財界に進出して顯然たる活躍をなせり。その他北海道酒造組合聯合會副會頭、全國酒造組合中央會常任評議員、北海道商工聯合會會頭等の要職に推され、業界の爲めに貢献するところ尠からず。公共事業に盡せし功績を以て表彰せられしこと屢々あり。今や氏の存在は全道に赫々として輝き、その才腕識見は人の讃仰措かざる所たり。

（住所　北海道夕張郡角田村栗山村）

株式會社 岩田兄弟商會

由來當社は岩田家一族の個人經營たりしを大正七年三月、現組織に變更されたるものにして、現在資本金百萬圓（全額拂込）にて役員は社長岩田米次郎、取締役岩田銈太郎、同岩田信成、監査役岩田與三郎、同鶴田正雄の諸氏を以て諸工業用諸機械及電氣機械並に附屬品材料地金類直輸出入及製作販賣を目的とし、監査役岩田與三郎氏は社長米次郎氏の令兄、取締役岩田銈太郎氏は令甥、同岩田信成氏は養甥なり。是等同族を以て一丸となし、筆頭株主たる岩田米次郎社長之を主宰し、創立以來財界變轉の中に在つて依然優秀なる業績を收め、其内容の充實と優秀機械製品を以て好評を博し、使用人の如き經營當時は三十名前後に過ぎざりしが現在では數百人を算するに至りしは、畢竟同家一族の堅忍不拔の精神と努力奮闘、營業擴充に盡力したる賜にして株式に變更以來益々業務を擴張せり。殊に當商會の特長は凡て家族的協調に在り、一致協力精勵恪勤を以て和氣藹々裡に業務遂行に邁進しつゝあり。然も近時諸産業、工業の勃興と同時に各方面の註文殺到を極め、最近に於ける所得稅納入一萬三十七圓に及ぶ隆々たる飛躍を遂げるに至り、當商會の前途は益々洋々たるものなり。

社長　岩田米次郎　氏は明治九年二月、本府與兵衛氏の二男を以て生れ、同三十三年分家す。長じて大阪高等商業學校に學び、實業に入り今日に至りたるものにして、資性溫厚にして而も活氣に富み、斬新なる優秀機械の輸入並に製作に腐心し、常に自ら營業の陣頭に立ちて奮闘する爲、同商會は益々隆昌を極め、現時當商會の社長たる外、日本瓦斯管販賣、第二不二越鋼材工業各取締役、日本レール、鞍山鋼材、今里土地各監査役等に推されて敏腕を謳はれ、名聲嘖々たるものあり關西財界に重きをなせり。

（所在地　大阪市西區立賣堀北通六丁目）

事業家 伊藤常司

名古屋市に於て紡機製作業を營みて斯業に關する經驗蘊蓄の該博、超凡の俊敏を以て、業界屈指の材幹として名聲ある人に伊藤氏あり。資性溫籍恭謙、眞摯質實、内に豊かなる溫情を溢へ好んで人の窮境を救ひ、義俠の士たり。謙虚にして己を飾らず、至誠を以て人に接し、他面剛毅果斷、意志堅剛、如何なる障碍にもひるまず突進し、不撓不屈所期の目的貫徹に全力を傾倒す。智能慧敏、才略卓拔にして、裁斷の神速、行動の敢爲を以て常に事業界に於て多大の成功を收むるを得たり。他面まことに研究に熱心にして、餘暇あれば學理の研鑽に新技術の探求に勵精し、更にこれを實地に應用して、その事業に多大の成功を收めたり。氏は東京府人伊藤貞成氏の四男として、明治二十二年六月七日東京市本所區に呱々の聲を揚ぐ。若くして覺悟、大いに學を好む。明治四十四年東京高等工業學校を優秀なる成績を以て卒業し、直ちに東洋紡績三軒家工場主任として招かれ、鋭意その事業に精勵せり。頗る成績を擧げて同社の爲めに貢献する所多し。次いで上毛瓦斯館林工場長として招聘せられ、設備の改善制度の刷新に力を盡くし、舊來の面目を一新して大いに功績あり。それより後安宅商會に轉じ、東京、名古屋各支店に囑託として勤め、同商會の爲めに献身的に活動して非常なる信頼を受く。氏はその寸暇を盗みては研究に沒頭し、約五ケ年間同所商會に恪勤す。踵で横濱紡機製作所に入り名古屋出張所長に推擧せらる。氏年來獨立して業界に飛躍せんとの大望ありしが、昭和八年敢然蹶起して現地に於て獨立開業せり。即ち工場を名古屋市西區庄内町名塚に設立し、工場名を堀井鐵工所と稱す。創業當初種々の難關に遭遇せしも、少しもひるまず奮闘努力し、事業は次第に發展に向へり。而も尙ほ技術の改良に品質の向上に苦心慘澹し多大に成功を收め、その製品は幾多の特質を具備し、斯界に於て多大の絶讃を博せり。取引は次第に繁忙となり、東海地方より關西、或は奉天を始め、其他全國は各地方に及べり。事業の發展と共に氏の聲望を益々加はり、斯界に於ける有數の敏腕家として、重きをなせり。庭球、弓道、謠曲等を趣味とす。

（住所　名古屋市東區葵町三四）

六波羅蜜寺

當寺は西國第十七番靈場にして、京都有數の古刹として知られ、その由緒の深きことを以て衆庶より多大の渴仰を受くる所たり。その由來を尋ぬるに天暦五年の頃京都に惡疫流行し、病死する者甚だ多し　村上天皇御宸襟を惱ませ給ひ　醍醐天皇第二の皇子空也上人に惡疫退治の勅命を下さる。上人恭なく仰を畏み、十一面觀世音菩薩の立像を刻みしが、像成るや忽ち疫鬼みぬ　村上天皇の御感斜ならず、勅號を六波羅蜜寺と賜ひ、堂宇を建立せられ、惡疫退散の十一面觀音菩薩を御本尊として安置す。應和三年八月空也上人諸方の名僧六百名を請じて全字大般若經の慶讃を修し、晝は經王を講じ、夜は萬燈會を修して歸敬せしに、文殊菩薩の應化身現れ給ふと傳へらる。中信上人の時に至り、規模大いに廣まり、莊嚴美麗の天臺別院となり、毎年暮春四日の開法華八講を修し結緣供花會と稱して一大盛會を催すを例とせり。當寺坤方犬牙に平家重代の屋敷あり、清盛重盛の兩公に至りて造作の家百七十餘、小松殿まで二十餘町の間眷屬の住所五千二百餘家に及び、締じて六波羅と稱す。壽永二年平家沒落の際兵火の爲め諸堂炎上したれども、獨り此堂のみは燒失を免れたり。文治二年源頼朝卿上洛の時、平氏池殿

六波羅蜜寺本堂

の跡に旅館を建てられ、當寺にも保護を加へらる。爾來公の旅館は代々鍋倉將軍の代官所となり、當寺に對して保護愈々厚く、南北に增築して兩六波羅と云ふ。後醍醐天皇の御宇鎌倉の執權北條氏勅勘を蒙り、元弘三年の兩六波羅兵亂の時にも又火災を免れ、後光嚴天皇の貞治年間足利義詮將軍興海上人に命を傳へ、且つ諸大名に勸進して堂宇の大修繕をなさしめ、それより眞言宗に改む。間もなく應仁の兵亂起りしが兵燹にも罹らず、天正十八年には豊臣秀吉公大佛建立の砌、その餘材を以て當寺に修繕を加へられ、御供料として年々七十石を賜はる。德川家康公の時に至りこれを朱印に改めらる。以上の如く幾多の兵亂にも何等の損傷を蒙らず、時の權力者よりは手厚き保護を受け、代々世人の尊崇を受くること甚だ厚し。建物、御本尊、古文書それ等歴史上まことに貴重なる遺物を數多を藏せり。例年元三日施行する皇服茶は深き由來ありてこれを喫する時は難病を患ふことなしと傳へらる。現時愈々世人の信仰を集め、善男善女の參詣する者引きもきらず、多大の繁榮を呈せり。

住職　堀井龍豊　前住職義秀師は善知識の聞え高く、四十四年間その職を奉じて當寺の爲めに盡瘁する所多く、又信徒より多大の敬仰を受く。昭和十年十二月隱退せり。現住職堀井師は大正十四年東京智山專門學校本科を卒業し、直ちに本山智積院に歸山して敎化部主事及び專修學院幹事に任ぜらる。昭和十年十二月前住職隱退の後を襲ぎて、當寺院の住職に就く。學識深くして道念堅固の名僧として著聞す。信徒の敬仰を受くること深し趣味としては書畫を好み、又師義秀師事相に通ぜるにより、師に就きてこれを研究せり。

（所在地　京都市東山區大和大路松原東入）

警視總監　安倍源基

警保局長安倍源基氏が、突如として警視總監に榮轉の發令せらるゝや、社會は驚異の感に打たれたり。さもあらむ。歴代總監中、年齢不惑旬にして此顯職に榮達せるは、氏を以て嚆矢と爲せばなり。この跳躍的出世が如何に氏の風骨、智德無凝の超凡たるかを立證するに餘りあらん。

嘗而藤沼總監時代、特高部の獨立を見、その部長の人選に多大の苦心を要したる時、適材として部長に推挽を享けたるは、卽ち我が安倍源基氏その人なりき。而して氏の行履を顧るに、大正九年東大法科を卒へて高文に合格。沖縄縣理事官を振出しに、高知、愛知各縣事務官に歴任、次いで內務事務官警保局勤務、更に駐支遣外事務官を經て、山形縣學務部長と、比較的坦々たる經歴を經たるが、其間時の地方局長安井英二氏は、旣に氏の大器なるを瞻仰し、之を推薦保證され、初代特高部長に拔擢さる。氏一たび特高部長てふ重大なる任に就くや、煩雜多岐に亘る業務を、快刀亂麻を斷つが如く處理し、以て特高部の偉績を昂揚す。殊に未曾有の大事件たる二・二六事件を中心として、氏の活躍は實に神技とも稱ふべく、當時の總監小槻氏は知行一致の貫祿はありしも、要するに泰平の日の檢非違使にして險難に處する達人の心臓を缺くる嫌ひあり、爲に氏は自づから總監に代りて難局に當りたり。後ち氏は責任上再び地方に轉出を餘儀なくせしも、氏の努力手腕は一躍著聞し、世人は愛に其令名を再認識すると俱に、氏の將來を約束せらるに至る。曩に近衞內閣成立するや、一躍警保局長として推任せられ玆に再躍して警視總監に任ぜらる。氏の得意や思ふ可し。然し乍ら警視總監は單なる警察官に非ずして、その半面政治家たるの力量をも有せざるべからず」とは謂へ、政治家たるを望む所以に非らざるは勿論なるが、警察事務が往々にして小乘的技葉末節に拘泥して、其大乘的要綱を過ましむる事なきにしもあらず。引ひては社會の批難を受くることあるを

恐る。然れ共氏にありては斯くの如きは旣に感知の事實にして、判斷の正鵠を信ずるが故に、何等危倶を要せざるべし。今や社會は安倍總監の大成を期待する事頗る大なるものあり。氏よ折角自重健闘せよ。

（住所　東京市麹町區隼町一三）

株式會社　富田商會

澎湃たる世界の先進文化を呑吐する、大商港大阪の繁榮は、背景に世界屈指の商工業都市大阪を抱き、海陸貨物の輸送運搬は遺憾なく發揮されつゝあり。本社は卽ち此の名港大阪の地にありて、海陸貨物の運送船舶及運送保險代理並勞力の供給請負の外、物品賣買倉庫業に任じ、特異の業陣を張る斯界の重鎭たり。其創立は昭和十一年二月にして、現時資本金一百萬圓（全額拂込濟）たり。同商會は尙是先故富田正治氏の個人經營に係りたるものにして、彼の歐洲大戰當時の劃期的好況の波に乘り、旭日昇天の繁榮を見せ、隆々たる業礎を確立したるものを、正治氏の逝去するや、之を株式組織に變更、嗣子富田平八郎氏取締役社長となりたるものなり。抑も同商會は、其の設立意義に於て、勞資協調の實際化に出發せるものにして、社長以下の全社員は一致協力、相互扶助の理想的結成統制下にありて創立以來一度の物議だに釀せる事なきは偉とすべく、營業狀態、收支決算共の他は凡て公開主義により、從來の會社考課狀以上に其の內容を明確にし、從つて下仲仕に至るまで能く事業運營の進運を察知し、何れも献身的努力を傾注しつゝあるは特筆に値すべし。今や當商會は單なる日本窒素の專屬と云ふより寧ろ斯業界の覇王として積極的活動に入り一段の飛躍を約束されたるものと謂ふべきなり。

取締役社長　富田平八郎　氏は明治四十四年三月を以て先代正治氏の長子に生る。夙に早稻田大學商科に學び嚴父の逝去するや、株式會社富田商會の初代社長となりて今日に至る。氏は本年二十八才の青年社長にして堂々二十八貫余の巨軀は悠揚として迫らざる氣魄を示し旣にして新人實業家としての貫祿あり學窓當時はスポーツ界の立役者として聲名を博したり。資性溫藉にして闊達、衆庶を統制するの器量に富むる外、至誠熱直、仁俠義氣に富む傑出の材たり。從て社員以下仲仕に至るまで尊覲し「オラが社長、青年親方」と呼稱し忠誠事に勵むも又故なきにしもあらず。而も社交に長じ、情誼に厚く實に青年紳士の典型として信望頗る大なり。閑あれば、野外に出で、各スポーツに妙技を揮ひ、スポーツ社長の貫祿を示す。趣味極めて多く、同商會の前途や正に洋々たるものありと謂ふべし。家庭には京都府立第二高女出身の才媛愛子夫人あり、一子隆也君を中心に和氣靄々たり。

常務取締役　北　初哉　氏は富田商會に其人ありと知られたる逸才なり。故正治氏の片腕として永年富田商會の發展に貢献したる功勞者にして、組織變更されるや選ばれて、常務兼營業課長の重席に就きたり。其の非凡の俊腕は以て衆を卒ひ、爲さんとして成らざるなく、行ひて果さざるなし、氏も又二十有余貫の巨體の所有者にして、巨人社長と共に名コンビを爲す。資性溫厚にして部下に厚く、一面磊落にして淡然泊如、而も諧謔諷刺の野趣味に富み、語るものをして親愛尊信の情を深からしむ、今後氏の手腕を更に期待さるゝは故なしとせず。

（所在地　大阪市北區宗是町一丁目大阪ビル內）

大同證券常務　伊藤右一

三十臺の若冠にして業界にその基礎を成し老練に伍して一歩も讓らず堂々斯界を濶歩し

羈櫓の掌握も近き將來に有ると目せらるゝ少壯實業家、大同證券株式會社常務取締役たる伊藤右一氏の隆々たる聲望は中京財界を壓せり。

氏は、明治四十一年六月、靜岡縣濱名郡新所村岡崎新吉氏の長男として生る。大正十五年豐橋商業學校を卒業し、家業の製糸業に從事す。然るに氏は密かに爵勃たる大志を有して鵬翼を張らんと虎視眈々機會を窺ひしが、偶々財界の變動に際會し此處に勇躍、名古屋に出づ。是れ氏の二十一才の時なりき、手蔓を求めて株式界に身を投ぜるも、抱負と實際との懸隔餘りに甚しく其辛苦又容易ならず幾度か方向轉換の意動きたりしが、能く難事を克服し、敢然邁進し漸次その前途を打開す。昭和七年二月、豐橋市三浦町に、株式業を獨立創業し、拮据經營能く其功を收め業績頗る顯揚され、昭和九年三月、名古屋市に本店出張營業所を設けるに至れり。名古屋市は氏の事業界に始めて身を投ぜし地にして巧みに業界を馳騁奮鬪し、卓絶せる商才を遺憾なく發揮し、其敏腕を信認さるゝに及び同業知親相謀りて、昭和十一年四月、大同證券株式會社を創立し、氏は其常務取締役と爲りて、遂に今日の成果を收むることゝなれり。氏は年齒僅かに三十有一歳の弱冠にして、誠に異例の大成功として世人を瞠目せしむ。徒手空拳以て遂に業成り名遂げ、同市事業界に重きをなせり。頭腦明敏にして才略縱横、群拔の才腕を揮ひて獨創の商陣を布き、氏の信望愈々加はりて、その將來を囑目さるゝもの又多大なるものあり。

因に同社は、資本金五萬圓全額拂込濟にして、社長吉村昌美氏、取締役坪内彌左衛門、監査役松原義也の各氏經營に當り、昭和十二年下半期には一割の高率配當をたし、多大の好成績を擧げたり。

（住所　名古屋市中區南呉服町二ノ一〇）

玉井商船株式會社

創立以來星霜を閲する事數ヶ年、其年處未だ僅少なりと雖も、新興發刺たる業勢恰も旭日昇天の如く、本邦海運界に馳騁縱横なる玉井商船株式會社とす。抑も當社は昭和七年三月資本金十五萬圓を以て、設立營業を開始し、船舶貨物運送及び不動産有價證券取得利用を業務として、近年頓に移動頻繁となりし貨物百般の海上運輸に當り、之が動的社會の需要を滿たすに迅速正確なる運輸能力を發揮し、而かも、積極的堅實を謳はるゝ營業方針に一貫する處、斯界の躍動的好調と相俟ちて業運頓に發展せり。即ち昭和九年九月三十五萬圓を增資して資本金五十萬圓となし、更に翌十年二月中外商船株式會社を合併、玆に一躍倍額增資を斷行して資本金百萬圓となるや内容規模の擴充を圖りて關西斯業界に活躍すること縱横無盡、斯くて業運一段たる飛躍興隆を實現し、遂に資本金二百萬圓を擁する中堅的代表會社となりしも、現下未曾有の非常時局に際會し、軍需品輸送其他輻輳繁劇を極むる貨物運輸界の盛況に鑑みて、前途の一大活躍に萬全を期する爲、更に資本金を一躍七百萬圓に增資せんと企圖議決せりと聞く。是實に本邦海運界異數の優良會社として、其内容の堅實にして業績亦た侮る可らざるを謳はるゝの所以たり。

因みに當社第六期（自昭和十一年十一月至昭和十二年十月）營業概況を見るに、遠洋貨物移動の活潑、政府遠洋航路擴充政策の確立に支那事變勃發に依る運賃市況の活況、傭船料急騰、特種船の需要增加等を顯現せるも、業界各船主の自主統制に依り、市況大變化を見ず、又た期末に於ける爲替關係に因る輸出入貨物減少に伴ひ、市況漸次軟調を呈するに至りしも、此間當社は比較的堅實なる傭船關係を持續し、船舶收入百五十萬三千餘圓、利息二千六百餘圓、合計百五十萬九千九百餘圓の收入を擧げ、營繕費、雜費、償却金を控除して利益金五十六萬六千餘圓を收め得たり。

而して當期末に於ける總資産額二百八十五萬千餘圓にして基礎内容愈々强固を加へ、株主配當の如きも年一割の順當味を發揮し、今や擧社一致協力、克く國策線上に奮鬪努力を傾注し居れる處、社運の將來益々伸展膨脹せん事は期して俟つ可きものあり。尙ほ重役陣容を組織するは取締役社長玉井操、專務取締役松岡若太郎、取締役加藤秋藏、監査役玉井春雄等の諸氏たり。

取締役社長　玉井　操　氏は東京府人玉井周吉氏の長男、明治三十六年十二月十六日を以て芝區高輪に生る。夙に聰明俊敏、早大經濟學部を卒業するや、神戸海上火災保險株式會社に入りて勤務中、父君逝去せられしを以て昭和十年父業を繼承して現職に就けり。爾來卓腕達識、克く業運を伸展せしめて遺憾なく、先考多年に亘りて奮鬪活躍し、個人經營時代より確乎不搖の地盤を築ける業態を更に好調ならしめ、殊に支那事變勃發するや、慧眼機敏、近海運輸の急務を察して率先船舶買入其他時宜を得たる商略を按じ、社運一段たる興隆を顯現せしめたる斯界鋒々の逸材なり。今や嶄然神戸海運界に頭角を現はし、覇氣横溢せる青年事業家として衆望を荷なるに至れり。資性明朗溌達にして教養深く、蹴球ゴルフ等に興味を抱きて現に關西蹴球協會神戸支部長の職に在る典型的現代紳士たり。因みに神戸海運倶樂部評議員の要職を兼ね、功勞尠なからずと聞く。

專務取締役　松岡若太郎　氏は福岡縣の出身、明治二十三年二月三日を以て呱々の聲を擧げ、同四十五年神戸高商卒業後、三井物産山下汽船其他に歷勤し、後ち中外商船に轉じて專務取締役たりしも、其當社に合併さるゝや、現職に就きて今日に至り、識見手腕共に卓拔なる偉材の士として夙に令名あり。ゆきよ夫人との間に長男達二君外三女を擧げ、一家和氣藹然たり。

取締役　加藤秋藏　氏は明治二十年九月を以て三重縣志摩郡に出生。大正五年帝國汽船に入社し、其後昭和四年當社前身會社に轉じて精勤恪勤、克く敏腕を發揮しつゝ現在に及べり。

（所在地　神戸市神戸區明石町）

日本畫家

川北霞峰

當代日本畫壇の重鎭として風景畫に於て世界的名聲と記錄を保有せる川北霞峰畫伯は、明治八年三重縣に於て出生。本名は源之助と稱す。幼にして穎敏、而も天賦の畫才あり。將來畫家として身を立てんと欲し、之を嚴父に諮る。嚴父肯ぜず。蓋し其堅實なる實業家たるの見地よりして、愛兒をして當時一般より輕視され、若くは蔑視されたる畫界の人たらしむるを欲せざりしなり。氏快々として樂まざる事數年。爵勃たる青雲の素志は遂に父母の膝下を脱して畫道に走らしめたり。良禽は樹を擇びて巢ふの諺の如く、卽ち當時の巨匠菊地芳文の門を敲き、告ぐるに情を以てし懷を執らんことを乞ふ。芳文先生觀るところあり。書を以て父を說得し門下に加ふ。且暮精進、養中の錐凡に穎脫して儕輩を驚かし、風景及び武者畫を以て塾中並ぶ者無しと稱せらる。爾來其技能は年と共に長じ、文展第一回出品に於て入選、文部賞第三等賞の榮譽を贏ち得たるを登龍門として、同展第五回に至る迄連續第三等賞に推さるゝの異數の記錄を作り、殊に第五回に於ては大作「噴火口」の出品に依り文部省より補助を受け、第八回に亦入選、第九回には「海人題」を出品して堂々特選の榮冠を獲得し、十一回亦特選、改革後の帝展第一回に迨び遂に權威ある推選となる。其他代表的作品に久邇宮家御襖繪「吉野の春」あり。一面氏は明治三十一年以來京都市立美術工藝學校に奉職し、學徒の啓蒙に當り敬仰を一身に集めての知行一致を賢仰せら

れしが、昭和五年之を辞す。其間大正十四年帝展審査員に推されて寄與し、現に從六位に叙せられ、帝國美術院展覧會委員たり。

（住所　京都市上京區御前通今出川上）

産業組合中央金庫

産業組合中央金庫は、産業組合の中枢機關と稱するも、現在に於ては農業金融唯一の中枢機關にして全國農村の資金の過不足を調節する重大なる使命を帶べり。而して其將來は漁業組合を初め、各種農山漁業團體を包含して、眞に農業金融の中枢機關たらしめんとし其澄剌たる活動は將に刮目に値す可し。而して中央金庫法成立は過ぐる大正十二年にして事業開始は翌十三年三月なりき。出資金は政府出資千五百萬圓、組合出資千五百七十萬圓にて中央金庫法に據る半官半民の非營利法人なり。理事長、副理事長、理事は總て政府之を任命し、尙ほ政府の任命する名譽職の評議員廿名ありて、中央金庫の重要事項を審議しつゝあり。且つ亦全國の産業組合及び同聯合會を以て組織され、之等を出資者とする純然たる相互組織の金融機關なれば、其業務は原則として所屬組合或は聯合會のみに限り、一般的の取引は全然許されず、從而利用者、即經營者の立場が他の金融機關と相異する點にして營利を事とせず。玆に中央金庫の業務の概要を記せば

一、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合に對し五箇年以内の定期償還貸付

二、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合に對し三箇年以内の年賦償還貸付

三、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合に對する手形の割引又は當座預金貸越

四、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合の爲にする爲替業務

五、産業組合聯合會、産業組合、公共團體其他營利を目的とせざる法人よりの預り金

六、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合の爲にする有價證券の保護預り

七、所屬産業組合聯合會又は所屬産業組合の爲にする有價證券の委託賣買

八、産業組合中央金庫特別融通及損失補償法に依る特別融通

九、餘裕金の運用

イ、國債證券、地方債證券又は主務大臣の認可を受けたる有價證券の買入を爲すこと。

ロ、大藏省預金部若は主務大臣の認可を受けたる銀行への預金又は郵便貯金と爲すこと。

ハ、産業組合聯合會又は産業組合に對し短期貸付を爲すこと。

十、産業債券の發行拂込資本金額の十倍を限り産業債券を發行することを得。特別融通を爲す爲必要あるときは右の制限に拘らず産業債券を發行することを得。

因に大阪支所を大阪市東區今橋三ノ二〇に仙臺支所を仙臺市國分町二に措く。

現役員及首腦左の如し。

理事長石黒忠篤　副理事長杉岡由三郎　理事男爵倉富鈞　同山本謙治　同南正樹　同井川忠雄　監事平田愛吉　同高橋武美

理事長　石黒忠篤　子爵石黒忠悳氏の長子として昭和十七年一月に出生。長じて東京帝大法科獨法科に學び、同四十一年之を卒業同年高文に合格、翌年農商務事務官に任じ、山林事務官兼農商務官書記官、農商務事務官兼書記官、同參事官、農林書記官小作課長、副業課長、農政課長、農林省農務局長、同蠶糸局長等に歷任し、昭和四年再び農務局長に轉じ、同六年農林次官を拜命、同九年依願免官となる。曩に産業組合中央金庫監事に擧げられたるが、有馬頼寧氏の後を襲ひて理事長に就任す。甲冑界の新鋭たり。

副理事長　杉岡由三郎　愛知縣松岡長二郎氏の長男、明治十四年九月の誕生、同四十一年

東京帝大法科政治科卒業、高文に合格、大藏省に入り、長野、宇都宮、丸龜、東京、廣島大阪、仙臺各稅務監督局監督官、大藏事務官丸驛、仙臺、熊本、大阪各稅務監督局長等に歷任し、昭和九年依願免官となり、同年産業組合中央金庫副理事長に推され以て今日に迄ぶ。資質謹嚴にして英賢の士たり。

（所在地　東京市麴町區有樂町一丁目）

下村汽船株式會社

終始堅實一貫を社是の下に、我が海運界に臨み、殊に時局發生以來斯業界の好潮に棹さして絢爛無双の業績を顯揚せる斯界の一異彩たり。當社は關西事業界の耆宿故下村耕次郎氏の海運事業を、時流に鑑みて大正十五年八月、資本金一百萬圓（全額拂込濟）の株式組織に改めたるものにして、創業以來質實なる經營を行ひ今日に迨べり。玆に當社最近の業況、卽ち昭和十三年一月末締切決算を大觀するに、本期は資本金二百五十萬圓内百三十七萬五千圓拂込に增資を斷行、直後の初增資決算なり。故に本期拂込資本は百三十七萬五千圓と前期に比し三十七萬五千圓の負擔增加なるに拘らず、前期より更に飛躍して增益し、餘裕裡に普通一割、特別七分計一割七分の配當を行ひたり。前期に比して三分の增配なり其收支決算を見れば、收入の部に於て貸船料四十三萬二千七百餘圓、收入利息四千二百餘圓、未納稅引當金繰入四萬圓合計四十七萬六千九百餘圓にして、支出の部に於ては、保險料三萬三千九百餘圓、支拂利息四千八百餘圓稅金五萬一千百餘圓、店費六萬五千百餘圓、合計十五萬五千餘圓にして、差引利益金三十二萬一千八百餘圓を得、之を前期に比較せば九萬七千八百餘圓の增益となる。當期は新資本の負擔加はりし爲益率は四割六分八厘と前期四割四分八厘に比し、約二分の向上なり。之を以て當期は船價償却に十二萬圓（前期十萬圓）を充當せし爲、其償却年率は期末船舶百十七萬三千圓に對し、四年八八と云ふ驚異的短期償却にて、配當は僅かに特配三分を增配せるに過ぎざりし爲、實に比類無き堅實處分を示したり。現在當社は左遶大型四船三萬六千餘噸（D・W）の外に、太平丸に投資し該四船は依然長期傭船主義に終始し居れば、收益は確實なり。

	噸數	船齡
大元丸	八、七五〇	二一
大安丸	八、七五〇	二二
大仁丸	七、八三〇	一六
大文丸	一〇、六八一	一八

右に對し評價は當期の償却を引去れば、百五萬三千圓なれば、噸當り船價は二十九圓二十四錢と云ふ低評價なり。しかも所有船は二十五年償却を標準とすれば餘命使用有效年數は大仁丸が十年、大文丸が八年、其他四、五年の狀態なる故、當社の充實振りは推知し得べし。從て今後船舶界に多少の反動襲來するも、當社に關する限り、些かの不安もなく斯業界の俊艦と稱するも敢て溢美に非ざるべし。

專務取締役　下村健一　少壯氣鋭の事業家として其名を聽する俊英たり。明治三十四年二月、滋賀縣人故下村耕次郎氏の長子として誕生。長じて笈を帝都に負ひ、明治大學を大正十三年卒業、後ち太洋海運に入社し、斯業に精勵せしが、昭和三年父業を襲承し今日に及ぶ。現に當社を主宰する傍ら東洋加工絹業社長、日本電解製鐵所、太洋海運各監査役等を兼ね、その將來を囑望されつゝあり。

（所在地　大阪市北區宗是町一）

王子製紙中津工場長

瀨古太一郎

王子製紙中津工場長たる瀨古太一郎氏は、我が國製紙業界の首位にありて、堂々斯界を壓せる大會社の工場長として、卓拔の才華を揮ひて內外に聲望甚だ高し。氏は、明治十二

年一月、三重縣桑名郡桑部村、太右衛門氏の長男に生る、夙に東京高等工業學校に學び、三十四年六月同校を卒業す。學窓を出るや直ちに、四日市製紙株式會社芝川工場に入社す同社に在りて孜々勉勵し、實務に、體驗に七年の星霜を重ねたりしが、四十年九月、上海元華章造紙公司の招聘に應じ、工場監督として入社し、次で工場增設事務を兼任せり。四十二年、同社技師長に推されたるも、翌四十三年四月、湖北省立武昌白抄造紙廠總公程師として聘徵され之れに縛す、同廠工場建設、操業監督となり、熱心に之れに從事せしが、四十四年二月同廠を辭職し歸朝するに至る。歸朝後幾何もなく、木曾興業株式會社に入社工務係長として工場の創設に當り、在支時代の蘊蓄を傾注し、眞摯社業に勵精して功績多大なり。此處に氏の非凡卓絶なる手腕は同社の信認を得、大正元年、同社工場長に任ぜらるゝに至る。次で大正九年三月、中央製紙株式會社との合併に際し兩社工場長を兼任す。更に、大正十五年三月、樺太工業株式會社合併後も、中津、木曾兩工場長を兼任し、專念社業に精勵せる處、遂に氏は同社取締役に選出せられたり。乍併、名利に恬淡にして、責任觀念に厚き氏は、工場長の職務に專任の理由を以て、取締役を辭任せり。氏は何等野望を藏するなく、只管技術の改善進歩に意を注ぎ、始終献身的努力を致せるが、氏の心奥を知る者何人も、その崇敬の念に感動せざるものなかりき。更に、昭和八年五月に至り、王子製紙株式會社の業界統一の大業成り、同社も之れに合併せられしが、氏引續き現地位に止まり、王子製紙中津工場長として、以て今日に至る。爲人、謹愨にして溫恭、謙讓の美德を有し、態度又甚だ寛容にして製紙業界に夙に絶讃を博する處たり。剛毅を愛し、漢詩に至りては杜甫の沈鬱雄渾、李白の跌宕飄逸を兼ね、古體律絶往くとして可ならざるなき作風を以て鳴れり。

瀬古太一郎氏

（住所　岐阜縣惠那郡中津町）

加周商店代表社員

加藤周太郎

事業界に雄飛して名を遂げ產を成し、愛知縣多額納稅者となれる加藤周太郎氏の今日こそ、四十有餘年櫛風沐雨一意專心奮鬪努力を爲せし賜にして、其前半生の活躍は正に世の鑑として仰ぐに足る。中部製材業界の爲めに眞摯献身的に活躍し、その貢献する所まことに多大なるものあり。氏は明治二十五年六月先考周太郎氏三男として愛知縣東加茂郡名倉村に生る。幼名を、正俊と稱し、夙に家業に從事せしが、當時規模まことに微々たる製材業に過ぎず、加之交通不便なる山間僻地のことゝて、素より機械的設備なく、舊套を墨守して尠しも將來性なく、氏深く之れを憂慮し、日夜熟慮の結果先づ交通の便利なる地方に進出し、近代的機械設備を採用して一大業陣を布かんとして、名古屋市に移住し、合名會社組織に革む。即ち名古屋市中川區西古渡町中島町に、資本金壹百萬圓を以て合名會社加周商店を創設し、製板、挽材、材木販賣部等を設け此處に陣容を整ふるに至り、偶々嚴父逝去せられるに及び、嚴父の名周太郎を襲名し正俊を改む。一度陣容整ふるや、氏の奮鬪目覺しく、材料購入に、販路擴張に、使用人指導監督に、夜を徹せる事屢々なりしが、更に倦怠を知らず、その猛進振は能く其の功を收め、業績愈々揚り、その基礎確固たるに及び更に屬翼を擴大し、昭和九年三月、資本金二十萬圓を以て、合資會社加周合板製作所を創立し自ら代表社員となり、名古屋市熱田區熱田白鳥町に於て、近代的最新設備を有する斯業界の代表的工場を設立し、ベニヤ板合板フローリング製作及び白木、山林賣買、建築請負等の業務を開始せり。二社相呼應して斯業に邁進し、加周板、加周材の通用語化して販路益々擴張せられ社業愈々殷盛を極め、今や中京同業界は勿論、中部地方一圓に亘りて信認を獲得し、加藤周太郎否加周板の名を以て中京建築材料界を風靡する景觀なり。今や氏の大望正に達せられ、產又尨大して愛知縣多額納稅者となり、その聲望業界に竝ぶ者なし。氏又多數社員從業員職工の指導に怠りなく、慈父の態度を以て部下に臨み、氏自らも故法學博士廣地千九郎氏の創始せられしモラロヂーの研究を極め、其の範を垂れて實踐躬行し、上下相一致協力して他工場に見ざる和氣藹々たる麗しき美風ありて、擧社一致精勵し、氏又屢々私費を以て社員を廣地先生の塾に送りて、之れを研磨せしめてモラロヂーの敎學を研修せしむ。現下我が國思想動搖の秋氏の行動一般事業家の鑑鑑を爲すものと云ふべし。斯の如く業界に東奔西走するの傍、又我が思想方面に對して多大の關心を有し、苟くも之れが善導に資するものは洩さず自ら研究練磨して活用する等その熱心には、深く敬慕の念禁じ能はざるなり。

（住所　名古屋市昭和區大殿町二ノ七）

精華高等女學校

帝都女子敎育界に古き歷史と內容の整備充實せるを以て、その名聲顯著なるが當校にして、當初女子獨立學校と稱し、その創立は實に明治二十二年のことに屬す。當時は一面樵林と麥畑に圍繞せられしが、現在に至りては新宿の發展を受けて街衢慾然たるものありて眞に滄桑の變を嘆ぜしむること深きものあるが、當校に於ても創立以來多大の變遷を見たり。即ち、當校は稙田成子、加藤敏子、水野峰子、米人ツルー夫人等に依りて創立せられしが、中期に至りて廢校の悲運に逢着す。然るに加藤敏子女史の薫陶を受けし勝田けい女勝田孫彌氏と相圖り、再興の爲めに八方馳驅して、明治三十五年私立精華女學校と改稱して、開費爲すを得たり。然るに交通不便の爲め生徒數も極めて尠く經營容易ならざるに依り、三十七年勝田けい女史は安樂兼道、加藤高明夫妻、淺野總一郎夫妻等の後援を以て單身米國に渡航し、女子敎育制度各般の視察をなし又米人ショーヤ夫妻、高峰讓吉夫妻、今西兼二夫妻等の贊助に依りて學校擴張資金を得て歸朝せり。之に依りて校舍の增設、內容の整備充實等行はれて、當校は大いに面目を一新し、校運隆々として物興するに至れり。明治四十一年三月文部大臣の認可を得て、私立精華高等女學校と改稱し、五ケ年制の高等女學校に四ケ年制の實科女學校を併置し、次いで同年精華幼稚園を創設す。明治四十三年財團法人となし、翌年講堂及び敎室の新築をなし超えて大正十一年鐵筋コンクリート三階建の校舍建設せられ、翌十二年本科生徒定員一千名に增加の認可を受くる等、その發展顯著なるものあり。この間牧野伸顯、安樂兼道、宇都宮金之亟氏等の熱心なる指導あり、昭和四年補習科を置き、翌年精華女子技藝學校の認可を得て夜間女學校を設け、昭和九年には一千二百名を收容なし得る大講堂を新設す。以上の如く古き歷史と新しき諸施設と且實質なる經營方針とを以て、當校の名聲愈々揚り、入學志願者大いに激增して江湖に多大の信用を博せり。昭和十一年三月末現在の當校卒業生は三千四十六名に上り、東都女學校中の明星として仰ふがる。當校々旗中の「精華」及び「精華高等女學校」の文字は、梁將東郷元帥の揮毫せられしものにして「精華」の文字は當校敎育の眞諦をなし、全校の校旗に對する尊崇甚だ深きものあり。校長勝田孫彌氏、副校長兼學監勝田けい子女史を始め、職員に人材網羅せられ、全生徒又德操の涵養、學術の研修に眞摯競ひつゝあり。

校長 勝田孫彌 氏は責性溫厚篤實にして德操堅固、その春風駘蕩たる溫容は長者の面影あり。慶應元年八月鹿兒島縣士族勝田新左衞門氏の長男として生れ、夙に鹿兒島師範學校に學び、後上京して明治法律學校に入りて法律を研修す。操觚界に於て活躍せんとして朝日新聞社に入りしが、明治二十九年に至り感ずるところありて教育に一身を傾倒せんとして韓國に學校を設立す。三十五年より精華高等女學校の經營に當り、拮据黽勉して當校を今日見るが如き、大發展をなさしめて教育界に貢獻せる所絶大たり。明治四十四年維新史料編纂官に任ぜられ從四位勳六等に敍せらる。「帝國議會要論」、「西鄕隆盛」「大久保利通」、「西鄕南洲傳」「甲東逸話」等數多の名著ありて維新研究家として令名高し。けい夫人は我國女子教育界に於ける有數の材幹にて頭腦明敏にして氣恪俊邁、多年斯界に活躍しその功績まことに赫耀たり。仁情に富みて、好んで人の爲めに斡旋し、衆庶より慈母の如くに敬重せらる。

（所在地　東京市淀橋區角筈二丁目）

鴻池組名古屋出張所所長

菊池雄三

菊池氏は鴻池組名古屋出張所々長として、土木建築請負業界に於て獅子奮迅の活躍をなし、その名聲中部地方を壓せり。幼時より頭腦縝密にして學を好み、聰敏を以て人の注目する所となる。現時に於ても事業の餘暇には研鑽相勵みて技術上の知識の攝取に意を用ひ文化の躍進に歩を合はせて進み、同業者の先頭に立ちて新機軸を出し、世人より多大の驚嘆を受くる所たり。溫厚篤實にして着實堅確、人に信賴を受くる所多大なり。業務には他事を忘れて沒頭し、黽勉砥勵、夙起晩寢、その熱烈なる努力には如何なる難事業も見事に之れを完成す。剛邁果敢その峻烈なる氣魄は人の心膽を寒からしむるものあり。强靱なる堅心は所有る障害にも挫折することなく、目的を貫徹せずんば止まざるの慨あり。溫情豊かにして抱擁性に富み、清濁併せ呑むの宏量を有し、人格高潔にして清白高朗、高義正節の士たり。氏は大正四年早稻田工手學校を卒業し、直ちに古河鑛業所足尾銅山に入る眞摯その業に精勵し、寄與貢獻する所まことに大なるものあり。大正八年に至り株式會社鴻池組に入り、孜々として職務に沒頭し、精勵恪勤して努力を傾倒す。その才幹を認められて簡拔せられ、昭和七年には名古屋出張所所長を命ぜらる。その任に着くや熱心にその業に身を投じて活躍す。氏の卓拔なる才腕と圓熟せる人格により、取引先より多大の信望を博し、事業大いに盛況に向ふ。氏が名古屋出張所に赴任して以來同出張所の事業は俄かに繁忙となり、註文相次いで殺到し、同社の發展に寄與する所多大なるものあり。人格、識見、才腕兼備にて、模範的紳士として名望甚だ高し。秋田縣菊地定五郎氏の男として明治二十七年十一月二十五日に生る。趣味に旅行園碁、釣魚等あり。

（所在地　名古屋市熱田區東町橫田）

合資會社

日本橋ホテル

ホテルは即ち文化進展によりて生れたる文化機關にして、古來傳來の旅館と自ら其の趣を異にし、繁雜なる人類活動の憩安所となり或は社交機關となり、其の用途又近代人の移動生活に必須缺くべからざる存在たるは玆に喋々するの要なきところなり。我が日本橋ホテルは大大阪の心臟部に位し、北に船場、島之内の商業中心地を控へ、南は大阪一の歡樂境道頓堀、千日前と連り、商用に見物に最適の場所にあり、近代式建築の粹を以て最近新築されたるものにして組織を合名會社となし各室共卓上電話、媛房冷房の裝置、又室内出入口には合鍵を附し、大食堂、圖書室、大應接室其の他娯樂機關も備はり、而して室料は

別室一人四圓、A室三圓、B室二圓、C室一圓五十錢の外休憩料七十五錢より一圓迄の低廉料金を以てし常に「氣樂な落ついたホテル」を信條として設備にサービスに全力を傾注したる館主岡田旬平氏の營業方針は、見事に大業近代人の心理をキャッチして、稍ともすれば大ホテルの出現は一部特殊階級のみの專用的存在たるの感を深くする秋、當ホテルの如きは正に理想的ホテルと言ふべきにして、今や江湖の愛顧絶大なると共に業績頗る盛大を謳はれつゝあり。

岡田旬平氏

代表社員館主

岡田旬平

氏は岐阜縣の人明治二十八年八月を以て生れ、青雲を抱いて上阪、昭和六年まで心齋橋筋に於て堂々たる時計商を經營たりしも、時代趨勢の推移と時機を見るに敏なる氏は一大轉換を試み、現地にホテル營業を開始して今日に至れるものにして、其卓拔の手腕と天賦の商才は僅々二ケ年にして早くも大成功を收めるに至りたるものなり。責性溫厚篤實にして才氣縱横、進取の氣象に富み、而も大局を見るの慧眼を有し堅實なる營業方針と、獨特の機略を以て邁進しつゝあり。日本橋ホテルの名と共に衆庶の信望日を逐ふて嘖々たるものあり。

（所在地　大阪市南區日本橋北詰北）

埼玉縣立

不動岡中學校

埼玉縣下最古の中學校として、將た又東武教育の殿堂として、幾多の人材を世に送り出し、光輝ある歷史を有するを不動岡中學校とす。抑々當校創立の發端は北埼玉郡立中學校縣令に依りて廢校せられるに及び、生徒の前途を憂へて岡戸勝三郎、網野長左衞門、大越榮一郎等の諸氏私立埼玉和英學校を創立す。時に明治十九年十二月なり。爾來年と共に發展し、他郡より來り學ぶもの踵を接す。明治二十七年七月文部省より認定の指令ありて校名を私立埼玉和英學校と改稱、更に三十年四月私立埼玉中學校となす。歐洲大戰後經濟恐慌の襲來は教育事業にも惡影響を及ぼすに至り、有志相會して熟議の末土地一萬坪及び金三萬圓を添へて縣へ寄附することゝなれり。大正十年四月縣立不動岡中學校と改む。創立當初川名渡一氏獨力十名の生徒を教導せしものが、現在に至りては七百有餘名の生徒と三十有餘名の職員を擁し、內容施設又完備して眞に隔世の感あり。岡戸父子、網野父子を始め地方有志の慘澹たる苦心によりて今日の如き隆盛を見るに至りたるものにして、當校傳統の教條質實剛健協同一致の精神は今日に至るまで嚴として墨守され來れり。當校には他校に見る能はざる特殊の制度、多年生徒の間に行はる。即ち、自治綱領と生徒週番制度これなり。自治綱領は自然發生的に生徒の間に生れ出でたるものにして、校內秩序竝に生徒の任務を規定し、これに基づいて各自行動し自ら自治行はれり。又生徒週番制度は五年生を若干の班に分ち、自治綱領の精神に則り種々の取締をなして校風の維持發展に當れり。又四年生以上の生徒を第一種第二種に分ち、第一種に實業に入る者を編入して特種の教育を施すことゝせり。昭和四年二月不動岡育英會を創立せられ、故大川平三郎氏を會長に、松本眞平氏を副會長に推し、學資困難なる秀才に學資を給する事とす。規模に設備に非常なる充實をなし。校舍又輪奐の美備り、校運愈々勃興す。卒業生既に三千に垂んとし、社會の發展に地方文化の伸暢に貢獻する所尠しとせず。

前校長　松村清次郎　資性温厚にして寡默謹厳、教育に對しては實に熱心なり不動岡中學校赴任以來幾多の新施設を施して縣下教育界に注目せらる。經驗豊富にして蘊蓄深し。操行端正人格高潔を以て父兄の間に信望高く眞に典型的教育家と云ふべし。過般の異動に依りて他へ榮轉せらる。

校長　石井　潔　千葉縣に於て呱々の聲を揚げ、大正四年廣島高等師範學校國漢科を卒業す。學殖該博にして品性高雅の教育家の範たるの英材たり。赴任日尚ほ淺きも既に着々として事績を揚げ信認を高めり。

（所在地　埼玉縣北埼玉郡不動岡町）

株式會社　三井銀行

當行の前身は今を去る事二百五十餘年前貞享二年二月の創始に係る、三井同族の經營三井兩替店と稱せられしが、明治九年六月資本金二百萬圓を以て、私立三井銀行を設立して三井兩替店の事業を襲承す。同業安田銀行と共に最も古き歴史を有す。同二十四年に及んで中上川彦次郎氏の大改革あり、早川千吉郎氏の下に池田成彬、米山梅吉氏等を以て陣容を固め、大いに内外の面目を革む。同二十六年に至りて組織を合名會社に革め、同三十一年資本金を五百萬圓に、同四十二年に至りて二千萬圓に増資を決行す。其後我が財界の膨脹に伴ひ、大正八年更に資本金を現在の一億圓（内拂込額六千萬圓）と爲すと共に一部株式を公募に附して株式會社に組織を變更し、財界の有力者大橋新太郎、原富太郎、岸本兼太郎の諸氏を迎へて重役の班に列せしむ。當行の特色は經營頗る派手にして機敏活潑なる事他の範たり。近代的の明朗さと快適さに於て、特異の存在を誇り海外取引額の極めて多き事と輸出業者の爲に極々便宜を附與されつつある事は周知の事實なり。尚當行の特色として擧ぐれば、内外の統制規律と資金の豊富なる點と、機敏迅速の商行爲にして此點亦他同業の隨從を許さず。一面役員の組織、行員の統一共に整然たる事殆ど他に其比を見ず、殊に完璧を期する調査部を既設して、常に經濟界に於ける諸般の調査を怠らざるは當行の業容一層の堅實味を加ふるものと謂ふべし、今や當行は同系三井物産株式會社と共に世界各國に其屬翼を伸張し、偉力の絶大、信用の重厚筆舌に絶するものあり。然も中心は依然三井家に存し、其偉大なる背景と相俟ちて傳統的堅實方針の下に益々向上發展しつゝあり。昭和十二年六月末現在の總預金高は實に九億四百三十五萬圓に達し、コール・ローンを除きたる資金は五億二千百八十五萬を計上し前期末に比し、預金に於て四千七百四十二萬圓、貸金に於て一千三百十六萬圓を夫々増加し、外國爲替買入手形七千四百三十六萬圓にして前期末と大差なく、所有々價證券三億五百三十九萬圓にして前期末に比し、一千七百十八萬圓を減少せり。而して同期決算は證券關係利益の減少ありたるも、資金需要の繁忙に因り、引續き好調の成績を擧げつゝあり。

堅陣無双を誇る重役陣左の如し。

取締役會長常務取締役万代順四郎　常務取締役小池正彪　常務取締役松田暢　常務取締役乳井龍雄　取締役男爵三井高精　取締役井坂孝　取締役原邦造　取締役金子堅次郎　取締役松井和宗　取締役林原兼賢　常任監査役外山知三　常任監査役森忠雄　監査役大橋新太郎　監査役三井高長

取締役會長常務取締役　万代順四郎　氏は岡山縣万代八郎氏の二男として明治十六年六月同縣に呱々の聲を擧げ、大正十二年家督相續す。青山學院高等部を優秀なる成績を以て卒業後直ちに三井銀行に入る。資性剛腹篤實にして才氣煥發、幾何もなく其手腕を認められて斯業の實務を研究の爲、英國に出張を命ぜられ、大正十三年歸朝直ちに名古屋支店長に

榮進し、次で大阪支店長として名探題の名を爲し、昭和八年十月拔擢されて常務取締役に推擧され、同十二年三月に及んで菊本前會長の後を襲ひて會長兼常務取締役に就任し、以て今日に及ぶ。氏はその傍ら三井財閥を代表して昭和銀行取締役たり。

常務取締役　小池正彪　男爵小池正晃氏の令弟。明治十八年十月故男爵陸軍軍醫總監小池正直氏の二男として出生。同四十二年分れて一家を創立す。同年東京帝大法科政治科を卒へ、直ちに三井銀行に入行京都支店、本店に恪勤して漸次その敏腕を現はし、大正七年英國に出張し、同八年歸朝後紐育支店長本店外國營業部長、外國課長、取締役を經て麾に拔擢されて、常務取締役となり今日に至る。氏天性頭腦精緻加ふるに先考の嚴格なる薫陶宜敷く遂に今日の地位を獲得す。

常務取締役　松田　暢　氏は明治十年九月、愛知縣士族松田知一氏の長男として同縣に出生。同三十九年祖父將遺翁の跡を承け、家督を相續す。長じて笈を帝都に負ひ、同四十三年慶應義塾理財科を優秀の成績を以て卒業し、後三井銀行に入り夙に頭才を謳はれ、翌年大正十三年歐米各國へ出張を命ぜられ、翌年歸朝後丸之内、横濱各支店長に就任し、昭和七年七月に至りて神戸支店長となり。次で京都支店長を經て、同十二年三月拔擢されて常務取締役となり現在に及ぶ。

常務取締役　乳井龍雄　氏は明治十二年三月青森縣士族乳井文三郎の長男として誕生す。當家は代々津輕藩士にして藩功顯著なる家柄なり。長じて大正七年家督を相續、同三十七年慶應義塾理財科を卒業、同四十二年三井銀行に入り、勤直と努力を以て着々其地位を築き、本店營業部次長を經て文書課長として名を爲す。昭和八年常任監査役に榮進せしが、同九年一月三井鑛山常任監査役に轉じ、益々その才腕を發揮して、昭和十二年三月再び三井銀行に轉じ、常務取締役に就任す。悉知の通り萬代會長其他の常務取締役諸氏は何れも氏の後輩なるも、三井合名會社の鄭謂に依ると言ひ乍らも、素直に歸行せしことは氏の人格の圓滑を物語るものとして敬服に値するに充分なり。

（所在地　東京市日本橋區室町二丁目）

新興人絹株式會社

全世界に壓倒的發展を爲せる我が人絹工業の歴史の第一頁を飾り、且つ斯業界の指導的存在にして、新興人絹株式會社の發達史は之れ即ち我國人絹工業の發達史と稱するも敢而溢美に非ざるべし。

當社は昭和八年九月、關西綿業界の重鎮たる河崎助太郎、賀集益藏氏等發起主唱の下に近代的新興繊維工業界の寵兒たる人絹專門生産並に紡績を目的として、資本金一千萬圓、内拂込額二百五十萬圓を以て設立されたるが現時五百萬圓拂込濟と爲せり。其事業規模を見るに大竹工場は廣袤二十一萬二千坪の地に偉容を誇る六千八百坪の工場は我が人絹工業最高の殿堂にして、今やその生産能力は日産五十瓲を擧ぐるに至れり。一方岐阜紡績工場は三萬三千坪の地に六千七百五十坪の整備せる工場を有し、精紡機三萬二百四十錘、撚糸機八千八百錘を擁し、日産五十萬封度を計上せるが、更に精紡機三萬錘の完成も目捷に迫れり。此の擴張後の精紡機六萬錘は未だ數に於て論ずべきに非ずと雖も、綿紡と異り、その運營に制限なく、しかも資金調整法に依り今後擴張不可能とすれば、この増錘完成こそは當社の最も强味とならん。當社は設立以來終始一貫研究努力の結果、人絹工業の先覺として技術の優秀に名聲を博しつゝあるが、何分新興事業のため當初より採算のとれる迄には容易ならざりしが、拮据經營は克く成果を齎し十一年下期決算に於て、年六分の初配當

を行ひ、更に十二年上期には八分配當、利益率二割六分二厘、同年下期は八分配當を踏襲し、利益率二割二分四厘を擧げたり。而して今期は人纖擴張に依りて約六割の增産を見込まれ一千百萬封度内外に達するものと思料せられ、この利益金一百十萬圓程度とならん。尙紡績は今期は尙在來設備の三萬餘錘なればこの利益二十五萬圓内外となる。兩者合計百三十五萬圓に達せん。その利益率三割五六分を擧げん。周知の如く政府は人纖の將來發達を奬勵し、大規模なるパルプ國産の計畫を既に樹立し、準備に萬全を期しつゝあり。棉花輸入制限を目標の人纖奬勵こそは徹底的なるものあり。しかも一面に於ては其生産に、原料により統制方針を堅持せり。隨而市價は安定し、消化と同時に其利潤も大體保證される態容にあれば、當社はその有するところの技術の優秀と、生産費低下の實を一段昂揚するに拍車をかけ、將來益々「人纖報國」專門生産の偉力を發揮せん。因に重役陣容を觀るに社長河崎助太郎　常務賀集益藏　取締役加美好男　同伊藤竹之助　同藤井松四郎　同津田榮太郎　同青木留次郎　同中原省三　監査役橋本十五郎　同福本養之助　同河崎省三の諸氏にして何れも斯界の俊傑なり。

取締役社長　河崎助太郎　若冠にして身を綿業界に投じ、進取敢然の精神力と、天分の事業界力量を驅使して、着々其地歩を築き、今や本邦斯業界の元老的存在として欽仰せられ、また出でては政界に多年飛躍して、その輝ける存在を謳はるゝ堂々たる異材たり。明治六年一月、河崎喜久夫翁の長子として岐阜縣に生誕。夙に神戸私立英學校に學を修む。若年にして實業界に入り、殊に我が綿業界に多大の貢献を爲せるは周く知るところ。資質清高至純にして威望赫々たり。曩に大阪綿物同業組合長、日本輸出綿織物聯合會大阪支部長、大阪商業會議所議員たり。尙岐阜縣民の輿望を擔ひて衆議院議員たること四回、岐阜商工會議所會頭に推戴されて桑梓の斯業界發展に鑽骨す。現に當社を統帥して纖維工業日本の進展に盡瘁する傍ら、日本整毛工業、共同毛糸紡績、朝日毛糸紡績、東洋毛糸紡績、大阪土地各取締役社長、日華紡績、東華紡績各取締役、島津製作所監査役其他數社の重役を兼任し、日本綿業倶樂部理事に推され、大府多額納税者たり。

（所在地　大阪市東區今橋四丁目）

賀田組社長

賀田　以武

賀田組取締役社長、加田組合資會社代表社員たる外朝日組、臺東開拓、臺灣製樟、朝鮮生絲、永同鑛業、帝都座各取締役及朝鮮勤農信託、朝鮮精米各監査役其の他數社の重役として敏腕夙に高く、我が事業界に其の特異の存在を知られたる氏は、先代金三郎氏の長子たり。先代は夙に三井物産會社に入り、多年臺灣に勤務し、後獨立して各種事業を經營す。即ち土木建築請負業を始め　或は沼津瓦斯會社々長、臺灣日日新聞社專務取締役、國際活映社長等に擧げられ、實業界に聲名を馳せたる俊傑たり。氏は其の後を承けたるものにして、明治二十七年三月を以て愛媛縣に生れ、夙に早稲田大學商科に學び、後ち前記各會社の重役に就任、以て今日に及びたるものなり、曩に東洋硫黄社長たり。昭和三年には紺綬褒章飾版を下賜され、臺灣倶樂部員として我が植民地實業界に錚々たる存在を以て知らる。

資性、大膽にして細心、親分肌を多分に藏し、極めて物事の理解に富み、又事に處して熱血を注ぎ、自己の信じたるこゝは飽くまで之を貫徹せずんばやまざる意地に燃ゆると雖も、飽く迄利慾に恬淡にして、國家社會を念として、一意奉公の實を擧げんとする士にて世上に見る單なる營利主義的重役の到底躬行し得ざるものあり、氏は賀田組の主班として我が鑛山業界にも異數の存在として著聞し、

今や斯業界にも驥足を暢長しつゝあるは、周く知るところなり。氏は又學生時代より萬能選手の異名あり、野球、庭球、トラック、フキールド、水泳等々其の行くとして可成らざるなく、明朗なるスポーツマン精神の所有者にして、スポーツ精神が現事業に反映し、渾然たる社風あるを窺知せらるべし。

（住所　東京市淀谷區大向通二）

會株式社

寺内製作所

國防の近代化の爲めに各國共に全力を傾注して之れが達成に邁進しつゝあるが、各種の國防施設は、現代科學の粹を盡くし、幾多の兵器は人智の限りを盡くして之が威力を增强せられ、來るべき戰爭はまさに科學と科學の抗爭といふも過言に非らざるべし。當社は各種兵器の部分品を製作し、その製品は頗る精巧を極めて我が國防上に寄與する所多く、設備の完備せると規模の宏壯なることは又關西事業界に名聲顯然なるものあり。その創業は大正二年にして精密螺子類、電氣器具附屬品船舶艦艇艤裝金物の製作をなせしが、製品の優良なる所より名聲一時に揚り、需要日を逐ひて著增せり。事業年と共に躍進し、大正九年には京都深草墨染に新工場を建設して生産設備の大擴張を爲せり。從業員を督勵して技術の研磨に力を盡し、更に設備の改善に意を注ぎしに依り、品質愈々向上して絶大なる聲價を博し、註文多大の增進を見ることゝなれり。昭和四年六月京都市伏見區深草芳水町に工場を新築移轉し、今日見るが如き赫耀たる盛況の礎石を築きたり。近年時局の重大化と共に、事業俄然大活況を現出し、昭和八年には株式會社に改組して、事業に大刷新を加へ設備の大擴張を行へり。現時資本金五十萬圓（全額拂込濟）にして、工場敷地三千二百九十七坪、建物總坪數一千一百二十坪に上り、職員職工總數四百五十名を算し、最新式の新鋭設備を擁して斯界に堂々の業陣を布けり。近年の大活況に依りて、每期多大の好成績を擧げ、社業更に一大飛躍を達成しつゝあり。當社の經營方針の堅實にして、技術の秀拔なる業界周知の事實なるが、最近當社に着目したる某々二大財閥との資本及び技術的提携成り今回新らたに航空機製作に積極的に進出することゝなりたり。最初は專ら部分品の製作を行ひ、漸次に最終の目的に進まんとするの方針なりといふ。これが爲めに一擧二百萬圓に增資し、前期二大財閥の資本參加す。右二大財閥の中の一は現在我國屈指の重工業を經營し、就中電氣機械の製作並びに輕金屬の製造に就いては我國斯界の最高峰と仰ふがれ、これ等の技術並びに資本の提携を見るに至りたるを以て、當社の新規事業の將來性まことに洋々たるものありといふべし。當社は多年に亘り部分品製作に依りて練磨せる優秀技術を有せるが、過般吳海軍工廠より水上偵察機一臺の拂下げを受け、鋭意これが研究を行ひて貴重なる成果を得たりといふ。愼重なる用意と充分なる準備を整へて、本社工場の隣接地に千九百坪の土地を入手して、最新設備を備へる一大工場を建設せり。陸海軍の特別の支援と二大財閥の背景あるを以て、當社の前途こそ、劃期的一大發展を遂ぐるに至らん。創業以來各種の兵器部分品の製作に多大の苦心を注ぎ、幾多の犧牲を甘受して、これが改良に盡瘁して我が國防上に沒すべからざる貢献を爲し、夙に陸海軍の指定工場となれり。昭和十年一月軍艦八雲、淺間に御乘艦遊ばされたる伏見宮博義王殿下並びに朝香宮正彦王殿下御二方、當社に御來臨の榮を賜り、多大の面目を施せり。

社長　寺内梅次郎　資性卒直豪放たると共に素志又頗る堅確を以て、京都實業界に知らるゝが寺内氏にして、寺内製作所創業以來幾多の辛酸を嘗めて、經營に一身を傾倒し、巨腕を揮ひて遂に現時見るが如き發展を達成するに至れり。氣恬俊邁にして心性清高、常

に一身の利害得失を顧みず、國家社會の爲めに寄與せんことを念じ、多大の犧牲を甘受して、國防上盡瘁せる所傾少ならざるなり。名利に淡然たる高義清節の士にして、從業員を我子の如くに愛し、從業員より師父の如くに崇敬せらる。明治十九年九月京都府西野忠太郎氏の長男として生る。

（所在地　京都市伏見區深草芳水町）

名工　酒井田柿右衛門

その名聲一世を風靡し、技巧正に神技の稱あり、神品は後世まで嘆賞せしめつゝある、名工柿右衛門師の末裔十二代、現酒井田柿右衛門氏亦先祖を恥かしめざるの陶工界の權威者として、斯界に重きをなせり。

抑々名工柿右衛門師の窯は伊萬里より三里隔れたる今時の曲川村部落の南川原に存し、現十二代に至るまで、窯煙濛々未だ曾て一日たりとも絶へず。元和三年（紀元二千二百七十三年）筑前の國承天寺住職某各地を歴遊し、喜右衛門（後の柿右衛門）の父圓西を訪ひ、滯在數日に及びしが、その間大いに親交を結ぶことゝなれり。後住職より豊公の臣高原五郎七なるもの製陶術に熟練せることを報じ來れるに依り、圓西、喜右衛門をして遠く、攝、阪に五郎七を訪ねしめ、之れを嗣し傳授を受けしめたり。喜右衛門弱冠なりと雖業を勵み孜々營々倦むことなく、熱烈之れが研究をなし、遂に白手燒の成功を見るに至れり。後年喜右衛門、名工柿右衛門として知らるゝに至りしは此處に胚胎せるなり。喜右衛門は自己の研究になる、白手燒磁器の純白、雪を欺く如き素地を見て之れに錦繪の模樣を描出せんとするの希望卒然として起り、遂に彼をして

酒井田柿右衛門氏

熟したる柿の自然色に傾倒せしむるに至り、一意專念心身を錦彩製出より離さず、或は長崎に支那人を訪ひ、或は斯業の專門家に質す等、百方苦心し、これが爲めに遂に家を傾け産を失ひ、家族を餓しむに至り、友人之れを狂人と呼び親戚之れを痴愚と稱し取引商、出入人も、夢右衛門と罵り、相手にたさず。數ある雇人亦三々五々去りて最後には僅々數人の雜役を殘すのみに至るも、更に悠然頓着なく不屈不撓、燒きては碎き、碎きては更に燒き、二十年一日の如く一身を斯業に同化し能くその目的を達成し玆に、柿右衛門と改め鍋島藩の御用燒を仰付らるに至れり。柿右衛門燒は世界に於ける斯界の發明の權威として、我が國の誇りとする處なるも、柿右衛門以後に柿右衛門なきことは又實に我が國同業者の注目を要することなり。

柿右衛門は斯くして初代より今日に至る迄歴代内外にその聲價を發揮し、その製品は實用となり、參考となり、現代に至りしものなり。而して現十二代柿右衛門氏は夙に工業學校に學び、熱心に研修に努めたるを以て、斯業に關する造詣深く蘊蓄又該博たり。而かも人格清廉潔白にして還恭謹恪を以て業界に信望甚だ高し。氏の作品亦多大の好評を博せり尚ほ長男澁雄、次男貞治二氏何れも有田工業學校を卒へ、現十二代柿右衛門氏を助けて一家協力斯業に精進せるは、蓋し父祖の榮譽を恥しめざるものといふべし。

（住所　佐賀縣西松浦郡曲川村）

東北興業株式會社

東北地方振興の原動機關として、東北興業並に東北振興電氣の二會社が、昭和十一年十一月設立さる。前者は東北振興の重要國策遂

行の一端として「各種産業に亘りて統一的方針の下に資源の開發利用の途を講じ、以て政府の振興諸施設と相俟つて同地方に於ける殖産興業を圖る」資本金三千萬圓の會社にして後者は産業の開發と經濟の振興とを期せんが爲に、未開發水力の極めて豊富なる東北地方に「有利なる水力地點を開發し、低廉豊富なる電力を供給し以て東北振興に寄與せんとす」之れ亦資本金三千萬圓の會社にて、何れも第三營業年度迄は年四分、第四營業年度以降は十年乃至十五營業年度迄は六分の配當を政府に於て保證する半民半官の特殊會社なり而してその株式も前者六十萬株の中五十萬株を東北六縣に於て引受られ、後者六十萬株は前者に於て之を引受け居れば事實上は同身一體、正に親子の關係に在り。

東北興業が現に着手し、又は將來着手せんとする事業を大別すれば、根幹事業、助成事業と爲す。前者は東北地方の重要資源を開發し近代工業を樹立し、或は又國策會社たる使命に鑑み、國家の存立上必要と認めらるゝ重要産業を經營せんとする事業なり。從前根幹事業は何れも將來當社の主たる收益の源泉を爲すものにして、現在着手中のもの及び近き將來に於て着手せんとするものを演繹逐すれば左の如し。

水産資源開發事業　東北水産振興の見地より水産業の合理的經營を行ひ、系統的且つ綜合的振興の實を擧ぐべく、第一着手として昭和十二年六月傍系東北振興水産會社（資本金五千萬圓半額拂込）を設立し、當社は同社株を約七割を所有し、本社を仙臺市に支店を八戸市に置き、當社より會長、監査役、支配人各一名宛を出し、發動機附木造漁船五隻は既に就航し、來る三月末の決算期迄には十二萬圓内外の水揚を目標とせり。尚水産物製造加工業の陸上設備をも含む第二次事業に就ても、目下實行計畫を立案中なり。

鉱山資源開發事業　東北地方は未開發鑛山頗る多く産金の奬勵、金屬鑛山、硫化鐵鑛、石炭油田の開發等は現下の國情國策に鑑みて極めて有意義なる事業なり。されば當社は之等鑛山の開發、採鑛等に着手すると共に一方共同製煉所の設置をも計畫し、既に實地調査を爲したるもの三千餘件に達し、其内有望なるものは現に審議中なり。尚砂鐵は商工省補助金十萬圓を以て東北帝大と協力砂鐵製煉の中間工業試驗を行ひつゝあり。

肥料製造事業　石灰窒素及銑鐵製造工業を急遠に實施する爲、特に低廉なる電力と經驗深き優秀なる技術必要なるが、幸に電氣化學工業會社と提携して有利なる條件を利用出來る實情にある故に同社と共同資本金一千萬圓の斯業會社を設立し、當社より資本の五割を出資し、重役をも參加せしむる趣にて新會社に於ては岩手縣和賀川發電を利用、石灰窒素三萬瓲低燐銑五千瓲の製造計畫あり。一方硫安肥料製造工業に直接關係を有する合成アンモニア製造工業は、一面近代化學工業の一基礎を爲すものにして之に依りて曹達灰、アンモニア、パルプ、火藥、セルロイド、爆藥等の製造に展開せしむべく、將來當社が企圖する各種工業とも密接不離の關係を有す。故に本事業は政府の計畫案通り、昭和十四年度に成立する豫定なるが、既に着々準備進行し、所要資金は八百萬圓内外、事業當初の規模は年産額五萬瓲の豫定なり。

人造石油製造事業　東北地方産業開發の一基礎として低廉なる燃料の供給事業を擧ぐるべき要望されつゝあり。本問題は只に大工業のみでなく、中小工業、農山漁村の共同作業場にも甚大なる關係あり、由來當地方は良質の瀝青炭に惠まれず、殆ど全部が劣質なる亞炭のみなり、從て當社は此亞炭を利用低廉なる燃料を供給するため亞炭乾溜事業に着手を計畫、目下製品處分共他の企業條件を調査し、且つ亞炭田の調査を實施しつゝあり。

アルミニウム製造工業　本業は國防工業の進展と東北地方工業の振興を目的とするものにして、尤も必要なる電力は主として東北振興電力會社の阿武隈川の電力を利用し、アルミ

ニウムを生産する豫定、所要資金は約一千萬圓あ見込にて日滿アルミニウム會社と提携し之を行ふに決定し、各年數宛の出資を以て新會社を設立の豫定あり。

食鹽電解及び硬化油工業　當社の採用するアルミニウム製法は、鹽素を必要とする爲將來鹽電解により鹽素を製造する場合には、副生する水素及苛性曹達の中、水素は魚油の硬化に用ひ、苛性曹達は人絹製造の必需品として賣捌くべく見込まる。尙餘剩の鹽素を以て晒粉合成鹽酸等の製造を行ひ養蠶及び畜産にも寄與せんとす。

パルプ製造工業　東北地方に於ける森林資源殊に從來餘り顧みられざりし濶葉樹の利用開發を企圖し、主としてステープル・フアイバーの原料パルプ製造事業經營の目的を以て新會社を組織する計畫なり。

尙助成事業には既に東北各地方に於て、充分研究を遂げ着々進行し、若くは更に資力、技術を加へて一層效果的ならしむべきものあり。之等事業中には當社が直營するもの他の事業者と合同にて行ふもの、或は僅かなる出資以て單に助成する性質のもの等種々あり。左に摘錄すれば先づ

製糸業　宮城縣下農村更生の一對策として產繭消化機關の擴充を圖る目的の下に、同縣下官私一體となりて、昨年五月資本金百廿萬圓、拂込濟の宮城縣是共榮蠶糸株式會社を設立し、既設の片倉製糸紡績仙臺製糸所を卅五萬にて買收。當社は同社設立の趣旨に贊同五千株（拂込十萬圓）を引受け、理事一名は同社監査役に就任す。

物產販賣斡旋事業　東北地方の各種物產、農村工業品は逐年數量を增加し、共販賣方法、販路擴張等につき更に一層の連絡統制を圖るを目標として當社は各縣關係者と協議し、昨年五月東北物產斡旋所を設置し、東北各縣販賣斡旋所等と常に連絡協調を保ち、着々實績を擧げ居れり。尙滿洲方面へも進出し將來に產業組合方面其他と共に提携して、相當の資本を以て獨立の販賣會社を設立の意嚮あり。

水產關係事業　東北の水產資源を開發する爲には、遠洋漁業の指導を必要とし、當社はその實情と關係各縣の要望に從ひ、約六十五萬圓の豫算を以て秋田、山形、福島三縣に各鐵船一隻宛を岩手縣に木船二隻を貸付けるに決定す。尙養鰒設備の貸付に就ては、秋田縣八郎潟に三萬圓の豫算にて鰒の養殖場を設備し同縣船越漁業組合に縣保證の下に本設備を貸付くるに決定。

畜產關係事業　鐘紡寄贈の緬羊百四頭を宮城縣下四綱羊組合に貸付けたり。尙アンゴラ兎百頭を本年度は山形縣に、無償交付す。而して岩手、福島兩縣に各々百二頭宛乳牛を貸付くるに決定せり。

アルコール製造事業　政府のアルコール專賣事業實施に伴ひ、當社は早速本事業に着手に決定。本事業は馬鈴薯、甘藷、菊芋等を原料とする爲に開墾の奬勵、畑地の利用等各方面より見て頗る有意義なる事業なり。初年度は先づ原料關係より靑森縣下に約二百萬圓の豫算を以て、能力約二萬石の工場を建設し、原料確保の見込立てば、十三年度以降、更に共設備を擴張し、又他地方にも工場を設置する方針なり。

米糠搾取油事業　東北地方の米糠約六十萬石は、從來大部分原形の儘處分されつゝあるが之を搾油して油と粕を製造販賣する方が有利なる爲、地方の要望と原料の集散關係を考へ取敢ず秋田、弘前兩市に資本金十萬圓の油脂會社を設立に決定、既に秋田、弘前兩油脂工業會社とも拂込を完了、業務を開始す。當社の引受株は三千五百株（一株二十圓拂込濟）引受金七萬圓なり。

鑛山機械、鐵工業　株式會社岩手鐵工所設立資本金二十五萬圓にて、當社の引受金額二萬五千圓あり。秋田工業株式會社資本金五十萬圓の設立決定、當社の引受株は二十五萬圓なり。

毛織物工業　既にニツポン絨氈製造所を買收資本金十萬圓を以て新會社を設立す。

製氷冷凍事業＝宮城縣渡波製氷冷凍冷藏株式會社（資本金十萬圓）を設立、當社は三萬圓を出資せり。

船舶及漁船用發動機製作業　三陸汽船會社の主宰する船渠を買收し、資本金三十萬圓の見込にて新に船渠鐵工會社を設立、船舶修繕、發動機製造、修理、其他鐵工業を經營せんとす。

尙農具製作機械製作、製粉、硝子製造、燃料供給、甜菜栽培等は現に調査研究中なり。

當社の陣容　總裁八田嘉明　副總裁金森太郎　理事兼事業部長兼査業部長田坂一郎　理事兼經理部長椎野與七　理事兼庶務部長藤澤進　監事二瓶貞夫　同山下太郎　主事戸田吉課長は秘書首藤英二　文書山內武夫　主計峰谷洲平　調査馬杉遞　東京支店庶務村松市作

（本社所在地　仙臺市勾當臺通）

（東京支店所在地　麴町區）

中山太陽堂

世界的に飛躍しつゝある本邦商品の一方の雄として、化粧品も復た誇るべき日本の近代科學工業が生みし輝かしき存在と謂ふを得べし。而してその功績と名譽は一にかゝりて、東洋の化粧品王クラブ化粧品本舗中山太陽堂の上に燦然たるものあり。由來中山太陽堂が各種のクラブ化粧品製造を創始せる目的は當初船來萬能の時代に輸入化粧品を防遏して、優良なる國產品の聲價を確立することに依りて進んで海外に飛躍せんとするに在り。これクラブ化粧品創業以來三十餘年の終始一貫、以て渝らざる大精神たると共に、努力精進の大目標にして店是なりき。近年新興滿洲方面は勿論ジヤバ、フイリツピン、南洋、印度、シヤム等の方面を溫床とする販路と地盤を築き上げ、更にカナグ、中南米への進出は、從來絕對的獨占的なりし、歐米化粧品の一流有名品と優に相伍して、着々邦品の盛名を馳せ今やクラブ化粧品は名實供に世界的地位を獲得せんとしつゝあり。正に太陽堂三十年の目的が、斯くて爰に具體化するに至れり。當店の製品は周知の如く總括的には化粧品にして各種のクラブ白粉、カテイ洗粉、クラブ石鹼、カテイ石鹼、クラブ美身クリーム、クラブ齒磨の主力商品を始めとしてクラブビシンクラブクリーム白粉、クラブ化粧水、クラブ美身液、クラブ乳液、クラブゼリー、クラブワイス、クラブ、パニシンクリーム、クラブコールドクリーム、クラブマツセークリーム、クラブポマード、クラブチツク、クラブヘヤートニツク、クラブキニーネ、クラブベーラム、クラブ香油、クラブ口紅、クラブ頬紅、クラブつぼみ、クラブ美の素、クラブ香水、クラブ齒刷子等、其他實に百二十餘種類に及ぶ。何れも日本化粧品として一流にして、商品外容の體裁に於ても悠に歐米品と海外市場に名聲を競ふに足る堂々の現狀なるが、就中中南米方面に特に好評を博し、將來益々大なる勢力を約束附けられつゝあるものはクラブ齒磨、クラブはき白粉、クラブクリーム、クラブポマード並にクラブ口紅等あり。之等多數の製品が、かの產業合理化運動の先達として名を馳する中山太一氏が、大量生產、良品廉價をモツトーとして經營せる東洋一の大工場に於て製造さるゝ盛況振りと、日に繁激を加ふる出荷運搬の多忙狀況は是非共見學の要ある偉觀たり。

經營者　中山　太一　其名は今や全國的に著聞す。氏は化粧品界に於ける近代的工場を建設せる先覺なり。其意味に於て我が國化粧品近代化の隨一功勞者と稱すべし。氏は明治十四年十一月中山小三郎の長男として山口縣豐浦郡瀧部の聚落に出生す。十九歲にして丁稚奉公に出で、二十三歲にして神戸に於て化粧雜貨卸商中山太陽堂を創立す。氏の常鱗に非ざること推して知るべし。而して氏は常に研究を怠らず終始一貫『損をして、絕對優良』品をモツトーとして精勵し、夙に中山化學研究所、中山文化研究所の設立せしも、その精

神に胚胎せり。一面氏は熱心なる佛教信者にして氏の仕事に對する熱も畢竟この眞摯なる信仰心に發足せるものなり。

中山太陽堂の年生產額は、悠に一千萬圓を突發すると聞く。裸一貫より一代にして數百萬の財を築きたる氏の奮闘振りは、蓋し長府の巨人桂彌一翁並に亦父嘉平翁の薫陶に依るや必せり。今や關西財界の代表的人物として讃嘆され當社綜統の傍ら、大阪商工會議所副會頭、大阪實業組合聯合會々長、ブラトン取締役社長其他數十の公共團體の幹部に推擧され威望這譽並びて隆々たり。

（所在地　大阪市浪速區水崎町四〇）

茨木屋主人　永井四郎三郎

守成の難きは猶ほ創業の如し。況はんや盛衰常なき業界變遷の間に處し、連綿由緒を誇る老舗の家運を益々隆盛ならしめんとするは努力苦心の亦た容易ならざるものあらん。我が茨木屋主人永井四郎三郎氏の如き、人材素より凡庸に非らずと雖も、祖業を襲承して些も失墜せしめず、却て一段たる光彩を添えしめたるは、寔に偉とすべく、而かも敬神崇祖の念頗る厚く、居常至誠一貫、克く衷心の丹心を披瀝して、世道人心の善導誘掖に努め、其の功績赫々たるに至りては、正に當代稀有の人物として世の鑑識と稱すべく、蓋し衆輿の尊敬信賴を聚め、令名嘖々たるも當然の歸趨なり。抑も當家は屋號を茨木屋と稱し、元祿年間新町遊廓創始と共に開業し、爾來星霜を閲すること實に二百數十年、連綿たる家歴を有し、由緒深き傳統を謳はれ、殊に德川中期に於ける風俗史、又は遊女街關係書に其名屢々現はれ、或は近松門左衞門作「傾城酒呑童子」、「傾城謚門出」、紀海音作「山桝太夫吉原雀」、「椀久末松山」、八文字屋自笑作「傾城竈將軍」等其他の戯曲を始め「けいせい遊山櫻」「けいせい奉陽鴨」等の歌舞伎に因りて家名顯然たり。氏は即ち當花街隨一の春櫻茨木屋十四代目の當主、明治二十六年五月三十一日を以て先代四郎三郎氏長男に生れ、昭和九年父君長逝さるゝや、前名三郎改め襲名し、以て家督を相續今日に至れり。夙に大阪商業學校に學び、蓋雪の功を積みて卒業後、孜々として家業に精勵、其の新鋭溌剌たる氣慨と卓犖不羈なる手腕は相俟ちて、業界の刷新向上に處して着々實績を擧げ、更に御大典を記念して「キヤバレー茨木」を開設、以て當市キヤバレー業の先驅をなせる處、新奇を好む都人士の絶讃好評を博し、當時連日連夜滿員の盛況を呈せるも、時未だ尙早なりしか、湧くが如き人氣も忽然終熄し、遂に閉店廢業の己むなきに至りしは、寔に惜しむべし。而して一方家業貸座敷業を營みては、決然舊來の陋習を打開、代ふるに明朗新鮮にして藝娼妓の人格向上、家庭の利福增進を旨とせる經營方針を確立し、茨木屋藝妓養成所を主宰、其の後見として只管斯界の淨化に努め、殊に、我が國民道德の根元精神たる敬神崇祖の美風を顯揚し、當時不斷に之を鼓吹、以て多數子女は勿論、其の家族間に眞の幸福を招來せしめんと盡瘁を怠らず、更に亦た廢娼論に衷心贊成せるも、單に皮相一片の所謂、世の提唱者と全然所論を異にし、妓娼發生の根本原因たる家庭の不幸を除却するに非らずんば、眞に廢娼の目的達し難しとの信念下に、眞摯熱誠、克く目的貫徹に邁進し、或は現在娼妓たる子女に對しては銳意專心、將來善良なる一家の主婦たるべき素養を習得せしむる等、常に献身的努力を以て實踐躬行に移し、其の實績昭々たる處、正に稀觀の人格者と云はずして何ぞ。而かも亦た自ら率先して祖先崇拜の實を示し、即ち兵庫縣印南郡的形村福泊所在八家子持地藏尊を納堂供養し、電燈三百ワットを寄進、功德勸請するの美擧あり。爾來附近瀬戸内海上漁撈に從事せる多數漁夫は、之を燈臺代用となして利用、以て其の恩澤に浴し居れり。或は名刹四天王寺愛染堂勝鬘院の信徒總代として貢献寄與する處多く、能く先

考の遺志を完うするのみならず。嘗ては佛寺研究の至念を抱きて敢然臺灣、香港、上海等に遊歴せしこと數回、斯くて躬行以て體得せる佛陀の慈悲眞境を說き、社會教化の大念願を堅持して挺身奔走を續け、更に多年研究せる蘊蓄を小冊子に披瀝し、一意社會善導の具たらしめんと、時折發行之を無料配布なす等其の功績實に枚擧するに遑あらず。因みに趣味を能樂に有し、殊に觀世流謠曲の達人として永井三郎の藝名斯界に現はれりと聞く。資性明朗にして闊達、而かも溫情流露として童子も親しみ、其の瀟洒たる風貌に閃々近代的理智の光芒發し、人格圓滿、識見豐富、正に當地花街の一大異彩たるを失はず、亦た以て典型的紳士と稱すべきなり。而かも其の斯界に献替せる功業偉大なる、寔に氏に依りて茨木屋の聲價更に高揚さるると云ふべきならん。

因に家庭には母堂小糸刀自健在にして、令閨千代子夫人と共に孝養を盡し、其間長女千枝子孃（大正十五年生）を擧げ一家團欒たること近隣羨望の的たり。

（住所　大阪市西區新町南通二ノ二）

大阪瓦斯株式會社

其の鵬翼下の營業地盤に惠まれ、副産物處理法實に進歩的たるを誇り、而かも背後に新興野村財閥を擁し、今や威望愈々隆々たり。當社は過ぐる明治三十年四月、資本金三十五萬圓を以て創立せられ、爾後增資合併を累ねて、現資本金五千一百萬圓（内拂込四千二百五十萬圓）を擁するに至れり。而して當社の營業科目は石炭瓦斯及其副産物製造並販賣にして、供給區域は淀川以南の大阪全市並に北河内郡四町十三村、中河内郡五町十二村、南河内郡一町一村に跨る廣汎なる頗る良好地域を占む。創立以來好調を持續し、近年一割配當を堅持餘裕綽々たる業績を擧げつゝあり。今當社最近の業況の全貌を、昭和十二年下期決算上に觀るに、當期利益金三百九十四萬五千餘圓、利益率一割八分五厘の好成績にて、前年同期に比し金額にて七萬七千圓、益率にて四厘の向上を示し、之れより同定資産償却百二十萬圓（二十二ヶ年償却）及び市補償金十三萬八千圓を差引き純益金二百六十一萬一千圓を計上し、株主配當一割を踏襲せり。次に營業主體の瓦斯供給並に副産物生産を瞥見するに岩崎、舍密工場の豫備の改善充實に、瓦斯發生能力は一晝夜五十萬七千立方米にして、一日平均製造量四十二萬立方米内外を示現せり。需要戸數は四十二萬戸内外にて、之を十年上期の三十七萬戸に比すれば、實に五萬戸の增加、前年同期の四十萬戸よりも二萬戸の增加を示し、販賣量に於ても家庭の小口需要增加の他、軍需工業、化學工業の繁忙に依る大口需要の好調に一戸當りの消費量も漸增を辿り、下期瓦斯販賣總量は七千三百九十五萬立方米にて、前年同期より四百七十八萬立方米增の好成績に當れり。亦副産物コークス、コールタール並に硫安等の生産高に於ても漸增頗る顯著たり。即ち當期コールタール八百萬立、コークス十二萬五千トン内外を示し、近年副産物の收入は、當社業績の上に漸次重要性を示しつゝあり。特にコークスは軍需工業の活況に燃料としての需要增加顯著にして、價格も漸騰の傾向にあり。他面經費部門に於ては、石炭其他諸物價高の影響に經費膨脹は免れざるが、就中石炭使用高は約十九萬トンの多量にて前年同期より數十萬圓の增加を見たるも、安ずべし。副産物の收益及び瓦斯販賣量の增加に依りて悠々之れをカバーせり。即ち當期總收入七百十九萬九千圓と、前年同期より四十七萬九千圓の增收となれるが、瓦斯收入は六百七十二萬五千圓と約四十萬圓の增收に對し、副産物收入及び資産運用益は四十五萬四千圓と約七萬圓の增收に主因を措けり。他面總支出は三百二十二萬九千圓と、同年同期より四十萬一千圓の支出增加に差引利益に於て七萬七千圓增益を示現せしなり。燃料其他値上りあるも瓦斯料金の値上等

を行ふは、不可能の狀態に在るが、勿論副産物の增益に依り、之れをカバーし得る故に現行一割配當の維持には何等懸念なく、益々堅實なる營業を進る事、火を睹るより明かなるべし。尙當社瓦斯設備の擴大充實は漸次實施され、幾近未拂込徵收を巷間傳ふる向きあるが、假入金社債等の方策も容易に講ぜらるゝ爲、近き將來に殘されし發展課題と觀る可きものあり。

堅固無双なる重役陣容は、取締役會長專務取締役片岡直方　專務取締役横山巖　取締役外山捨造　同梶原伸治　同今村幸男　同山内貫　同下村明　常任監査役淸水太郎　監査役松方正雄　同渡邊一雄　總務部長隈井節男　技師長柳田松太郎　秘書部長西村七夫　庶務部長加田龍助　同次長松下武男　財務部長橋本國太郎　購買部長井口竹次郎　檢査部長柏木兵一郎　倉庫部次長大内公　宣傳部長高橋政雄　副産物販賣部長熊代貞太郎

取締役會長專務取締役　片岡直方　明治十五年九月、高知縣士族故貴族院議員片岡直輝翁の長子として誕生す。先考は人も知る奇傑にして生前實業界に不拔の功を貽せり。氏能く其の血を承けて天性頭腦明敏にして賢材、明治四十二年京都帝大法科政治科を優秀の學績を以て卒業し、事業界に立身すべく直ちに阪神電氣鐵道に入社す。頭角を顯はして數年にして、庶務課長に榮進す。踵で聘徵されて近江銀行に入りしが、大正六年、大阪瓦斯に轉じ、營業部長次席、副社長に推され、遂に現重席に就任す。當社を統督の傍ら傍系堺瓦斯社長の外、阪神電氣軌道、大阪電氣軌道、參宮急行電鐵各取締役を兼ね、推擧されて大阪商工會議所顧問たり。氏の行履や將に北冥の鯤化して鵬となり、萬里を飛翔するの慨あり。刻下驚古の非常時、指導的任務は極めて重し、切に自愛を冀望して擱まず。

專務取締役　横山巖　瓦斯事業に挺身すること三十年、斯業界發展に寄與貢獻すること多大、今や帝國瓦斯協會副會長の要位に推擧さるゝの俊英たり。高知縣横山慶南翁の二男、明治二十年四月同縣に出生す。長じて笈を帝都に負ひ、同四十三年東京高商を卒業し、翌四十四年大阪瓦斯會社に入社す。以後終始一貫、當社の興隆に資し、營業部長として才腕を揮ひ、次で專務に推され以て今日に造ぶ。傍ら堺瓦斯、東洋木材防腐各取締役たり。資性謹直にして堅忍卓拔、極めて友情に厚く、社員を遇するに溫情を以てし、信認愛撫の狀骨肉に異らず、孜々として當社發展に奔命して已まず、その將來を囑望さる。

（所在地　大阪市東區平野町五丁目）

事業家

高岡幸次郎

高岡電氣株式會社專務取締役たる高岡幸次郎氏は、電氣機具陶磁器の製作に當り、その卓勁の手腕を以つて、業界に多大の名聲を顯揚するに至れり。

同社の製品として斯界に冠たる逸品は、社長高岡松之助氏及び專務高岡幸次郎氏の二十有余年に及ぶ苦心慘憺たる研究になる專賣特許、澤井式、高岡式の兩者の長所を併用製作したるものにして、東京電燈を始め全國大會社に特約發賣せられ、其優秀なる點に於て、全國比肩し得ざる處にして、該品の絶讃を博せるは蓋し當然たりといふべし。嘗て、昭和五年、日本電氣會社主催の作品展覽會に於て最高優良品懸賞に當選せる外、數回に拂り賞碑を授與せらる。如何に同社製品の優秀なるかは之れを知るに足らん。

他面又、植物性ゼラチンの製法を研究し之れが特許を得、現に製造に着手し將來その需要大いに激增するに至らん。同社は、昭和十一年六月、資本金十萬圓を以て、在來の個人的經營より株式組織に改め、日尙淺きにも不拘、今や年産額十五萬余圓に及び益々需要旺盛を極め、工場の狹隘を感じたるを以て更に

改築擴張中なり。如斯、同社は矢標早に優良品の製作をなし、斯界の驚愕賞讃する處となり。當社の前途正に洋々たり。拮据經營二十年の永年に亘る、氏の献身的努力は其の功を收め、株式會社と改めたる今日、氏の功績定に多大なり、氏は明治二十九年九月、京都府何鹿郡西八田村に生誕せり。夙に斯業の有望なるに着目、專心之れが業務修得に知識の研修に努力怠りなく、刻苦勉勵遂に今日の大成を爲すに至れり。

高岡幸次郎氏

氏の、人と爲り資性潤達にして剛毅、經綸の才ありて時流を拔くの明哲を具へ、思慮亦周密にして、典型的紳士たり、一面環境と能く調和の才腕を有して、衆庶と克く融和し、其の日常の行爲圓滿無礙にして恰も水の物に隨つて形を成すの慨あり。更に業界に新機軸發見に、氏の活躍に多大の期待をなすべきものあり。

（住所　名古屋市外守山町）

資有限

新宿信用組合

終始一貫、庶民金融の圓滑に彫身し、傍ら衆庶の貯蓄精神の培養に資すること、實に二十有餘年の久しきに亘り、その運營是れ總て肇國の本義と自治協同の大意の發顯に基き、挙措悉く機宜に適ひ、逐年著大なる業績を擧げ、全國二百七十餘の市街地信用組合中の白眉冠冕と讃嘆されつゝあるは我が新宿信用組合なりとす。今や帝國は曩古未曾有の時艱に直面し、擧國一致堅忍持久の氣魄を以て銃後の堅守に臨めり。この非常時に當り經濟界は多少の混亂を餘儀なくせられ、中小業者は益々生活の安定を失ふやの現況に在り。この秋に於て庶民金融機關たる新宿信用組合は益々その機能を發揮して、その目的を達成しつゝあるは洵に畏敬するところなり。

玆に新宿信用組合の昭和十二年度の業績を觀るに、各方面に於て積極的活動の跡歴然たるものあるを認めらる。即ち貸出部門に於ては中金、信聯其他系統機關の多大なる支援の下に一般資金の供給の外、特に東京府助成に依る小口産業資金の貸付並に東京信用保證協會の保證付貸付を奬勵し、新宿を中心とする舊十五區並に新市域の大半に亘る中小商工業者に對し豫期以上の資本供給を爲したり。斯くて年度末貸出金は前年度末に比し、十八萬一千五百餘圓を增加して、七十八萬一千六百餘圓を算せり。尙ほ資金吸收方面に於ては自己資金の獲得增加に依り、貸付金と借入金との適度の均衡を保つに至り、貯金部門に於ては前年度末に比し、六萬二千四百餘圓を增加して二十一萬一千四百餘圓を計上せるが、特に主要貯金たる定期並に積立貯金の增加の著しきは公債買入を目的とする護國貯金の相當多額に上りしと共に洵に欣ぶべき現象なりとす。當組合が前叙の如く劃期的の業績を擧げたるは時勢の推移と信用組合に對する社會の認識に依るは勿論なるも、一面亦當事者の眞摯なる努力の然らしむる結果たるや、言を俟たざるべし。而して其事業の基礎は益々鞏化し而も本年度以降は、その驥足を伸長せしめて金融方面委員の設置、商品倉庫の建設を敢行し、更に電話金融並に信用保證付貸付等々に益々部門を擴大して經濟界に邁往貢献しつゝあるは欣快に堪えざるところなり。因に當組合は曩に松井修一郎氏が專務理事に就任して、名實共に組合を綜理するに至りたるが理事に吉原東一郎、背戸榮吉、淸水甚太、村野米藏、橋本勝太郎、小石丑太郎、富田巖、監事に大村守之助、鹽原徹、秦彌之助、宮川豐造の諸氏を以て布陣し居れり。

専務理事　松井修一郎　明治三十四年十二月、東京府松井銀次郎氏の長子として四谷區に生誕す。長じて日本大學豫科及社會政策學院に螢雪の功を積む。天分理非曲直感の熾烈なる硬骨、公正無私の人格は此種事業の宰領として、蓋し適器たりと云ふべし。今や市街地信用組合は從來農林、大藏兩省共同管理を脱し、産業組合法より分離せしめ、大藏省專管の下に完全なる庶民金融機關として都市庶民の福利增殖に邁進せしむべき、即ち時代を反映する改革論の聲を聞く時、筆者は市街地信用組合が益々都市庶民金融上に重大なる役割を演じて、健全なる發展を期するを祈念し併て氏の保健と超凡の手腕力量を益々發揚せられて其の鉗鍵たらんことを希求するものなり。

（所在地　東京市四谷區旭町五六）

日本レイヨン株式會社

我國人絹工業の躍進は世界各國の多大なる驚異となせる所にして、その創始以來僅か十數年を出でずして全世界に覇を唱ふるに至りその設備にその製品に他の追隨を許さず。我人絹工業は世界業界に君臨して名聲斯界に冠絶する所たり。當社は我國人絹界の巨豪として仰ふがれ、その規模頗る宏壯にして內容又甚だ堅實たるを以て、財界に多大の信用を博せり。大正十五年大日本紡績の子會社として資本金一千五百萬圓を以て創立せられしが、創業以來社業頗る好調にて推移し、昭和十一年四月資本金三千萬圓に增額せられ、現時拂込資本金二千二百五十萬圓なり。創業當初京都宇治に日産五瓲の工場を設置せしが、業界に幾多の迂餘曲折、波瀾萬丈たるものありしにも拘らず、當事者は終始堅實主義を堅持し生産力の增進と技術の研精に力を盡くすと共に、他方內容の充實と業礎の强化に意を注ぎしに依り、社業は順風滿帆の勢を以て發展を遂ぐるに至れり。昭和七年頃宇治工場に第二期、第三期の擴張工事を進め、次いで第三期擴張工事を完成して、遂に二十瓲餘の能力を有するに至れり、後ち岡崎工場の建設をなし、同所に最新式の優秀なる生産設備を整備すると共に、宇治工場の設備を人造繊維に漸次轉換し、舊設備の不利を免れ、之を以て事業は一段と向上に向へり。最近の設備は三萬二千九百錘を備へ、日産能力人絹六十四瓲、人造繊維二十瓲に達す。尙ほ宇治工場の人造繊維二十瓲の擴張を始め、その他の擴張計畫あるを以て、今後の發展には多大に期待すべきものあり。尙ほ當社投資會社に新日本レイヨン、日本興化、酒伊繊維工業、日滿繊維工業等の各會社ありて、その投資額三十九萬六千二百圓に達す。何れもその內容堅實にして業績又良好たり。新日本レイヨン株式會社は昭和十二年十一月の設立。資本金三千萬圓を擁し、島根縣江津に人繊日産五十瓲、同紡績二十萬錘の工場建設の計畫あり。第一期計畫として人繊日産二十五瓲、同紡績十萬錘の建設をなし、十三年八月以降完成の見込なり。更に又朝鮮に日産十瓲の人絹工場を建設するの計畫あり。同社の操業開始の曉には、當社の收益に寄與する所又僅少ならざるものあるべし。昭和十三年上期決算に依れば、百八十三萬四千圓の純益金を擧げ、之に前期繰越金百四十六萬一千圓を合し三百二十九萬五千圓を得、年一割二分（前期同樣）の株式配當（据置）を行ひ、後期に百五十七萬五千圓を繰越し、益々餘裕を加ふるに至れり。因に重役陣以下の如し。社長菊池恭三、常務取締役菊池文吾、同宮野源一郎、取締役福本元之助、同松村諦成、同小寺源吾、同森田丁也、同宇野源一郎、監査役伊藤萬助、同岩田宗次郎、同今村奇男、同田代重三、同岡部正義の諸氏。

常務取締役　菊池文吾　氏は關西財界に聲望並びなき貴族院議員菊池恭三氏の四男として、明治二十八年四月を以て生る。幼少より穎悟にして學業頗る優秀たり。夙に大阪高

等商業學校を卒業し、直ちに實業界に身を投ぜり。資性溫籍謹愼、眞摯業務に沒頭して大いに才腕を揮へり。頭腦明晳にして才氣煥發少壯敏腕の實業家として關西業界に多大の推敬を受く。品性高雅にして敎養高く、その擧措悠揚迫らず。清々淡々、疎々落々、眞に紳士の典範として畏禰せらる。

常務取締役　宮野源一郎　氏は、明治四十五年東京帝大を卒業し、後財界に於てその頴才を發揮せり。熱誠熱直業務に盡瘁して、大いに業績を擧げ、當社の爲めに貢獻すること尠からざるものあり。事を爲すに公平無私、部下を率ひるに寬嚴宜しきを得、他面人格廉直にして溫情に富み、部下の爲めに指導怠りなく、社內の信望甚だ厚くして慈父の如くに瞻仰せらる。明治二十年千葉縣に生る。將來更に頭角を拔んずべし。

（所在地　京都府宇治町治郷）
（營業所　大阪市東區安土町二丁目）

造船技術家

故　鹽田泰介

近時我が海運界は飛躍的躍進を遂げ、今や世界有數の海運國となり、農に遞信省の二百萬噸造船案の發表と共に、各會社の造船計畫は其の技術の優秀と相俟つて、逐次優秀巨船はデビューし、天晴れ海國日本の盛名を全世界に顯揚するに至れり。之實に造船技術の優秀と政府の海事行政の宜しきを得たる結果にして、邦家の爲慶賀に耐へざるところなり。我が工學博士鹽田泰介氏は我が國造船界の最高權威者にして其の斯界に盡瘁せし赫々たる偉勳と共に我が造船史上に特筆すべきものあり。今や我が造船界の第一線より退きて、三菱重工業株式會社造船部顧問の閑職に在りと雖も、操履明徹にして、共神技に依りて建造されたる世界に誇る優秀船の總ては、氏の優秀博學の斯界技術の觸れざるものなしと謂ふも過言に非ず。

氏は岡山縣正好鶴五郎氏の令弟にして、慶應三年十一月を以て同縣赤磐郡輕部村に生れ先代鶴刀自の養子となる。長じて明治二十三年、東京帝國大學工科造船學科を優秀なる成績を以て卒業、同年三菱合資會社に入社し、昭和十二年一月三菱重工業株式會社となるや、其の顧問に推され今日に至る。其の間實に五十年の永きに亘り同社造船工業の爲めに盡力されたるものにして、同社の今日あるは一に懸つて、氏に依るものと謂ふを得べし。夙に帝國海事協會理事たる外、商工省工業品規格調査會委員としての活躍も又偉大なるものありき。

惜しむらくは現下非常時局に際し、益々斯業の躍進を期待されんとする昭和十三年の新春と共に逝去されたるは、我が造船界の一大損失たるのみならず、邦家の爲遺憾とするところなり。氏は頭腦明晳にして、而も剛毅潤達の資性なるを以て、如何なる難關も突破するの氣慨あり、殊に一面人情味に富み、部下に對しては懇切を極むる爲頗る信望あり。今や世界に誇る我が造船界の隆盛を見るの秋、この斯界の至寶を失ひたりと雖も、氏の靈は永へに殘りて斯界發展の爲加護することならん。

（遺族住所　東京市小石川區丸山町三）

明治生命保險株式會社

明治生命保險株式會社は、本邦生命保險の開祖にして、最も光輝ある社歷を有し、終始一貫堅實なる經營策の遂行は、優秀なる約款を以て保險契約者を欣喜せしめ、今や總資産三億七千二百六十餘萬圓、契約保險金實に十七億六千六十餘萬圓を抱擁するに至れる業界の古豪たり。抑も當社は明治十四年七月、故阿部泰藏翁を中心に、三菱系實業家に依り資本金十萬圓を以て設立し、大正三年五十萬圓に、同十一年二月二百萬圓に增資し、（全額

拂込濟）昭和十二年度にて五十七回の決算を經過せる我國最古の生命保險會社なり。從而當社六十年の沿革は、之れ正に本邦生命保險業史の第一頁を占有するものなり。

而して當社は同業他社が餘り重視せざる終身保險に努力を拂ひ、即ち「尋常終身」「有限修身」「一時拂終身」にして、何れも保險料の低率なる事を特徴と爲せり。殊に「保險金倍額支拂特約」は本邦唯一の新條項にして、其特色は普通保險の福利を全部具備せる上、被保險者の不幸が外部よりの傷害に因る場合には、諺泰面の保險金を倍額支拂を爲す特別の利益を加へたる保險なれば、機械文明の進歩は傷害危險を增加を示す今日、斯の如く普通保險と傷害保險の一部とを結合せる保險を周く新時代の活動家に提供せし當社の襟度を稱讃すべく、尙昭和十一年創設せる「利益分配附新種養老保險」は「最古にして最新經營」を誇示する當社が、六十年の貴重なる經驗と最新の學理とに基き、絕えず新機軸を出して本邦「聖業保險」の發達に寄與せしを物語る新種保險にして、商工省日本經驗生命表を保險料算出の基礎として、時代の要求に順應し卒先慶定利率（利益配當率とは全く別個のもの）を改正し、責任準備金の積立增加を計りたるものにて、加入者に對し最大級の保險利益を提供するものなり。其他「利益分配附五十歳、五十五歳、六十歳受取養老保險」「普通養老」「保險金分割前取養老」「短期掛金養老」「一時拂養老」等々、何れも加入者に最大級を賦與する目的を以て設置せられ、當社の面目躍如たるものあり。

扨て當社最近の業績を觀るに、昭和十二年七月、支那事變勃發するや、當社は保險報國の一念を以て、率先多額の戰時公債を買入れ之が消化に貢獻し、一面應召者に對しては、特別奉仕を爲して專ら國策遂行に協力し、業績も頗る順調を辿りて、豫期に優る好成績を收めたり。即ち十二年度の新契約は、二億六千五百四十九萬餘圓にして、純增加一億七千五百八萬餘圓の好調を示したり。而して同年度の利附保險利益分配準備金は、一千九百七十二萬三千餘圓、利附保險利益分配金は六百九萬餘圓、約款外保險契約特別利益分配金は六百十六萬二千餘圓を示しその偉容を誇りたり。

因に現重役は、取締役會長串田萬藏、專務取締役川原林順治郎　常務取締役山下恒雄　同阿部章藏　取締役小山完吾　同加藤武男　同各務鎌吉　同瀧下浩　同山名義廣　同上原正道　監査役川喜田久太夫　同物集女清明諸氏にして錚々たる人材を網羅せり。

取締役會長　串田萬藏　三菱財閥の柱石にして本邦實業界に飛躍する事永年、今や第一戰より退くと雖も、隱然たる偉力を有する長老たり。慶應三年二月、東京市日本橋區に呱々の聲を發す。夙に大學豫備門に學び、明治二十三年渡米ペンシルバニヤ大學の政治經濟科に入學、拔群の成績を以て之を卒業し、彼地銀行に入り斯業の經驗を得、同二十七年歸朝、直らに三菱銀行部に入り一社員より身を興し、超凡の手腕力量を發揮し、金融業界に貢獻す。曩に三菱銀行會長に推擧され殊功ありたるは周知のことにして、現に三菱社取締役兼相談役、三菱海上火災保險、東京海上火災保險、三菱倉庫、日本無線電信各取締役三菱鑛業、程ヶ谷ゴルフ、東京ゴルフ各監査役たり。

專務取締役　川原林順治郎　我邦生保業界に在る事久しく、斯界の偉材たり。資性溫和にして清純明治五年九月滋賀縣川原林德明翁の二男として出生す。長じて同二十九年東京高商を卒業、日本鐵道會社に入社せしが、後ち明治生命保險會社に轉じ、仙臺支店長心得、名古屋、大阪各支店長を經て取締役に榮達し、曩に專務取締役に推擧され、以て今日に迨ぶ。今や當社の威望堂々たると共に渾身の努力を傾注して、其名を馳せる斯界の巨星たり。傍ら生保證券取締役、三菱地所監査役に推擧せらる。

（所在地　東京市麴町區丸ノ内二丁目）

辯護士

大久保與三吉

中京法曹界の重鎭として、その聲望竝ぶものなき人に氏あり。明治三年六月四日三重縣河藝郡飯野村大久保藤右衞門氏の長男として生る。夙に法律を以て身を立てんことを決意し、獨學を以てこれが研究に志し、千辛萬苦砥勵黽勉大いに研精相勵み、斯くして螢雪の功を積み、明治三十年九月判事に任官し、上野區裁判所に奉職す。氏の眞摯なる研鑽と熱心なる勤務振りは早くも上司の認むる所となり、三十一年十一月名古屋地方裁判所判事四十年五月津地方裁判所豫審判事、四十三年五月には、名古屋地方裁判所判事と歷勤し、頗る手腕を示せり。大正九年十月簡拔せられて金澤地方裁判所部長となり、大正十一年五月には名古屋控訴院部長に榮轉し、同十四年二月に簡拔せられて佐賀地方裁判所長に任ぜられ、翌十五年七月には大津地方裁判所長に歷補す。昭和八年六月に至りて退官し、直ちに名古屋に轉じて辯護士を開業す。その頭腦まことに明晰にして、常に孜々として研究を怠らず、經驗豊富にして學殖深邃、中京法曹會屈指の權威者として名あり。依頼者に對しては懇切を盡くして事情を調査し、充分に分析檢討を加へ、論理を練りて法廷に臨み、その態度莊重にして雄舌宏辯、自ら人をして襟を正さしむるものあり。藝然たる法理論に世事の實情を盛りて、或時は奔流の如く速かに或時は深淵の如くに淀み、情理兼ね備はる辯論は唯滿廷を醉はしむ。氏溫藉質實、謹厚恭謙の士たり。邊幅を飾らず、語る所卒直にして眞摯、身を持すること嚴正を旨とし、又人には極めて謙虛にして、寛容の態度を以て接す。頗る熱情の持主にして、氣宇宏濶、剛氣又滿々たり。名利に超脫せる清白高朗の人格の持主にして、その高風は世人の欣仰して措かざる所にして、從三位勳三等たり。尙ほチョ夫人は津市星野玄英氏の長女にして、淑德高き賢婦人たり。長男衞氏は夙に愛知醫學專門學校に學び、現在名古屋市東區飯田町に於て開業し、大いに繁榮をなせり。又長女サダ子女は衆議院議員濱田國松氏の六男にして名古屋地方裁判所判事濱田從六氏に嫁せり。

（住所　名古屋市東區白壁町一ノ六）

極東商事代表取締役

岩波伯太

今日如何なる寒村僻邊と雖も、その日常生活に缺くべからざる必要品に電球あり。これが需要の旺盛なる所より電球の製造販賣の業に携るもの雲の如くに夥しきものありと雖も氏の如き才幹は業界に匹儔を見ず、まさに當嶽の如くに巍々として聳てり。氏頭腦明徹にして事物の洞察力に鋭く、計數の才ありて事を企畫するに微に入り細に亘り、綿密周到、些かも誤算を見るが如きことなし。一度仕事に向へば時に夜を徹してこれに對し、才略縱橫にして、業界の變轉にも巧みに善處して誤ることなく、實に俊敏卓拔の手腕家と云はざるべからず。氏は始め東洋蓄電池商會を創立せしも、電球の製造販賣事業の有望なるに着眼して、大正七年極東商事株式會社を設立して自ら代表取締役となり該事業に進出す。氏大いに技術の研究に沒頭し、設備の改善に鋭意努力せしにより、その製品は品質頗る優良にして價格亦著しく低廉となる。これにより外國品と堂々對抗をなし得るまでに至り、ごれに刺戟せられて、又內地製品の品質向上の氣運促進せられることゝなれり。當社下落合工場は連日操業繁忙を極め、生產力を極度に發揮しつゝあるも、增大する需要には到底應ずる能はざる盛況にて、業績頗る好調を辿るに至る。現時その販路は內地は云ふ迄もなく遠く海外市場に進出し、外國品と角逐してこれを驅逐しつゝある有樣にて、輸出貿易に於て多大の貢獻をなしつゝあり。昭和十一年七月內地一手販賣會社たる東西電球株式會社創

立に參畫し、同社の取締役東京支店長に就任す。斯くして電球の販賣事業にも活躍し、大いにその手腕を發揮せり。氏は長野縣諏訪郡下諏訪に於て名望ある岩波虎作氏の長男として、明治十七年二月を以て生る。夙に實業界に入り、克苦奮鬪して今日の隆々たる地歩を獲得したるものなり。至誠廉直にして宏量磊落、名利を超脱して義に殉ずるの慨あり。現に東京電球工業組合理事、日本電球工業組合聯合會監事等に推され、電球工業界の爲めに献身的奮鬪をなし、業界の爲めに盡瘁する所多大にしてその信望厚し。風貌堂々たるものありて名實共に電球工業界の偉丈夫たるの貫禄を備ふ。運動を趣味となし、電氣倶樂部會員たり。

（住所　東京市淀橋區柏木町二丁目）

株式會社 神戸銀行

近年我國商品は全世界に波濤の如くに進出し往き、價格低廉にして品質優秀なるは各國商品の比儔を許さず。世界市場を席捲して躍進日本の面目を赫燿として發揚せり。邦品の世界的進出の基地として神戸港の有する意義近時頓に重要性を加へ、同地の發展愈々目覺しきものあり。神戸市金融界に嚮然たる勢力を有し、同地方の商工業發展に寄與貢献する所大なるものあるが當行にして、昭和十一年十二月十八日神戸岡崎、五十六、西宮、灘商業、姫路、高砂七銀行合併して創立せられ資産内容の充實して、經營方針の堅實なるを以て多大の信用あり。合併後内部の整調を計りて、專ら機能の發揮に力を盡くし、内容業績共に明を逐ひて向上をなせり。尚ほ大藏者並に縣當局の意を體して地方銀行相互間の提携に力を盡くして、關西金融界に大なる聲望を博し、昭和十二年五月には淡州貯蓄銀行株式の大半を譲受け、淡路に於ける同行の使命達成に助力することとなれり。神戸銀行の支店は神戸、大阪、明石、姫路、西宮の各市並に兵庫縣、大阪府の各地に散在して一大金融網を張れるが、創立以來大いに合理化をなし、十二年下期末に於て支店數九十一、出張所數三十一を算せり。當行公稱資本金は二千二百五十三萬一千六百圓にして、内拂込一千三百九十三萬一千九百七十五圓たり。

而して昭和十二年下期（第三期）決算より業態を觀察するに、當期は戰時體制下に在り特に九月末より十月に亘りて、金融逼迫を告げたれば、政府も日銀、興銀等を動員して資金調達に努力せしが之の散布振は比較的東に厚く、關西に遲れ勝ちなりき。其間にありて當行は前期末に比し預金一千二百萬圓、貸出二千六百萬圓を各増加せり。特に預金は開業當時に比すれば一年間に過ぎざるに三千四百萬圓の著増を示せり。軍需景氣の浸潤と稱す地方的特殊事情の反映に基因するは否めざるも最大原因は業礎の確立により一般信用の向上に歸さるべきなり。前叙の如く當行は七銀行を合併誕生せるものなれば所在の實例に徴する迄もなく、内部調整と機能發揮には多大の時日を要するものと一般より觀測せられしが、之が豫期以上進捗し開業一年にして、既に渾然たる神戸銀行獨自の精神行風を確認されしは洵に偉と稱嘆すべし。同期の利益金六十二萬八千圓、之に前期繰期金七萬二千圓を合して七十萬圓を處分するに法定準備金十萬圓、行員退職慰勞基金三萬圓、役員賞與金三萬圓、配當金四十一萬八千圓（年六分前期同樣）後期繰越金十二萬二千圓となし、前期に比し四萬六千圓の増益に過ぎざるも、實は表面利益計上前に内部調製の完璧を期する爲に各種償却が行屆き、相當の含みを持たせしことを附言すると共に、其明朗なる前途の覗福を措かん。

取締役會長 岡崎忠雄　取締役頭取 八馬兼助
取締役副頭取 牛尾健治　取締役 加納治兵衛
同 松本驫太郎　同 米澤吉次郎　同 藤生政一郎
常任監査役 前田一雄　監査役 山口次郎　同 駒井驫治郎　秘書課長 小林芳夫　考査課長 米澤

一太郎　同代理 中川整　檢査課長 村上權一
檢査役 松田盛久　同 中西角次　監査事務長 上野武彦　總務部長 野崎貞三郎　文書課長 岩田儀三　調査課長 岡山勝治　經理部長 神田勝次
同 次長 高垣謹之助　主計課長 橋本政太郎　經理課長 川端藤三郎　審査部長兼業務部長 吉田孔七郎　第一課長 中村元二郎　第二課長 岡上喜七　業務部次長 後藤要界　營業課長 昌保始男　同代理 松井津二　同 兒島誠一　同 小澤規之　東部統轄店監督役 柏木宗治　營業課長兼西宮支店長 小松傳七郎　庶務課長 志知藤助
西部統轄店監督役 高濱清次　營業課長兼姫路支店長 英賀篇藏　庶務課長 谷口政一

取締役會長 岡崎忠雄

關西に於ける實業界の巨擘として盛名昭々たる氏は、明治十七年五月、佐賀縣石丸忠英氏の次男として生誕す。後ち叔父岡崎藤吉氏の養嗣として岡崎家に入る。幼少より衆童に拔んでて、天性冷頭利根。長するに迨んで慶應義塾に學び、同三十九年理財科を卒業す。爾來實業界に身を投じ崇高なる人格は逐年彩華を放つと共に衆庶の欽仰を受け、今日能く斯界に九鼎大呂の重きを爲すに至れり。現に當行の會長に推戴さるゝ外、兵庫大同信託會長、岡崎本社、神埜生絲、朝日海上火災保險、神戸海上火災保險各社長、發動機製造、廣野ゴルフ倶樂部、日伯拓殖各取締役、山東鐵業、宇治川電氣、宇治電證券各監査役等、幾多の役員を兼ぬるの他、常に公共にも献身し、昭和十一年紺綬褒章を下賜せらる。

理事兼秘書課長 小林芳夫

當行中堅幹部中屈指の俊髦として其前途を多大に嘱目せられる人に小林氏あり。日本銀行に在勤すること十數年、精勵恪勤してその職に當り、大いに手腕を揮ひて機鋒を現し、累進して福島、京都各地支店に於て樞要地位に就き、多大の業績を擧ぐ。明敏萬才の敏腕家として内外にその名高し。

（所在地　神戸市神戸區浪速町）

衆議院議員 内藤正剛

正義人道を信條とし、權利の擁護に任じて識見手腕非凡たるのみならず、出でては國會議政壇上に英姿颯爽、侃々諤々の辯論を揮ひ共の抱負經倫の遠大高邁なる、或は愛國憂世の熱情熾烈なる寥に關西政界に異數の存在を謳はれる一方、大阪法曹界に斷然重きをなす我が内藤正剛氏の如き、正に光彩陸離たる存在と云ふべきか。

氏は明治十六年二月二十八日を以て岡山縣阿哲郡新見村に呱々の聲を擧げ、父君を同縣士族内藤基氏と呼び共の長男、後年叔父良治氏の養子となり家督を繼承以て今日に至る。夙に英敏俊才、出藍の譽れ高く、前途に多大の嘱望を寄せらる。而して鄉學を卒へるや、將來活躍の天地を法曹界に求むべく、遠大なる理想を抱きて奮然關西大學法科に入り、研鑽勉學孜々として撓ゆまず、優秀拔群の成績を以て卒業後、更に敢然東都に遊學中央大學に學び、法學全般に通曉共の眞理を把握して校門を出づ。斯くて判事及檢事試驗に應ずるや、見事合格司法官試補を拜命し、爾來精勵努力能く職務を完遂しつゝ上司の信認を得しも、生來覇氣横溢し、獨立獨行の氣概物然たる氏は、遂に職を辭して辯護士を開業す。以來共の該博深苦なる學殖と壯快無比の辯舌とは相俟ちて、如何なる難事件と雖も明快に處斷し、而かも共間透徹明徹せる法理に膿々一片の情理を加味し、縱横無碍、能く依頼者の願望を達せしむる處、名聲嘖々として斯界を風靡し業務亦た繁忙盛況を呈するに至りたり。而して他面、常に國民利福の大理想に燃え、高邁卓拔の識見手腕を有せる處、政界進出を念願して民政黨より立候補し、鄉里岡山縣に於て代議士選擧逐鹿戰場に敢然馬を進めるや衆望の然らしむる處見事當選の榮冠を獲得せること既に三回、今や同縣下民政黨の重鎮た

るは素より、洽ねく關西政界に名聲を馳せ、業界の尊敬信賴を受くること絶大なるものあり。人格頗る高潔にして玲瓏珠玉の如く、而かも剛毅潤達、烈たる任俠の氣心に富み、嘗て弊風政界に拯り、世道人心亦た頽廢せる秋に際せしも、超然毅立して些も惡風に染まず清節を持し、名利を追はず、只管天職に向いて勇往邁進せる稀に見る人格者たり。蓋し德望仰ぐべ愈々高く、令名燦然光輝を發するも當然の歸趨ならん歟。

（住所　大阪市東區今橋五丁目）

山口玄合資會社

當社は曾て關西實業界の耆宿元老として盛名を馳せたりし故山口玄洞翁が晩年の汗血を傾注して結成したる最大最盛の遺業にして、其半生の偉勳を表徴せる金字塔とも見るべきもの。創設以來爰に十數年、興壞浮沈常なき業界の擾々をよそに、風は吹けども山口の山は動かず、浪は寄すれど玄洞能く是を呑吐して餘裕綽々。經理日に就り月に進み、基幹漸く固きを見、成果次第に饒きに迫ぶも城將志望遠大にして敢て小成に安んぜず、敢て小康を肯んぜずして勇猛不退轉の英氣の煥發するところ、朝に一城を陷れ夕に一砦を賭るの概を示し、躍進又躍進、以て現時の昌榮を致せり。抑も此種の業たる、社會政策乃至都市政策上の諸條件と緊密なる干繋を有し、其經營者又は經營方針の如何に依り、利弊の岐るゝところ霄壤の懸隔を生ずるを常とし、其結果は人文の消長、都市町村の盛衰に影響するところ甚大なるものあるを以て、若し首腦幹部の人格劣等にして一片奉公の志の存するなく偏に營利に汲々たる者なる場合に於ては、毫も正業として尚ぶに足らざるのみならず、大に世人の警戒を要するものたるや、既往頻々百出の弊竇に顧みて識者の夙に痛感するところなるが、當社が屑々乎々たる際物師的同業者の顰みに倣はずして公明正大の社是を嚴守し、嘗つて社會正義の規準に悖らず、能く其標格の高きを損せず、能く信望の厚きを保ち得て、宛として泥中の蓮の如くなるもの、是れ即ち首腦部に從來脉々たる道念の一貫せるものありて終始渝らざるの證左にして、會々業祖玄洞翁の遺風の一班を窺ふに足る。筆者の翁に採るところは感恩報謝の念に富みて、善く集め善く散じたる點に在り。其生涯を通じて各方面に喜捨せる浮財數百萬圓の多きに上り、殊に往年高野山の火災に當り一擧百萬圓を指てゝ救援の資に充てたる事の如き今猶世人の記憶に新なるところなり。語に曰く、德孤ならず必ず隣あり、と。宜なる哉、其質を易ふるや近畿各地より弔訪會葬するもの無慮數萬を算へたることや。優去つて餘蔭あり而も餘蔭は寂々たらず。後輩の諸子賢にして遺芳の馥郁たるところ、長曲能く彈じ、長袖能く舞ふ。觀業ために愴然たり。

社長　山口三郎　氏は洛陽有數の素封家津田八郎兵衛氏の令弟にして、京都帝大法學部出身の俊秀、未だ學窓を出でざる間に蚤くも玄洞氏の囑目するところとなり、其養嗣子として迎へられ業績益擴きて現今に至る。爲人重厚にして氣節あり。年齢尚少しと雖も識度の富贍なる、抱負の雄大なる、世の紈袴者流と其選を異にし、棟梁の材たるに庶し、玄翁死して後ありと謂ふべき也。

（所在地　京都市上京區河原町通廣小路上ル梶井町）

事業家

大島清次郎

我が國粹の調味料鰹節の老舗、丸大店主大島清次郎氏は、家業に一大刷新を加へ近代的商店經營を採り、只管精勵の傍ら、同業界を駸驅斡旋し幾多の重職に列して、功績頗る顯著なるものあり、今や威風堂々斯界に君臨じ牢固たる信認を獲得するに至れり。

由來鰹節は我が國獨特の調味料として賞讃され、近時續出の調味料の到底比肩を許さざるの風味あるを以て廣く世人の愛用せる所なり。隨つて之れが販賣を業とせるもの、又幾何なるを知らずと雖、斯界に嚴然頭角を顯はせるが丸大鰹節商店主大島清次郎氏とす。氏は先代鍵次郎氏の三男として、明治三十一年十一月を以て生る。夙に名古屋商業學校を卒業し、騎兵第三聯隊に入營し、大正七年西比利亞事變に出征し勳功に依り、勳八等を賜はり篤勝す。昭和五年先代の後を享け家督を承

大島鰹節商店商標

繼し、鋭意家業に從事せしが、熟々事業の發展には近代商法の經營方針に如かずと悟り、此處に合名會社を設立し舊來の暖簾式商法に一大刷新を加へ規律整然たる陣容を備へ、積極的販路擴張に進出し、業績頗る向上を見るに及び、本店卸部を同市中區南園町二ノ一九の外小賣部を、同區同町に設け、次で支店を同市西區日比津野合一〇八に設置するの隆盛振を招來し、丸大鰹節の通用語を以て、內地各方面は勿論、遠く滿、鮮、南洋方面迄輸出を見るに至れり。

尙ほ多忙なる業務の寸暇を割き、近隣の親睦を計る事亦熱心にして、氏は現に町總代南園町發展會長として、町內の信望を一身に蒐め功績亦尠からず。他面名古屋水產市場、愛知北海物產、愛知海苔販賣、名古屋乾物各株式會社取締役たり。

氏は又國家的觀念に頗る厚く、今回の支那事變に際し多數の應召兵二週間に亘りて同町に宿泊せし際、多忙なる家業を放任して之れが斡旋盡力なし、眞に献身的に奔走して、深く世人を感激せしめたり。氏の人と爲り、溫厚恭謙、情誼に厚く、人に對しては虛心を以て接し、磊々落々實に明朗潤達の紳士たり。趣味としてはスポーツを愛好し、就中水泳、馬術に長ぜり。

（住所　名古屋市中區南園町二丁目）

下關市役所

昭和六年一月現市長松井信助氏市長に就任するに及び、下關市政に於て其施設の甚だ不完全なりき。若し其の儘に推移せんか、下關市は當然衰微の一途を辿るの外なく、唯之を救ふの途海に依據してのみ發展の可能なるを見る故に、先づ港灣利用を企畫し之を中心に施設を爲す可き事の緊急なるを以て、其方針に基き市將來の計畫を樹て、之を遂行せられ爾來着々其目的の實現を見つゝあるは、欣快に堪へず。玆に其實蹟の主なるものを列記すれば

彦島町合併　昭和七年十二月下關市と彦島町双方の議決機關に於て、之が合併申請の議決を經、同八年三月を以て彦島町を下關市に合併するに至れり。

臨港鐵道敷設　東工區利用のため臨港鐵道敷設は經費二十三萬圓を以て、專用側線と東工區に於ける搬出入の貨物を運搬せんとし、昭和五年其承認を得、專用側線として之を敷設し、遂に之を省營線と爲すことを得、同九年六月其竣工を見、運送を開始す。

開港々則適用實施　下關港は其面積廣大なれど、汽船の泊地に至り二は其の區域極めて狹

陸にして、大船巨舶の自由に碇繋すべき水域なく、爲に岸壁の利用は設備稍々整へるも、海上に汽船の出入なければ其効果を充分に發揮し得ざるのみならず。市の繁榮に重大なる結果を及ぼすものなるを以て、開港々則適用實施請願の件を昭和七年市會に於て議決し、爾來當局と折衝したる結果、同九年度並同十年度豫算に於て遞信省議に計上の決定を見たるも大藏省の斧鉞に會ひ保留となりたるが、昭和十二年度愈々實施さるゝ豫定なり。

大下關港擴築 昭和七年より之が實施のため大下關港擴築期成會を結成、運動を開始し、遂に本年度より國費豫算五百萬圓を以て着手されたり。

道路修工事 市外部巡還線を擴築す、其主なるものは十六萬五千圓を以て市内大坪筋川より幡生山ノ田間二千八百六十七米。百二十萬圓を以て市内西南部町より西細工町に至る七百五十一米其他完成未完成八線に及び。

水道 彦島上水道擴張工事は、昭和八年同九年施行にして工事費五十八萬圓を要したり

産業 本市は農産物、水産物等の集散多量なる地位にあれども、其取引に適する設備なかりし爲、年額五百萬圓程度に過ぎざれば、昭和八年三月、十八萬圓の工費を以て下關魚菜市場を開設す。

飛行場 小月に下關飛行場の設置要望され運動奏功して、昭和十二年度より其工事に着手するに至れり。

市長 松井信助 下關市民の敬仰を一身に蒐めつゝある氏は、同市西細工町に於て明治八年十一月を以て誕生す。資質誠直寛容而も明賢なる頭腦と、百折不撓の意志力は山口縣巡査を振り出しに、能く今日の地位榮譽を獲得せり。即ち氏は明治二十八年縣巡査を拜命し、同三十六年同縣警部に昇進し、同三十八年朝鮮釜山警部に轉じ、爾來其才腕を以て警視に昇進、大正十二年從五位高等官三等に叙し、昭和四年正五位勳四等瑞寶章を授けられ、同六年退官と同時に從四位に叙せられ、功勞記念品を贈らる。後錦衣を纒ひて歸郷せしが、同六年一月下關市長に就任して爾來孜々市政の爲に貢献今日に至る。

（所在地 山口縣下關市）

東京帝國大學名譽教授

岩佳良治

重大時局下に於ける農村には、幾多重大問題の山積せるが、就中農村出身の出征兵士の多數に上る所より勞働力に不足を來たし、農業生産減退の兆を示せるが如き、看過すべからざる點にして、その他農村經濟に改革を要する所、枚擧に遑なきものあり。夙に政府には農村經濟更生の爲めに幾多の對策を講じ、特に之が爲めに各方面の權威者を網羅して農村經濟更生中央委員會を設置し、農村對策のブレイン・トラストとせり。岩佳良治氏は學界に於ける權威たると共に、農村の精通にして所謂練達堪能の士として朝野の崇敬淺からざる所より、特に懇請せられて農村經濟更生中央委員會委員に列せり。氏は宮城縣岩佳玄作翁の長男として明治八年一月を以て呱々の聲を揚ぐ。幼少より穎悟にして學才あり鄉黨を了ふるや笈を負ふて上京し、明治三十三年東京帝國大學農科大學を優秀の成績にて卒業す。直ちに畜産學研究の爲めに英國に留學し、眞摯研鑽に沒頭し、最新知識を修めて歸朝爲し、直ちに東京帝大農科大學助教授に任ぜらる。その後盛岡高等農林學校教授となり、更に東京帝大教授を拜命す。氏は寸暇を惜しみて研究に精勵し斯學の蘊奥を極めて農學博士の學位を授與せらる。次いで農林技師畜産試驗場技師を兼務し、更に東京帝大農學部長に推さる。曩に多年の功勞に依りて正四位勳二等に叙せられたり。現時東京帝國大學名譽教授にして、農村經濟更生中央委員會委員、家畜再保險委員會委員、家庭購買組合理事等の要職に就き、各方面に於て活躍し、國家社會の爲めに寄與せる所勘しとせず。氏は學殖深邃にして、畜産界の最高權威と仰ふがれ、我學界の至寶たり。資性溫恭篤實、名利に超脱し、磊々落々、疎々淡々、其悠揚迫らぬ溫容は長者の風格あり。内に高邁なる識見と淵博なる蘊蓄を藏すれども安りに現さず。潤大の襟度と豊かなる溫情はまさに慈父に接するの思あらしむ。氏は克く後進を指導し、業庶の啓發に力を盡くし、その高風は洽く世人の瞻仰する所にして、才德兼備せる當世稀有の碩學たり。ふぢ子夫人は明治十六年岐阜縣山北周助氏の長女として生れ、養嗣子岡氏は東大法科出身にして、現時福島地方裁判所に勤務せり。

（住所 東京市豊島區巣鴨六丁目）

硝子商松永商店主

松永彌太郎

當店は當店主松永彌太郎氏が、硝子商を目的として大正元年創業せしものにして、爾來二十有餘年間堅實主義を堅持し以て今日の業礎を築き鈎々の名を馳するに至る。現に日本板硝子、旭硝子の二大會社製品の京都一手販賣特約店として信用絶大を謳はれ、東山區本町通四丁目、中京區夷川通高倉角に支店を設置し、前者に松永憲藏氏、後者に松永辰三氏を採用に當らしめ、磨加工場を中京區壬生森町に置き、今や京都屈指の大商店の貫祿を示すに至れり。而して當店が斯くの如き大發展を招致せしは、之れ偏に當主彌太郎氏の終始一貫奮鬪努力の結晶に依るものにして、氏が半生の行展こそは全く絢爛たる立志傳を綴むものなり。氏は先代萬次郎氏の長男として生れしが、不幸八才にして父君を失ひ、二弟と共に慈母の手に依りて成育され、凡ゆる苦難は一家を襲ひしも淑行高き母堂は能く難手難關を突破されたり。

氏天賦頭腦明敏殊に商才に長じ、獨立不羈以て創業以來刻苦經營に邁進せり。その秀苦は酬ひられて業界に信用を得、昭和初期より日本板硝子會社特約店となり、同七年旭硝子會社と特約を結び、絶對的信頼を獲得し、一面取引上に於ても圓滑に推移し、同業者間に於ても畏敬を以て迎えらる、冠頭に記せるが如く二支店の他、中區壬生森町に一萬餘圓を以て、都下唯一の硝子磨工場を建設し自店商品の磨加工を爲すのみならず、他商品の加工の需にも應じ同業者に至便を賦與し居れり。

憲藏、辰三兩令弟は各支店長として其責務を分掌せしめ居れるが、二令弟共出色の人材にして、何れも思慮周密共に商才に長け、能く長兄たる彌太郎氏を尊服し、一致協力以て家業に從ひ、今日の盛大を爲すに至る。誰か當店松永兄弟の和合協戮を讃へる時、想ひを遠く毛利元就の子等の訓戒に馳せざるものあらんや。

彌太郎氏未だ四十一才の壯年なり。業礎は既に盤石の上に泰然たり。今後の發展こそは正に刮目するところあらん。

（所在地 京都市上京區下立賣通大宮東入）

三菱鑛業株式會社

現時我國事業界に於て各種重要原料の開發精煉、供給をなして、躍進日本の動力とも稱すべき重要役割を果たし、斯界の首班に就けるが三菱鑛業株式會社たり。當社は大正七年四月の創立にして、三菱王國中屈指の大會社にして、資本金一億圓内拂込資本八千七百五十萬圓の巨資を擁し、本邦鑛業界に嶄然富嶽の如くに聳立せり。その事業を中心となして化學工業、電氣事業、金屬加工業その他の附帶事業を營み、その製品には金、銀、電氣銅電氣錫、電氣亞鉛、精鉛、フェロタングステン、硫化鑛、鐵鑛、硫酸、石炭、硫炭等ありて、頗る多種類に亘る。當社の事業は金屬部と石炭部とに大別せられ、最近半期間に於ける主要鑛産高は金一千五百瓩、銀二萬二千瓩銅六千四百瓩、亞鉛四千瓩、錫八百瓩、精鉛一千六百瓩、フェロタングステン一百九十瓩鐵鑛八萬瓩、硫酸三萬七千瓩、硫化鑛三萬三

千瓲、骸炭一萬九千瓲、而して石炭二百六十四萬九千瓲を産出せり。何れも所有鑛區より の産出にして、金、銀、亞鉛、硫化鑛、鐵鑛等の産出增加著しく、斯くて大に供給會社として業界に支配的地位を有し、就中石炭は我國最高の産出高を占む。その所有鑛山は金屬に、槇峰、尾去澤、佐渡、生野、尾平、細倉荒川、綱取、寶出石、手稻、茂山、又石炭に於ては高島、筑豐、飯塚、勝田、美唄、大夕張の各鑛山あり。製煉所を大阪直島に置き、骸炭工場を大夕張に設置す。創業以來製品需要の增大に順應して設備能力は擴張せられ、採掘鑛區、試掘鑛區、砂鑛區共にそれ〴〵膨脹をなすに至れり。最近の採掘鑛區は一億九千五百二十萬七千坪、試掘鑛區三億四千九百二十七萬九千坪、砂鑛區九百四十九萬八千坪同延長十里三十町に及ぶ。創業當初に比較して採掘鑛區七割以上を增加し、試掘鑛區又二倍近くの增大となれり。鑛夫、職工總數二萬七千餘人に上り操業頗る活況を呈せり。又當社は直系傍系の數多の投資會社を有し、その數二十六を算し、投資額四千三百萬圓に達す。その主要なるものを擧ぐれば、美唄鐵道、雄別炭礦鐵道、九州炭礦汽船、佐渡汽船、東京電燈、古河電氣工業、山東鑛業、山陽中央水電、朝鮮無煙炭、智頭鐵道、北樺太石油、北樺太鑛業、南樺太炭礦鐵道、飯塚鑛業、昭和石炭、滿洲石油、三菱石油、日本製鐵、日本化成工業、朝鮮鐵道、堺化學工業、內幌炭礦鐵道等にして、昭和十二年下期に於ける有價證券配當收入實に一百三十五萬二千圓に達せり。投資會社中には業績向上を見込まれるもの の尠からざるを以て今後の增收大いに期待すべきものあり。時局景氣の好影響を受けて、九月末を締切となす。昭和十二年下期決算に依れば、總收入六千一百二萬圓、總支出五千一百六十六萬三千圓に達し、差引當期利益金九百三十五萬七千圓を擧げ、株主に一割二分の配當を行へり。上記利益金は對拂込資本利益率二割二分五厘に相當するを以て、利益金の多額は內部に保留せられ、決算頗る堅實たり。當社は我國鐵鑛自給國策の線に副ひ、朝鮮茂山鐵鑛の開發を行ふ爲めに、先に社內に製鐵部を設け、クルップの特許を利用し、獨特の三百瓲四基（年產三十萬瓲）の建設計畫を進めつゝあり。茂山鐵鑛はその埋藏量莫大なる額に上ると見られるが、我國鐵鑛石の產出極めて少額にして大部分を輸入に俟つ有樣なるが、近年世界的需要增より輸入は次第に困難を加へつゝあるの折柄、茂山の開發は國益に資する所蓋し甚大なるものあるべし。又石炭需要の增大よりして、子會社南樺太炭礦鐵道（當社全株所有）を通じて行へる南樺太の石炭採取事業は、內幌鑛區、塔路鑛區の增產並に惠須取鑛區の開發をなすことゝなり、更に石炭液化の計畫も着々として進めつゝあり。南樺太の石炭鑛區は頗る有望なるを以て今後大いに產出著增するに至るべし。更に亞鉛、鉛の輸入驅逐の爲め先年來より產出增加に努力しつゝあるを以て、今後更に增產を期待せらる。當社の事業は總て時局の要求せるものにして、就中鐵鑛石、石炭、金等はこれが產出の增加は目下の急務たるが故に、生產力擴充、輸入防遏、國際收支の適合といふ國策を遵奉して、當社に於ては新業の發展を二義的として銳意事業の開發に盡瘁しつゝあり。當社は元三菱合資會社の鑛業部が獨立して大正七年に創立せられしものなるが、創業以來顯著なる發展を遂げ來り、今後更に一段と躍進をなし、戰時體制下に於て國策遂行上重要なる貢獻をなすことゝ思料せらる。

尙十三年上期利益金一千十六萬一千圓を擧げ之に前期繰越金二百四十五萬九千圓を合して、一千二百六十二萬圓を得、諸積立基金に三百七十一萬圓、株主配當金五百二十五萬圓（年一割二分踏襲、据置）、後期に三百四十一萬圓を繰越したり。尙當社は資本金を倍額即ち二億圓に增資を斷行することゝなれり。

因に當社の首腦部以下の如し。會長河手捨二、常務池田龜三郎、同山下元美、同小村千太郎、取締役岩崎小彌太、同船田一雄、同松

田貞次郎、同鈴木一郎、同横尾帝力、同勝俣英、同佐々木高之助、同富田治藤、同鈴木春之助、同赤原仲雄、同岩崎彥彌太、監査役串田萬藏、同諸戸清六、同佐藤慶太郎、同村田敏、同加藤武男、同大越政虎。

取締役會長　河手　捨二　氏は頭腦縝密にして俊敏萬才、その卓拔なる才腕は三菱部內に於て多大の推敬を受く。明治十年十月東京府士族河手長平氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。明治三十二年東京高商を卒業して直ちに三菱商事に入る。若松兼門司支店長、本店石炭部長を歷任して、後三菱鑛業に轉じ、常務取締役を經て現職に推さる。資性溫厚にして謙讓、事に當りて熱直、財界に於ける聲望隆々たるものあり。

常務取締役　池田亀三郎　資性溫恭謹厚にして素志堅確、多年社業に淳勵してその功績赫耀たるものあるが池田氏とす。明治十七年五月山形縣人池田龜藏氏の六男に生れ、同四十二年東京帝國大學工科採鑛冶金科を卒業し後三菱鑛業に入る。福岡新入炭坑に勤め、大夕張炭坑長、美唄鑛業所長を歷任して、常務取締兼技術部技師長に榮進して今日に至る。經驗豐富にして蘊蓄該博を以て名聲高し。

常務取締役　山下　元美　三菱鑛業屈指の俊髦としてその頭才を謳はれる山下氏は、京都府山下元貴氏の二男として明治十六年一月を以て生る。夙に京都帝國大學理工科採鑛冶金科を卒業して直ちに當社に入り、累進して生野鑛山所長となり、技術部技師長に擧げられ、後更に現職に就任す。氣恪俊邁にして性溫白、部下より深く悅服せらる。

（所在地　東京市麹町區丸ノ內二丁目）

名望家　坂本宗太郎

秩父織物は二千年の歷史を經て發達し來れるものなるが、明治維新以後近代科學の洗禮を受けて、從來の家庭工業より大規模の工場經營へと躍進し、堅牢なる品質と新しき柄意匠を以て、斷然他の產地を壓せり。この秩父織物の發展に絕大なる寄與をなせるが、秩父織物工業組合にして、坂本氏は夙に該組合の理事長として活躍し、業界に貢獻する所甚大にして、時に自己の業務を顧みず、組合の事業に獻身的に沒頭して、當地方の人に多大の敬仰を受く。明治十七年十二月坂本善兵衛氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。當家は名主跡にて往時より當地方に於て多大の盛望あり。

鑛君善兵衛氏は夙に秩父織物の製造奬賞を業となし、事業頗る好調を辿れり。坂本宗太郎氏は機業界に於て活躍せんと欲し、東京高等工業學校に入り、明治四十一年七月同校を卒業し、級友の多くが官界に或は大會社に華かなる大望を抱きて身を投ぜるにも拘らず、氏は飽くまでも着實に家業を襲承して、攻々としてこれに精勵せり。頭腦縝密にして頗る研究心に富み、東京高工在學中寸暇を惜しみて研究を爲し、從來秩父銘仙は縞物のみなりしを、新に模樣物製作に成功して秩父機業史に特筆大書さるべき劃期的一大發明を完成す。氏は直ちに專賣特許を得て、これを製作して世間に發賣せしに絕大なる好評を博したり。現在秩父銘仙中、模樣銘仙が銘仙の花形と謳はれ、嘖々たる好評を博して多大なる歡迎を受け、秩父機業發展に沒すべからざる功績を樹立す。爾來家業に專念して多大の成績を收め、業績大いに活況を加へり。氏は學殖該博にして手腕卓拔、人格又淸廉を以て著大の信望を得たり。昭和三年十二月秩父織物同業組合長に擁立せられ、組合長就任と共に秩父機業の近代化の爲めに奔走し、技術の改善に設備の向上の爲めに力を盡くし、更に意匠柄の新樣式の採用に意を用ひ、業界の改革刷新に盡瘁せり。昭和六年秩父機業界を席捲せし經濟恐慌に直面し、晝夜を分たず八方活躍して絕倫なる精力を傾け、これが危機を克服し、更に遠謀深慮に依りて秩父織物工業組合創立

せられ、同業組合の一切の機能は工業組合に移管され、更に充實せる機能を以て再生す。時に昭和六年十二月なりき。生産、販賣、其他の方面に種々の統制をなして、秩父機業の發展に至大の貢献あり。同組合は全國工業組合中模範組合として聞ゆ。斯る組合の完備せる機能と云ひ、その目覺しき活躍と云ひ、何れも氏の犀利緻密の智能と傑出せる才腕に基くものなり。資性溫藉、豪放磊落、公共の爲めに如何なる犧牲をも惜しまず盡瘁し、高義清節の人格は世人の畏敬してやまざる所なり。去る昭和十二年四月の總選擧には多數の要望を受けて立候補し、何等政黨的背景なくして多數の票を得て榮冠を獲得せり。その他村會議員、所得稅調査員に推され、鄕黨の尊崇を受くること厚し。尙ほ氏は秩父織物整理株式會社社長、全國銘仙聯合會副委員長、日本織物中央會副會頭、埼玉縣織物組合聯合會長等の要職に在りて財界の信望甚だ深きものあり。

（住所　埼玉縣秩父郡横瀨村）

株式會社 滋賀銀行

當行は昭和八年十月、八幡銀行と百三十三銀行と合併設立せし資本七百五十萬圓、內拂込額五百萬圓を擁する縣下最優最大の銀行たり。由來前者の八幡銀行は明治十四年十二月資本金十萬圓を以て創立され、爾來用意周到なる積極的營業を以て好く財界の起伏に順應し、業容の擴大と共に信用益々加はり、滿生郡を中心に地方銀行の目的を達成したる出色の評あり。後者の百三十三銀行は遠く明治十年彥根藩主井伊直憲伯を始め伊關寛治、竹村吉平其他有志諸氏の發起により創立したるものにして、其開業は實に明治十二年四月なりとす。爾來國立銀行條例に依り、第百三十三國立銀行として紙幣發行の特權を與へられ、同廿八年更に其分身として近江貯蓄銀行を起し、專ら貯蓄預金者の便を圖り、同三十二年に至りて國立銀行營業滿期と共に株式會社百三十三銀行として業務を繼續し爾後二行を合併したり。其間地方產業のために貢献したるは固より、創立以來國庫の出納、縣稅の取扱、諸官廳爲替方等を囑託せられ營業の着實と、基礎の鞏固を以て信頼厚く、八幡銀行と共に縣下銀行中の双璧と稱せられた。斯くの如く滋賀銀行は縣下に於ける優良二行の合併により、設立せられし爲に其內容の確乎不動は、今更喋々の辯を要せず。而してその初代頭取には縣下實業界の最長老として名聲嘖々たる八幡銀行專務取締役たりし梅村甚兵衛氏就任し、專務に百三十三銀行專務廣野規矩太郎氏、常務には野間庄治郎氏就任し、錚々たる陣容を築きたり。爾來全行員の一致努力以て信用の向上に勉め現に總預金五千五百萬圓を越え、地方一流銀行として毫も遜色なく、業態活況を呈す。昭和十年二月梅村頭取老齡の故を以て頭取を引退し、相談役に推され、爲に左揭の如き現陣容に革む。

滋賀銀行全景

取締役頭取廣野規矩太郎、常務取締役增田源藏、取締役西川嘉重、同森五郎兵衛、同大橋彌一郎、同上原海老四郎、同北村彌平、同勝見捨之助、監査役福井治三郎、同岡伊右衛門、同小島助治郎、相談役梅村甚兵衛、總務部長代理淺島豊三。

尙當行は昭和十年十月、豫てより建築中たりし本店竣成し、堂々たる偉容は大津市に巍然たり。

頭取　廣野規矩太郎　先代織藏氏の長男として明治十八年一月に出生。彥根中學、第一高等學校を經て、明治四十五年京都帝國大學法科を優秀の成績を以て卒業し、直ちに横濱正金銀行に入り、恪勤して其將來を囑望されしが大正九年之を辭し、百三十三銀行專務取締役に就任す。昭和二年十二月高島銀行を同三年十一月寺庄銀行を　同五年七月淡海銀行を合併して其敏腕を謳はれ、昭和八年十月百三十三銀行と八幡銀行が合併、滋賀銀行設立さるゝや、專務取締役に推され、同十年二月梅村頭取の後を襲ぎて其頭取に就任今日に迫ぶ。氏天禀溫厚にして堅實性に富み、一般の信用重厚にして人格識見非凡なり。

因に氏は大津商工會議所顧問、地方銀行協會常務理事に推擧さる。

（所在地　大津市坂本町）

中央鐵工所代表社員 金子定德

近時一般財界の好調に依り、鐵工業の活況は愈々顯著を加ふることゝなり、斯る情勢を受け氏の經營に拘る中央鐵工所は一段と躍進に向ひ、名古屋事業界に於ける氏の名望顯然たるものあり。氏は明治三十五年三重縣三重鐵工所に入り、同所の爲めに奮闘努力、精勵恪勤大いに盡瘁す。これに依りて氏は認められて多大に重用せらる。同鐵工所は年と共に發展を爲し、事業殷賑に向ひ組織を改革して株式會社となし、中央鐵工所と改名す。續いて氏は拔擢せられて總務課長となり、重要事務を託せらる。玆に於て益々その才腕を發揮して、同社の發展に貢献する所まことに著しきものあり。昭和六年株式會社中央鐵工所は餘儀なき事情に依り、解散をなすに至りたるに依り、氏は直ちに合資會社中央鐵工所を創立し、獨力を以て鐵工業に進出す。氏は夙起晚寢、全力を盡くして事業の發展に邁進し、その巨腕を縱横に揮ひ、斯くして事業は目覺しく發展し、東京、大阪各地の大商店と取引をなして頗る繁榮を極めり。氏は三重縣士族金子謙二氏の長男にして、同縣桑名市に明治十八年を以て生る。經驗蘊蓄ありて今後一段と才腕を發揮するに至るべし。營業所を名古屋市中區岩井通三丁目に設く。シウ夫人は三重縣四日市伊藤甚助氏の四女として明治二十年に生る。大いに內助の功あり。長女昌子女は山端慎治氏に嫁し、二女利子孃は家庭にありて藝藝の見習中なり。

（住所　名古屋市南區大喜新町三ノ一四）

株式會社 常陽銀行

創立以來僅かに二年餘にして、既に有力なる地方銀行の亜に列し、今や渾然たる常陽銀行獨自の精神を確認さるゝ關東金融界の新鋭たり。

當行は昭和十年七月を以て、常磐、五十の兩行を合併し、新生の輝きを以て生誕せるものにして、擁する資本金一千一百五十六萬六千九百圓、支店、出張所を茨城縣下四十九ケ所の外、その驥足を隣縣に伸暢し、福島縣九栃木縣三、宮城縣二と謂ふ眞に擴充せる營業網を布き、以て地方產業の興隆に邁進しつゝあり。勿論その地盤は常磐、五十兩行の歷史ある基礎の上に立つものなるも、新生の營業方針は支店、出張所の改廢上に於ても銳敏に働き、以て合併の所期に添ひ居れり。

昭和十二年十二月末に於ける當行の業績を見るに當期は戰時體制下に在り、特に九月末より十月に亘りて金融逼迫を告げし政府も日銀、興銀等を動員して、資金調達に努めしがその散布振は東に厚かりしは周知の如く、其間に在りて當行は、前期末に比し、預金一千四十四萬五千餘圓、貸出三百五十九萬九千餘圓を各增加す。特に預金は開業當時に比較す

れば五期にして實に一千六百十九萬餘圓を激增せり。軍需景氣の浸潤に惑り恩惠せざる地方的特殊事情にあり乍ら、この增大の最大原因は、業礎の確立に依り、一般信用の向上に歸さるべきなり。前叙の如く當行は二銀行を合併新設せるが、數十の支店、出張所の所在の實例に徴するに迄もなく、內部調正と機能發揮には相當の時日を要するものと思料されたるが、豫期以上に進捗し、五期にしてこの成績を昂揚せるは、洵に敬服に値すべし。而して當期利益金三十七萬二千餘圓を擧げ、一期より一貫實行の六分配當を踏襲、悠々後期に六萬四千四百餘圓を繰越したり。

因に現重役諸氏は、取締役頭取鶴山甚、常務取締役佐藤五郎、同三宅亮一、取締役秋山誠明、同渡邊眞乎、常任監査役今井惟明、監査役川崎友之介、同柴沼庄左衛門

取締役頭取　亀山　甚　常總地方に於ける實業界の元老的存在にして、我が地方產業開發に盡瘁せること多大なり。明治十八年六月、茨城縣總山莨五衞門翁の三男として出生す。由來總山家は茨城縣下異數の舊家にして累世欽仰さるゝ家柄なり。氏も亦人格高純にして醇厚、義氣に富む。當行創立に當り常磐銀行を代表して入行、初代頭取に推擧される。

（所在地　水戸市南町）

二條若狹屋

京都市の高級菓子舗として、著名なる二條若狹屋は常に「甘美新鮮」を製作上の鐵則として工風精練を怠らず、時々意表外の新機軸を出して食品通をして、舌を卷かしむる事あり。製品は素より其趣向千異萬別にして、風味亦各異れりと雖も、各種を通じて二樣の特徴を有せり。其一は優裁の纖麗優雅、其二は風味の高尚脆美、則ち是れなり。這箇二樣の特徴は獨り京洛人士特有の傳統的趣味嗜好に必適投合するのみならず、異味珍食の飽喫に荒廢せる近代文化人の味覺神經に普樂的衝動を與ふるの魅力を有し、其特製の數種の物に至つては形象色澤絕妙にして、神仙の食かと過たれ、一たび此れを口にすれば甘美脆美、人をして悅として忘我の境に飄游せしむ。是れ抑も何に由つて然る乎。知る人ぞ知る、店主藤田芳次郎氏靈才ありて、靈人たる能はず、若狹屋本店に入りて製菓の技を學ぶこと多年遂に其秘奥に造詣し、能てワカサレの若狹屋を此處に開くや、豊かなる美術的才藻を惜みなく動員して、飛驒の匠にさも肯たる日夜の精進、由つて爲つて一新生面を開拓し、由つて爲つて聲價を贏ち得たる此店・豈夫れ陳舊の凡菓を產するの理あらんや。豈夫れ有識者を首肯せしむるところなくして已むべけんや乃ち知る、氏は製菓に依つて天性の美術的技癖を醫癒し、世人は目と舌とを以て彼れが胸中の磊塊を鑑賞しつゝあるものなることを。氏が修業の壇場たる若狹屋本店の經營者高濱平兵衞氏は、近畿製菓業者中の香宿にして名人の稱を負へる人なるが、此れに師事して研鑽せる藤田氏の技は、自家獨創の風趣を添加することに由つて、一如の精彩を放ち遂に洛中其右に出づる者無しと稱せらるゝに至る。「青は藍よりも青し」とは夫れ是れを謂ふ。氏の丹精は獨り製菓の上に止まらずして、隨時必要に應じて作るところの商品目錄、挨拶狀宣傳書の數一として其美術的才能の表現に非ざるは無く、斬新優美なるそれぞれの趣向は毎に一流の大商店をして顏色無からしめ、就中「美味禮讃」と題する小冊子（當業案內）の如き、上質の和紙を用ひて木版二十餘度の手刷に成れるものにして、其裝訂內容の典雅華麗なる、一見人をして恍然たらしむるものあり。

二條若狹屋主人

店主　藤田芳次郎　氏は所謂「名人氣質」の人にして、技術に專らにして名利に恬淡。從來屢々放送局より講演の依頼を受け、又製菓講習會の講師として懇囑されたることも一再に止まらざりしが、悉く之れを拒絕したりといふ。又以て其氣格の一端を窺ふるに足る矣。

（所在地　京都市中京區小川角）

因幡水力電氣株式會社

我國水力電氣會社中堅級の尤として斯界に重きをなせる當社は、昭和二年十月の創立にして現時資本金二百萬圓（拂込二百萬圓）たり。當社の主たる供給先は山陽水力、郡是製絲、鳥取電燈、三菱鑛業明延鑛山等ありて、近時の事業界の好調に作ひ、需要日を逐ひて增加をなし、業績頗る好調を辿りつゝあり。當社の供給電力は常時二千キロワット、特種二百キロワット、融通五千キロワットとなれり。毎期多大の好成績を擧げ、七分配當を行へり。當社は日本電力の子會社にして、當社の株の大部分は日電證券の所有する所たり。尙ほ重役には斯界の錚々たる人物登場す。即ち社長池尾芳藏、專務岸田幸雄、常務藤岡芳藏の諸氏第一線に在りて活躍す。

常務取締役　藤岡　芳藏　頭腦俊敏にして手腕の秀拔なるを以て、斯界に饒名を聽せる藤岡氏は、明治十五年十二月鳥取縣に於て生る。鄕黨を了ふるや京都に出で、同地の中學に入りて更に立命館大學法科に學び、明治四十二年同校を卒業す。直ちに實業界に入り、早出晩退、精勵恪勤して業務に盡瘁し、多大の功績あり。その穎才を認められて儕輩を拔いて拔擢せられ、次いで因幡水力常務、並びに山陽水力電氣常務の要職に擧げられ、天賦の才腕を揮ひて社業多大の躍進を遂ぐるに至れり。氏の攻々として倦むことを知らざる努力と、犀利綿密の對策と、更にその神籌の鬼策とに依り業績年と共に向上の一途を辿り、社礎は磐石の泰きに拠へられるに至りたり。山陽電氣株式會社並びに因幡水力株式會社の兩社は近々日本電力株式會社の傘下に併合せられる筈なるが、右合同實現の曉には、氏は入りて日本電力常務に就任することゝ決定せり。謙抑にして達識、氏の觀察は常に時流を拔き、その洞察は常に人に一歩を先んじ、勇斷敢行の決斷力と相俟つて、氏の俊才は業界に獨創の業陣を布き、斯界屈指の俊英として兼虛の贈仰する所となれり。責性剛毅潤達にして氣恪俊邁、而も質實堅確たると共に心性破潑、仁情に富みて抱擁力廣く、後進を指導誘掖して、その靈きざる溫情には部下より慈父の如くに崇敬せらる。氏は尙ほ多忙なる業務の寸暇を割きて社會公共事業の爲めに寄與する所多く、現時帝國同仁會副會長、電氣協會評議員、更に立命館大學理事等の椅子に就けり。尙ほ氏は電氣事業に關する蘊蓄經驗の豊富なる所より、遞信省事務囑託、遞信省臨時電氣事業專門委員等に任ぜられ、斯界の爲めに貢獻せるところ僅少ならず。

（所在地　大阪市北區宗是町一）

埼玉縣立　浦和高等女學校

完備せる施設と俊秀の職員を集め、その敎育甚だ懇切にして周到、女子敎育界にその名聲高きが浦和高等女學校とす。當校は明治三十三年三月私立埼玉女學校生徒を引繼ぎて、埼玉縣高等女學校と稱して創始せられたるものなり。翌三十四年三月新設埼玉縣女子師範學校に併置せられ續いて同年八月埼玉縣立浦和高等女學校と改稱せり。縣に移管と共に設備內容の充實大いに見るべきものありしが

四十三年十一月現校舍新築落成して移轉し、輪奐の美大いに具はるに至り、翌年女子師範學校より分離す。年を逐ひて校運勃興し、多大の發展をなして、大正十年四月學則を改正し、從來の四年制を改めて五年制となして生徒定員を七百五十名に增加せり。超えて昭和三年四月生徒定員を一千名に改め、七年四月に至り二十學級完成す。尙ほ十一年七月御眞影奉安殿落成せり。現時校地總坪數二七七・一一アール、建物敷地三〇・五四アール、運動場九九・一七アールにして教職員總數四十五名を數ふ。卒業生總數は昭和十二年六月一日現在三千五十九名に達し、家庭の主婦として或は職業婦人として各地に散在し、淑德高き賢婦人として好評を得て、母校の名聲を大いに發揚せり。又生徒の學業の向上を圖る爲めに種々の施設を設け、殊に上級學校入學志願者の便宜を圖りて第四學年第五學年より特別學級を編成し多大の成績を收めつゝあり。近時當校の上級學校入學志願者大いに激增し來れるが、その合格率甚だ高く、優秀校として矚目せらる。又卒業生にして官廳、銀行、會社方面に入る者多く、多數志望中より選拔せられて採用せられるの有樣なり。その他尙ほ德育、體育にも力を盡くして非常なる好成績を擧げつゝあり。校風堅實なると共に明朗潑剌、生徒又素質優良にして學績優良、當地方に於て多大の好評を博せり。

校長 豊永省三 氏は明治十三年六月群馬縣前橋市に呱々の聲を揭ぐ。群馬縣立師範學校を經て東京高等師範學校本科數物化學部を卒業す。岩手縣師範學校、東京府立第四高等女學校、大分縣師範學校、同女子師範學校等の教諭を經て、大分縣立日出高等女學校、同中津高等女學校、同宇佐中學校、同大分中學校等の校長を歷任せり。昭和八年五月埼玉縣立浦和高等女學校校長を命ぜらる。これまで幾多の施設を設け、多大の業績を擧げて、その手腕を讃はる。中津高女、宇佐中學、浦和高女に御眞影奉安殿を建設し、その功績は赫々として永遠に傳へられん。當校に赴任するや、教育の實績を擧げんが爲めに保護者會を組織して學校と家庭の連絡を緊密ならしめ多大の効果を收めり。その他生徒の教養の刷新向上には不斷に意を注ぎ、或は生徒の健康增進の爲めに各種の施設を設くる等、當校の施設に內容に他校に見る能はざるの充實振りを見せて、縣下教育界注目の的とせらる。資性溫恭謹恪、溫情豊かにして抱擁力あり。寬容にして敦厚、道念堅く操行嚴正。世人の贈仰を受くること厚く。氏は教育界に職を奉ずること多年、蘊蓄該博にして識見高邁 その豊富なる經驗と卓拔なる手腕を以て、埼玉教育界の重鎭として推敬せらる。讀書に圍碁を趣味とせり。

（所在地　埼玉縣浦和市元宿臺）

株式會社 古島商店

近時國力の膨脹と支那事變の勃發により、我が機械工業界の著しき活況に反映して、全國至るところ工場或は機械附屬製品販賣業者の續出を來たし、而も事業角逐の激甚を極めつゝある中、一人傳統と業礎の堅實を以て着々進展隆盛に赴きつゝあるは、我が古島商店なりとす。當店は現社長古島德司氏が大正六年、個人經營を以てトキワ商店と號し、機械附屬品等の販賣業を興したるに創まり、爾來着々として業績を擧げ、昭和三年之を合資會社となし、事業を擴大、更に非常時局に依り軍需工業の盛んなるに及び、一大飛躍を企み昭和十一年九月之を更に株式會社に變更、資本金を七十萬圓に增大して大いに內容を刷新し、我が國工業界の雄たる日本鋼管、住友金屬工業、日立製作所等の特約店又は代理店となり、瓦斯管、水道管、引拔鋼管、フラン管ステー管、瓦斯管繼手、マリエブル鑄鐵、錬鐵製品、完成バイト、電動工具等各種多樣の優秀機械製品を網羅して隆々たる盛業裡に

在り。

社長 古島德司 氏は茨城縣關竹二郎氏の二男として、明治二十三年五月を以て水戸市に生れ、後古島政二郎氏の養子となる。夙に水戸商業學校を卒業、早大に學び、塚本商事會社に入社、次で同社大阪支店詰となり大正六年獨立トキワ商店を經營し、瓦斯管の販賣に從事し、昭和三年之を合資會社となし更に同十一年株式會社に變更、之が社長となり敏腕を揮ふ。傍ら三好石綿採礦、鐵管繼手販賣各取締役社長、日本瓦斯管販賣監査役等を兼ね、支那事變下業界未曾有の活況に乘じて雄飛活躍を擅にし、而かも至誠一貫、商業報國の念願達成に邁進し居れり。

資性豪毅にして勇猛敢爲、事に臨みて屈折せず、奮闘努力の進取的精神頗る旺盛、加ふるに周到卓勁の天禀と機略縱橫の修練ありて、遂に今日あるを得たり。之れ氏の公人としての一面なるが、更に私人としての一面を窺見するに、人情味に富みて仁俠義心滿々、更に友情に富む、以て氏の瞠目すべき洋々の前途を知るべし。趣味として狩獵を友とす。茨城縣經濟牝助氏の長女たるマキ夫人との間に嗣子一雄氏ありて、家庭至極圓滿にして和氣靄々たり。

（所在地　大阪市西區立賣堀北通六ノ三六）

株式會社 清水回漕店

軍需インフレの影響に依りて近年事業界は多大の好況を呈せしが、昭和十二年七月の支那事變の勃發以來事業界は一段と活況を現出し全面的に各種事業は殷盛に向ふに至れり。斯くして原料、製品等の貨物の運途頗る輻輳し、陸運海運共に近時愈々好調の一途を辿りつゝあり。當店は一般海運、船舶代理、物品販賣その他の事業を營み、業況日を逐ひて繁忙に向ひ、關東財界に名聲大いに揚れり。當店の創業はまことに古くして、明治初年日本橋に於て故清水清兵衛氏之を創始す。同氏は眞摯之が經營に沒頭し、專ら信用を重んじ、貨物の取扱頗る鄭重を旨としたるに依り、多大の好評を博し、事業大いに發展を遂ぐるに至れり。次いで明治四十二年に至り、多年當店に勤續して貢獻ありし現專務辻定吉氏營業名稱一切を襲承して、之を經營することなれり。氏の熱心なる努力とその才腕に依りて愈々事業躍進をなし、大正十一年六月に至り各汽船會社の後援の下に組織を變更して、株式會社となし、事業に一大刷新を加へ斯界に鞏固たる一大業陣を布けり。昭和九年二月芝浦に店舗を新築し、或は橫濱、神戸等の出張所の業務の擴大をなす等、近時の發展は業界の瞠目する所たり。多年の歷史と事業界に博せる信用とに依り、事業愈々繁忙を加へ、累期業績は益々躍進をなせり。當店は運途事業の公共的性質を帶びること多大なるものあるに鑑み、徒らに利益を追ふことなし、業務の改善に腐心して好評湧くが如きものあり。

專務取締役 辻尾定吉 辻尾氏は資性溫厚にして素志堅確を以て知られ、多年清水回漕店を主宰して、斯界に多大の信望あり。明治四年十一月大阪府人辻尾豊三郎氏の二男として生る。夙起晩寢して業務に勵精し、熱誠熱直その職に沒頭して部下に範を示せり。心性皎潔にして人格嚴直、身を持すること頗る嚴正たると共に部下を遇するに慈父の情を以てし、從業員の悅服すること甚だ深し。業界有數の材幹として多大に敬仰せらる。

（所在地　東京市芝區芝浦二丁目）

仙臺產馬畜產組合

當組合は明治十三年一月の創設に拘ると云ふも、古來奥羽一帶を驛北と稱せられし當時より既に此種の組織的なる寄合ありて、夙に馬牛に對する殖產改良等行はれて、我が國馬

牛に對する貢献多大なるものあり。當初宮城産牛馬組合と稱したるも、同二十三年に至りて仙臺産牛馬組合と改稱し、更に大正五年四月産牛と分離し、仙臺産馬畜産組合と更改今日に至れり。宮城縣一圓を其の區域として、之れを二十五區即ち村田、刈田、大内、宮城大松澤、吉岡、松山、遠田、中新田、小野田宮崎、瀘峯、池月、鬼首、花山、文字、岩ケ崎、瀘峯、佐沼、登米、小野、飯野川、大原志津川、澤谷等に頒ち、その組合數實に九千九百二十名の大陣容は正に堂々斯界隨一の組合にして、專ら馬匹改良發達を圖り、以て我が國産馬に優良なる馬匹を産出せるの現況は國家の爲めに誠に慶賀に堪えざるところなり。獨當組合が如何に熱烈に産馬改良に留意之れが適切緊要なる處置を講じ、只管懸命の努力を續け居るかは左の事業に依りても、之れを知るに容易ならん。即ち種牡馬の供給、家畜市場開設、馬匹共進會開催、競馬會開催馬匹檢査、馬の系統及び能力登錄、馬學獸醫學の講習及び講話會開催、馬の衞生改善、馬の販賣斡旋、牧野の整理、馬匹の共濟事業等々卑くも馬匹の改良に資すべきものは、細大之れを漏さざるまでに留意して、只管懸命の努力を續け、殊に明治二年に洋種牝馬一頭を當時の仙臺藩より之れが下附を受け、繁殖用に供し、雜種二頭を得たるは、是れ實に我が國洋種繁殖の嚆矢にして、同六年宮内省の御買上げの榮を賜りたるは、同組合の無上の光榮なり。次で同十年以降宮内省、陸軍省より洋種牡馬の漸次貸與を受け、就中米國種「キンロック」號の如きは最もよく仔馬を産し、同十六年「ホンガリ」産牡馬五頭、牝馬一頭を購入、二十一年には「アルゼリー」種牡馬二十三頭を輸入、其他農商務省宮内省より洋種牡牝十頭の貸下を受け、鋭意改良發達に資し、現在蓄殖供用牝馬は毎年約六千頭に及び、其の他生産仔馬は二千五百餘頭に及ぶ盛況裡にあるは寔に欣快に堪えざるなり。

大石倫治氏

組合長　大石倫治　明治十年六月宮城縣登米郡石森町を産梓の地として呱々の聲を擧げたり。幼にして俊敏神童の譽高く刻苦勉勵明治三十年東北新聞記者として、言論界に雄飛するや、忽ち其の名聲を博し、其將來を期待さるゝに至れり。大正十年早くも仙臺市會議員に推され、次で昭和四年には縣民の輿望を擔ひて中央政界に出馬し、衆議院議員となり、同十年には勳四等を賜はり以て偉名を馳するに至れり。猶現に衆議院議員、同組合長の外帝國馬匹協會常務理事、國有財産調査會理事、立憲政友會院内總務等の重要地位にありて益々眞價を發揮しつゝあり。

（所在地　仙臺市北一番丁）

株式會社　淺井商店

山紫水明風光明媚を以て名ある京都は、春夏秋冬四季何れも趣きありて、遊樂の地としては全國これに比儔し得るの地なし。況んや花も尙ほ恥ぢらう京美人に、山海の珍味佳肴芳醇無比の天下の美祿あるに於てをや。京都市に於て代々酒類商を營み、その暖簾の古きと、美味芳醇の銘酒を販賣するを以て古くより名聲を謳はれるが淺井商店なり。屋號を鍵屋と稱して世間よりは多大の信用を得。又同業者間に於て甚だ重きをなせり。當店は良品を低廉の價格を以て販賣し、顧客に對しては懇到親切を以て接して非常なる好評を受く。酒類の外各種食料品を販賣し、更に土地及貸家の經營をなせり。取引頗る活況を極め、その取引高は京都同業者中の首位を占む。昭和四年三月時代の進運に鑑みて資本金五十萬圓全額拂込濟みの株式會社に改組せり。爾來年と共に發展し、商況益々殷盛を呈して、業績大いに揚れり。その事業の盛大を極むること他の同業者の追從し得る所に非らず。當店の重役陣を見るに取締役社長淺井伊兵衛、取締役上阪伊三郎、同淺井春、監査役淺井条三郎の諸氏にして、何れも業界に著名なる人物たり。

取締役社長　淺井伊兵衛　淺井家は代々酒類商を業となし、鍵屋と稱して京都市に聞えたる舊家たり。近隣より多大に敬仰せらる。氏は明治二十四年先代淺井伊兵衛氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。幼名を六三郎と云ひ先代伊兵衛の後を繼ぎ家督を相續して襲名す。氏は幼少より温厚にして質實。能く家業に精勵して研精これ努む。人物まことに圓滿にしてその肌觸り甚だ敏かなり。人に對して謹虛、言動擧措甚だ儀禮正し、從業員の爲めには親身の如くに斟酌し、慈父の如く敬慕せらる。上下和衷協同して事業の發展に淬勵し、商況證刺として活況を呈せり。人格廉直にして磊落淡白、社會公共の爲めには惜しまず私財を散ず、その信望まことに高し。經驗藴蓄兼ね備はり、飽はまさに男盛りにして、益し今後の活躍こそ刮目するに足らん。尙ほ氏は不動産金融を目的とせる彌榮商事社長に推戴され、同社の爲努力しつゝあり。

（所在地　京都市下京區祇園町北側）

株式會社　日本氣化器製作所

近代科學の精華を爲すものに、蒼空を翔破する飛行機、飛行船あり、陸上を疾驅する自動車あり。この兩者の普及發展の如何こそ、我國に於ても飛行機或は自動車の事業忽然と勃興し、輸入品は漸次驅逐されんとするの情勢にあるは、邦家の爲め慶賀に堪えざる所なり。航空機、自動車等の一切發動機用氣化器燃料ポンプ、空氣清淨器、國産キャブレター等を製作して、航空機、自動車工業の發展に貢獻すること至大なる日本氣化器製作所は、昭和七年資本金六萬二千五百圓を以て創立せらる。當社の精巧精密なる技術を以てせる優秀堅確の製品は輸入品を凌駕し、各方面より多大の賞讃を受けて需要殺到す。斯くして社業は大躍進をなし、能力は次第に不足を告ぐるに至りしにより資本金を更に倍額の十二萬圓に增資をなし、設備の大擴張を斷行せり。更に新技術の採用と設備の改善に力を盡し、製品の向上に苦心努力せるにより年と共に優秀を加ふ。當社製品に對する信用は益々高まり、需要愈々激增す。取引先は飛行機並に自動車の關係事業及び軍部方面なりとす。工場は品川御殿山の大通りに面し設備完備せる整然たる近代的大工場として堂々四邊を壓せり時局關係よりして需要愈々增大に向ひ、當社はまさに大發展の途上に在りといふべし。

取締役社長　大來修治　當社今日の躍進は、社長大來修治氏の刻苦經營と、社員從業員に對する統率宜しきを得たればなり。氏頗る德望ありて、首腦部は一致して氏を援け、多數の從業員又深く悅服して和衷協力し以て短月日の間にこの大を實現し得たり。人物才腕衆に秀で、聖自動車製造取締役を兼ねその將器將來愈々顯揚せらるゝに至らん。

（所在地　東京市品川區北品川五丁目）

名建家　木村定二

愛知縣多額納稅者、木村定二氏は先考定治郎氏の次男として、明治四十年十月を以て生る。夙に東京帝國大學法學部政治科を卒業し現時、名古屋堀毛合名會社出資社員たり。

昭和十一年嚴父定治郎氏逝去せられるに及び

び、同年家督を繼ぎて事業界に打つて出で、精勵惜勤して事業に傾倒す。嚴父定治郎氏は先代より米發肥料商を襲承して營み、一意專心幾多の難關を突破して、遂に大成招來をしたりしが、大正初年に之れを廢業し、專ら自己所有の土地家屋管理に當りしが、昭和五年長男定一氏の死去に際し、名古屋市社會事業費として、金一萬圓を寄附し、同六年、紺綬褒章を賜はりたる篤志家にして、木村定二氏は長兄の長逝に依り家督を襲承したるものなり。氏も亦嚴父に劣らず、社會事業方面に留意すること多大なるものありて、昭和十一年父定治郎氏永眠したりしに依り、これが追善の爲めに名古屋市社會事業費に、金一萬圓を寄附し、昭和十二年、紺綬褒章を賜はれり。氏能く父の遺訓を遵守し、孜々として家業に從事する傍ら、獻身的努力を公共に注ぎて功勞多大なるものあり。資性溫厚篤實にして、仁情に富み、その德望隆々たるは敢て贅言を要せざる可し。

氏の令室、みち子夫人は、名古屋市土木建築業界の重鎭にして、その名聲冠たる清水準吉氏の長女たり。夙に縣立第一高等女學校を卒へ、淑德の譽高き才媛にして、陸軍大將松井石根氏の媒酌に依りて華燭の典を擧ぐ。夫妻琴瑟相和し頗る圓滿なり。母堂とく刀自は明治十七年生れ、名古屋市の素封家として知らる芳本勘三郎氏の長女にして、內助の巧妙からず。殊に子女敎育に當りては、熱心に之れが訓育に留意して賢婦人として令名あり。皆此の感化著しく、長男、次男、三男共優秀の成績を以て帝大を卒業したり。

（住所　名古屋市中區伸ノ町二丁目）

日本サブロー株式會社

飛躍工業日本の凱歌は、今や本邦各工業部門に高らかに謳はれ、各種機械器具の國產優秀器、陸續として製產發賣され、夫々需要方面に在りて偉力を發揮し居れるは、苟も斯界に一雙眼を有する者の齊しく首肯し得る處たり。玆に概述せんとする日本サブロー株式會社の如き、亦た其列に洩れず斷然業界に誇るべき優秀國產冷凍機を完成發賣し、以て從來舶來品に獨占されたる我が船舶設置用冷凍機界の爲に萬丈の氣焰を吐き、其の性能卓絕し而かも構造簡單にして堅牢、或は取付の容易利便なる等、幾多の長所特點を具備せる新製品は、既に需要界の絕讚好評を博して各方面に納入され、其の絕大なる眞價を遺憾なく發揮し居れり。即ち該品は「國產サブロー式舶用蒸汽働冷凍機械」と命名され、陸海軍省、商工省を始め、各官廳及び各種一流會社に納入されて聲價藉甚、特に本邦海運界の双璧たる日本郵船、大阪商船は素より、東洋汽船、岸本汽船等の優秀船には、何れも諸冷凍機の據付を見ざるなく、而かも異數の優秀成績を擧げて斷然他の追隨を許さずと聞く。而して當社は大正十五年以來、世界斯業界に嶄然群を拔く丁抹トーマス、トムソン、サブロー會社と提携し、船舶及陸上用冷凍機械「アムモニヤ式及炭酸瓦斯式製氷、冷凍機械各種」の輸入販賣を始め、漸次發展を累ね來れるも、昭和十二年更に本國工場より日本に於ける製作權利を獲得し、國產品に限り大阪機械工作所にて製作、以て該品の一手販賣を開始し、亦たタイタン會社製諸油清淨機及牛乳分離機或はシルケボルグ會社製酪農及牛乳用諸機械等を直輸入なし、加ふるに前述各機の裝置設計並に工事請負を兼ねて銳意努力せる處、夙に諸機械の聲價高きは勿論、亦た設計工事の技倆優秀なると相俟ちて、業運頓に發展隆盛を齎せる一方、各需要界に獻替する處多大にして、今や斯界屈指の聲望を贏ち得、社名燦たる光輝を加へつゝあり。

專務取締役　兒島安之　氏は明治三十年一月六日生れにして、年齡不惑を超ゆること僅か二歲、其の識見手腕愈々圓熟し、前途の活躍雄飛を期待さるゝこと厚し。夙に工業界

に嘱目せる處、大正三年以來神戸川崎造船所造機設計部に勤務敏腕を謳はれ、其後大正十年同社を退くや、瑞典チエルベルジ機械會社に入社、次で同十五年同社代理の丁抹サブロー會社の後援を得て日本サブロー會社設立さるゝと共に、同社支配人に就任し、爾來至誠努力、克く社業の發展を圖りて遺憾なく、而かも其の達識卓腕容易に比肩するものなき處昭和六年十一月前專務取締役ジ・アクセルボ氏逝去せる爲、同七年六月其の後を襲ひ、更に同九年遂に擧げられて現職に就任せり。資性謹直敦厚にして圓滿なる人格を有し、其の洗練されたる態度は、正に典型的紳士と稱すべく、而かも當社創立以來、社運の興隆伸展に寄與せる功績甚大なる處、今や名實共に當社不可缺の至寶的存在として全社員の敬仰信賴の的たり。因みに兵庫縣武庫郡御影町城ノ前に清福團滿なる家庭を營み、和氣藹然たること近隣に評判高し。

（所在地　大阪市北區梅田新道太平ビル）

平松商店取締役

西田勇太郎

我が國毛絲輸出入業の巨商、平松商店取締役兼名古屋出張所長の要職に在る氏は、中京事業者間に才幹を謳はれ、將來の氏の活躍に對し世人より大いに嘱目せられ居れり。

由來平松商店は大阪に店舗を設け、平松甚太郎氏個人經營に拘る、毛絲輸出入業界に於て斯界の巨商を以て目され、頗る盛業を極めたりしが、大正十一年是れが組織を株式會社に革め以て今日に至る。氏は大正八年三月大坂商業學校を卒業後、直ちに同店に入り銳意勉勵實直に事業に當り、孜々として斯業の修得に努力せるに依り、當店主平松甚太郎氏痛く氏を愛し、同店組織改稱と共に、拔擢されて名古屋出張所に轉勤を命ぜらる。蓋し中京名古屋は重要地なる地盤にして敏才を必要としたればなり。氏名古屋に轉ずるや、精勵恪勤して業務に盡瘁して多大の功あり。同地業界に漸く信認を篤め、平松商店の名聲を大いに顯揚せり。偶々昭和九年、名古屋出張所長馬淵政太郎氏、專務取締役に昇進に伴ひ、氏拔擢せられて此處に出張所長の要職に推さる。中京地方の業務を一任せられるや眞摯熱誠、更に奮闘、採算經營に絕大なる功績を擧げ、昭和十一年遂に同社取締役兼出張所長となる。氏の材腕卓絕し、如何に社長の信認厚かりしは覺知するに難からず、氏は明治三十三年七月岐阜縣大垣市の士、織次郎氏の次男として產聲を上ぐ。齡未だ四十歲に滿たざるの少壯にしてこの成功をなせり。

氏爲人謹嚴質着にして、卓勁の商才あり。變動常なき貿易界に於て、巧に之れを操作する獨特の才能は正に絕讚を受くるに足る處なり。

因に當社は、本社を大阪に有し、資本金二百萬圓を擁して、出張所を東京、名古屋、奉天に平松洋行を有せり。

（住所　名古屋市西區桶屋町三丁目）

金地院

洛陽の古刹として古來有名なる金地院は境域の閑淨にして、詩趣に富めると、所藏の寶物古文書に史家考古學者の參考となるべきもの多きを以て遙訪の人常に踵を接し、京都に遊ぶ者は信俗を問はず參詣するを例とせり。當院は南禪寺塔頭の一にして室町時代の初葉本山六十八世大業和尙、足利義持の歸依を受けて開創するところなり。應仁以降戰亂の餘波を被りて本寺堂塔共に一時全く荒廢せしも本山第二百七十世本光國師に至り、德川家康の外護を受け中興の業を完うせり。國師は足利氏の疎族一色氏の出にして、その滅亡と共に當院に入り玄圃靈和尙に從ふ。時に年十三長じて本山の法燈を禮ぎ、家康の殊遇を蒙りて其帷幄に參じ幕政に寄與するところ頗る多く天下總錄司（五山十刹及其法流に屬する禪

寺の出世擧薦を司る）の重位に任ぜられ、爾來當院の住職代々これを司るの例を作れり。又豊光寺承兌と倶に外交の事をも司り、自らも朱印船を有して海外に航し、貿易の利を收む。實に桑門異數の政治的傑僧にして、時人これを稱して寺大名といふ。當時の寺領一千九百石、以て其盛宮を想ふべし。爾來三百年代々德川氏の保護を受けしが、維新の世變に遭ひて寺觀古の如くならずと雖も、繪畫、古記錄、什器等寶物の多きこと山内第一に居り、就中本光國師に關する資料に於ては量質共に全國に冠たり。境内南面の方丈は伏見桃山城の殿舍を移せるものにして、結構壯麗、當代住宅建築の好例として、珍重せられ國寶に指定さる。方丈と相對して安國堂あり。家康の靈を祀る。庭園は小堀遠州の作にして世に鶴龜の庭として有名なり。一面に白砂を撒き、南側中央に扁平なる巨石を置き、左右に數個の石を以て各一隅の石組を作り、此に樹木を配して一を鶴、一を龜に擬す。禪院の林泉としての典型的のものと稱せらる。

本光光國師遺言狀（金地院藏）

住職 清水道源 氏は大分縣の產にして元別震雲寺の住職たり。僧籍に身を置きてのち小倉師團に入營、日清日露兩役に從軍し退役後京都に來り幾くも無く當院の住持に擧げらる。齡已に古稀に垂んとするも、尙矍鑠として敎化を怠らず、道心堅固の高德として世評高し。

（所在地　京都市上京區南禪寺福地町）

東洋ベアリング製造重役

西園二郎

東洋ベアリング製造株式會社取締役技師長の椅子にある氏は、我が國機械製造工業中最至難たるベアリング製造に成功し、業界他年渇望の該品の供給をなし、剩さへ輸入防遏に銳意力を盡くして、我が國產品の精華の發揚に盡瘁し、その功績實に赫耀たるものあり。

發明は天性の才能に基くものなるか？　之れを全的に否定し得ざるも之に努力の伴はざるゝはなく、氏亦幼にして鄕關を出で、幾度か辛酸を嘗め、漸く名古屋市東區松山町石田鐵工場に業務見習に入る。將來雄飛の爲め貴重なる體驗を積むこと此處に幾星霜、大正四年桑名市に始めて獨立創業す。創業當初幾多の難關に逢着せしも、拮据經營能く其の功を收め、漸く之れが完成を見るに至れり。昭和四年、大阪巴商會主丹羽昇氏等と相謀りて合資組織に變更し、各自の頭文字を採り、NTN製作所と改稱せり。

由來機械工業類は擧げて之れを海外の輸入に相俟ちたる我が國も、僅々半世紀間に長足の進歩を遂げたりと雖、重要且つ不可缺の部分品に至りては、歐米先進國に一日の長を讓りたる憾ありて、正に立遲れの狀態なりき。氏は我國產業の前途を慮りて、ベアリング製造に着目す、爾來技術上の困難、經濟上の障碍に遭遇し、幾度か挫折の悲境に至れるも、能く克服し今日の盛況を見ることゝなれり。今日同社に於ては、其製品、數耗の極少寸法のものより、千數百耗の大に及ぶものあり。種類も亦數千の多種多樣の品を製作なし得るに至れり。就中最至難事たる航空發動機用超高速度ベアリングの製品にも成功したるは、斯界の夙に絶讃を博せる處にして、同社の榮

譽氏の面目誠に絶大なるものあり。

氏は明治三十年十二月十一日、三重縣一志郡中原村、西園彦三郎氏の長男として呱々の產聲を揚げ、今日此の大成を爲すに至る。誠に立志傳中の人といふべし。東洋ベアリング株式會社の項參照

（住所　三重縣桑名市外堀町）

共同印刷株式會社

當社は明治二十九年一月博文館の出版物を印刷するの目的を以て、京橋區竹川町に印刷工場を設置せしが濫觴なりとす。當時印刷機械六臺、職工數六十名に過ぎざりしが、次第に發展に向ひ、明治三十一年十一月現地を買收して移轉大擴張をなす。三十八年從來の博進社工場を改めて博文館印刷所となし、一般の印刷物をも引受くることゝなれり。同年又博文館の事業に參畫し來れる大橋光吉氏、精美堂印刷工場を創設し、傍らその事業の經營に當る。大正十四年大橋氏歐米各地を視察して歸朝するや、博文館印刷所と精美堂とを合併して共同印刷株式會社を創立し、我國印刷界の覇權を確立せり。爾後設備の改善從業員の訓練、技術の練磨に力を注ぎ、社業著しく勃興す。現時資本金三百萬圓、從業人員二千五百餘名、工場敷地一萬四千坪に及び、使用馬力二千二百馬力、一日の生產力に精版千五百頁、寫眞製版四千坪、印刷五千五百連、活字鑄造二百萬本、並製本十五萬冊、上製本一萬冊等々驚くべき能力を有す。工場設備に從業員の訓練に模範工場として曩に視察より推奬さる。その設備の最新、技術の優秀、印刷の鮮明なる他に超絶する所たり。事業頗る繁榮を呈し、業績頗る好況裡にあり。

社長 大橋光吉 兵庫縣人森垣治右衛門の四男として明治八年八月を以て生る。夙に東京に出でゝ博文館に入り、同館の創立者故大橋佐平翁に材器を愛せられて養子に迎へらる。終始一貫博文館の事業發展に傾倒し、その功績沒すべからざるものあり。手腕卓勁、溫厚恭謙の實業家たり。東京インキ、日本書籍各社長、日本醸造工業、東京煉瓦各取締役博文館監査役其他數社の要職にあり。

常務取締役 君島潔 氏は東京府人君島勇次氏の長男として明治十三年十一月に生る。明治三十六年東京高等工業應用化學科を卒業し、後博文館印刷所に入る。頗る至誠篤直の人にして、培養鞭撻その職に精勵す。共同印刷取締役兼總務部長に拔擢せられ、更に常務取締役に榮進す。歐米諸國に視察に赴きて調査研究し、印刷技術に關する學殖甚だ深邃なり。傍ら東京インキ監査役たり。

庶務課長 上澤正作 溫籍質實、素志堅剛を以て知らる。頗る職務に忠實にして責任觀念强く、早出晚退熱誠以てその業に當る。人情の機微に通じ世故に長け、その職責を全うして、人格才幹ともに上長の信認深く、部下從業員の信賴亦厚し。

（所在地　東京市小石川區久堅町）

事業家

野橋作兵衛

機業王國西陣を中心とせる京都市の生絹、縮緬販賣業者は世運の進展に伴ひ、近年著しく其數を增せるが、現在に於ては其盛衰の結果として競爭激甚にして同業相剋の傾向を生じ經營困難を懇ふもの尠からず。試に其概況を打診するに外觀堂々として內容の之に伴はざるものあり。表面を誇大に粉飾して其內實は金利に追はれ、資金の流通に窮しつゝ氣息奄々たるものあり、財界の不況其他外面的事情の憂に堪えず、內外糊塗彌縫に忙しく辛じて、其命脈を繋げるものあり、或は不況不振の雰圍氣の裡に蠢動して焦燥迷亂の色調の蔽ふべからざるものあり。其間に介在して確乎

不動の態勢を崩さず、萬人をして其業礎の堅實を疑はしめざる野橋商店（代表者野橋作兵衛氏）の如きは、蓋し例外中異數の存在と稱すべく、改組創立以來世況幾變轉の間に微動だもせず、同業相刻の圏外に超然として、宛も喬木の倭林中に亭々たるの觀を成せるところ、既にして長年月に於て贏ち得たる信用の如何に堅實なるかを首肯せしむるに足る。當店が合資組織を以て斯界に君臨せることは、新興會社の部に屬すると雖も、其淵源は遠く天明年間に發せり。即ち野橋家の祖先が其頃現住の地に於て生絹、縮緬などの販賣を創始せるを其濫觴とし、累世これを繼承せるものにして、當主は其六世に當る。先代作兵衛翁は他家より養子として入家したる人なるが、時恰も維新變革の際にして、商工各方面の動搖甚しく當家亦其餘響を受け、苦境に傾かんとしたるを八方畫策、幾多の錯節を排除して業礎を堅めたり。當店が法人組織として面目一新、更に一段の生彩を加ふるに至りたるは主として其掉尾の一振とも謂ふべき晩年の努力に依るものにして、當店中興の祖として内外の信望厚く、京都縮緬商組合長に推されて斯業界に巨大なる足跡を殘して逝けり。當主作兵衛氏は昭和三年先代歿後家督を相續し、父業贈承以來時世の動向に順應するの方針を樹て、近代的欲求の一端たる人絹物の販賣をも開始すると同時に規模を擴大し業務の刷新を計りたる結果聲價益々揚り、今や從業員數十餘名を使用し、整然たる統制の下に異常の販賣機能を發揮し、斯界の最高權威たる偉容を遺憾なく表現するに至れり。氏、爲人溫厚謙讓、現在京都商工會議所議員、學務委員、商事調停委員等の公職を帶び名望嘖々たり。

（住所　京都市中京區兩替町通り三條北入）

國產研磨材料株式會社

抑も當社は嘗て大阪倶樂部に於て、大阪海軍監督官並に大阪府經濟部商務課を始め、關西財界の巨頭權威者參集し、研磨材料に關する座談會開催せられし時、玆に國產斯業の徹底的打開を期すべく方策樹立され、其の實現方途として、不取敢資本金五十萬圓の株式會社設立を決定せるに發し、昭和十二年五月を以て創立されしものなり。爾來、國產研磨材料各般の綜合的研究並に高級原料の國產化を目的とし、大阪府の指導は勿論政府の助成を抑ぎ、更に軍需品工業として、陸海軍監督下に着々業務を伸展せしめ、當初專ら研究に主力を傾倒せるも、今次支那事變勃發と共に醵然輸入品の國產化及び製品の一般市販に轉換斯くて良品廉價主義を標榜して大量製產を企畫し、以來挙社一致努力の精進、能く効を奏して業績頓に擧り、未だ創立年處極めて淺しと雖も、斷然斯界に類絶せる特異の信用と經營首腦部の精據眼勵の賜とは相俟ちて、獨歩鞏固の地盤を愈々不搖たらしめ、加ふるに最新科學の粋を誇る工場施設の完備に伴ひ、生產全能力の發揮さるゝも、敢て遠き將來にはあるまじく、前途の一大飛躍こそ、正に本邦工業界の魁望措く能はざる處たり。而して其の營業品目を掲ぐればアルバランダム、トリポライト、ムレックス、酸化アルミナ、オキサライトカロックス、水晶砂、ゲリーンマルバン及び國研エメリー等にして、各品夫々最高條件を完備して理想的研磨材料たるを失はず、殊に國研エメリーの如きは、絶對的國內不產

國產研磨材料株式會社の外觀

出の逸品にして、使用價値の絶大なること蓋嘆に値すべく、前記各品と共に優秀國產品界の覇王と推稱せられ、洽く需要界の絶讃激賞の的となれり。即ち當社製品は何れも化學的研究の充分なる特長美點を有し、且つ良心的にして廉價なる處、堅實無比を謳はるゝ特約販賣主義と相俟ちて、榮華絢爛たる業況を呈し居れり。斯くて發展又發展、斷然他の追隨を許さざる躍進的業勢を贏ち得るのみならず更に當路官邊の庇護指導の下に、鋭意設立目的に邁進し、且つ研磨技術の指導機關たるべく重大使命を完遂し居れる處、將來本邦機械工業の進歩發展を促進せしむるに至るべし。

社　長　木間瀨策三　千葉縣木間瀨柔三氏の令息、明治九年九月を以て出生し、同三十三年東大政治科を卒業するや、直ちに官職に就きて三重、愛知、千葉各縣事務官を歷任したる後、茨城、新潟、大阪等各府縣內務部長を經て、富山縣知事に陞進以て高邁なる抱負經倫を遂行し、治績驥然たりし偉功の士。即ち從四位勳四等を賜はり、名聲赫々として洽し。後ち退官するや、果然鵬翼を實業界に張り、現に鐵山溫泉開發、昭和採炭礦業、日本活性白土各社長、甲子園ホテル、北辰商會各取締役等幾多の重役を兼ね、更に大阪府販賣購買組合聯合會長、大阪第一貯蓄信用組合長等の要職に推されて獻替寄與する處多く、名實共に斯界の巨頭たり。

專　務　出原邦二　明治二十八年二月を以て德島縣阿波郡柿島村屈指の舊家に生を享け、長じて關西學院を卒業するや、實業界に入りて、實地研究に奮勵すること幾星霜、其の天賦の英才事毎に發揮され、卓拳不羈の手腕斷然他に抽んずる處、國華生命保險大阪支店長に就任、次で日華生命保險大阪支店長に轉じて、關西斯業界に活躍せしも、其後當社設立さるゝや、社長に木間瀨氏を推して、自らは專務取締役の任に就き、爾來社業總攬の重責を双肩に擔ひて健闘努力、克く當社本來の大使命完遂に邁進し居れり。明朗にして氣宇濶達斯界屈指の人材たると共に、浪速購買組合長に擧げられて功勞多し。

常　務　芝　憲太郎　明治三十七年八月を以て德島縣人芝長五郎氏の嫡男として呱々の聲を擧ぐ。現に芝棉行を主宰經營して關西棉花商界に鬱天動地の活躍を擅にし、其の勢威隆々乎たる、容易に他に比肩するものなく、一方當社常務取締役として功勞多大なるのみならず、亦た茨木土地取締役の任にありて令名燦然たるものあり。

（所在地　大阪市東區內平野町一丁目）

築山翠香園主

築　山　甚　太　郎

古より茶と云へば山城宇治、宇治と云へば茶の聯想せられし如く、宇治は茶の代表の如き感あり。然るに近時各地に製茶旺んとなり宇治は往時に比して、その盛聲稍々下火となれるが如き感なきに非らずと雖も、製造業者には著名なる老舗あり、玉露の逸品に至りては他の追隨を許さず、茶に於ける宇治まさに古今に於ける獨壇場と云ふを得べし。而して業界屈指の卓腕家として令名嘖々たる氏の經營せる築山翠香園はその歷史古く、由緒深くして、當地方有數の老舗としてその名聲全國に轟けり。當家の祖先を尋ぬるに伊豫松山に於て聞えたる武家なりしが、豊臣時代伏見桃山正良太町に來り、町人百姓に扮して豊臣の動靜を探りしと云ふ。然るに間もなく豊臣家沒落して、世は德川の天下となりたるに依り兩刀を捨てゝ町人となり製茶業を始めしといふ。同家は特に名字帶刀を許され　桓武天皇御陵監視役を仰付けらる。當主より四代前の曾祖父甚兵衛翁の時に、桃山五良太町より現在の地に移住し來り、更に家業の製茶業に精勵して大いに事業繁榮を見るに至れり。尙ほ翁は宇治製茶業界の爲めに獻身的に活躍し、

業界の發展に貢獻せること甚大なり。翁は天資剛毅果斷にして識見高邁たり。夙に茶を海外に輸出せば國益の增進に寄與する所多大なるものあるを洞察し、八方奔走して、輸出に銳意力を盡くせり。一度茶が海外市場に現はれるや、全世界より絶讃を受け、日本茶の名聲一躍世界的となり、諸外國より注文殺到し、有力輸出品として國際貸借の上に資する所まことに大なるものあり。氏は明治十六年神戸港第二回製茶共進會には審査員に推され、爵くも　明治大帝御前講演の光榮に浴せり。明治十七年綠綬褒章を授けらる。當主藥山甚太郎氏は甚兵衛翁の曾孫たり。齡未だ三十七歳なれども圓轉滑脫の活動家にして、孜々として家業に專念し、製品に種々改良を加えて優秀なる品質の製造に成功し、家道愈々興れり。者性溫恭にして質實事を處するに眞摯熱誠、意志堅剛にして鐵の如く、他に對して寛容溫和、實に紳士の典型たり。當藥山髯香園はその優秀なる製品を以て知られ、殊に玉露は內外各地の共進會博覽會に於て賞牌並に賞狀を受けたること枚擧に遑なし。當主は時流の變遷を洞察するに頗る敏感にして、時運に即せる獨創の商陣を張り、奮勉砥勵家業に專心沒頭せるを以て、今後一段と發展をなすに至るべし。

（住所　京都市伏見區兩替町十三丁目）

三陸汽船株式會社

當社は三陸沿岸地方交通の動脈たるの役割をなせると共に又東北海運界に於ける主力會社たり。抑々三陸沿岸地方は東北本線に距離遠く、而かも中間は峻險なる山脈に遮ぎられて、陸上交通難澁を極む。乃て地方民は海路に依りて鹽釜港を經由するの外なく、海上に便を求めんと欲すれば、安全なる航路の施設なく、爲めに不利不便を痛嘆すること久しきものあり。交通の便缺如するが爲めに海陸幾多の資源も開發の途なく、文明の恩澤にも浴するを得ざるが故に、地方有志の蠭起と、岩手縣當局の斡旋により、當社は玆に創立せらる。時に明治四十一年四月なりき。先づ三陸沿岸航路を開き、宮城縣鹽釜より岩手縣宮古に至る大小十三港を二航路に分ち、汽船二隻を以て二往復せしむ。これによつて世界三大漁場の一たる三陸沿岸の漁獲物は輸送の便を得、又木材その他の陸上物產も販路開拓せられて同地方の產業は大いに勃興するに至る。爾後船舶數の增加、港灣施設の改良等採算を無視して、沿岸地方の發展に力を盡し、その貢獻まことに沒すべからざるものあり。明治四十四年に至り、遞信省郵便航送取扱の指命を受けて犧牲を忍んでこれに從ひ、大正十年四月には鹽釜港を仲繼港として省線との船車連帶輸送を開始す。當局者の努力奮鬪に依り年々旅客、貨物增加に向ひ、成績も亦順調を辿る。大正十二年五月に及び、採算不能に依りて休止せし東京航路を復活し、現時一千噸級、一千五百噸級各一隻を配し、芝浦宮古間を往復就航一ケ月四航海、三陸沿岸と東京間の大量貨物の輸送に當れり。又昭和二年九月宮城縣、岩手縣及函館市の命令航路として函館航路を開始す。近時利用者は增加せるがこれ迄多大の損失を蒙れるも、當社は尙ほ犧牲を忍びてこれに從事せり。五百噸級船舶を以て一ケ月三往復となす。寄港地は鹽釜、氣仙沼、釜石、宮古、函館とし、尙ほ室蘭、釧路青森その他の地に臨時回船を爲すことあり。尙ほ當社は創業當時より鹽釜に船舶修理工場を設け社有船の修理に當れり。然るに横濱より函館に至る間に一の修理工場なく、國家的にもこれが施設は重要なるを以て、宮城縣當局より船渠の施設經營を慫慂せらる。されば損失を覺悟して一千噸級乾船渠の築造工事に着手、十余萬圓の工事費を投じたるも一時中止し、昭和九年再び三百噸級引揚船渠に併置して工事を始め、昭和十年十月之が完成を告げ一般船舶の入渠修理工事の引受をなすこととなれり。現在資本金二十二萬五千圓、積立金二十五萬圓に達し內容また頗る堅實なり。本社を岩手縣釜石町に置き、營業所を鹽釜港に設く。

社長　中大路氏道　氏は明治五年九月北海道士族中大路氏緝氏の長男として生る。明治三十年東京帝國大學工科採鑛冶金科を卒業せる謹直溫恭にして且つ學殖深く、夙に工學博士の學位を受く。多數社員の崇敬厚し。

取締役兼支配人　山中茂樹　明治十八年一月島根縣人山中兵藏氏の長男として生る。夙に石東中學館に學び濱田銀行、秋田椿鑛山その他に勤め、大正八年に三陸汽船に入る。社務に携ること既に二十年、社の全權は擧げて氏に委託せられ、事實上の社長として繁腕を揮へり。先年の三陸大震濤に尠からざる打擊を蒙りしも、氏は刻苦奮勵以て社業の發展に邁進す。斯くして當社は成績著しく向上し、內容又大いに充實を見、既に當社の社寶的存在たり。人物溫籍質實、內外の信望厚し。

（所在地　岩手縣上閉伊郡釜石町）

事業家

兒島周三

釀造事業に釀造材料販賣に活躍して、斯界に盛名を謳はれ、その信望名古屋地方に高きが兒島氏その人なり。夙に名古屋商業學校に學び、卒業後各種の事業に從事せしが、大正九年に至り萬歳釀造株式會社を創立し、自ら常務取締役に就任して、同社の經營に專心沒頭せり。爲人剛邁而も素志堅剛。創業當初種々なる障碍に逢着せるも堅忍不拔克くこれを突破し、大いに社業を躍進せしむ。その思慮犀利周密、その行動勇斷敢爲、慧敏の穎才は遺憾なく發揮せられて、業界に氏の存在不動の地盤を築けり。斯て同社は業績向上し、業礎大いに强化せられ、一途躍進の過程を辿ることゝなれり。後氏は當務を擔任して第一線を退き、取締役として列す。目下個人經營を以て福壽商店の名の下に、釀造材料の販賣を行ひ、その事業頗る盛況を呈せり。その販路は主として中部日本なるも販賣網は各地に隈なく張られ年々需要は增進に向へり。氏は駒を陣頭に進め販路の開拓に奮鬪し、銳意事業の發展に努力を盡す。他面又商品には充分なる吟味と精選をなし、優秀の商品を廉價を以て販賣し、薄利多賣をその主義となす。顧客には正直を以て接し、自己の信用を確保する爲には如何なる犧牲をも惜しまざる所なり。斯くしてその商品は愈々需要著增し、事業は日に月に發展を遂ぐ。氏はその多忙なる事業活動の時間を割きて、少年團の事業に斡旋盡力をせり。現在少年團名古屋聯盟理事の職にあり。資性溫厚篤實、謹恪至誠の士にして、名利超脫、廉潔清白の人格の持主なり。自己の利益を犧牲として社會公共の爲めに盡瘁し高邁なる識見、遠大なる抱負は人の畏仰する所なり。明治十七年八月兒島直次郎氏の次男として愛知縣西春日井郡西枇杷島町に生る。旅行、長唄等を趣味となし、殊に長唄は玄人の域に達せり。當家は三百年前より釀造業を營み、代々家道榮へ、當地方著名の舊家にして且つ名望家たり。長兄兒島豊三郎氏は現在家業を繼承して釀造業を營み、頗る盛大を極めつゝあり。

兒島周三氏

（住所　名古屋市中區仲ノ町三丁目）

尾張時計社長

三輪嘉兵衛

尾張時計株式會社々長たる、三輪嘉兵衛氏

は、愛知縣多額納稅者として、中京財界に重きをなし、信望愈々高くその名聲赫々たるものあり。

由來、三輪家は縣下海部郡八關村の素封家にして、文久三年頃先代名古屋に移住し、現在の營業所たる西區船入町に森岡屋の商號を以て、肥料、米穀商を開業せるを始めとす。爾來斯業に精勵大いに努め家運漸く隆昌を來たし、遂に斯界の牛耳を執るに及び此處に廣く世上に名聲を博するに至る。氏は、明治九年五月を以て生れ、幼名を文三郎と稱す。夙に名古屋商業を卒業し後家業に從事し、同三十八年家督を相續して先代を襲名す。以來一意堅實なる經營方針の下に營業に當り、機略縱横の敏腕を揮ひ、時流に一隻眼を有して波瀾重疊の財界に處し、巧みに之れを切拔け、益々資產を增殖し遂に今日の大成を爲せり。多年、尾張時計株式會社長として、中京特產工業の發展に盡し多大なる功績を顯揚せるは夙に世人の知れる處なり。今日我が國時計工業品の廣く內外に名聲を保持し、その良質、廉價の定評ある所に、氏の功勞に負ふ處極めて大なり。如斯氏は時計工業界に盡瘁するの傍ら、更に腳足を廣く財界に伸ばし、各種事業に投資頗る多樣、就中昭和十一年九月、新興肥料株式會社を創立し社長となる。今や中京財界に隱然たる潛勢力を張り、氏の名聲愈々牢固不動たり。

其爲人温厚にして謙讓、毫も地位勢力を恃むが如き專恣の高踏的態度なく、寬宏の襟度能く他言を容れ、自ら器局の小ならざるを想見せしむ。態度悠揚、舉措典雅、當代稀に見る典型的紳商なり。趣味としては茶道・書畫骨董、圍碁を愛好し、何れも玄人の域に達せりと仄聞す。

（住所　名古屋市中區仲之町二丁目）

滿蒙毛織株式會社

名古屋支店

時局の重大化と共に羊毛國策は愈々重要意義を帶びることゝなり。滿蒙及び北支方面に於ける羊毛事業の開發は、國運發展途上の緊急事たる所なり。滿蒙毛織株式會社は滿蒙產羊毛を利用して羅紗、毛布、毛絲の製造を目的として、大正七年十二月滿鐵並びに東拓の共同出資に依りて創立せらる。現時資本金一千萬圓たり。工場は天津、奉天、名古屋、岡崎の各地にあり。近時設備の新設擴張大いに行はれ、昭和十二年上期に於ける生產高は毛糸十二萬封度、羅紗一百二十萬八千米、毛布十萬五千枚に達し、今後更に生產高は增大を見るに至るべし。尙ほ名古屋地方は毛織工業の中心地なるが、當社名古屋工場はその設備の優秀なるを以て斯界の範とせられ、同地業界に指導的地歩を占むる所なり。

前支店長　柏木勝光　氏は山梨縣柏木千太郎氏の長男にして、明治二十五年四月同縣南都留郡明見村に呱々の聲を揚ぐ。同四十五年東京高工紡織科を卒業、大正三年三月に至り山保毛織會社に入社す。大正四年後藤毛織會社に轉じ、翌年工兵少尉に任官し、同時に正八位に叙せられ、大正七年九月西比利亞派遣陸軍電信隊第一中隊に應召されて出征す。大正八年六月工兵中尉に任官し從七位に叙せられ、勳功に依り勳六等を賜る。その間後藤毛織と東京毛織合併して東洋毛織と改稱し、東洋毛織に大正十二年四月迄勤務せり。同年招かれて東京モスリン紡織に入り、昭和六年まで勤續せしが、同社を辭すると共に、直ちに滿蒙毛織に入社す。九年七月名古屋支店の設立せられるに及び、拔擢されて名古屋支店長となる。續いて十一年十二月、取締役に選任せられ更に常務に推擧され奉天本社に活躍せり。

支店長　豐島秀三郎　資性頭腦明晰、當社技術部門に重きをなせり。農に柏木氏の後を襲ひて本社工務部長より拔擢されて重任に就けり。當工場の設備擴張完成の上は、氏の

一段の活躍を待望せられつゝあり。

（所在地　名古屋市西區光晉寺町）

名望家

田北不磋人

國亂れて忠臣現はれ、家貧しくして孝子出ず！　之れ千古不滅の名言にして、之れを現時社會相に徵すれば、個人を離れて社會なく個人の發展の外に人類文化の存在せざるところなり。然かも個人は又社會に依つてのみ、其の生活を完うし得るものなり。故に自己一身の幸福のみ追求せずして、社會全體の幸福を念願するところに、眞の人生の意義ありと言ふべきなり。今や文化進展の餘弊は資本主義の跳梁跋扈するものあり、もとより資本排他すべきに非ず、之が統制と調整こそ良心的社會繁榮の基調たるべきとして要望さるゝ一事なりとす。我が國古來事業の一として又他面各種の使用範圍を有する木蠟事業は近年稍もすれば、資本的勢力に壓倒されるの趨向を辿り、殊に其の重要物產たる福岡縣下に於ける斯業界は、問屋商人側よりの壓迫と勞多くして功少き生產業者との間に、不調の暗雲低迷し、斯業生產事業の衰微甚しきものありたりき。然る秋、茲に義人出でて之が結束と繁榮に導きたる人あり。即ち田北不磋人氏なりとす。氏は醫學士にして同縣山門郡柳河町に開業し、その人德と手腕を以て衆望高かりしも、其の俠骨博愛の心情は敢然として木蠟事業の向上繁榮を扶けんことを決意し、凡ゆる苦難と闘ひつゝ遂に昭和十年五月に迨んで、筑後木蠟組合を組織し、貧しき中にも希望に輝く工業組合の產聲を擧げしむるに至りたり。而して二ケ年の後には福岡縣木蠟工業組合と合併、其の事務所を現住所に設置し、更に協同精製工場を新設する等、矢繼早やに組織內容の刷新を斷行、縣下斯業の發展統制を斷じたれば其の功績は大いに報ひられ、今や同組合は縣當局の認むるところとなり、近々同工業組合に縣下木蠟製品一切の檢査權を附與して優良品統制への完璧を期せられんとしつゝあり。更に氏は、問屋木蠟業者を以てする獨占的・資本的存在たる筑後木蠟同業組合を合併せしめ、以て眞に渾然一體の綜合的生產繁榮の完成を企圖しつゝあり。斯くて同縣下に於ける重要物產たる木蠟輸出の上に一大光明を招來するの日も近きにあり。氏の貢獻顯著にして甚大なるものありと言ふべし。氏は又縣會議員として其の滔々盡きざる熱辯と正義に立脚したる論旨は聽く者をして心服傾倒せしめずんば措かざるの氣魄を有し、その非凡卓拔の手腕と共に聲望嘖々たるものあり。縣治に盡瘁貢獻したる功績亦尠からず。資性敦厚にして淵達、明朗なる人格を有する近代的紳士にして、而も一面仁俠の精神旺盛にして人の爲めに哭くの溫情掬すべきもあり。今や識見手腕圓熟の境に達し、向後の活躍こそ齊しく囑望するところなり。正に當代稀に見る才德兼備の逸材と言ふべきなり。

田北不磋人氏

（住所　福岡縣山門郡三橋村）

株式會社

東海林商店

三陸沿岸に於て肥料及魚油の販賣事業を營みて、斷然他の追隨を許さず、業界に覇を唱ふるを東海林商店となす。當店が今日斯くの如き盛況を極めるは、一に現社長東海林祐五郎氏の半生に於ける苦心と努力に負ふものなり。氏が斯業に着眼せしは、古く明治二十四年頃個人商店として創業せるに始まる。爾來

率勵刻勉して事業に專念し、販路の開拓に東奔西走して着々として發展の道程を辿れり。業礎堂固となりて多大の信用を得るに至りしが、大正八年歐洲大戰後の經濟恐慌の打擊を受けて非常なる痛手を蒙れり。されど氏は聊かも屈せず、再興に全力を注ぎ、その努力と多年の信用とに依り、從前にも優る發展をなすに至れり。大正十二年四月に至り、公稱資本金二十萬圓の株式會社に組織を改革せり。以來事業は發展し、肥料、魚油、魚類海產物加工委托販賣等各種事業は擴張せられ、販路大いに擴まるに至れり。魚油は東京を中心とする關東地方鉉に關西地方を主として、肥料は栃木、茨城の各縣、北陸、關西、中國を始め全國的に需要せらる。最近に於ては一ケ年の賣上高は二百萬圓を突破し、非常なる好成績を收めつゝあり。東海林氏の手腕と努力に依りて當商店の今日は築れたるものにして、氏は兄弟親戚の人を起用して重役となし、その榮譽利益を平等に頒ち、一門より多大の崇敬を受け居れり。

社長　東海林祐五郎　資性卓犖豪放、剛毅闊達たり。各種事業に關係して八方に活躍す。縣會議員として縣政の爲めに盡瘁し、又鹽釜商工會副會頭に推されて、同町の產業發展に寄與する外、其の他幾多の名譽職を兼ね公共の爲め貢献する所多し。又事業方面に於ては松島汽船、鹽釜倉庫、松島灣汽船、潛浦岩材各重役に列せり。

專務取締役　佐藤忠助　東海林社長の令弟にして、努力敏腕の事業家たり。現在東海林商店の實務は氏が一切之れを統率せり。販路の擴張に顧客の獲得に多大の手腕を示し、當店の成績向上に非常なる殊勳あり。人物質實にして謹直、顧客に多大の信用を博し、愈々當店の聲價を上ぐるに至れり。

（所在地　宮城縣宮城郡鹽釜町築港）

公證人　津田銀太郎

宮界を勇退して公吏たること多年、斯界の長宿元老として社會的信望厚く同職後進者より、師父の如く敬愛されつゝある津田銀太郎氏は金澤市の產にして、元治元年二月を以て生る。少壯より法律に依つて身を立てんと志し、明治十五年上京して司法省官立法學校に入る。主として帝國法律顧問法學博士ボアソナード氏（佛人）に就いて、法律學を收め、同十九年卒業と同時に判事登用試驗に及第、判事試補に任ぜらる。同二十三年判事に任ぜられ、爾來判事として各裁判所に歷任、大正五年退職、正五位勳五等たり。後ち公證人として今日に至る。資性重厚寬闊にして長者の風あり。其專門の範圍に於ける造詣の深きことは斯界の人々の夙に傾倒する處にして法律の活字引として珍重され、少壯法曹家の其門を叩いて教を乞ふ者尠からず。津田家は北越の名門にして平重盛に淵源を發す。重盛の子資盛の第二子親眞平家沒落の時流轉して、江州津田鄕及越前織田庄に住し、織田庄神職の家を繼ぐ。是れを織田津田兩家の鼻祖とす。夫れより數代を經て織田信長の父信秀の時に迨び、織田家の家名漸く現はれ、信長の覇業將に成らんとする際、津田家の先祖源三郎氏は召されて臣下となり、爾來織田家と存亡を共にす。天正十年六月二日本能寺の變に會し京都二條城に於て光秀の襲ふところとなり、信忠に殉じて自刄す。其遺子同名源三郎氏織田家沒落後賀越紀三州の大守前田侯に召出され金澤に移り前田家に仕へ、爾來明治維新に至るまで二百數十年の間前田家の家臣たり。源三郎より當主銀太郎氏に至るまで世襲十二代、昭和八年七月鄕里金澤の菩提寺に於て先祖の三百十七年祭を擧行したり。維新の際勤王に功勞ありし大野木克繁氏（通稱仲三郎）は加賀藩士大野木克貞氏の二子にして、實に氏の從兄に當る。爲人沈着にして氣節あり。文久年中永恒太郎、不破富太郎と共に國事に

奔走し屢々藩主に建言して大義を明にす。元治元年三月叔父大野木源藏氏と共に京都に赴き諸藩の有志と國事を議り大に成すところあらんとしたるが、八月歸藩するや、其家に拘禁せられ、尋いで國井寬齋の邸に移され、十月十九日遂に切腹を命ぜらる。明治廿五年朝廷其忠節を追賞して靖國神社に合祀し、同年十二月特旨を以て正五位を贈らる。

（住所　京都市上京區丸太町通淨福寺東）

日清生命保險株式會社

我國生命保險界中堅級の精鋭として、牢乎として固き業礎と活氣橫溢せる業勢とを以て斯界に重きをなせるが當社にして、明治三十四年十月世界的偉人大隈老侯及高田早苗氏等世界の大勢に順應して日淸兩國に亙る一大生命保險會社を設立し、國家社會に寄與し併せて日支親善に貢献せんとして八方奔走し、同年十二月設立認可を得、同四十年一月創立總會を開催せり。初代社長に男爵前島密氏、專務に池田龍一氏就任し、當初資本金一百萬圓なりしが、社運歷年興隆して大正八年には二百萬圓（拂込額五十萬圓）に增資して今日に至れり。創立當初は京橋區宗十郎町に營業所を設立したりしが、大正六年麴町區大手町の現在の地に社屋を新築移轉し、大正十二年關東大震災に遭遇して類燒の厄を蒙りしに依り直ちに假社屋新築をなし、超えて昭和五年五月新築工事を開始し、二年五ケ月を費してスパニッシュ・ルネッサンス式八階建總面積四千三百餘坪の豪華建築竣成し、丸ノ内ビル街に堂々の威容を誇示す。當社は草創以來穩健堅實の經營を以て一貫し、專ら契約者への奉仕と、內容充實に力を盡くし來たれば、特に世人の目を眩惑するが如き躍進はなかりしも歩一歩堅確なる業陣を張りて、現時全國樞要都市に支社二十を設け直屬出張所六十八、代理店四千店を設置して一大募集機關を布設せり。保險種類に利益配當附普通養老、二重配當附養老、特種養老、利益配當附遞減養老、永樂修身等ありて、何れも他に見ざる優れたる約款を有し、又保險料の掛金頗る容易なる仕組となり、利益配當その他の制度ありて、眞に契約者本位、有利なる保險を發售し、特に保險金の支拂の如きは最も迅速にして懇切丁寧、嘖々たる好評ある所以とす。昭和十二年十二月末に於ける保有契約高二億一百五十萬圓に上り、契約高の上伸特に顯著ならざるも、契約成績は毎年度順境に在り。又資產內容に於ても頗る堅實なるものありて、總資產四千七百八十三萬圓にして、その內運用資產四千五百十萬圓を占め、その運用頗る妙を得て毎年度多額の運用益を計上せり。費差益、利差益共に好成績を示し、剩餘金中より契約者に利益配當を行ひ、更に責任準備金以下各種準備金に積立をなして、內容の强化に銳意全力を傾注せるに依り、社礎牢固として堅くして眞に泰山の安きにありて、契約本位の經營方針と兩々相俟つて、世上に絕讃を博せるも肯くに足る。重役陣を固むるは取締役會長山田英太郎、取締役社長吉田秀人、常務取締役硎火一郎、取締役增田義一、同五十嵐直三同中村房次郎、同古莊健次郎、同北川與平、監査役白石勝彦、同平田讓衛、同山崎清、總務理事吉岡幸雄、相談役侯爵大隈信常、同田中穗積、醫務相談役三浦謹之助の諸氏とす。

取締役社長　吉田秀人　雋敏の頭腦と雄渾の氣魄を以て生保界に鳴る吉田氏は、熊本縣人角居源四郎氏の五男として明治二十二年四月を以て生誕し、後迎へられて吉田俊雄氏の養子となる。大正四年早稻田大學商科を卒業し、直ちに三菱合資に入り、糖界を席捲せし增田商店に轉じて快腕を揮ひ、日華窯業、日淸印刷各社專務を經て當社に入り、專務として社業に靈瘁して功績著しく、後推されて現職に就任す。資性卓犖豪放にして器局宏量俊邁の氣徹に遠大の卓見を具へ、眞摯業務に黽勉して巨腕を揮ひ、社業の躍進に寄與せる

功勞甚大たるものあり。人格清高にして慈情に富み其の信望嘖然たるものあり。

（所在地　東京市麹町區大手町二丁目）

土木建築請負業

安井鍬次郎

氏は名古屋市に於て土木建築請負業を營みて事業殷盛を極め、信用拔群にして、今や斯界に牢固不動の大勢力を占むるに至れり。明治三十二年八月の出生にて、幼少より穎悟縝密なる智能を備へ、技術家として身を立てんことを欲す。夙に名古屋工業學校に學び、卒業後直ちに實務に携り、淬勵黽勉至誠を盡くしてその業に當る。餘暇には技術方面の研究に力を注ぎ、新智識の攝取を怠らず、有爲有能の青年技術家として其前途を期待せらる。大正十五年意を決して業を起す。あらゆる困難を意とせず、奮勉砥勵專心業務に沒頭し、全力を事業に傾倒す。寸暇を割きては技術の研究に意を注ぎ、事業の發展に千々に心を碎く。斯くして世間の信用大いに昂まり、諸官廳、大會社、銀行、學校、病院等より相次で註文を受け、その事業多大の繁榮をなせり。その工事頗る優秀にして非常なる好評を博す。氏の熱心なる努力と研精に依り、事業愈々發展し、註文殺到して多大の產を成せり。現在數多の使用人を使ひ、中京に於ける信望甚だ高し。資性溫和、堅確實實の人にして、事に當りては剛毅不屈、勇斷果敢たり。氏の凜烈たる氣魂には敬服せざるはなし。而も一面頗る溫情の持主にして、部下の爲めには如何なる犧牲をも惜しまずに盡瘁す。仁俠義氣、寬厚宏量の士たり。その人望甚だ高くして、現在町内の組長に推され、多忙の時間を割きて公事、近隣の爲めに種々盤旋を爲せり。

（住所　名古屋市南區豐田町氷室道東）

名古屋鐵道株式會社

我國私鐵界の雄として斯界に鏘々を以て讃へられる名古屋鐵道株式會社は元愛知電氣鐵道と稱せしが、昭和十年名岐鐵道と合併して現稱號に改稱す。その創業は大正九年六月にして、爾來社業は順調なる發展を遂げ、近時又目覺しき躍進をなして倍額增資斷行せられ資本金七千二百五十八萬餘圓を擁す。その事業は鐵道の外乘合自動車、電燈電力供給、土地分譲、遊園地等の經營なり。鐵道營業線は美濃町線、揖斐線、尾西線、大曾根線、一宮線、豐橋線外十九線三百六十三粁に達す。又自動車營業線は三百三十九粁に上る。更に又鳴海球場、各務原運動場、プール等の經營をなせり。最近の增資は東部線、西部線の連絡工事並びに百貨店建設計畫の目的を以て行はれたるものにして、右計畫に依りて名古屋驛前に於て東西兩線結合し關西急行乘入線とも直通連絡して中部日本の交通網は大いに整備せられたり。又百貨店は名古屋驛前東西連絡線停車場の上に、總建坪一萬二千坪七階建の大デパート建築の計畫なりしが、之れは當分延期せられることゝなれり。尙ほ當社には知多鐵道、碧海電鐵その他の投資會社ありて、右投資額二百六十八萬五千圓に達す。最近名古屋市を中心とする一帶には各種事業目覺しく勃興し、貨客の運送多大の輻輳を見つゝあり。收益累期增大しつゝあるを以て、當社の六分配當は愈々安全性を加ふるに至るべく、殊に東西連絡完成せば、當社の業績は一段と向上を辿ることならん。社長藍川清成、副社長神野金之助、常務須田博、取締役後藤幸三、同上遠野孝、同田代榮重、同桑田吉藏、同神谷啓三、同千田憲三、監査役箕浦宗吉、同富田重助、同高橋正彦、同白石勝彦の諸氏なり。

社長　藍川清成　中京に於ける實業界の巨擘たる氏は、明治五年四月岐阜縣藍川清道翁の長子に生る。夙に東京帝大法科卒業濟に衆議院議員、名古屋商工會議所議員に推挽

さる。現に中部地方諸會社の統理するもの數社あり。老境に近きと雖も矍鑠として獻替しつゝあり。

副社長　神野金之助　中部地方に於ける少壯實業家として夙々の名を馳す。明治二十六年愛知縣人先代神野金之助の四男に生る。京都帝大政經科出身の才幹にして、現に名古屋商工會議所常議員に推され、數社重役を兼ね其將來を囑目さる。

庶務課長　竹田　直　明治三十三年十一月姫路市に出生。長じて京都帝大經濟科を卒業し、昭和三年當社に入り越階して現職に至る。天性豪快にして明朗、將來性に富む。

（所在地　名古屋市熱田區東町新宮坂）

埼玉縣立

浦和商業學校

當校は設備内容頗る充實し、生徒又優秀にして近時卒業生の需要頓に激增し、校名愈々高まるに至れり。當校はその創立必ずしも古しといふを得ず。即ち、昭和二年三月に創立せられ、當初修業年限三ヶ年、定員數百五十名なりき。その後歷年膨脹發展をなし、昭和五年には三百名となり、同八年四百名に增し同年六百五十名となり、十一年には九百名と定員數遂年增加す。又設備に於ても格段の充實をなし、制度に於ても幾多の改革實施され數多の特徵を具備する商業學校として世上より多大の信用を拂はる。昭和八年二月第一種（五年制）と第二種（三年制）を併置し、それ〴〵特殊の教育方針の下に授業を施せり。當校は設立當初浦和尋常高等小學校分校舍を使用せしが、四年六月現在の地に三千六百七十坪を校地として本校舍竣成し直ちに移轉す。續いて八年一月講堂兼雨天體操場七十坪新築落成し、九年五月校舍增築落成、九年九月運動場千四百十九坪擴張せられ、十年五月武器庫十坪の新築成り、十年十月には御眞影奉安殿設置せらる。現時校地坪數は五千五百坪六合四勺に上り、校舍建坪數は五百十三坪二合五勺となれり。他面歷代の校長は施設の充實に力を盡くし、內容甚だ完備す。外觀の美備すると共に施設萬端整備して、縣下中等學校中甚だ異色ある存在をなせり。智育の外德育體育にも力を注ぎ、更に生徒の常識涵養の爲め に校友會に體育、文藝、辯論、園藝、珠算等幾多の研究機關を設けて、それ〴〵生徒の好む所に從ひて練習研究せしむ。一般に生徒は甚だ眞面目にして、熱心に勉學をなし、優秀を以て名あり。當校は昭和五年三月第二種第一回卒業生を出して以來、今日まで卒業生總數八百名を超え、千名に垂んとせり。その當初は家事に從事する者多かりしが、近時銀行會社方面よりの任用加り、その方面に於て活躍する者次第に增加す。將來財界に名を成す者多數出づべし。

校長　松井計郎　夙に東京高商に學びて教育界に身を投ず。初代校長馬場驥一氏昭和六年三月退職するに及び、氏はその後任となりて校長兼教諭を拜命す。就任と共に獻身的に教育に專念すると共に、設備の充實に銳意力を注げり。氏の努力に依りて講堂兼雨天體操場の新築、校舍の增築、運動場の擴張、武器庫の新築、或は御眞影奉安殿の設置等成りて、大いに面目を新にせり。因に氏は明治三十年十一月兵庫縣武庫郡御影町に生る。齡不惑を越ゆること若干。資性溫厚柔和なると共に謙仰謹恪の人格者なり。

（所在地　埼玉縣北足立郡六辻村白幡）

銀閣寺

足利義政公薨ずるや、その遺命に從ひ東山殿を禪寺と爲し、その謚號に因みて慈照寺と號す。第十代將軍義視公は僧錄司と諮り、相國寺開山夢窓國師を勸請して開山とし、實庵

周財禪師を第二世として命じて住持の仕事を管理せしむ。同師は畠山將監の次子にして義政公（慈照相公）の甥たり。相國寺第四十一世栢心周持禪師の法統を嗣ぎ人格一世に周く在職二十有三年にして、永正九年春三月十一日に遷化す。壽八十八。先是慈照相公は義視公の仲子某を養子と爲し、後に住職となる。十六歳にして寶處禪師の弟子となり、雖山周嘉と號せり。之ぞ第三世たり。同禪師は又近衛公の二公子を得度せしめて弟子となし、一を明岳瑞昭と云ひ、第四世之たり。尚他に陽山瑞暉第七世あり。第五世瀑巖等紳は九條家の出、第六世維高妙安は久我家の出たり。並に光源院住職にして當寺をも併せ管理せり。第八世鶴伯瑞壽は二條家の出にして、亦光源院より、當寺の事をも兼ねたり。此時に當り天文の亂勃發し、帝都は再び兵火の巷と化す。京都將軍家譜に曰く「天文十六年四月朔日、細川晴元、四國の兵を率ゐて東山に陣し、淨土寺眞如堂、鹿ケ谷、北白河に放火す」「二十年十一月十九日、三好長慶攝州より上洛して東山に放火す」等の記事あり、思ふに義政公が細心の用意を以て經營せる豪華な殿舍が一時に兵火に罹りて、其立派なる庭園も殆ど荒野に化せるは此時なり。義政公の愛せし種々の寶物悉く烏有に歸せしも此時なり。斯くして東山殿の古跡は殆んど滅ぶる有樣となりしも、唯銀閣と東求堂のみは僅かに災禍を免れ得たるは不幸中の幸と稱すべし。

景蕉山人は曾而慈照寺觀楓の詩を作つて曰く「錦鏡晴開霜樹秋、相公遺構自風流、五雲繹鏘仙洲裕、想見當年十二樓」と。亦當時を偲んで感慨の情を表せしものなり。

之より先天文兵火の後に近衛前久公が東求堂を借りて住すること三十年、其間住職は空名たりしが、慶長十七年に第十世明叟周晟が

雪景の銀閣と庭園

之を慨き奮然として、その法兄光源院玄室周圭と共に僧錄司を通じて幕府に事情を訴へ、遂にそれを返還するを得。依而直ちに寺を再興し建物を修理し殆んど舊に復せり。以來代々の住職は寺の保存維持に留意し、明治初年以來數度内務省、京都保勝會等の補助を得、益々講堂庭園に補修を加へ、貴重なる史蹟を保護す。現に當寺の銀閣、東求堂の二樓は國寶建造物に指定さる。而して往昔當寺の境域の面積は不詳なれど、中古には境内地約五千坪の外に免畑地山林三十六町六反餘を有せるが、大部分は明治四年政府が國有地となしたるも、現今は八千餘坪を有せり。尚當寺の寺領も當初は不詳なるも、豊臣氏より德川氏に至る幕政中は、深草に三十五石を領せりといふ。

（所在地　京都市左京區銀閣寺町）

東京板金工業機械製作所主

北原常次郎

守成の難事たるや猶ほ創業に勝ると云ふ。先人の業を繼承し、其の業務を維持經營するのみならず、更に之を增大扶殖なし、以て隆昌繁榮、赫々たる業績を把握せる我が北原常次郎氏の如き、素より人材凡庸に非らざるも拮据經營克く建國努力に一貫せる、其の不退轉の覇氣稱讃に値すべく、而かも業餘、力を公共に割きて東奔西走、功績浚す可らざるものあるは、即ち世の鑑鑑として衆興の尊崇敬服絶大なる所以たり。

氏は慶應元年五月を以て東京市神田區に呱々の聲を擧げ父君常次郎氏の長男にして、前名を金太郎と呼ぶ。夙に聰明俊敏、氣才煥發なるものありて、將來を囑望さるゝこと厚く而かも堅忍不拔、萬難を克服せずんば止まざる氣魄を藏する處、長じて先代を襲名、家業機械製作業を襲承するや不斷の研鑽、不撓の努力を傾注して益々製品の改良進歩を圖り、或は堅實主義を奉じて合理的經營に邁進せる結果、製品の品質優秀、性能卓拔なること需要界の好評激賞を博すに至り、業績亦た發展を累ねて遂に今日の大を築けり。而して今や當所々在の製作工場、規模敢えて大ならずと雖も、諸施設完全なる、寔に近隣町工場に類を絶し繁忙日も足らざるが如き活氣横溢せる作業狀況を展開しつゝあり。斯く父業に一段たる隆盛を加へ、家名をして光彩陸離たらしめし、守成の功勞者たる氏は他面熾烈旺盛なる公共心を有し、常に高邁卓越せる識見を披瀝して至誠一貫、社會の圓滿なる發展を希求して献替盡瘁怠らざる處、推されて神田、荒川區會議員に推さるゝ事數回、現に神田區會議員にして、益々區勢の發展區民の幸福を念願に献身的努力を捧げ、其の功勞多大なる寔に偉とすべきたり。資性溫厚眞摯にして亦た謹直、其の高風玲瓏たる人格は、恰も泥中蓮白を誇るが如き蓮花に譬ふべく、私利私欲にのみ狂奔する人物多き事業界に、卓然毅立毫も惡風に染まざるのみならず、以て垂範的存在を示せるは、當今稀に見る處、卽人望愈々厚きを加へ、名聲嘖々たり。

（住所　東京市荒川區日暮里九丁目）

淺井製材株式會社

當社は愛知縣人淺井富三郎氏の創始に拘るものにして、明治三十五年同氏が個人經營を以て製材業を獨立創業せしに始まる。爾來社業は堅實なる足取りを以て發展し、大正四年五月には淺井合名會社に組織を改む。淺井氏の努力に依り事業は愈々發展に向ひつゝありし所、大正九年に至り氏は突如逝去せらる。乃て富三郎氏の長男富次郎氏家督を相續し、嚴父の遺業を襲承して當社の經營に當ることゝなれり。富次郎氏は齡未だ若かりしが、熱心に經營に身を打ち込み、奮勵努力して社業の繁榮に傾倒せり。斯くして業績益々向上し業礎愈々强化し、大正十年九月之を株式會社に改組すると共に、氏は社長に就任す。爾後成績更に飛躍的に向上し、工場設備又相次ぎて擴張せらる。現に名古屋市に本社工場、第二工場並に則武工場あり。更に福岡縣小倉市の小倉工場、埼玉縣川口市の川口工場、宮崎縣東臼杵郡の延岡工場等全國各地に工場を設置す。從業員は本社工場のみにて社員職工を合して五百餘名に上り、製材事業に於ては中部地方第一の大規模たり。その製作品は鏈詰麥酒、茶の木箱並に長板等を主とす。近時操業益々殷賑を極め、次第又好調を示す。公稱資本金一百萬圓にして内拂込資本八十七萬五千圓に上る。

取締役社長　**淺井富次郎**　先代淺井富三郎氏の長男にして、明治三十二年十一月を以て生る。先考は企業的手腕に富み、當社を今日の大に發展せしめたるは、偏に氏の功績に負ふものなり。殊に千歳地方の開拓者として同地方の發展に貢献する所大なり。現社長たる氏は若年にして事業界に乘出し、先代の遺業を承繼して當社の事業を一段と躍進せしめ、少壯敏腕の實業家として中京財界に、その名を謳はる。頭腦明敏の努力家にして、その前途まことに洋々たるものあり。現時淺井製材社長たる外、名古屋筏扱所監査役、淺井殖産合名會社並に淺井合名會社各代表社員として中京事業界に鼎呂の重きを爲せり。

（所在地　名古屋市熱田區千年裏畑）

株式會社

ベニヤ商會

大正八年突然、新田式ベニヤ板現はれて、我が木材界を驚愕せしめ、世人喪ひて其美麗風雅なるに嘆服し、之れが使用大いに流行せり。當時のベニヤ板製作は頗る幼稚且つ粗雜

なりしが、同商會此處に深く着眼し、優秀美麗なるペニヤ板製作を目指し、京洛繁華の地にペニヤ商會を創業し、斯界に始めて進出せり。爾來設立當初の目的貫徹に力を盡くし、全員一致協力して研鑽除念なかりしが、次第にその効現れ、優秀品の製作に成功せり。次いで販路擴充に邁進せんが爲、大正十年合資會社に改組し、斯界に躍進することゝなり、同社の優秀なる製品と宣傳又功を奏しペニヤ商會のペニヤ板の使途愈々旺盛を極め、更に同十二年株式會社に變更し、株式會社ペニヤ商會として陣容を整備し、營業所を京都市四條通り大宮西入に設置し將來の飛躍に備へり。

當社は内容刷新充實を圖ると共に、學社一致の精勵に依り、着々その功を收め、遂に昭和七年海外に販路開拓の機會を獲ち得て、輸出部を設けることゝなり、更に發展を來たし同十年貿易部の獨立を見るに及び、同營業所の新築を感じ、翌十一年本社を同市西大路四條南に新築移轉し、豪壯秀麗なる建物は遂に美麗なるペニヤ板製作會社に相應はしく、又社業に至りても隆々として發展をなしつゝあり。次で、同十二年三月更に本社西方鬚町三番地に敷地を購入し、此處に木材工藝研究所、作工所を新築の上理想的木工建築材料の研究及び工作に力を傾注せるが、蓋し我が建築界に貢献する處大なるものあらん。

翌當社最近のペニヤ板納入先は、無量數千に達してまことに驚異的數字を示せるが、其の主たる納入先には、京都大丸百貨店、日本赤十字病院京都支部病院、京都帝大内科第一第二、第一病棟、京都市立第一、二工業學校京都府立舞鶴高女、京都府立第二中學、同府立醫大病院、府下舞鶴飛行學校、府立第一高女、京都美術館、京都市公會堂等々頗る多方面に亘れり。同社營業品目は、新田式ペニヤ板、ペニヤドアー、製圖板、壁板及びモールド、ペニヤリング加工品各種、ペニヤに關する一式の加工品及海外輸出、斯の如く當社は時流に着眼し鋭意努力せるに依り、その前途は正に洋々たり。

（所在地　京都市右京區西大路四條南）

事業家

國府重周

事業界に縣政に或は公共事業に、幾多の方面に活躍してその事績はあらゆる方面にて稱讃の的とせらる。明治十九年十月三重縣人國府保次郎氏次男として出生。大正元年伊勢新聞宇治山田支局長兼東日大毎通信員として活躍す。同七年に至り事業界に進出することゝなり、伊勢信託專務取締役に選任せらる。その後鵬翼を政界に伸ぶることを決意し、大正十三年には市會議員選擧にうつて出で、見事業績を獲得し、參事會員に選任さる。越へて昭和二年縣會議員に當選し、都市計畫委員、縣參事會員等に推され、縣會に於ても斷然頭角を現す。翌三年の市會議員選擧には再度當選す。踵で同六年多數の輿望を擔つて、縣會副議長に推擧せらる。七年九月には縣政調査委員となり、同年十二月、三度市會議員に選出せらる。同九年十一月再度縣參事會員となり縣政に奔走すること多大にして、縣會にて大いに重きを爲せり。續いて同十年市民の輿望黙し難く、宇治山田市長に就任せしが、幾何もなくして退職す。以上の如く氏は市政縣政等に盡瘁すること既に多年に及ぶ。殊に梁地計畫の實現運動、萬國博覽會誘致の提唱を始めとして、山田刑務所移轉と舊地の拂下運動を起して時の江木法相をば動かし遂に其目的を達成し、或は山田商業學校の縣移管、參急電鐵の誘致、參宮學童の無賃輸送賃銀割引等に關して鐵道省に單獨運動を起す等、種々と盤旋努力をなして、各方面に幾多の功績を殘せり。啻に公共方面に貢献をなせるのみならず、天性頗る發明の才に富み、該方面に於ても亦功績を樹てり。特にガソリンにアルコールを二割混用するの方法を發見し、燃料國策上に一大貢献をなし、殊に國防上に裨益する

所絶大なりとす。その他翠石と稱する寶石を發見し、これに種々と加工をなして東京、大阪、名古屋等の一流デパートに於て目下發賣中なり。政治家として卓拔なる才腕を有するに止らず、その才腕は多方面に於て發揮せられるを見るべし。頭腦緻密にして才智冴へ機略縱横の持主たり。頗る活動家にして東奔西走してすゝ煙なし。進取積極を主義と爲して氣力旺盛、膽斗の如くに大にして小事に拘泥せず名望高く人の敬仰の的とさる。

（住所　宇治山田市古市）

名望家

添田雷四郎

福岡縣々會議長添田雷四郎氏は、縣政界に鮑驅するの傍ら、地方自治啓發に盡瘁し功績頗る顯著なるものありて、衆庶の瞻仰を受ること絶大なり。氏は明治九年六月福岡縣三瀦郡大野島村の素封家に生る。同三十四年七月、中央大學法科を卒業し歸鄕す。氏早くより大願の志を有し、政治家として國家社會の爲め盡瘁せんことを期せしが、先づ三瀦郡書記となり、宿志達成の機の熟するを待ちしが四十二年三瀦郡大野島村々長改選に際會し、此處に衆望を擔ひて村長の金的を射落せり。是れ氏の公人生活の第一歩にして、爾後氏は東奔西走八方活躍し、粉骨碎身以て公務に淬勵せしに依り、爲めに家財は大半を失したりと雖、闘心愈々旺盛を極め、氏の信念終始一貫大義明分を堅持して變らず、公的行動は常に各人の正義觀に立脚すべきことを高唱して自ら是れを實踐して範を示めし、卑くも皇國民の傳統たる正義觀を忘却し、大義明分に則せざるの徒輩とは共に行動せず。出所退進頗る明らかなりき。嘗て政界に重きをなせる福

添田雷四郎氏

岡縣出身代議士山崎達之輔氏とは親戚關係ありと雖、山崎氏が政友會を脱黨し昭和會を組織、自ら廣田内閣に共の農林大臣として入閣せる時、山崎氏の行動は大義明分に添はざるものありとなして、斷然同氏と訣別して政友會を守護したるは、氏の性格を端的に證左せるものにして世人の深く敬服する處なり。如斯熱烈なる正義觀を有し、出所進退を明かにし以て政界の淨化に努めつゝあり。

資性溫厚にして情誼に厚く、常に下僚に對しては溫情を示して指導誘掖に努め、慈父の如くに欽仰せらる。氏の長期に亘る公的生活中に於ても下僚の失策に寛大なる態度を示し失敗補塡の處置を自ら講ずる等、終始部下を庇護せり。これが爲めにその德望を渴仰せざる者なき有樣なり。

明治四十三年十一月には三瀦郡教育會評議員に當選、次で大野島村々長を辭職し、翌年四十四年九月福岡縣々會議員に當選す、此處に地方政界に名聲を博し、飛躍又飛躍、大正二年福岡縣教育會代議員に當選、大正三年大川町々長に當選す、驀足を更に伸ばして、同七年八月三瀦軌道社長に就任せり。同十二年三瀦郡南部耕地整理組合組合長に當選し、次で同十五年、三瀦郡大川町外十ケ村土木組合管理者に選任され、猶ほ昭和三年三月大川町指物同業組合長に推任されたる等氏の信望洵に絶大なり。その功績は洽く地方民に著聞し昭和四年四月自治功勞者として三瀦郡協會長より銀盃一組を授與され、且又耕地整理事業功勞者として福岡縣知事より銀時計一個を授與さる。更に昭和十二年縣會議員二十年以上勤續者として表彰せらる等、各方面に多大の貢献あり。如斯、氏は地方の開發に專念し、一切の私事を顧みず、只管公事にのみ終始一貫せるの活躍に、縣民深く崇敬し、聲に衆議院議員選擧に際し、氏の出馬を熱望して息ま

さりしが、氏は終生地方發展に進捗するの牢固たる決意を披瀝してこれを謝辭せり。氏の崇高なる信念こそまことに世の鑑といふべきなり。

（住所　福岡縣三潴郡大川町小保）

株式會社 藤田組

關西財界の重鎮として名聲顯然たる藤田家は、今日まで事業界に幾多の貢献を捧し、國家的にも多大の功績ありて、衆庶の崇敬を受くること萬だ厚し。當家の先考は明治財界の商傑と仰ふがれ、才幹雄略一世を震憾せし故藤田傳三郎翁にして、翁は夙に大阪に於て藤田組を創始し、國家産業の振興を唱導して率先之を躬行し、更に大阪財界の指導啓發に當りたるは洽く知るところなり。實に大阪財界今日の發展は翁の遠大なる抱負と卓勁の巨腕に俟つこと多く、翁は大阪財界の恩人として今尚は衆庶の尊崇を受けつゝあり。我が藤田組は幾多の事業を營み、相次いで歐米方面より近代的諸産業を輸入し、歴年發展を遂ぐるに至りしが、明治二十六年十二月合名會社に改組し、爾來事業は一段と躍進を遂ぐるに至れり。後ち藤田銀行、藤田鑛業株式會社等を創始して事業界に鵬翼を張り、關西財界に牢固として搖ぎなき業陣を布けり。次で昭和十二年三月に至り關係事業に大刷新を行ひ、合理化を斷行して、株式會社に改組し、時代の趨向に卽せる經營方針を採用して一大飛躍を遂ぐることゝなれり。その資本金を五千萬圓に增加し、その事業は農業、林業、鑛業等の多方面に及べり。改組後未だ日淺きにも拘らず、着々としてその効果現れ、新組織は大いに威力を發揮して、昏期多大の好成績を擧げつゝあり。今後社業は一段と飛躍をなすものと期待せらる。重役には社長藤田平太郎、常務取締役日吉平吉、同宮原清、取締役藤田彦三郎、同西村圭太郎、同新山敏介、同白石慶太郎、同村松孝宜、監査役藤田治、同高木舜一の諸氏あり。

社長男爵　藤田平太郎　先考藤田傳三郎翁の血を索きて卓犖豪放にして氣宇濶達、その天性の才腕は大阪事業界に多大の景仰を受くる所たり。親しく關係事業を統率し、之を缺掌して大いに實績を擧げつゝあり。男は夙に英國劍橋大學に留學し、卒業後は同地に於て鑛山業經營の實務を研修す。滯英前後十年、大いに新知識を吸收攝取して歸朝せり。後事業界に於て頴才を發揮し、蘊蓄を吐露して八方活躍し、財界にその名聲を謳はるゝに至れり。氏は品性高潔にして謙抑溫恭、洗練せられたる英國流の紳士にして、世人より多大に畏敬せらる。

常務取締役　日吉平吉　卓越せる手腕と高邁なる識見を以て、關西財界に重きをなせる日吉氏は明治十五年十二月東京府に生る。同四十一年東京帝大を卒業し、翌年遞信省通信事務官となり四十三年郵便貯金局書記官を兼ね、四十四年歐米諸國に出張して官業施設の調査をなして歸朝す。大正五年官を辭して藤田組に入り、藤田鑛業常務取締役の重職に簡拔せらる。後當社の常務に推され、藤田事業閥の柱石たる存在にして、多年の功績愈に多大なるものあり。内外の信望甚だ厚し。

常務取締役　宮原清　氏は頭腦縝密にして卓拔の手腕を有し、藤田財閥屈指の俊英として名聲高し。明治三十八年慶應義塾を卒業し、後事業界に入りて嶄然頭角を拔んで、累進して藤田組理事業務課長、豐崎伸銅所取締役會長、藤田鑛業、梅田製鋼所、神島人造肥料、片上鐵道各社取締役を歴勤して後現職に就く。資質溫厚にして眞摯社業に勵精し、多大の功績あり。襟度宏く、慈心に厚く、部下の指導に力を盡くし、慈父の如くに敬仰せらる。

（所在地　大阪市北區堂島北町）

丸京製袋所

文化の潮流は駸々として止まるところを知らず、之に伴うて建築界の傾向も次第に變化を來し、古美術又は實物的古建築の外は總て洋式に移りつゝある現代に於て、其趨向を洞察し以て商機を得るは、最も緊要の事なるが小塚要氏の主宰する京都製袋所は此點に於て最も機敏を以て稱せられ、毎に時代必適の新機軸を出すことに努め、世人の閑却せるセメント用紙再製に着手したる事の如き、頗る機宜を得たるものと謂ふべし。該セメント用紙袋は製出發賣後日尚淺きも、其用途は次第に廣く認められ、今や洪水の如き勢を以て世上に氾濫するに至れり。此容袋を蒐集し加工再製して再び用途に充つるの趣向は最も有利なる廢物利用にして國家經濟の一途に貢献するところ尠からざるを以て、發案者小塚氏の先見の明は識者間に大に稱讃されつゝあり。同製袋所は昭和六年三月の創立にして、逐年盛大に赴き、現在ユニオン及シンガーミシン機印刷機、特殊印刷機、裁斷機、型付機、型物機等を首め、諸般の設備間然するところなく製造能力も漸增して今や一ケ月十五萬枚を下らざる盛況に在り。

經營者　小塚要　氏は香川縣多度津郡筆岡村の篤農家文助氏の四男に生れ、出でて小塚家の養子となりたるが、少時より頭腦明敏にして物理的考究の事に興味を有し農事の傍ら、諸種の發明に浚頭したりといふ。二十三歳の時單身上洛し赤手空拳を以て發明の目的に邁進したるが、事志と違ひて窮境に陷るや、經濟的安定を得、且つ諸種の經驗を積むの必要上、決然勞働界に身を投じ、精勵怠らず、多年の辛苦は遂に酬ひられて、相當の資財を得たるを以て自動車業を開始、主として土木界の材料運搬に當る間に大に斯界の信用を博せり。是れ氏が建築材料に染着するの動機にして、現業創始以來一たび衰運に瀕したるが、畫策共宜しきを得て、之を挽回し、遂に今日の盛況を見るに至れり。氏は公共的方面の事に熱心にして事毎に率先壺力し、現に同町の公共及衛生委員として町民より信頼されつゝあり。

（所在地　京都市右京區西院五條町）

北川組取締役　太田正兵衛

氏は事業界に或は公共事業にその活躍多方面に亘り、識見高邁、人格清廉を以て中京に名望高し。手腕卓拔にして、その才略の俊敏なる奔放自在にして、人の意表に出づ。夙に南劇場株式會社並に明治煉瓦株式會社を相前後して創立し、自ら社長に就任して采配を揮ふ。犀利縝密の頭腦を縱横に驅使し、幾多の難關も突破して、事業は著しく興隆す。その堅忍不拔の意志と共に創意に富む經營的手腕は、頗る好成績を擧げて、人の瞠目する所となる。内に沸々たる鬪志を燃す、氏は聊かも現狀に甘んずるを得ず、大正五年に至り名古屋工業合資會社を創立す。同十一年三月株式會社北川組（土木建築業）と改稱し。取締役に就任せり。氏は鋭意事業の發展に力を注ぎ、同社の繁榮に寄與すること大なり。昭和八年に及びて東部新交通バス株式會社を創立して、大いに畫策す。氏は事業界に活躍すると共に社會公共の爲めにも、その勞を惜しまず盡瘁す。既に現今まで村會議員、或は郡會議員として地方自治の爲めに奔走し、更に所得稅調査委員、營業稅調査委員或は名古屋地方裁判所借地借家小作金錢商事調停委員等に囑任せられて各方面に活躍せり。就中土地區劃整理組合に關する功績は、まことに浚すべからざるものあり。卽ち、昭和二年現在の名古屋市土地區畫整理組合を創立し、同時に組合長に就任して現時に至る。氏は事業界に或は社會公共事業に多方面に亘りて活躍し、その貢献する所頗著なるものあり。豪腹

宏量の士にして仁俠義氣を蔵す。來るものは拒ばまず受入れ、清濁併せ呑むの度量ありて人の爲めに己を犠牲として寄與す。名利に悟然たる淡然泊如、高義正節の士たり。清廉潔白の人格は人の深く畏敬する所にして氏の爲に粉骨碎身の勞を惜しまざる者鮮少ならず。

（住所　名古屋市南區呼續町才仙）

瓜生製作株式會社

本邦工業界の高處より大觀すれば、素より他に資本の巨大を誇り、規模の宏大を稱へらるゝもの尠しとせずと雖も、我がニューマチツク工場に關する限り、其の創業の古きと、其の基礎の堅固なる、而かも製品の優秀無双なるを以て、斷然斯界の王座を占むるものを擧示せんとせず、吾人は先づ瓜生製作株式會社に拇指を屈するに躊躇せざるなり。

抑も本邦に於けるニューマチツタツールの使用を認めらるゝに至りしは、明治末期の交なるも、爾來其の發達遲々として進まず、全く見るべきもの無かりし狀態なりき。然るに大正三年彼の歐洲大戰勃發するや、俄然其の需要高まり、斯業の發展進歩を翹望するに至れり。されど當時本邦に在りては、該品の製作工場は勿論、一の專門修繕工場すら無かりし狀態なりし爲め、慧眼達識、頗る先見の明に富む現社長瓜生保道氏は、卒先斯業の將來性を達觀なし、萬難障壁を排除して大正四年に敢然創業、爾來星霜を閲すること玆に二十有餘年、其間時世の進運、斯業の發達に伴ひて、凡ゆる研鑽改究を積ね、尚且つ努力奮闘常に斯界の垂範的存在として卓腕を發揮すること縱横無盡なるもの あり。斯くて業容着々大を なし、信用逐次高まりて、遂に今日の如き繁榮隆昌、業界に其の比を見ざるに至りたり。即ち大正十年に株式會社瓜生製作所を創設なして從來の業務一切を繼承擴充なさしめ更に業績着々として擧り、生産施設の狹隘不便を告ぐるに至りたれば昭和九年十一月、近代的諸施設の完備を誇る工場並びに營業所を現在の地に新設移轉爲し、面目全く一新するに及び、其後未曾有の軍需工業黄金時代の波に乘りて發展又發展、同十一年一月には更に時運に從ひて一段たる社業擴張の機運を招致して、玆に株式會社瓜生工商店を併合、資本金を百拾五萬圓に增資を敢行、瓜生製作株式會社と改稱せるものなり。今や工場敷地實に四千五百坪、建物坪數亦た千二百坪の廣大さを誇り、而かも從業員の如きも技師五名、技術員二十名、技工三百名等、何れも練達堪能或は新進有爲の人材を擁し、人的要素に將又物的要素に間然する處なき、代表的工場の稱譽を擅にしつゝあり。是れ實に當社將來の發展伸張、更に目覺しきを約束せるものにして海軍省、陸軍省、鐵道省等の指定工場たる貫祿を示して餘りありと云ふべし。即ち當社製品の卓絶優良なるを以て、過去多年に亘りて凡ゆる方面より、賞狀を授與されしこと枚擧に遑あらず。即ち大正十年十一月、工業機械展覽會開催に當り農商務大臣より名譽ある一等賞狀を授與せられ、翌十一年七月、平和記念東京博覽會には總裁宮閑院宮載仁親王殿下より銀牌を拜授するの光榮に浴し、或は曩に中國四國生産品共進會には優等金賞牌を受ける等、その著例と爲す。殊に昭和七年陸軍特別大演習に際し　天皇陛下當府に行幸あらせられるや、畏くも行在所に於て製品を天覽に供し奉り、記念狀を下賜されたるは、當社無上の光榮として擧社一同恐懼感激の極みなり。

瓜生製作株式會社全景

取締役社長　瓜生保道　大阪府を搖籃の地として、明治二十一年九月に呱々の聲を擧げ。夙に聰明穎智を以て近隣に鳴り、而かも雄志勃々たる處、その將來を囑望されること甚大、斯くて長じて家督を襲承するや、孜々として奮勵、克く家運を隆盛ならしめて、父祖傳來の家名に益々光彩を添えしむる一方、我がニューマチツク工業の發展に貢献寄與せる功績多大なる偉材の士、資性温厚篤實にして而かも烈々たる氣慨を有し、高邁達識斯界稀に見る人物なり。因にアサエ夫人は大阪府白禁正三氏の令姉にて内助の功あり。其間長男誠君、三男資郎君、四男健二君、長女千代子孃あり。二男善計君は祖父卯太郎翁の養子となりて清稿なり。

取締役兼庶務課長　奥村盛一　社長を輔佐して社務の樞機に參じ、敏腕卓才を謳はるゝ氏は、亦た至誠努力の人格者として上下の尊敬信頼措く能はざる人物なり。氏は操觚界に在ること十星霜、其の人物手腕を稱揚されるに至りしも、瓜生氏の知己を得て當社に入る。以來奮食を忘れて社運の興隆を圖り、内外に名聲を博しつゝあり。而して昭和十一年當社が文部省の認可を得て、設立せる青年學の教育並び校經營方針に對し、卓拔なる識見を吐露し、青年教育の昭々たる實績を擧げつゝある功勞者なり。蓋し當社の至寶的人物と謂ふべし。

（所在地　大阪市東成區深江町四丁目）

機業家

小熊幸吉

氏は埼玉縣秩父町に於て織物事業を營み、頗る殷盛を極め、手腕卓拔、人物温厚を以て名望甚だ高し。明治三十六年八月熊谷町石原町（現熊谷市）に於て小熊啓次郎氏の次男に呱々の聲を揚ぐ。夙に熊谷中學校に學びしが、在學中遽々父君の逝去に遭ひたるに依り中途に於て退學す。それより志を實業に致し、秩父町の柿原商店に入る。熱心に事業に傾注し、他事を顧みず精勵恪勤大いにその業に當る。氏は頴敏にして洞察力に富む。即ち、秩父織物の將來性あるを察知し、事業の各般に關して研鑽に研鑽を累ぬ。一意專心その職に沒頭し、事業に關する熱心なる研究によりて、その知識頗る該博となり、店主より前途を期待せられて大いに重用せらる。後年販賣方面の實權は一切氏の掌中に托せられることゝなれり。氏は俊敏の才腕を揮ひて多大の成功を收め、大いに同店に寄與を爲すと共に、更にその存在を斯界に認めしめたり。昭和三年獨立して織物事業を創始し、不撓不屈、寢食を忘れて奮闘せり。其の努力は遂年功を奏し、今日に至りては秩父地方有數の機業家としてその名を成すに至る。秩父町宮地に工場分工場を經營し、その織機百有餘臺に上り、年産額二萬數千疋に達す。温厚にして謙虚なる資性により同地方に多大の名望を博す。齢若くして手腕あり、實にその前途こそ多幸なるものあるべし。

（住所　埼玉縣秩父郡秩父町）

丸竹醤油株式會社

當社は元和三年の創業にして、爾來旭日の如くに隆々たる發展を遂げ、既に星霜玆に三百有餘年、その創業の古きと製品の優秀なると、更に京都に於ける生産能率の最高たるとを以て、業界に堂々の商陣を張れり。多年個人組織たりしが、時代の進運に鑑みて大正九年組織を改革し、資本金三十萬圓の株式會社となせり。更に生産方面にも大刷新を斷行し最新式の醸造諸機械類に器具を設置し、工場の大擴張をなし、原料にも大いに精選を加へ優良無比の醤油を大量に製出して、近代的大經營の醤油會社として、業界に當縣の如くに

屹立せり。往時より製品に丸竹醤油と命して濃口醤油を製造し、その品質の良好なること他に追從し得るものなし。由來關西地方には濃口醤油の需要少く、兵庫縣龍野方面の淡口醤油を歡迎するの傾向あるに鑑み、當社に於ても苦心研究をなして、優秀なる淡口醤油の釀造に成功し、各家庭より絶讃を受け、非常なる賣行を示すに至れり。尙ほ岐阜縣下に分工場を設け水質、氣溫等の關係より溜と稱するカケ醤油の釀造をなせり。尙ほ濃口醤油は關東人の嗜好に適せるを見て、同品は主として關東向出荷となし、又淡口醤油は關西人に歡迎せられるを以て、兩者共に兩地方人の嗜好を研究の上に原料を精選し、釀造法に幾多改良を加へて風味卓越せる良品の釀造をなして、錚々たる好評を博せり。その需要は逐年激增し、その生産高は京都の首位を占めて頗る良好なる成績を擧げ居れり。丸竹の商標は創業以來三百有餘年使用し來れるものなるが、明治初年商標の登錄制實施せられるや、卒先して登錄を出願せり。後濃口醤油商標として鶴甲菜を登錄し、丸竹は淡口醤油にのみ使用せり。當社役員に取締役社長六鹿清治、取締役竹内傳八郎、同野橋作兵衞、同六鹿清太郎、監査役猪田傳左衞門、同瀧野德右衞門取締役支配人に石東嘉三郎の諸氏あり。當社役員は醤油釀造事業に關する研究頗る熱心にして、何れも手腕卓勁の人士を網羅せるものにして、經營方針頗る新機軸に富めり。

取締役社長　六鹿清治　資性卓犖豪放、剛氣溯達にして、その手腕は京都財界にて深く畏仰せらるゝ所にして、識見高邁にしてその洞察力頗る俊敏たり。奇略縱横の商才を揮ひて事業界に活躍し、常に多大の成功を收む。氏は證券、米穀取引業界の重鎭としてその盛名並ぶものなし。

（所在地　京都市伏見區片原町）

日本SKF興業株式會社
大阪地方營業所

獨特優秀なる性能、强大無比なる耐久力を以て幾多工具類中に嶄然卓出し、本邦工業界の躍進發展に寄與する處尠なからぬSKF諸工具は、今や名實共に斯界の花形として需要旺盛を招來し、之が販賣會社たる日本SKF興業株式會社の如きは業績年と共に擧りて繁忙多端、正に壓倒的盛況を示したり。而して當社の近畿、四國、中國各地方に亘る販賣區域を擔當し、激烈なる關西斯業商戰場裡に活躍發展して、堂々業界を席捲、以て異數の業績を謳はるゝは、即ち同社大阪地方營業所に他ならず。寔に當所の隆々潑剌たる躍進振りは、斯界雄者多しと雖ども、容易に企及し難き處にして、其の取扱商品の聲價と共に益々勢威を增大し、同業者羨望の的たりしら惜しい哉、昨今輸入統制の悲運に遭遇し、商況稍々閑散なる狀態を呈せりと雖も、多年培養したる積甚なる信用、不動の地盤、更に全社員の一致協力に依る努力奮鬪等は相俟て、將來の一段たる雄飛膨脹に銳意準備を怠らざる處、其の前途たるや、亦た刮目に値すと云ふべきなり。

現在社員四十餘名を擁し、業務遂行機關を受註部、販賣部、サービス部、飜譯部、會計部の五部に分ち、夫々有能練達の責任者を置きて各員職務に精勵し、所内の雰圍氣緊張せる裡に、和氣蕩然たるものあり。斯くて需要激增せるも、商品輸入意の如くならざる悲境に立ちて、克く對應善處し、益々業礎を鞏固不搖ならしめたるは、一に同所支配人片山保三氏の功績に負ふこと多大なり。

支配人　片山保三　京都府片山治兵衞氏の四男、明治三十四年四月を以て呱々の聲を發し、夙に俊邁卓才を謳はれ、早稻田大學に學びたる逸材、而して大正十二年當營業所に入社以來、粉骨碎身只管業務に精勵し、而かも天賦の才幹遺憾なく發揮される處、克く儕輩を凌駕して昇進又昇進、遂に昭和四年支配

人の要職に擧げられたる奮鬪傳中の人物なり其後益々新進氣鋭の卓腕を揮ひ、至誠一貫、能く社運興隆に献替して功勞甚大、今や當社不可缺の社實的存在として令名高く、且つ資性溫厚、明朗にして溯達なる一面を有し、社員を愛撫指導すること、恰も骨肉の如く、全所員の敬仰追慕措く能はざる所以なり。而かも前途尙ほ春秋に富みて、其の將來を期待さるゝこと甚大、正に斯界屈指の少壯實業家たる聲名に恥ぢずと云ふべし。

（大阪營業所　大阪市東區北濱二丁目片倉ビル内）

華實無盡株式會社

滋賀縣下に於てその創立最も古く、内容堅實にして基礎鞏固、多年庶民金融の爲めに偉大なる貢献をなし來り、社運益々隆盛を遂げて、斯界注目の的となれるが當社とす。大正十四年現社長中小路與平治氏縣下大衆の爲めに無盡會社を設けて金融並に貯蓄の機關に供し殖産振興を計り生活安定に寄與せんとして、有志を勸誘して當社を創立せり。中小路氏は無盡會社が大衆の零細なる據出になる金錢を取扱ふが故に、經營方法は飽くまでも堅實を旨として、常に信用の確保に力を盡くせり。

華實無盡株式會社の全景と玄關

他面大衆の便益を考慮して、眞に地方の事情に即せる各種制度を設け、又幾多の新制度を採用して、常に業界をリードす。その經營方法は大いに大衆の間に歡迎を受け、加入者は日を逐ひて增加するに至れり。尙ほ氏は首腦部に人材を網羅するの必要あるを痛感し、官界に於て顯材を謳はれし立川宏氏を聘徵して常務取締役に起用せり。立川常務は中小路社長の絶大なる信用を受け、氏は又社長を輔佐するに至れり。重役に取締役社長中小路與平治常務取締役立川宏、取締役安孫子熊次郎、同大橋岩吉、監査役園田半五郎、同大濱太郎兵衞の諸氏あり。

取締役社長　中小路與平治　明治元年滋賀縣蒲生郡金田村に、呱々の聲を揚ぐ。貊岡中學、滋賀縣立商業の兩校を卒業。後金田村收入役、同村長、農會長、郡會議長、農會代表等に推されて甚だ德望あり。大正元年には衆議院議員、尙武會評議員等に選出せられ、更に滋賀縣農工銀行頭取、大津商業會議所會頭近江水産組合長等の要職に就き、事業界に於て眞摯活躍す。資性卓犖豪放、匝周緻密、頗る手腕家たり。人格淸廉潔白、識見甚だ高邁にして縣下に盛望赫々たり。公共事業の爲めに奔命し、衆庶の深く瞻仰する所たり。大正四年勳四等瑞寶章を授與せらる。

（所在地　滋賀縣蒲生郡金田村慶飼）

實業家

糟谷巖

中京財界に俊英を以て知れる株式會社三工機械製作所取締役、明治銀行監査役、神野新田土地監査役たる氏の存在は餘りにも有名なり。氏は天慶年間の武將の子孫、愛知縣の名

望家多額納稅者稗谷鑑右衛門翁の長男にして明治二十九年六月愛知縣幡豆郡横須賀村の本邸に生る。大正十年、東京帝國大學英法科出身の秀才にして、三井銀行横濱支店に勤務して縱横に活躍せしが、後ち同行を辭し、中京財界に登場し今日に至る。

氏の祖先は稗谷庄司次郎恒雅と稱し、代々筑前の郡司たりき。天慶年間、純友謀反を企つるや、太宰府に攻め總大將橘公頼に加擔して勳功あり、後正慶年間鎌倉に下り、足利氏の旗下となる。今を去る四百年前天文年間稗谷鑑右衛門氏三河に來り海岸地域を開墾して田地となし農民の爲め貢献す。以來木綿賣買業を創業して現在に至りたるものにして、同家三百年の家傳藥は中風、血壓、婦人病等の靈藥として令名あり、近隣細民に施藥したる功勞からず。明治初年賣藥法制定と共に顯著なる賣藥として發賣（先代の名を以て）爲しその特効は家名と共に四邊に周し。

氏は如上の如き名望家の出身にして人格、識見共に備るところ、克く社會公共事業助成運動に參畫し、又凡ゆる精神團體をも研究したる篤學、德行の紳士にして人格清廉たり。

家庭には母堂たづ刀自、令室みね夫人との間に、定彦君、忠雄君、清彦君あり、長幼和親、美視の團樂を爲せり。

（住所　名古屋市中區丸田町四ノ六）

日本畫家

林　文塘

美術の都として國際的に有名なる洛陽の地は、竹内栖鳳、橋本關雪、堂本印象等の巨匠大家を王座として、幾多の名家星羅森列して眞に斯界人材の膽北淵叢たるの稱に背かざるが、就中實性風格に於て、技能に於て、最も異彩を放つは山元春舉門下の鬼才林文塘師と爲す。氏は京都下京區萬壽寺の扇製造家に誕生し、幼少より繪畫を好みて出藍の譽れ高く十八歳にして山元春舉畫伯の門弟となる。當時塾生百餘名の多きを算へ、所謂多士濟々たる觀を呈したりしが、氏の克苦精勵は特に師の感ずるところとなり、其熱心なる指導襲撲の下に非凡の畫才は大に生彩を放ちて著しき進境を示し、遂に幾多の先輩を拔いて早苗會の重鎮となり、同門の先達小林大雲、庄田鶴友、王舍春輝氏等と肩馳して日本畫界の巨擘と謳はるゝに至れるものなるが、其獨特の技は遂次洗練され、愈々圓熟して天衣無縫の趣興を呈し、世に絶讃せられつゝあり。氏、爲人忠眞重厚にして其間風骨の拘すべきものあり。畫に自由畫壇を創設し、現に其主宰者として後進の誘掖指導に勉め、斯界の爲貢献しつゝあり。長子は目下早稲田大學文科に在學中にして俊秀の聞え高し。

（住所　京都市中京區高倉二條上ル）

日本毛織名古屋人絹工場長

内海保次

日本毛織株式會社名古屋人絹工場長として中京事業界に於て活躍せるが、内海保次氏なり。先考絢堂氏は京都市中京區新町三條に於て醫業を開業して盛名あり。氏はその二男として明治廿七年十二月に生る。夙に金澤第四高等學校を經て、京都帝大工學部工業化學科に學び、大正八年に卒業す。卒業と共に京都高等工業學校に迎へられて教授を拜命し、大正十四年には選拔せられて歐米各國に留學し特に化學方面の研究を爲す。昭和二年夏歸朝するや、日本毛織株式會社より懇望せられて入社す。その人物並に學識は早くも上司の認むる所となりて重用せられ、昭和七年に至りて、名古屋人絹工場長に拔擢せらる。氏はその頭腦極めて緻密にして俊秀、研究心に富み新刊書を渉獵して新知識の攝取を怠らず博學多識の少壯エンジニアたり。その性明朗闊達にして自由無礙、小事に拘らず超然として一種の風格を備ふ。内に高邁なる覇氣あり。熱火の如き熱情を有す。興趣至れば談論風發滔々として流水の如く、自己の所見を吐露す。

民衆をして、ことに敬愛し、海陸にして、謙讓、自ら人を魅了するものあり。その思考一方に偏することなく妥當にして穩當、その措置頗る公平、上下より多大の尊敬を受く。操行方正人格實に至高至純、孝養の念厚きを以て知らる。趣味を文學とし、餘暇には讀書に耽けるを唯一の愉樂とせり。

あい子夫人は京都市伏見區鳥羽、奥田豊三郎氏の二女にして、京都府立第二高女出身の才媛たり。因に内海家は武生藩に仕へ代々家老職にありて名家として聞ゆ。曾祖父元孝翁は畫を好み丸山應擧に師事して名あり。祖父元紀翁亦畫家として知られ、伯父去堂氏は南畫を能くす。保次氏の長兄元一郎氏は嚴君絢堂氏の後を繼ぎて醫學を志し。京都帝國大學醫學部に學び、俊秀にして前途を大いに囑目せられて、大正十二年醫學博士の學位を授與さる。醫院を開業して大いに好評を受けしが、惜しい哉、不幸にして義に法爲として長

内海保次氏

逝せられたり。遺子令美子嬢あり。

（住所　名古屋市中川區岩塚町西枝）

名醫家

田中虎熊

山口縣萩消防組頭の要椅にある氏は、同市消防組の整備に多大の力を注ぎ、手押ポンプの往時より最新式消防施設を見るに至りし今日まで、その功績赫耀たるものあり。萩消防組生みの親とも稱すべし。氏生來仁俠に富み、人の窮狀を見ては默止するを得ず、幾多の善行美談の持主にして、萩市に於ける聲望嘖々たるものあり。老來愈々矍鑠、その潑剌たる活躍は市民の深く瞻仰措かざる所たり。抑も當市消防組は設備の完備せるを以て縣下に著名なるが、之れ一に氏が多年に亘り献身的に鋭意努力せる結果にして、大正九年頃僅かに、二臺の手押ポンプを所持するに止まりて、殆んど消防組とは名のみにして、一度火災起らんか、拱手傍觀、其機能を發揮し得ざるの幼稚極まるものなりき。氏痛く之れを憂ひ、同志と謀り有力者を歴訪し、熱誠以て、之れが資金調達、寄附勸誘に浚頭し、漸く最新式蒸氣ポンプを購入し得たり。次で昭和七年五月、超馬力の自動車ポンプ、ガソリンポンプ等最優秀品の購入をなすを得たり。殊に自動車ポンプに有りては一臺、四十本のホースを備へて遠距離の河川、井戸等にも使用し得るの完備せるものにして、縣下に誇るべき頗る優秀たる性能を有せり。

氏は明治六年五月に萩に生る、代々漁業を以て家業とせるが、家業より寧ろ消防組に專念し、消防組頭を勤むる事、實に拾有八年の長きに及び十年一日の如き精進振に市民は絶大なる感謝を捧げり。大正九年、推されて町會議員となる。消防組に、町議に公事に身邊多忙を極めつゝあるも、寸暇を割きて隣人の爲めに盡くし、時に私財を投じて貧困者を惠む等、正に稀有の仁俠家と云ふ可し。氏頗る明朗磊落に富み、一度宴會に臨みて酒杯を手にせんか、角力茜句の舞踊に妙技を揮ひて滿堂を恍惚せしむるは知る人ぞ知る、萩名物男の別名に遮はず、之れ氏の德望の一端として誠に敬愛すべきものと云ふ可し。

（住所　山口縣萩市）

昭和鐵工株式會社

煖房ボイラー、醫療器械並に諸機械製作、煖房、熱風、冷房工事設計請負業に於ける古豪にして、多年の經驗と經驗は優秀無双の製品を生産し、其の盛名は九州全土に止らず、

今や全國に著聞する顯著なる存在たり。

由來當社の發祥は遠く明治二十三年にその淵源を發す。當初前社長齋藤一氏が輸入防遏國產品蕉瀏の見地に立ちて、病院用器具製作を目的として創設し、且暮精勵研究の結果、外國製品に壓倒されし國內製品は、殆んど顧みさりしを該製作に新機軸を出し、遂に之れに成功し、逐時業況順調を辿りて大正五年東京に本社を設置し、工場を福岡に措き以て新進の機運に遭ひしが、不幸にして大正十二年の大震災に遭遇し、止むなく東京本社を閉鎖して福岡に移管し、爾來更始一新益々力闘せるため業績大に昂まり、昭和五年一月時勢に順應して之れを資本金十萬圓の合資組織に革め、踵で同八年四月に迫んで、更に擴充を敢行して資本金三十萬圓の株式組織に變更し、製作の增加と共に販路を滿洲、上海方面にまで拓き、殊にラジエーターの需註旺盛を極めボイラーの如きに滿洲方面のみならず北支中支に迫び、益々需要著增せる爲、當社の工場設備と販賣政策にては到底需註に應じ難き情勢を示現せしかば、同九年一月淺野物產株式會社と提携し、其支援の下に齋藤鐵工所を昭和鐵工株式會社と現稱號に改むると共に、工場の增築を爲し以て製產能力を增大し、從來の營業種目に加ふるに一般鑄造製品の需要にも應ずるに至れり。斯くて昭和十一年十二月資本金を五十萬圓（全額拂込濟）に增資し、以て今日に迫べり。今や從業員數百名を使傭し、一意眞摯業績の昂揚に奔命しつゝあり。一面淺野物產株式會社は當社の總代理店として鋭意販賣の擴張に當り斯界に君臨しつゝあり。

首腦部は、取締役社長飯田久次郎　專務取締役小河愛吉　取締役橋本梅太郎　同二宮新同浦田哲一　同平野源藏　同山之城寛平　同小田光次　監査役高井義一　同飯田實の諸氏

專務取締役　小河　愛吉　九州に於ける特異性を誇る事業家たり。明治十一年十一月福岡縣に生る。社長飯田久次郎氏と從弟なり。天性聰明にして剛直、長ずるに及んで笈を京都帝大に負ひ、法科を卒業す。當時奇傑仙石貫翁の烱眼に適ひて翁の綜理せる九州鐵道株式會社に入り、神戸鈴木商店經營の東洋製糖株式會社職し、神戸鈴木商店經營の東洋製糖株式會社に入り榮達して取締役に推挽さる。爾來十有八年孜々同社の爲に盡瘁し、功績顯著なりしが、不幸鈴木商店の沒落の爲、同社は日糖に合併さるゝと同時に辭職して福岡に歸れり。後ち當社に入り、爾來社長の良佐として專務取締役の要職を占め今日に至れり。傍ら推されて博多商工會議所議員たり。

（所在地　福岡市春吉一五二〇）

實業家　中井　源左衛門

江州は由來偉傑を產す。精神界の偉傑、儒林の偉傑、實業界の偉傑、畫壇、桑門、官海の偉傑、實に彬々として傑指の頃に耐へざらんとす。之に就き吾人の感興を禁ずる能はざるは、精神界の偉人と實業界の偉人とが群中卓然たる事實なり。實業界に古來幾多の巨豪を出せるは、世人周知のところにして一々擧示の要無く「近江商人」の稱よく之れを證せるが、精神界に藤樹先生を初め井伊掃部頭の如き、杉浦天臺翁の如き人物多く出せり。若し試みに之が因由を、地理的に歷史的に所謂「人國記的」に縱觀橫察して巨細に檢討するとせば種々興味ある事項を發見するに困らざるべし「近江商人」の稱は則ち堅忍不拔の精神と機略縱橫の才幹と、强靱堅硬なる意志とを打ちて一丸とせる所謂「江州魂」を意味するものにして、人をして近世に輩出せる幾多、其種の人物を想起せしむるを常とせるが、吾人は其範疇以外に一個の國民たるの資格として、更に必須にして更に重視さるべき多くの德目を具有せる人物の斯界に尠からざるを知る。本項の主人公中井源左衛門氏の如きは卽ち其一人なり。中井家は滋賀縣日野町隨一の

舊家にして、代々日野家と稱す。寶曆年間創業以來明治維新前迄東北仙臺に店舗を有し、古着商を營む傍ら仙臺藩主伊達家御金御用を勤めたり。九代目源左衛門翁の時に維新の變革に依り、仙臺藩の財政凋殘の運命に際會して、甚大なる打擊を受けたるが、八方苦慮周旋の結果、健腕能く頹瀾を既倒に廻し得て基礎を固むると同時に世運の變遷に鑒みて、生絲業を創め、東北地方の生絲を京都に引きて

中井源左衛門氏

繰ることゝし、是を機として商號を中井源左衛門商店と改め、生絲卸問屋として大に活躍し、次第に世評を高め、逐年發展、明治九年には神戸に生絲取引部、現物部を設置するの盛況を見るに至れり。當家は代々襲名し、當主は其十一代目に當る。氏は家憲を尙び、傳統を重んじ、世上凡百の實業家の如く徒倖を夢みて奇利を博することなく、終始一貫手堅き取引にて着々業績を擧げ來れり。流石に名家の出たる貫祿自ら備はりて、百戰老巧の古名將の風格を偲ばしむるものあり。爲人寬厚質實にして、奉公の念に富み、公共事業に盡瘁するところ尠からず、曾ては日野町長に推され、現に同町會議員として聲望隆々たり。

（本　邸　滋　賀　縣　日　野　町）
（京都宅　上京區今出川通大宮西入）

圖案下繪畫家　谷　一　舟

氏は本名利三郎、圖案下繪界の巨擘を以て稱せられ、その名聲斯界を風靡せり。氏は京都市の產にして、幼にして望月玉遷畫伯の門に入り、日本畫を學ぶ。天才の機鋒は早くもその篋端に現れ師をして大いに驚嘆せしむ。氏は孜々として畫業に研精し、一心これに傾注す。錦光山師遨々その作品を見ていたく感嘆し、將來その天分畫壇を席捲するに至るべしと爲す。後ち師に就きて陶器繪を學び、その筆致頗る妙を極めて早くもその存在を認めらるゝに至り、直ちに名古屋日本陶器株式會社に招聘せられ、大いに重用せらる。勤續二十有年その妙技を發揮し、同社の製品の聲價を高む。而もその間多數の子弟を懇切に指導し、幾多の妙手を養成して同社の爲めに貢獻せるが、大正五年惜まれて辭す。氏は更に日本畫の研究をなさんと、巨匠竹內栖鳳畫伯の門を敲き、五年間は專ら實物寫生に沒頭し、その著しき進境は師の激賞を受く。氏は日本畫家としても、優に一家を成すの妙手たりしが、密かに感ずる所ありて、京都呉服京染の發展に貢獻せんとして、圖案及下繪圖に轉向す。多年練磨研精せし日本畫の妙技を發揮し、淬勵刻勉して技を練り、想を凝らして更に新境地を開拓し、縱橫にその天分を發揮して斯界絶讃の的となる。氏の卓越せる天分と熱誠なる努力により新手法創始せられて、斯界に一新紀元を劃するに至れり、而して氏は圖案下繪界の巨匠として、その名聲嘖然として斯界を壓せり。現在圖案下繪の業は令息秋香、雨溪の兩氏に讓り、氏は專ら古錢の蒐集並にこれが研究に耽りて、悠々閑日月を樂しめり。氏の古錢蒐集の趣味は過去四十有餘年の久しきに及び、その蒐集せる點數まことに夥しき數にして、これを一々數ふる能はず。而もその古きものに至りては、五千年以前のものと稱せらるゝ貝錢あり。その種類の豊富にして、幾多珍奇の古錢を藏せる眞に斯界人の驚嘆する所にして同好者の垂涎措かざる所なり。餘に桃山泉談會を組織し、古錢の研究を目的として多數同好者を會員となせり。氏は嘗に古錢の蒐集點數の多數に上るのみならず、古錢の研究又堂々一家をなし古錢の鑑定家として、同好者の間に崇敬せられること深

し。資性溫雅謹厚、人格清廉にして名利に恬淡、淸々淡々、疎々落々、此事に拘はらず、甚だ抱擁性あり。涙めども盡せぬ溫情と、悠揚迫らざる態度まさに長者の風骨あり。世人の瞻仰を受くること甚だ厚し。因に氏の三男・開溪氏又斯業に於て天才の名を擅にせり。即ち十三歳にして、日本畫を小寺雲洞氏に學びその妙筆師をして甚だ嘆服せしむ。爾來眞摯研究を續けて次第にその存在を明らかにせしが、二十一歳の交、東海道の寫生旅行に赴き犀利精緻の觀察と流麗奔放の才筆とは、畫壇にその天禀の畫才を認めらる。二十三歳にて父業を繼ぎて、圖案及び下繪の研究に轉じ、二十六歳に及んで、その妙技愈々練磨せられて獨自の境域を開拓し、斯界の絶讃を浴ぶ。現在京都一流の呉服商の染名、下繪、加工の注文を受けて神技を揮ひ、その名聲隆々と揚れり。因に氏は明治三十年の生れにして、今や漸く齡不惑、氏の畫才今後一段と冴ゆるに至るべし。

（住所　京都市中京區小川通姉小路南）

平井仁商店

當店は京都西陣帶地卸商として業界の巨豪たり。父君仁兵衛翁は萬延元年十二月滋賀縣犬上郡豊郷村四十九院、村上十平氏長男として出生す。幼名を小三郎と稱し、八歳にして同縣千堂村染主平太夫師に就き、漢學を修めて出藍の譽あり。明治九年齡僅かに十七歳を以つて業望を擔ひて總代となり、同十三年四月二十一歳にして更に村長に推さる。在職三年同十八年三月、本家を令弟に讓りて上洛し伯父平井仁兵衛氏の養嗣となり、同年七月先代の逝去に遭ひ家督相續す。由來平井家は連綿數代を誇る歴たる舊家にして、當時麻裃の製造販賣を商とせしが、氏の襲承後西陣織帶地並に關東織物類を取扱ひ、精勵經營に力めし結果、業容飛躍的進展を爲し、傍ら株式賣買に染着して亦巨利を博し、遂に現在の牢固たる業礎を築くに至れり。其間推擧されて京都商業會議所議員たること久しく、一方郷里四十九院に進譽會を興して共會長となる等、公共事に盡瘁する所多く、齊生會へ一萬圓寄附の功に依り紺綬褒章を授けられ、又大禮奉祝事業費に寄附せしに依り、昭和三年七月京都市より表彰せられ北野、八坂、太秦、善峯諸社寺の保存事業に盡す。尙私的關係に於ては京都瓦斯、京都拓殖兩社取締役たり。由來當店營業部門は關東、西陣の二部に分ち、兩店は街路を挾んで對立せしが、大正十二年に及んで前者を女婿佐助氏に讓り、更に同十四年二月後者を令息小三郎氏名義に變更すると共に、別に資本金一百萬圓を以て資産保全のため平井同族株式會社を設立し、之が社長となる。而かも實務は令息の處理に委ねて、自らは洛東翠巒莊に隱退し、東庵と號して悠々畫筆に親み、又茶道、骨畫、骨董趣味に閑雅を過せり。資質溫厚にして信仰心厚く、而も決斷力に富む。蓋し人格既に圓熟して胸中何等凝滯する所なきに據るなる可し。

店主　平井小三郎　氏は仁兵衛翁の長男明治三十年京都府に生る。夙に滋賀縣立八幡商業學校を卒業し、直ちに家業に從事す。大正十五年嚴君に代りて經營の衝に當り、商運愈々旺んなるものあり、商品仕入先は西陣機業家及び仲買等にして內地各府縣、朝鮮、支那等販路極めて廣く使用店員數十名を數ふ。氏爲人孝順にして信義に厚く、其將來を囑望さるゝこと多大なり。

（所在地　京都市中京區蛸藥師通烏丸通西）

盛となり、注文殺到せるの現況は、一に氏の苦心精勵の結實にして、同品の發明は我が業界に一新紀元を劃したるものとして多大の注目を惹けり。

本村惣吉工場の外觀

古來酒樽は杉材を以て之れを作り他の木材は一切之れを用ひざりしが、先代祖父惣吉翁、氏之れが改良に染着し、杉桶內面に銅板を張り試作實驗せるが失敗に歸せしも、爾來之れが完成に苦心慘澹當代に及べり。然るに當主本村惣吉氏、昭和五年四月に至り、鐵鎔接の完成と共に酒桶琺瑯引の難技術に成功、此處に多年に亘る懸案の解決を見るに及べり。氏の面目正に躍如たるものあり。

昭和五年四月、發明の完成と同時に工場を擴大建築し、晝夜兼行して不眠不休文字通りの奮鬪をなしたるに依り。業績此處に顯著となるに至れり。次で同十年三月、工場擴張建築に着手、同年十月竣工內外の整備完了し、令兄は工場製品製作に專念し、令弟は各酒造業者を歴訪して其の効能を說きて販路を求む等、兄弟相協力一致以て之れが發展に努力したるに依り、需要は日を逐ひて旺盛を極むに至りたり。

今や工場敷地、一千六百坪に上り、其規模甚だ宏壯たり。一面販路も益々擴張せられ、內地は勿論遠く朝鮮、滿洲、支那方面にも眞價を認められて擴大され、續々註文殺到して製品の不足を告ぐるの活況を呈し、之れが製作に職工、晝夜兼行に從事せるの狀況なり。

氏の令弟、增衛氏、圓藏氏共に奮鬪家にして斯業に熱誠從事し兄弟相和し所期の目的貫徹に邁往せるは、一の美談といふべきなり。氏は又熱心に皇室中心主義を奉じ、佛敎信仰の念に篤く、從業員に接するに恰も慈父の如き純情を示し、指導敎訓に遺憾なきを期しつゝあり。

（所在地　福岡縣三潴郡木室村）

伊豫又合名會社

甘脆淡泊、獨特の風味を以て古來關西の食品界に覇を稱へ來れる伊豫又の鮮料理は、京洛に遊ぶ者の爭うて賞味するところのものにして、食通の間に於ては此を京名物の一に數へ「名物に美味いもの無し」の例外中の例外となし、鮮黨の錚々者として聞えたる大谷光瑞師の如きも、大に稱揚賞翫し、行李匆々の間に此を購はしめて旅程に上ることも珍しからず。以て其名實相陜へるを知るべし。而も世上或は其名を知り、或は其味を知ると雖も其本舗伊豫又の堂々たる合名會社なるを知らざる者多し。現今此種の營業に當り、法人組織を以てする者あるは敢て珍とするに足らざるも件の伊豫又合名會社が士族の商法に、其業端を發するものなることを知るに於て、何人も意外の感を抱くなるべし。聞くならく、今を距る四百年前伊豫松山の藩士たりし當主豊田又一氏の遠祖某故ありて、京師に來り、現在の箇所に於て鮮料理を鬻ぎ、子孫これを襲承して、伊豫又兵衛と稱し、累代繁盛、當主は其十八代目の人なり。維新以來時運の進展は、先代又兵衛氏の堅實なる經營方法と相俟つて信用を博し遂年盛運に向へり。

當主 豊田又一　當主又一氏は先代の嗣子にして少壯より家業に從事し、百練千磨の苦心を經て商品製作の秘技を習得し、事業繼承以來固有の風味の維持に力むると共に時勢の趨向に鑒みて厨房其他諸般の施設に改善を加へ、接客販賣上にも工夫を凝して顧客に滿足を與へ、合名組織に發展せる以後に於ても、決して互利を夢みることなく、父祖傳來の家風を重んじ、誠實丁寧を旨として精勵したるを以て聲價彌々隆く、貴顯紳士の駕輿を馳せて此れを賞味するもの多きを告ぐるに至れり。氏は自家の業に忠なるのみならず、常に自他共存を信條として、幾多の公共事業に盡瘁するところ尠からず。學區會議員たること四期を通じて十有六年の久しきに迨び、自治上の貢献亦多大。殊に保健衛生に關する不斷の精勵は區民の夙に感謝するところにして共學區の懸案たる小學校新設の件に就ても、氏の努力に俟つところ多きを以て、第五期學區會議員選擧に當り、更に氏の重任を見るべきは歴々として掌を指すが如し。現在五條管內料理組合長並に錦榮會々長として都市發展のため日夜献替、公共精神の權化として商工界有志の間に推重せられつゝあり。心性清廉にして膽亦大。而かも義氣に富みて渾然玲瓏たる人格者なり。

（所在地　京都市中京區錦小路麩屋町西入）

銑鐵共同販賣株式會社

時局の重大化と共に國防費は多大の膨脹をなして、軍需工業を中心とする一般事業界は目覺しき活況を現出し、これが爲めに各種の原料製品は需要急激に著增して、供給不足を見るに至れるが、就中鐵鋼界に於てこの現象顯著にして、原料鐵鋼材の入手難よりして、各種事業家中生産制限、操業中止の餘儀なきに至れるもの尠しとせず。當社は銑鐵の共同販賣機關として多年銑鐵の統制に當り、斯界の爲めに貢献する所多大なるものあり。當社の設置は大正十五年六月外銑の壓迫に對處する爲めに、國內銑鐵の販賣機關として民間製銑業者五社の間に結成せられたる販賣カクテルなり。昭和七年八月に至り之を株式會社に改組し、翌八年輸入銑の販賣權をも掌握し、强力なる統制權を確立して斯界に君臨することゝなれり。然るに九年日本製鐵株式會社創立せらるゝに及び、當社と日鐵との間に提携成らず、昭和十年以來當社は專ら滿洲銑、その他の輸入銑の販賣機關と化せり。爾來銑鐵供給は二元化し、供給値段は二本建となり、當社と日鐵との間に屢々折衝行はれしが、當社は輸入銑の取扱ひを爲すが爲めに、關稅運賃等々の負擔あるを以て、協定の成立には難色ありたり。十二年四月政府は鐵鋼の供給不足よりして關稅の免除をなし、日鐵に於ても原料の騰貴より建値の引上げをなしたるに依り、十二年末に至りて建値は同一となれり。乍併、當社と日鐵との二元統制に就いてはこれが統一化の要望高く、遂からず解決を見るに至るべし。當社は多年銑鐵の統制に當り、斯業の發展に寄與する所多大にして、殊に滿洲銑の輸入をなして日滿事業界の樞たるの役割をなし、その功績僅少ならざるものあり。近時銑鐵の需要增大よりして銳意供給の增加に努め、事業界の生産力擴充、或は生産の增加に直接間接寄與する所大なり。現時資本金一百萬圓（拂込二十五萬圓）たり。重役陣には專務竹中政一、取締役大崎新吉、同梶山又吉、同南治之助、同岡田卓雄、同兼支配人桃木長治、監査役畠山藏六、同松井敏生同弟子丸相造の諸氏あり。

專務取締役　竹中政一　頭腦明晰、手腕卓勁を以て事業界に頗る信望を博せり。明治四十年神戸高等商業學校を卒業し、直ちに南滿洲鐵道株式會社に入る。眞摯業務に盡瘁して、その穎才を認められ、四平街運輸主任に擧げられ、本社總務文書課長、參事、本天地方事務所長と累進し、昭和六年七月には理事

に選任せらる。同年九月、監理部長を兼任し大いに才腕を揮ひて社業の發展に貢献する所多し。昭和十年同社を辭す。昭和十一年十一月銑鐵共同販賣株式會社專務取締役に選出せられ、爾來當社の經營に鞅掌して、多大の功績あり。明治四十二年歐米視察に赴き、同四十五年歸朝す。博學多識にして視野廣く、蘊蓄經驗共に豐富にして、練達堪能の士として斯界に多大に推重せらる。當社を主宰する傍ら、日印通商專務、加奈陀產業、北滿洲金鑛各監査役を兼任す。因に氏は兵庫縣竹中作平氏の長子として、明治十六年十月を以て生る。曩に勳三等に叙せられ凌霜會會員たり。

（所在地　東京市麴町區丸ノ內二丁目）

事業家

中原隆三郎

古來立志傳を飾る者、その官界、實業界を問はず、必ずや幼にして自己を覺り、自ら信じたる理想目的に勇往邁進、苦鬪の難關を突破したる結果にあらざるは無し。こゝに論評せんとする中原氏も、亦如上の辛苦挑戰、よく獨學獨歩、螢雪の功成りたる大人物と云ふべきなり。旭屋デパート專務取締役を筆頭に幾多の金融界、生産界の會社社長たり、或は重役として機略縱橫の才腕を揮ひつゝあるは蓋し氏の持つ榮譽のみならず、社會教育に及ぼす影響の甚大なるものあり。

氏は明治十一年二月二日、福岡縣三井郡小郡村の茅家に生を享け、小學校を卒へる頃より向學の赤心に燃え、十七にして農家を飛び出し、當時道學者として聞え高き久留米市莊島に西島翁を訪ね、その門下となる、翁に師事すること四星霜、その間寢食を忘るゝ氏の勉學は遂に酬ひられて、普通文官試驗に合格續いて稅務官吏として官界に入りしは、氏の二十一歲の時なりき、三十六歲宮崎縣鹿兒島稅務署長を最後に退官する迄十五年の長き間、九州各縣を歷任し、經濟運用の樞機を知り、人情表裏の體驗に人生を物し、眞に人間たるの處世の奧義を究めたると云ふべきなり。此所に於て氏が所信たる實業界進出のスタートは切られ、先ず當時多事多難に營業不振を云はれし「しまや」一足袋本店に入りしが、氏を得たる同店は旭日の如く躍進の日本足袋株式會社の創立となりブリツヂストンタイヤ製造となり、日本ゴム株式會社の今日に至る間、石橋德次郎氏、同正二郎氏に協力、日本ゴム王たる石橋家の礎石的存在となりしは、豈に喋々するの要なし。石橋家はこの功績に酬ゆるに終身顧問に推して感謝の意を表す。昭和八年十月思ひ出を停めて去りし氏は、地方金融界に活動の歩を進め、共立無盡取締役、共和無盡社長に就任、傍ら岡山織布、福岡醱素の重役として生産界にもその才腕を伸し、着々其の成果を收めつゝあり。一方盛んに各都市に百貨店の創立瀕りに興り、デパート時代を現出するも、久留米市のみ十萬の大工都なるにかゝはらず、デパートの出現を見ぬを遺憾とし、市內有志と相計り、資本金百萬圓の株式會社旭屋デパートを設立、昭和十二年十月、百萬圓の大建築落成と共に、商品十萬餘圓を誇る堂々白亞の旭屋デパートを出現せしめたり。自ら專務取締役となりたれば、その隆盛日と共に加はり、今や販路に、サービスに氏の奇才は縱橫を極め、正に九州デパート界のナンバー・ワンたるの地位を確保したる觀あり、斯くて氏の活躍は益々白熱化し、その蘊蓄ある識見と共に、人間中原不退轉の勇名を天下に示すも近き日ならん歟。

（住所　久留米市篠山町）

株式會社

三菱社

躍進日本の原動力をなすものは、萬邦無比の我國體と、近時に於ける我事業界の赫耀たる勃興にして、兩者相倚り相俟つて皇國の大業始めて遠成せられるものなること疑說を要せず。三菱は三井と相並びて本邦事業界の重

鎖にして、日本産業文化上に不滅の功績を貽し國防の整備充實に沒すべからざる貢献をなして、その一挙一動は我國財界の動向を左右するの勢威を有し、世界的大財閥としてその名聲海外にまで轟けり。抑も當社の祖源をなすは、その豪腹一世に鳴りし故岩崎彌太郎氏にして、勤王討幕の國論騒然たりし幕末に於て、土佐藩の海運貿易事業を繼承して、土佐開成商社なるものを創立したるが、三菱の濫觴たり。後之を九十九商會と改稱せしが、我が海運業の基礎これに依りて築かる。明治八年その規模を擴張して社名を郵便汽船三菱會社と改稱し、同十三年別に三菱爲替店を開きて金融と共に倉庫業を經營し、十七年には造船業を開始せり。翌十八年郵便汽船三菱會社と共同運輸會社合同して、日本郵船株式會社創立せられたり。適々岩崎彌太郎氏長逝せられたるに依り、令弟岩崎彌之助氏後を襲ひて事業を總攬す。明治十九年三菱社を組織して鑛山炭坑造船の各事業を經營し、新に繼承せる第百十九國立銀行の一般銀行業を開始して今日見るが如き三菱の事業網の基礎は始めて確立せられるに至れり。斯くして事業は歴年躍進をなし、同二十六年に至りて舊商法の實施に依り、岩崎彌之助氏並に岩崎彌太郎氏の嗣子久彌兩氏の出資を以て、同年三月三菱合資會社を設立し、在來の業務一切を之に移し久彌氏社長に就任す。後彌之助氏の嗣子小彌太氏社員に列し、副社長となり。更に大正五年、小彌太氏社長に就任今日に至る。尚ほ昭和七年四月久彌氏の嗣子岩崎彦彌太氏副社長の椅子に就く。他面事業は年を逐ひて躍進し時勢の進運に伴ひて組織制度に一大改革を加へ大正六年造船業及製鐵業を分離して三菱造船株式會社及三菱製鐵株式會社を新設し、翌年東京倉庫を三菱倉庫株式會社と改稱更に株式會社三菱銀行、三菱商事株式會社、三菱鑛業株式會社、三菱海上火災保險株式會社、三菱内燃機械株式會社、三菱電機株式會社等を相次いで設立せり。尚ほ昭和二年には三菱信託株式會社を創立、更に三菱航空機其他の會社を創立し、同九年には三菱造船株式會社を三菱重工業株式會社と改稱して、三菱航空機横濱船渠その他を之に併合す。三菱の現在營める事業は銀行、保險、信託、商事、鑛業、倉庫、造船、機械製作等頗る廣汎なる事業網を張り、これ等事業の統制監督の任に當るが株式會社三菱社なり。當社は三菱合資會社を昭和十二年十二月株式會社に改組して、その名稱を變更したるものなり。即ち、從來の組織にては優秀なる人材の發言權を狹ばめたる嫌ありしに依り、時代思潮の趨向に鑑みて、之を現在の組織に改革して、大いに領材の拔擢を圖ることゝせり。因に當社の直系下の事業會社に三菱銀行、三菱信託、東京海上火災、三菱海上火災、明治生命、三菱倉庫、三菱鑛業、三菱商事、三菱重工業、三菱電機等ありて、それ等の各社は又各々子會社に投資して各種の事業を營みつゝあり。又傍系會社として主要なるものを擧ぐれば、日本郵船、東亞興業、日本窒素、參宮急行電鐵、明治製糖、南亞公司、滿蒙殖産、南米拓殖、日魯漁業、若松築港、東京イーシー工業等一々枚擧に遑なし。直系、傍系其他の關係會社の總數百數十社に達す。之等關係會社の資本金は十億圓内外に達し、三菱の投資額は三億圓を遙かに突破せるものと推定せらる。株式會社三菱社の資本金一億二千萬圓に上り、法定積立金三千萬圓、別途積立金二千萬圓にして、所有有價證券二億九百三十萬圓、固定資産一千五十五萬六千圓となれり（昭和十二年十二月末現在）名實共に世界的大財閥たるの威容を備へり。尚ほ三菱は經營方針を國益の增進に主眼を措き、國家の前途を考慮して常に新興事業に手を染めて、産業の發展に國防の充實に力を注ぎ、幾多の方面に測り知れざる貢献をなせり。又社會公共方面には惜しまず寄附をなし、更に國防献金出征兵士の救恤等率先して之を行ひ、世上より多大の感謝を受く。因に當社の重役には取締役社長岩崎小彌太、同副社長岩崎彦彌太、專務取締役三好重道、常務

取締役永原伸雄、取締役串田萬藏、同各務鎌吉、監査役瀬下清、同加藤武雄、同山室宗文顧問青木菊雄、同三宅川百太郎、同濱田彪、同三谷一二、同松岡均平の諸氏あり。

取締役社長　岩崎小彌太　聰敏にして英邁その人格又高潔なるを以て衆庶の崇敬を受くること厚き氏は、明治十二年八月岩崎彌之助氏の嫡男として生る。同三十二年一高を卒業して渡英し、劍橋大學に學ぶ。歐米諸國を巡遊して歸朝し、後三菱合資副社長となり、更に社長となりて事業を統宰す。昭和五年紺綬褒章飾版を賜ふ。

專務取締役　三好重道　氏は明治四年二月、故貴族院議員三好退藏氏の二男として生れ、夙に慶應義塾に學ぶ。後九州鐵道會社に入り、踵で帝國鐵道廳參事に任ぜられしが、四十一年三菱に入り、大いに機鋒を現して三菱鑛業常務となり、三菱造船取締役會長に推され、次いで三菱合資常務理事となり、更に現職に就く。頭腦俊敏にして資性溫恭、財界に聲望甚だ高し。

常務取締役　永原伸雄　至誠熱直、心性破潔を以て内外に信望を博せる永原氏は、明治二十五年東京高商を卒業して、直ちに當社に入る。眞摯業務に精勵して多大の功績を擧げ、三菱重工業、東京海上火災保險、三菱電機各社の重役を歴勤して後現職に就く。明治五年五月岡山縣士族永原玄吉氏の二男として呱々の聲を揭ぐ。

（所在地　東京市麴町區丸ノ内二丁目）

合名會社　清水商店

我國化學工業界に其の設備内容の充實と製産技術の優秀を以て内外に著名なるは我が合名會社清水商店なりとす。本社は我が文化工業の中心地大阪に在り、大正八年資本金五十萬圓全額拂込を以て化學工業藥品、一般飲食料品原料、製菓原料、香料原料製産の營業目的にて設立されたるものにして、其の創業は大正元年現代表社員清水源吉氏染着なし、以來歳を累ねる事前後を通じ實に二十有七年の長きに亘り、其の間着々研鑽は究められ、内外權威の學理と技術により改良に次々改良を以て、製品は日に新に優良化され業績は爲に躍進の一途を辿りたり。現時武力戰も又斯業に俟つもの甚大なる時、當社の如き堅實と完備せる設備と優秀技術を擁するあるは、國家百年の計に則したるものと言ふべきなり。斯くして當社は隆々の發達を爲し、其の驥足は全國を席捲するは勿論、餘力は遠く朝鮮、臺灣、滿洲、支那より印度方面に伸張進出し、販路は東洋全圓に及び、更に近時歐米各國にも進出を企圖されつゝあり、盛業正に旭日の如きの慨あり。

代表社員　清水源吉　氏は明治二十一年十月、岐阜縣不破郡赤坂町清水久太郎氏の長男として生れ、幼にして單身、立身の地を大阪に求め上阪、藥品業に從事、大正元年早くも獨立の機運を掴む、同年十二月化學工業藥品事業を興したり。日夜業務に勵精し、而もその機を得たれば、漸時好調を來たし、加ふるに財界好況に拍車づけられたる爲、業績は著しく進捗し數年にして巨利を占むるに至りたり。斯くして氏は同八年之を合資會社に變更一層業務の擴張と、内容施設の改善を計りたれば、爾來益々隆盛を極め、今や斯業界の一雄として確固不動の地盤を獲得、社運を萬代の泰きに置きたるなり。其の人となり溫厚篤實にして、而も剛放沈毅なり、頗る聰明にして眼前の一得一失に喜憂するが如き事なく常に大局を達觀して機略又縱横、斯業角逐場裡の雄俊たる天禀と修練に充てり。常に社會公共に盡瘁を惜まざれば衆庶の信望極めて厚し。當社統理の外、東洋倉庫取締役たり。

（所在地　大阪市東區平野町一丁目）

名望家

鳥海孝太郎

千葉縣安房郡地方一圓に於て、該地方の殖産興業に盡瘁し、産業の開發指導に發展助成に從事すること多年。その功業燦として輝き衆庶の德望を鍾むるを鳥海孝太郎氏その人とす。當家は代々鄕關の爲めに力を致し、治水産業に殫多の貢献あり、家計又豊かにして鄕黨の崇敬を受くること甚だ深し。先考鳥海清治翁は夙に村會議員、縣會議員或は村長等に推されて地方自治に盡くすこと厚く、病軀を押して東奔西走し、その高潔なる人格と共に今も尙ほ人の仰慕して罷まざる所なり。當主孝太郎氏は先考清治翁の長男にて明治十三年八月を以て生る。氏幼にして學を好み、學績頗る優秀たり。夙に帝大農科に學び卒業後助手として五ケ年間研究に從事す。誠實にして眞摯、研鑽に精進してその前途を大いに囑目せらる。然るに嚴君の遽々長逝せられるに及び、資業を擲ぎて鄕村の爲めに活躍す。現に安房郡農會長、東條村農會長、東條村信用販賣購買利用組合長、安房郡煙草耕作組合長、安房郡耕地整理組合聯合會長、安房郡百合根栽培組合聯合會長、東條村會議員、東條村方面委員常務委員、東條村和泉山王耕地整理組合長、千葉縣地方森林會委員、千葉縣産業組合安房郡部會副會長等に推され、又東條村長に選出せられしことあり。氏温厚にして謹愨鄕村の指導者として諸般の事業に關係して東奔西走す。その懇切至誠の指導は人をして、感動せしめずんば止まず、鄕黨の崇仰措かざる所たり。氏深遠なる學識と豊富なる才智を藏しながら、世に出でて立身出世を圖ることをせず。名利に超脫して鄕黨の福祉の增進に献身的犧牲的努力を傾注す。功利主義的觀念の横溢する現今に、氏の存在はまことに一陣の涼風を送るものにして、その高義淸節は以て一世の龜鑑として仰ふぐに足る。氏は趣味として碁、旅行あり。家庭には豊子夫人との間に四男三女あり。長男直吉氏は東京農業大學を出でて奈良縣農會に勤め、次男信二氏は立教大學の出身にして日本エタニツトパイプ株式會社に恪勤す。

（住所　千葉縣安房郡東條村和泉）

株式會社

小西六

我國寫眞器製作事業界の覇者として、或は日本に於けるイーストマンとして、當社は燦然として輝き亘り、日本橋室町三丁目に於て三井合名と相對峙し、明朗華麗のモダン建築美を誇るが、之れぞ小西六本店たり。歩一歩店内に進び入らんか、その採光に意を盡くせる、商品陳列の綺麗たる、事務室の整備せる流石に時代の尖端的事業として首肯せしめる程に新鮮潑剌たる感覺に滿てり。羅馬は一日にして成らず。當店今日の發展は一朝一夕に齎らされたるものに非らず。過去幾多の難局を經、犧牲的努力を費して、今日の輝かしき躍進を見たるものなり。抑々小西といふは社長杉浦氏の祖先來繼承せる家號にして、亦六櫻社なる當店の名稱は社長杉浦六右衛門氏の名の頭文字と同社の商標の櫻花の櫻とを組合せしものなり。杉浦家は代々六右衛門を襲名するを定めとなし、現社長を以て七代目となす。明治中葉迄は麴町三丁目に於て藥種商を營み、舊幕時代には諸大名の御用商人として名あり由緒ある老舗たり。六代目の六右衛門氏は明治黎明期の頃始めて輸入されたる寫眞に用ふる藥液をば、諸官廳より納入を命ぜられしが、これが同氏の寫眞器製作業に進出するに至りし第一歩にして、明治十三年頃には既に寫眞器の暗箱をば製造せり。又頗る慧眼ありて時流を見るの明あり。石版印刷機械自轉車、蓄音機、活動寫眞、レントゲン等をば既に明治二十七八年頃或は輸入し、或は製作する等損失を意とせずにこれを行ふ。次で佛人スーゾル氏を聘徵して乾版の製造に着手

せしも失敗し、續いて生田益雄氏を迎へて始めて成功す。更に印畫紙を製造して櫻POPと稱して發賣し、又は白金紙の製造を行ふ等新國産品の製造を行ふもの枚擧に遑あらず。昭和五年、長岡菊次郎、江頭泰樹氏の助力に依りフヰルムの製造に成功し「さくらフイルム」として好評を博せり。當店は我國寫眞工業の發展と輸入防遏とに貢献する所大にして陸海軍始め諸官省の指定商となり、愈々隆榮を極む。一面寫眞撮影の技術者養成の爲め寫眞專門學校を設立して年々數萬圓を補助し、斯界に盡す所大なり。當社は昨春三月合資會社を株式會社に改組し、武州日野町に三萬坪の地に工場の建設に着手。現在從業員千五百名に上り社業頗る繁忙を呈す。尙最近發賣の超高感光度、汎整色性フヰルム「さくらパンU・S・S」は内外の製品に比較して驚異すべき高感光度を有し、夜間に於ても瞬間撮影をなし得るの特性ありて斯界に絶讃を博せり。

取締役社長

杉浦六右衛門

東京府人杉浦甚兵衛の長男にして明治十二年八月を以て生る。前名を甚太郎と云ひ、後家督を襲ぎて改名す。夙に明治義會中學、歐文正鵠學館に學び、後海外視察に赴く。資性着實堅確、業務に勉勵し、溫容實潤、人望甚だ高し。

（所在地　東京市日本橋區室町三丁目）

機業家

荒船森次

秩父機業界の覇者として君臨せる丸大織物工場は、外觀宏壯にして内容更に充實し、近代的大工場として、その規模を全縣下に誇れり。明治二十二年に創始せられ、業礎鞏固にして内容堅實、製品優秀にして業績良好、秩父機業界切つての信用あり。試みに工場の設備狀況を述べんに、織機臺數は内地織物二百五十臺、輸出向廣巾織物百二十臺に達す。更に從業員は男女工合計三百餘名を擁し、生産數量に至りては内地向日産百五十疋、輸出廣巾物日産二千碼餘を生産す。秩父機業界に於ける代表的大工場として、自他共に許す所なり。當工場の經營者は荒船森次氏なり。氏は群馬縣伊勢崎、小暮重三郎氏の令弟にしてその材幹を見込まれて養子に迎へられたり。氏は資性卓犖豪放、剛毅高邁の人たり。頭腦俊敏にして明斷果敢甚だ實行力に富む。その對策周匝緻密にして水をも洩さず。如何なる難關にも屈せず奮鬪努力して邁進し、その鬪志旺盛にして一意志又强固たり。機略に長じて臨機應變克くその商機を逸するなく、秀拔なる手腕は銘刀の如き冴えありて、人の意表に出でて大成功を齎らし、小事に齟齬せず、氣宇宏濶、頗る覇氣に富めり。氏は荒船家に入るや事業に專念して夙起晩寢、他事を顧みず緻密なる頭腦によつて微に入り細に亘りて對策を練り機至ると見るや敢然として決行す。設備の充實改善に意を注ぎ、技術の練磨向上に力を盡くして、製品の品質の改善に多大の配慮を費す。斯くして當工場の製品は頗る優秀を以て名を博し、需要大いに激增するに至れり。氏の才腕に依りて業績頗る向上して、規模年と共に大を加へ、家業大いに勃興をなせり。乍併、氏はこれを以つて甘んずるを得ず、更に一大飛躍をば爲さんと種々方策を回らす所ありしが、輸出織物の將來性ありて國益增進に資すること尠からざるものあるに着目し、輸出向廣巾物の生産に手を染む。これが爲めに新らたに大工場を建設し、優秀なる織機を購入して製織を開始す。一度海外市場に輸出せられるや多大の歡迎を受け、注文年と共に增加を見ることゝなれり。内外の需要增加に依り、晝夜兼行して製織に當ると共に更に、相次いで工場の擴張をなして事業愈々膨脹を見つゝあり。その規模に、その設備に埼玉縣下有數の大工場としての誇を擅にし、秩父織物の名聲を内外に高からしむるに絶大なる貢献あり。畏くも大正十一年十一月には秩父宮殿下の臺臨を辱うし、昭和三年十一月

閑院宮殿下の臺臨を仰ぎ、昭和九年六月、東伏見宮妃殿下御成の光榮に浴せり。氏、爲人溫厚篤實不言實行の人たり。同地方に於て頗る信望高く、秩父織物工業組合理事に推戴され、秩父機業界の爲めに貢献する所尠しとせず。使用人を愛すること深く、襟度寛容を以て從業員より慈父の如くに慕はる。因に氏は明治二十二年三月十五日に生る。經驗豊富にして識見高く、まさに秩父機業界を統理するの將器として其前途を囑目せらる。

（住所　埼玉縣秩父郡横瀬村）

合名會社 安田保善社

本邦財界の重鎮としてその名聲一世に輝き三井、三菱、住友と共に四大財閥の名を以て稱せられ、事業界に萬代不易の牢固たる業陣を布き、我國産業界の躍進に寄與貢献する所絶大なるが安田王國たり。今日見るが如き豪壯絢爛たる多彩の事業網を誇れる安田王國は一に先々代安田善次郎翁の偉大なる刻苦砥勵と、群拔卓勁の才腕を以て築かれたるものにして、銀行、信託、保險、製麻を始め、その他幾多の事業に蹠足を伸し、殊に銀行事業に於ては、その事業網の宏大なること他の比儔を許さず我國財界に搖ぎなき業礎を布けり。安田系の全事業を統率し、安田王國の總本部を爲すものが即ち合名會社安田保善社なり。當社は明治十七年八月、先々代安田善次郎翁が其財産保全を主要目的として之を設立せしが、後ち日清日露の兩戰役を經て、我經濟界の事情一變し、殊に安田家の諸事業飛躍的に膨脹を遂げたるに依り、玆に内容に一大刷新を加へ、新たに合名會社保善社を組織して、明治四十五年一月を以て創立して、善次郎翁自ら總長に就任す。次で大正十年二月三千萬圓に增資し、大正十四年三月合名會社安田保善社と改稱して、同時に内部に一大改革を加へり。爾來事業は愈々發展をなし、先年二代目安田善次郎氏の物故せられるに及び、安田一氏後任を襲ひ、總長の要職に就任す。元來安田の經營方針は常に時代の進運に伴ひて改革をなし、徒らに新奇を追はず、さりとて保守退嬰に墮せず、その事業網を通じて事業界の發展に鋭意力を盡し、その貢献する所顯著なるものあり。又不斷に人材を聘して自由に手腕を揮はしめ、事業の繁榮に多大の効果を擧げ來りしが、就中、故高橋是清翁を始め、故四條隆英男、結城豊太郎、森廣藏の諸氏の如き、その功業赫耀たるものあり。安田直系の事業會社には安田銀行、安田貯蓄銀行、日木貴夜銀行、第三銀行、安田信託、安田生命東京火災保險、帝國海上火災、安田商事、帝國製麻、臺灣製麻、東京建物、安田ビル、日本紙業等あり。又傍系會社として主たるもの擧ぐれば四國銀行、富山銀行、正隆銀行、肥後銀行、十七銀行、第一火災海上、太平火災保險、東洋火災海上、熊本電氣、群馬水電、横濱棧橋倉庫、博多灣鐵道等の各社あり。その他東京灣埋立、日本酸素、上毛電力、東亞興業、東京電燈、南滿洲鐵道以下數多の會社に投資して、直系會社にして又子會社に投資するなどありて、その事業網まことに廣汎に亘り、各種關係事業の投資總額は、一億圓を遙かに突破せるものと推測せらる。尚安田保善社は一門十家の出資に成るものにして、安田一、安田新、安田善四郎、安田善五郎、安田柳子、安田善衛、安田善助、安田彦太郎、安田善兵衛、安田善八郎氏を出資社員となせり。從來安田保善社は關係事業會社に對して中央集權主義を執り、事業の經營方針より人事行政にまで關與なせしが、近年その機構を改革して、支配下の銀行會社に對しては特殊の事項を除きて大いに自由裁量を認め、更に安田一門の士は努めて第一線を退き、優秀の人材に對して經營の全權を委託せり。而もその經營方針は國益の增進に主眼を置き、各種の産業發展に努めて助成するの方策を採り、更に社會公共方面には常に率先して多額の寄附をなしつゝあり。即ち滿洲事變に二萬圓、

北海道東北の凶作救援に二萬圓、陸軍恤兵費に五萬圓、三陸地方震災慰問費として一萬圓、北陸地方水害へ一萬三千圓、その他學校、公共團體、國防献金等の寄附頗る多額に上れり。まことに我國事業界の範となすに足る。因に當社の幹部以下の如し。總長安田一、理事安田善五郎、同森廣藏、同川崎清男、同戸澤芳樹、庶務部長安田彦四郎、業務部長佐々田三郎の諸氏となす。

總長 安田一　安田王國の總帥として、輿望を一身に負ふ安田一氏は、明治四十年四月先代安田善次郎氏の長男として生る。昭和四年學習院高等科を出で、昭和七年東大文科を卒業す。資性溫和謹厚にして頭腦明晰具さに實務の研修をなし、曩に歐洲諸國に遊び、彼の地の經濟事情を調査して歸朝、頗る蘊蓄深きを以て知らる。敎養に富みて品性清高、内外より多大の崇仰を受く。

理事 安田善五郎　俊敏萬才にして精悍豪放を以て財界に著名なる氏は、明治十九年六月を以て生る。器局宏量にして氣宇濶達、各種事業會社に關與して才腕を揮ひ、安田王國の主柱として重きをなせり。

理事 森廣藏　氏は明治六年二月鳥取縣に出生す。同三十年東京高商を卒業して直ちに横濱正金銀行に入り、大いに頭角を現して神戸支店支配人、倫敦支店副支配人に擧げらる。後ち臺灣銀行に入りて副頭取より更に頭取に推さる。次で安田銀行副頭取に就任し、更に當社理事に選任せられ、大いに手腕を揮へり。頭腦緻密にして手腕又卓拔、事業界に多大の盛望あり。

理事 川崎清男　溫厚篤實にして圓滿無礙、上下に信望厚き氏は、明治十六年一月を以て生まる。明治四十二年東京帝大法科を卒業して直ちに安田銀行に入り、累進して玉島支店長に擧げられ、後安田商事の肥料部支配人となり、中國肥料、中國鐵道取締役たりしが、大正十四年保善社社會部長に推され、昭和六年理事に選出せらる。

理事 戸澤芳樹　氏は明治十三年二月山形縣に生る。明治四十一年東京帝大法科を卒業して帝國海上火災保險に入り、英材を認められ、部長に拔擢せられ、大正十一年保善社に入り、同十五年安田信託常務に就任して多大の貢献あり。近年再び保善社に歸り理事の要職に就く資性熟直にして眞摯、周匝緻密にして用意周倒、事業界に頗る推敬せらる。

（所在地　東京市麹町區大手町一丁目）

フヂヤ商店

「日本で唯一つの呉服專門の景品店」として、織物界の先覺諸店より、信任重厚を謳はるゝフヂヤ商店は、藤井莊藏氏の寄領するところなり。

抑々當店は昭和七年、唯一の近代的新興事業として創業せる店舗にして、營業種目は呉服專門のサービス用品、景品用品、記念用品宣傳用品、贈答用品、福引用品、陳列用品、裝飾造花等の販賣を目的とす。即ち織物呉服界に於けるサービス又は景品の調度請負を主たる營業とし、創業以來丸紅、伊藤萬、安藤伊吹等々關西一流の呉服問屋の用達を一手に引受け、絶對的信用を獲得し、開店以來日尚淺きも益々堅實主義の旗旆を鮮明にし、正確なる取引、且つ調度の迅速、價格の勉强を信條とし今日の隆榮を招來するに至れり。

日本で唯一つの呉服專門の景品店
よろずの相談迄ひの解消
時間の節約、百貨の比較、納期の正確
貴ふ者の氣持で集めた百貨逸物品
町の人氣を獨占する宣傳品

の五條文はフヂヤ商店の金科玉條として全店員一刻もこの條文に悖らず、嚴守する點に

於ても當店の特異性あり。僅か數年にして著々たる業績を擧げ得たり。因に大阪支店は大阪市東區安土町二丁目に置けり。

店主 藤井莊藏 當店今日の如き驚異的發展をなせるは店主藤井莊藏氏の奮闘努力と模範なる商才の齎らせるものにして、氏は滋賀縣神崎郡五箇莊村富莊、彦七氏の長男として明治三十四年誕生す。先考彦七氏は温厚篤實にして商才縱横の逸材にして年少塚本定右衛門商店に入り勤續すること實に四十餘年其の間累進して甲府支店長、本店支配人等に歷勤し、同店の重石たりしが、晩年圓滿退社後は大阪に獨立織物問屋を開始せしも、惜しくも業半にして逝去す。氏も亦永年父君の衣鉢を汲みて同店に恪勤し、令府の浚後遺業を襲ぎしが、昭和六年斯業を廢止、翌年上洛現所にフヂヤ商店を開始したり。爾來獨特の營業方針を以て精勵する一面叔父中村氏が丸紅商店に勤務する所より之が後援を享け、先づ丸紅商店サービス部用達を始めたるが、其實着なる經營は確認せられ之を擴張す、今や關西一流大商店に出入し、日本唯一の呉服店景品屋として、令名を馳するに至る。氏資質機敏商才穎凡、加ふるに齢未だ三十六歳、その將來の發展こそ期して俟つべし。

（所在地　京都市下京區四條通室町東入）

淺野セメント株式會社

淺野セメント株式會社は、我國セメント界の大宗にして、その工場分布の巧みなる、その新鋭設備の結構なる、到底同業他社の追ぶところに非ず。しかもその麾下に日本、土佐東亞、日東、滿洲、朝鮮淺野の各セメント、大同、木溪湖兩洋灰の諸會社を收め、その投資額實に二千數百萬圓を算し、今や一大セメント王國を築きあげたる、業界の最高峰に座する存在たり。

抑々當社の源流を顧みれば、その源は遠避明治十六年に發し、當初先代淺野總一郎翁が東京深川に淺野工場を創業せるものなり。同三十年之れを合資組織に變更し、大正元年に至り社内外の情勢に鑑み、之を改組淺野セメント株式會社と稱するに至れり。當時資本金十萬圓、同四年北海道セメント株式會社を合併同十二年同系淺野スレート、日本カーリット兩社を併合し、更に同十三年第二淺野セメント、木津川セメント兩社を合併、昭和二年淺野超高級セメントを合併し、資本金一億六百三十一萬圓を擁し以て今日に及べり。

昭和十二年下期の當社の概況を觀るに當期セメント界に鑿に解決を見たる聯合會對未加盟會社間の協調愈々緊密に、加ふるに重要產業統制法の外地適用滿洲洋灰協會の設立等諸懸案相次ぎて解決を見たるを以て、今や業界は安定時代に入りたりと謂ふを得べく、一方需給關係を觀るに、一般企業界の好況に軍需工業の躍進に伴ひ、需要激增したるを以て生產制限率は前期末より漸次緩和の一途を辿り六月に入りては五割六分に引下ぐるを得、其間當社は銳意業績の向上に努力したる結果、一般諸物價の騰貴、殊に運賃高に禍せられたるに拘らず、別項の如き業績を擧げし事は絶讃に價すべし。卽ち當期の利益金は三百六十七萬五千圓を計上し、利益率一割一分六厘、四分配當。之を前期の利益金三百七十五萬圓に對し、八萬圓内外の利益減に過ぎずして、豫想以上の好成績を得。この處分を社外に百四十一萬圓、社内に二百二十六萬六千圓を保留す。卽ち利益の六割二分を蓄積せる事は洵に堅實なる決算と稱すべし。財產減價銷却金は五萬圓減額し、二百二十萬圓を計上。固定資產總額に對し十三年償却に當り、原料採掘場及豫備數地原料山を除外せば、十一年償却となる爲、何等不安なき償却と云ふべし。殊に當期はスレート部が八十一萬圓（前期利益の約倍額）の利益を計上せるは特記すべく、而して當期セメント生產は七十六萬七千瓲に

して出荷は七十七萬瓲、前期の八十萬瓲に比し三萬瓲の出荷減のみ。内地六十六萬九千瓲輸出十萬瓲の振合なり。内高爐セメント出荷三萬六千瓲に上れり。瓲當り利益は約四圓、前期に對し六十錢揃みの採算減に過ぎず。

斯くて當社は既に内容改善五ヶ年計畫を樹立し、着々實績を擧げつゝあれば、一方北支セメント進出の準備にも萬全を期しつゝあり尙香春工場の餘熱を利用して電氣製鋼を行ふ等、其活躍物凄く成績好望は確實にして、六分配當引上げも容易なるべく、最近中支輸出に加へて、十數年來の販賣地たるマニラに千瓲乃至二千瓲の大口輸出の商談成立し、神戸大洋貿易を通じ門司渡のF·O·Bにて輸出する活況振を示し、その前途洋々たり。

當社役員並に首腦左の如し。

取締役社長淺野總一郎　專務取締役金子喜代太　常務取締役淺野八郎　同乙竹茂郎　取締役白石元治郎　同淺野良三　同田中榮八郎　同阪谷芳郎　同森廣藏　同兼研究所長藤井光藏　同兼營業部長瀧山米太郎　監査役安田善五郎　同尾高豊作　同德川誠　同淵澤武之助

取締役社長 淺野總一郎 淺野家は先考總一郎翁より頻はる。先老は富山縣醫師淺野泰順師の長子、明治初葉赤手空拳、奔放剛腹の才腕を以て、當社の前身たる淺野工場、東洋汽船の前身たる回漕店を創業して事業界に猪突の端緒を發し、爾來漸次地歩を占め我が實業界の巨豪たりしが、昭和五年十一月、八十餘歳の天壽を得て卒せる商傑たり。翁生前の功に依り正四位勳二等に叙せらる。氏はその長子として明治十七年七月を以て出生。昭和六年家督を繼ぎ前名泰次郎を改め襲名す。夙に早大に學び後洋灰等の研究の爲、歐米各國を巡遊すること屢次なり。天性温厚にして風骨亦清爽、克く先考の遺業を襲ぐ。當社々長の傍ら同系淺野物產、淺野同族、鶴見製鐵造船、關東水力電氣各社長其他二十餘社の重役を兼ね居れり。

常務取締役 淺野八郎 先代總一郎翁の三男、現總一郎氏、良三氏の令弟、義夫氏の令兄たり。明治二十四年八月に誕生す。長じて大正六年慶應義塾理財科を卒業し　大正十二年遣船製鐵事業視察の爲、歐米に渡航し、歸朝後は淺野系諸會社經營に參畫し、傍ら淺野同族會社の一員として活躍今日に迫ぶ。現に當社常務取締役の他關東水力電氣其他十數社の重役たり。

常務取締役 乙竹茂郎 氏は三重縣士族乙竹豊男氏の長男、文學博士同岩造氏の令弟明治十四年十月に生る。同三十六年東京高商卒業後、横濱正金銀行に入り、大正十年天津支店支配人に昇進、大阪、大連各支店長支配人、頭取席、内國課長等に歷動し　後當社の常務取締役に擧げられ、傍ら東京灣埋立取締役たり。

（所在地　東京市麹町區丸之内海上ビル）

ルナパーク演藝株式會社

近代都市として本邦屈指、殷賑繁榮を誇る大阪市の一大歡樂街たる新世界には、幾多豪莊華麗なる映畫館櫛比し、正に瞠目に値する盛觀を呈せるも、其間に在りて諸施設完備せるは勿論、常に觀客本位の興行方針を採りて優秀映畫を陳列公開、以て全市映畫ファンの熱狂的人氣を博し居れる、パークキネマ、公樂座、大山館等の各映畫演藝館は、實に當ルナパーク演藝株式會社の經營に係るものにして、其の業績異彩を放ち、連日連夜滿員の盛況にあるは、齊しく斯界羨望の的たり。

抑も當社は大正十四年二月の創立、爾來經營首腦者の慧眼達識、克く斯業の趨勢を達觀し、觀客心理を把握せる營業政策と、不撓不屈に一貫せる拮据經營の賜とは、着々として所期の目的を達せしめ、斯界に確乎不拔の地盤を擁するに至れり。斯くて興廢存亡定めな

き業界變遷裡に微動だにせず發展又發展、漸次規模を擴大し、業績を擧げ、遂に今日の如き隆榮盛大なる社運を招來し、今や當市興行界の一王國たり。現在資本金五十萬圓（全額拂込濟）にして總株數二萬五千株、決算期は二月及び八月にして毎期高率配當を見、亦た其の重役陣を形成せるは社長柴清一郎氏を始め取締役小西鹿三郎、同柴榮次郎氏、監査役丹羽光次郎氏等の卓腕家なり。

社長 柴 清一郎 氏は明治二十八年六月を以て、居住地屈指の舊家壹門に生を享け父君を清次郎氏と呼び其の長男たり。夙に聰明怜悧の天性を謳はれ、暖衣飽食の裡に成育せりと雖も、毫も遊惰安逸の風なく、孜々として勉學、中央大學に學びたる後、家督を繼承するや、克く守成の功を以て益々家運を隆盛ならしめ、當地屈指の大地主兼家主として家名燦然たるのみならず。其の胸奥に蔵する烈々たる進取の氣象は、新時代の動向を察知する明と相俟ち、敢然映畫興行界に進出、以來機略縱横、巧に事業を伸展せしめ、遂に今日の成功を贏ち得たる斯界屈指の偉材なり。資性明朗闊達にして人格圓滿、其の洗練されたる態度は、寔に模範的業界人と推稱するに恥ぢざるものあり。經營の各館の盛況と共に令名愈々光輝を加へ居れり。

因みに當市天王寺區南河堀町に住し、家庭「にはキヌ掛堂を始め、正惠夫人、長男清之助君、長女昌子嬢等ありて清福圓滿たり。

（所在地　大阪市浪速區霞町一丁目）

洛陽看護婦會主

明田 悅和

洛陽看護婦會並に洛陽附添婦會を主宰する氏は純京都人なるも、其性格は京師人に珍らしく頗る剛毅にして英斷の異材たり。

由來當家の祖は京都西本願寺大谷派の寺侍の重職を占め、家歷連綿たる家柄にして先考一直氏は京都府下、茨城縣下に於て警察署長として永年官界に活躍し、晩年に及んで京都府立醫科大學附屬病院に聘徵され、眞摯恪勤せしが、當時同病院に於ける看護婦の統制の充實せざるを慨き、病院長島村博士と諮り洛陽看護婦會を創立して看護婦の統制を實現せり。次で明治三十五年現所（府立醫大病院前）に創設したるが、洛陽看護婦會の發祥なり。當初は全市に於て僅かに二、三看護婦會が既設されしのみなりき。當時附添婦に於ても統制なく區々として患家の不便を感ずる事頗る多く、氏はこの實情に鑑み患者の至便を計るため附添婦會の設立を計畫し、病院其他關係者間を斡旋し、益に京都に於ける附添婦會の草分けとして洛陽附添婦會誕生せり。當時悅和氏は京都一中に在學中なりしが、後ち笈を明治大學に負ひ、在學中期するところありて學窓を去り貿易に從事し、上海に渡航三星商會並にアベニ商會を統帥したりしが、大正十一年に迫んで尊父一直氏の訃に遭ひ、雄圖半にして歸朝、直ちに遺業たる洛陽看護婦會並に洛陽附添婦會長を襲へる次第なり。後ち大正十五年に至り、規則改正に當り看護婦會長は婦人を以て爲すべき事となりたる爲に、氏は爾來兩會主として斯業に盡瘁することゝなりしが、要するに京都に於ける男子看護婦會長の最後の人なり。現に當會には看護婦及び附添婦三百數十名を屬傭し、業運益々乎として、都下業界の最高權威たり。

因に家庭には夫婦間に二女あり至極圓滿なり。尙ほ氏の令姉は阪東家に嫁し、現に米國サンマテオに於て盛大に雜貨商を經營し、令妹は京都府立第一高女國漢專攻科出身にして現に同志社高女教諭を奉職育英に精進し、夙に看護婦の免狀を所有する淑女たり。

（住所　京都市上京區河原町廣小路南入）

株式會社

はとや百貨店

世界觀光都市を以て誇る京都市の表玄關に

無盡明朗、目醒る許りの建築美は近代都市としての面目を躍如たらしむるものなり。過去に幾る努力の鐵槌も、遂に辛酸の大地に實を結ぶ此處に渾然たる名建築を完成したるは春夏秋冬觀光人士の安息所として滿足を與へること必然なり。勿論内容に至りても耐風耐震の强度を保持し、且つ明朗の美觀を備へたる電飾塔百數十坪の無柱無背床の廣間、或は冬夏共に快く休憩人のための冷暖房裝置も、其他凡ゆる文化設備も至らざるなく、眞に京都名所に加ふるに相應し。而して一階は京土産、食料品、果實、壽司、茶、寫眞機旅行用品、化粧品、雜貨、繪葉書、書畫、陶器、人形等を主とし、商品の何れも他店並に百貨店に比して、良品にして低廉。然も割引の辯法あり、無料休憩所、無料荷物預所等は團體並に觀光客に至便を與へるに充分にして殊に驛頭たるの關係上將來の發展は刮目に値すべく、一階食堂部は早朝より深夜まで營業し、料理の新鮮味覺の殿堂として萬全のサービスと共に觀光人の滿足するところたり。

はとや百貨店全景

專務 永末 明 氏は福岡縣金田町の產。學成りて石炭の採掘販賣を爲したるが、後ち事業の關係より上阪石炭販賣を爲せるが不幸にして大正八、九年の彼の財界のパニックに遭遇して、一敗地にまみれ、爲に同十二年に上洛し、京都市役所博覽會事務所に入り御大典記念博覽會並に昭和四年に開催の昭和勸業博覽會、同五年の宗教博覽會等に活躍して其の令名を馳せ、社會的にその義氣を認められたり。翌六年に迫んで滿蒙支那工藝會を主宰して、愈々その聲名を謳はる。次いで京都工藝協會理事長に推され、市政の爲に貢獻するところあり。はとや百貨店は氏の獨立經營に屬するものなるが、昭和十年二月時運に鑑み、之を株式組織に革め、社長に三村三平氏を推擧し、氏は專務取締役として才腕を揮ひ以て今日に至る。氏は天賦飽くまで剛放事業家肌の人物にして意氣軒昂、その將來を各方面より注視されつゝあり。繁劇なる寸暇を偷んでは撞球、圍碁に親しみ、特に碁は初段の腕前の持ち主たり。

（所在地　京都市京都驛前）

相互無盡株式會社

無盡は貯蓄に利用して興味に富みて安全たるのみならず、銀行預金、郵便貯金に比して遙かに利廻り良好なり。而も金融に利用して簡便にして利息安く、且つ又月々少額の割賦方法を以て、元利ともに返濟なし得るといふ特徵あり。斯る幾多の特色を具備せるを以て國民各階級の間に多大に利用せられつゝあるは至極當然のことゝいふべし。無盡會社中には往々にして種々の不仕末を暴露して、世人に紛からず迷惑を及ぼせしもの、なきにしも非らざるも、相互無盡株式會社はそれ等と軌を異にして信用堅確、基礎鞏固たるものありて世上に牢固たる名聲を博せり。當社は明治四十四年十一月の創立にして累次增資して現時資本金二十五萬圓となれり。無盡の種類には東京式、大阪式の二種ありて、多年の經驗に依りて種々と改良を加へ、その仕組にはまことに興味盡きざるものあり。東京式に於ては五百圓會、二千圓會、三千圓會の三種類あり五百圓會は四十二口を一組とし、毎月一回の開會にて抽籤、入札を交互に行ひ、三年半にて滿期となる。二千圓會、三千圓會亦た四十二口を一組として毎月一回開會し、初回は抽

錢、二、三、四の三回が入札の順序にて之を繰返し、三年半を以て滿期とす。何れも入札の最低額は契約の八掛となし、其回に落札せし人と當籤して無盡金を受取る人を除きて、其他の人に入札差金の二割を控除して、平等に分配す。三十五回以後に給付を受くる人に對しては、其口の入札差金分配金の總額が、一定金額に達せざる時は、當社に於て其不足を補償するの制度あり。次に大阪式に於ては一千圓會、三千圓會の二種類ありて、その口數七十二口、開會回數七十二回にして二十日目毎に開き、四ケ年を以て終る。初回抽籤、二回入札の順序を以て行ひ、入札最低額は契約金額の九掛半と定めり。此の無盡の特長は手取り金額が九掛半以上なるを以て、相當額の資金を低利にて利用し得る事なり。尙ほ東京式にても大阪式に於ても當籤して、給付金の必要ならざる時、他へ權利を讓渡せば回數に應じて相當の利益得られ、又不時に資金入用の際は通帳擔保にて會社より、輕便に融通を受くるを得るなり。當社の信用の確固たると、その無盡に幾多の特徴を有するを以て、非常なる好評を博し居れり。

專務取締役　平田清次　頭腦明晰にして用意周到、その手腕の卓拔なるは既に業界に定評ある所なり。事に當りて公平無私、その心性頗る謹直、眞摯業務に砥礪して加入者より非常なる信望を得、社業又大いに殷盛を加へり。明治二十五年二月、鹿兒島縣に生る。夙に中央大學法科に學び、多年警視廳巡査教習所教官として、巡査の養成に携り、氏の薫陶を受けたる人物にして現時樞要なる地位にある人尠しとせず。氏は迎へられて當社に入り、目黒支部を擔當して拮据經營して多大の成績を擧ぐ。昭和十一年三月取締役に選任せられ、同年五月專務取締役に擢立せられて今日に至る。當社近年の發展は氏の才腕に俟つこと多大なり。現時、目黒區會議員、家屋稅調査員等に選出せられ、社業の傍ら公職に就きて大いに活躍せり。

（所在地　東京市神田區神保町二丁目）

事業家

佐田德一

佐田德一氏

九州に於ける鐵工業界の覇王として直方市の存在は、戰時體制下の今日、最重要なる役割を國家的に遂行して、銃後の守を强化しつゝあるものと言ふべきなり。鼓に所在する工場數百餘、從事勞働者五千餘名の一大工業團體の上に、直方工業會長として鐵工業界の最高指導任務を遂行し、其の手腕力量を遺憾なく發揮し以て全勞働者の力强き標的として信望を一身に集めつゝあるは、我が佐田德一氏なりとす。今や國家非常時局は脱々として各種各業の一致協力を要望しつゝあるの秋、總動員體制下に置かれたる鐵工業界の任務の益々重且大なるは言を俟たず。氏の一擧手一投足は直ちに、直方市鐵工業界に微妙なる動向を明示する程、偉大なる勢力と精神力を有し氏の活動力又同市の推進力たり。

氏の踏履を數見するに大正七年同市に製鑛工場を設立したるに創り爾來忍苦努力すること十數年、昭和十一年には齒切工場を設立し躍進に躍進を續け、遂に今日の業礎を築き上げたるものにして、主なる納入先は、貝島鑛業、三菱鑛業、幸袋製作所其他鑛山、工場等數十ケ所に及び、其の製品は九州一圓の工場

に採用需要に應じ得ざるの盛況と信望を擔へり、人物溫厚にして長者の風あり、全從業員を視ること骨肉の如く、徹底せる溫情主義は、絶えて勞資の不調を聽かず、全勞働者は氏を慈父と尊敬し、一致協力勞力報國を契ひつゝあり。氏はよきリーダーとして工業會長たる外、機械工業組合副理事長の要職に在り、同業者間の信頼亦頗る重厚にして、其の將來は期待して待つべきものありと謂ふべし。

（住所　福岡縣直方市新通町）

東京製線株式會社

國防を基幹とする生産力擴充には、先づ動力の必要を感じ、國策的見地より電力設備の擴充は緊急を要すべし。此意味に於て當社の存在は洵に重要と稱すべし。今や當社は內容充實にして無缺、海軍指定工場として業界に君臨し、義に記念配當五割を敢行、以て世人を瞠着たらしめり。當社は明治四十四年七月資本金一百萬圓を以て、日本電線會社の姉妹會社として設立す。主要事業は裸線、被覆線其他各種裝置電線の製造なり。裸線の主たるは裸銅線、裸撚銅線。電車線、被覆線は被覆電線、被鉛電線、裝鎧電線、局內ケーブル、キヤブタイヤケーブル、エナメルド線、旭東線等なり。業界に於ける地位は第五位にあると雖も、裸線に於ては古河、住友に次ぐ本邦第三位を占有す。工場は川崎に本、分二工場を有し、一萬九千三百坪に五千坪の建造物に四千馬力を設備し、以て整備の完璧を期しつゝあり。而してその技術的の優秀なるは機械設備の完備と相俟ちて、斷然他社の追從を許さず。殊に被鉛機に其製品と共に我國唯一の稱あり。當社近年の成績は眞に好調の一語に盡きるものあり。卽ち昭和七年下期以來の躍進振りは實に物凄く、每期二割以上の好利益率を示し、特に十一年下期には八割六分二厘と記錄的好況收益を擧げたり。配當は七年下期優先株一割二分、普通株五分を復活せしが、其後遂期增配し、最近五期間普通一割、特別五分を續け、然も餘裕綽々たる決算を示現せり。十二年上期には二十五周年を記念して、一擧五割の特配を實施し、普通配當を加ふれば實に六割の高配當なり。尙當社の誇る可きは固定資產、頗る安割にして、每期多額の機械設備を蓄積利益を以て賄ひ、且つ社長崎山刀太郎氏は人も知る銅に該博なる知識を有し常に原料銅の買入に定評ある等、當社の强味と謂ふべし。當社冥下の日本電信電話工事、滿洲電線有限公司兩社何れも時局の波に乘り隆々たる業績を擧げつゝありて當社の發達に寄與するところ多大なり。

專務取締役　深澤德吉　人生は所謂戰場なり。殊に事業戰線に在りて特に甚だしく人間本然の純性を保ちつゝ覇を業界に制するは蓋し難中の難と云ふべきなり。我が國電線界に巨然として蟠居する深澤德吉氏の境地こそ此の難事を突破したる好個の實例にして、規範たらずんばあらず。氏は赤門文科の出身、教育界に永年盡瘁し殊に神宮皇學館教授時代は其の學德全館に周く、然も擔當する西洋史學の蘊蓄は堪能なる語學と相俟ちて、學實聲譽嘖々たりしが、突如として氏の事業界轉身設傳はるや、其高潔淸廉たる風骨は、如何に一身上の都合たりとは云へ、其の器に非ずと評せられ、惜別を餘儀なくせるが、爾來奉風秋雨爰に二十餘年。先生年齡六十有三、矍鑠として明快、當社專務の傍ら數社の重役を兼ね、然も各社運隆々乎。眞に我が事業界の異彩にして才識兼備の巨器と嗟嘆すべきなり。

（所在地　東京市麴町區丸ノ內三丁目）

株式會社

日東アルミニユーム製造所

アルミニユームが他に見ざる幾多の特質を具備せる所よりして、航空機を始めとして各種機械器具、裝飾品、裝身具、或は家庭に於ける日用品等、その用途まことに廣汎なるも

のあり。これが需要は日を逐ひて廣まり、更に增加して、今後アルミニユーム工業は日覺しき發展を遂ぐるに至るべし。大阪事業界に於て事業の活況を呈せること、其業礎の堅確たるとを以て、名聲赫耀たるものに日東アルミニユーム製造所あり。當社は其の設備頗る完備し、數多の熟練工を擁し、他の比肩を許さゞる優秀製品を製造して多大の好評を博せり。その當初は現社長高田石松氏の個人經營として營まれたるが、氏の熱心なる努力と群拔の才腕とに依りて非常なる盛況を呈するに至り、事業大いに膨脹を遂ぐることゝなりたれば、昭和十一年一月これを株式會社に改組し、資本金七十萬圓（拂込資本三十五萬圓）の大經營となし、設備の改善擴張、業務の合理化等、社業に徹底的刷新を加へ一大飛躍をなすに至れり。爾來需要は大いに增加し、操業頗る繁忙となり、毎期の決算好調の一途を辿れり。當社に於ては利益金は極力內部に保留して、設備の改善擴張に當て、技術の研鑽に努力を傾注しつゝあるに依り、製品は愈々向上をなして、需要者より多大の絕讃を浴びつゝあり。今後の發展こそまことに刮目するに値するものあり。

社長 高田石松　高田氏は資性溫厚にして勤恪、素志甚だ堅くして、眞摯業務に傾倒して大いに敏腕を揮ひ、業界に多大の信望を博せり。明治二十四年二月石川縣人高田清三郎氏の四男として呱々の聲を發す。幼少にして頴脫の才ありて、氣格頗る俊邁たり。夙に事業界に身を投じ、天賦の英材砥礪せられて才腕大いに發揮を增し、八方縱橫して獨創の業陣を布く。事業の發展に伴ひて株式會社に改組し、自ら社長に就任して神謀の鬼策をめぐらせり。仁情に厚く寬容にして敦厚、部下を遇すること我子の如く、全從業員より慈父の如くに崇敬せらる。その前途光輝充てる少壯實業家にして、將來の大成こそ世人の多大に關心を抱く所たり。まことに斯界稀に見る材幹と云ふべし。尙ほそと子夫人は明治二十八年生れにして、その間に二男一女あり。

（所在地　大阪市西淀川區野里町）

鴻池合名會社

明治時代は我國史上最も偉大にして、最も輝しき時代なりき。而して明治時代は昭和の今日に餘りに近きため、其偉大さ、その輝しさは往々世人に依りて閑却され勝ちなり。明治時代は我々の祖父又は父の活躍時代なりき祖父又は父が如何に偉大なりとも、我々に餘りに近きため、却つて充分の客觀性を持ちて其偉大さをば憶ぶ對象とはなり難きものあり夫れと同意味にて明治時代の偉大さは現代人より未だ正當に評價され難き點、無きにしも非ず。しかし史家としての客觀的評價よりすれば、明治時代は將に日本史上最大にして、光輝燦々たる時代と見做さるべきなり。然らば明治時代は如何なる點に於て偉大であり、輝かしき時代なりしかは、その點の認識は恐らく人に依りて異ならんも、然し經濟的觀點よりすれば、其時代が世界史上の躍進期にありし產業革命期の日本的再生產の時代たりし點ならん。人類社會の生活樣式を最も根本的に、最も急激に變革し、數千年の人類文化の成果よりも、より偉大なる成果を、數十年にして生產せしめたる產業革命が、我が明治時代に於て完成されしなり。それが基礎過程であり、爾餘一切の文化過程は、この基礎過程におのづから條件附けられしものと謂ふべきなり。故に此時代に於て我が產業、經濟の發展に大なる貢獻を爲せる人物こそは、歷史的人物として高く評價讃仰さるべきが當然ならんか。政治家然り、實業家亦然り。殊に實業界にも多くの傑物を生み出したり。しかも此時代の實業家には種々の點に於て特徵を見出し得べし。其特徵は何によりて與へられるかと云はば勿論、それは明治時代の資本主義發展の特異性に依りて與へられしものと云ふべし。

然らば夫れ等實業家は何處より、如何なる階級より多く現はれたるか。舊幕時代累代の富商にして新時代の產業界に處して、巧みに其富を增大し、近代資本家に轉化したる者あり、一面武士階級或は農民、或は小商人より現はれし者もありしが、我が鴻池家は前者に屬すべし。しかし前者に屬する商工階級は概して無氣力、無智にして所謂前垂掛の町人として卑屈なる町人氣質を脫し得ず、故に彼等はこの未曾有の經濟的政治的轉換期に於て、自己階級の經濟的發展に對する積極的意志を缺き、この轉換期の持つ經濟的意義に對する認識をも多くは缺く者ありき。要するに彼等は世界資本主義を相手とする急速なる近代產業の輸入時代に活躍すべき素質を缺くる所多く、爲に幕末より維新に迨ぶ經濟界の一大變動期に直面して舊幕時代以來の富商の多くは或は衰頽し、或は沒落を餘儀なくせり。斯くて明治維新後に於て現實に近代資本家として亘大なる發展を遂げしは西に鴻池、住友、東に三井其他若干に過ぎざりき。

由來鴻池家は其祖を山中鹿之介幸盛より發し、幸盛の一子勘六は天禀才幹あり、武藝に通じ殊に建築の技能に堪能なりしが、幼少にして攝津伊丹の邊に流住し、十五才にして元服して幸元と名乘り、丹波籠山城普請に技を揮ひて名を擧ぐ。後ち刀を捨てゝ釀造を創始す。之れ即ち當家の始祖たり。三代宗利に迨んで大和川改修に依り鴻池新田を開拓して當家の基を樹つ。先々代善右衞門翁に至りて初めて兩替店を開始し幕府大小名の用金調達の衝に當り、商法頭取被仰付帶刀を許さる。翁は卓見の士にして、幕末既に近代的產業並に貿易の急務をも認識し、その見識に立ちて實業界の指導者を以て自ら任じて奔命す。維新に際し會計官出納司判事心得を以て　明治天皇御東幸供奉被仰付、維新後後藤新平伯と謀議し、蓬萊社を組織その頭取に任ず。先代善右衞門氏も鴻鵠の器材にして性濶達、獨往不羈、明治十年第十三國立銀行を興して頭取に就任し其才腕を揮ひ、同三十年三月個人經營を以て鴻池銀行を興し、第十三國立銀行の業務一切を繼承し、同三十三年十二月泉町銀行を合併、資本金一百萬圓の合名組織に革め、更に大正八年七百萬圓に增資し、同時に之を株式會社に變更、同年十二月資本金一千萬圓に增資する傍ら、日本生命保險、大阪倉庫各社長、大阪貯蓄銀行頭取に任ずる等、實業界に盡瘁する所多く、日露戰役の功に依り勳四等を賜はり、同四十四年特旨を以て男爵を授けられ、更に日獨戰爭の功により勳三等を下賜せらる。大正八年十二月鴻池信託株式會社を、同十年四月鴻池合名會社を設立し之れを

繼續せり。殊に鴻池合名會社は鴻池家の財產の保全を期する爲に創立せし同族會社にして、其目的は有價證券土地建物取得利用並に當家諸事業を統合する本城にして、爾來順調の業績を擧げ、傳統久しき家門の榮譽と共に隆々の盛運を以て今日に至れり。現に資本金一千萬圓を抱擁し、之れが內容は代表社員鴻池善右衞門氏九百八十萬圓、出資社員鴻池幸武氏五萬圓、池上幸久氏五萬圓、鴻池幸清氏五萬圓、鴻池ミチ子女五萬圓の出資を以て組織せらる。

代表社員 鴻池善右衞門　鴻池財閥の總師たるのみならず、本邦實業界の巨材たり。明治十六年十一月先代善右衞門氏の長男に生る人格識見共に備はり信望高く眞に名門の後繼者の範疇たり。昭和六年家督を相續し、前名萬藏を改めて襲名し、襲爵を仰付らる。鴻池家十二代の當主たり。同十一年紺綬褒章飾版を賜ふ。現に從四位に叙し、當社代表社員の傍ら鴻池信託社長、三和銀行取締役たり。

（所在地　大阪市東區今橋二丁目）

安全自動車株式會社

近時自動車は交通機關としての重要性大い

に加はり、都鄙を問はず交通運輸上極要なる役割を果し、政治、經濟、文化の上に貢献せる所まことに顯著なるものあり。安全自動車株式會社は大正七年五月の創立にして、自動車鉦に各種部分品及附屬品、機械工具類及臙油類の販賣をなし、廣く各方面に販路を有しその取引まことに堅實にして業礎甚た堅固なるを以て業界屈指の會社として非常なる信用を博せり。現時資本金一百萬圓(全額拂込濟)近時の事業界好調に依りて、註文多大に著増して、商況頗る殷盛を呈し、毎期非常なる好成績を擧げつゝあり。十一月末を締切となす昭和十二年下半期決算を見るに、自動車部利益十二萬六千圓、附屬品部利益十二萬五千圓ガソリン部六萬四千圓を擧げ、その他各種利益金合計三十七萬九千圓に達せり。他方總損金十八萬八千圓となり、差引當期純益金十九萬一千圓に上り、株主に一割二分の配當を行へり。支那事變も局面は有利に轉回し、北支政權の樹立、中支の明朗化によりて愈々經濟開發の緒に着かんとせるに依り、事業界は一段と活況に向ふは必至にして、今後自動車の需要は大いに激増すべく、當社の前途まことに洋々たるものあり。因に當社の重役は以下の如し。取締役社長中谷保、取締役玉田秀三郎、同佐藤虎吉、同佐藤喜美治、監査役中曾根治郎、同吉田正信、相談役中野喜三郎

取締役社長　中谷　保　頭脳俊敏にして才氣煥發、多年業界に才腕を揮ひて信望高き氏は、明治十八年十一月石川縣に生る。元代議士中谷宇平氏は氏の令兄たり。幼少より穎悟にして覇氣に富み、鵬翼を張らんとして明治三十七年米國に渡航し、機械及自動車學を修む。大正七年歸朝するや、直ちに當社を創立して專務取締役に就任す。氏の眞摯なる努力と天賦の才腕に依りて、逐年社業物興をなすに至れり。現に共立自動車製作所、會津合同乘合、山王ホテル、安全商事、宇都宮市街自動車、觀光自動車各社長。自動車投資、上山交通自動車、八洲自動車、相武自動車各取締役を兼務し、我が國自動車業界に九鼎大呂の重きを爲し居れり。

(所在地　東京市赤坂區傳馬町三丁目)

福田自動車株式會社

我が福田自動車株式會社は昭和十二年三月合資組織を資本金七十五萬圓の株式に改組設立されたるものにして、實體は合資時代の延長進展に他ならざるも、昭和五年フォード大阪府下特約販賣權獲得以來、一面時運に惠まれ、他面自動車技術の權威現社長福田氏の經營主義たるボデー製作乃至サービス施設の擴充方針に據りフォード販賣店として地盤確立販賣成績に於ても、堂々同業中一流に推されるに至り、更に十年西淀川區佃島にボデー製作工場を建設、同十一年四月にはリンカンゼフアー西日本總代理店となり販賣部、サービス部、ボデー製作部等各部門を擴充整頓しつゝ株式改組を以て更に强化し、早くも六月には資本金を一躍百萬圓に増資したるものにして、其の隆々の發達は殊に車輛需要は支那事變に因り急速に増加し、又軍部方面の車輛部分品受註も加はり、或は自動車修理の軍部指名を受ける等各部門を通じ著しき多忙を極め株式改組第一年を迎へ、驚異的好成績を示すに至りたり。即ち十二年十一月締切の第一回決算成績を見るに、總利益金五萬九百餘圓を示し、處女配當一割六分、後期繰越金六千三百餘圓を餘裕裡に行ひ得たるを以て知るべく更に同社は昨夏九州福岡市の前田工作所と提携、福岡前田輕飛行機製作所を創立して、航空機界に進出し、目下擴張計畫中の佃島ボデー工場の一部に於てグライダー輕飛行機製作に着手する等矢次ぎ早やの進出を開始し、隆々の發展を遂げつゝあり。親切叮嚀を標語に社勢は旭日の如く、當社將來の成行きは、交通網の需要激増の時代相と相俟つて、益々發展する事を約束されたり。蓋し其の前途は洋々たりと言ふべし。

社長　福田治三郎　氏は生粋の大阪ッ子にして、明治二十一年を以て生れ、二十一歳の弱冠にして既に自動車黄金の今日あるを豫測し、決然として而も單身渡米、世界自動車王たるフォードの修繕工となり、鋭意研修すること五年、血と汗の活動を續け米國に於ける自動車運轉手の免許と、優秀修繕工としての肩書を獲得し、後太平洋岸に十數臺のトラックを所有して、運送業を經營すること更に八年、在留日本人の爲め萬丈の氣を吐きたるは寔に以て非凡なる鬼才と言ふべきなり。然も此間自動車に關する一切の智識と、技術の蘊奥を究め、斯くして在米十二年の苦闘史を閉ぢて三十四歳を以て歸朝するや、小規模ながら修繕と部分品販賣業を大阪に開始したるところ、氏の獨得の低廉販賣と本場仕込みの優秀なる技術は斯界の絶讃を博し、而も時代進運に拍車づけられ、日月と共に盛業に向ひ遂に今日の福田自動車を築き上げるに至りたるは正に立志傳中に絢爛の一頁を飾りたる特筆すべき人傑と稱揚すべきなり。その責性温厚篤實にして、謙讓の善德に富み、而も仁侠精神は隨所に發揮され、工場員を見ること骨肉の如くなれば、從業員又氏を慈父の如く尊信し、玆に渾然一體の福田イズムは結成され從つて工場能率は極度に増進するを得たるは實に氏の偉大なる人格の然らしむるところにして、今や業界に燦然の一異彩を放ちつゝ、上下内外の信望頗る厚く、關西斯業界に鋒々として重きを成せり。

福田自動車株式會社

(所在地　大阪市此花區上福島南二丁目)

株式會社　秋田銀行

秋田銀行は同縣下の有力者相會して、健全堅固なる金融機關を設立し、以て事業の發展に資せんとして明治二十九年五月資本金三十萬圓を以て創立せらる。幾何もなく五十萬圓に増資、更に百萬圓に増額す。明治三十七年日露戰爭の勃發により、政府は東羽線の鐵道工事を中止せんとせしが、當行は政府所有の公債百五十萬圓を引受けて工事費を提供し、これが完成に助力して軍隊輸送上至大の利便を供したり。歐洲大戰の好影響を受けて縣下の産業界は大いに勃興し、交通機關又頗る整備して大正八年一擧、五百萬圓に増資せり。昭和二年の金融恐慌に於て、全國銀行の破綻するもの續出せしが、當行は微動だにせず。昭和三年五月縣下有力銀行たる仙北銀行を合併し、資本金を五百八十五萬圓に増加し、更に同六年十一月に能代銀行を買收合併せり。現時公稱資本金五百八十五萬圓、内拂込資本三百三十五萬六千圓たり。以上の如く創業以來順調なる發展をなし、明治二十九年九月土崎港町に始めて支店を設立せし以來、相次いで設置せられ、現在の支店總數二十一箇所を數へり。斯樣に業務の發展をなすと共に業績又頗る良好たり。毎期多大の成績を收め、基礎益々堅きを加へり。東北銀行界の雄として非常なる信用を博せり。

取締役頭取　辻　兵吉　辻氏は秋田市財界に飛ぶ鳥を落す程の勢力ありて、その信望絶大なるものあり。秋田商工會議所會頭、秋田縣商工協會副會長、秋田呉服太物商組合長等の要職にありて、同地商工業の發展に貢献する所尠からざるものあり。その外秋田信託取締役、秋田貯蓄銀行頭取等の要職にありて

才腕を揮ひ、秋田財界に重きをなせり。人格清廉潔白にして氣宇濶達、抱擁性に富みて人を容るゝの度量大なり。任侠の士にして人の爲めには靈力を惜しまず。共高風世人の深く敬仰する所たり。貴族院議員に列し、政界にも非常なる信望あり。明治八年十一月先代辻兵吉氏の長男として生れ、前名を良之助と云ひ、家督を相續すると共に改名す。又辻合資會社を設立して呉服太物を販賣し、頗る活況を呈せり。尚ほ令息兵太郎氏は秋田土地株式會社社長に推されて敏腕を揮ひ、その前途を囑目せらる。

（所在地　秋田市大町三丁目）

故　金子增耀

鑄鋼事業に於ける最高權威として斯界に名聲高く、其深淵なる學殖と宏博なる蘊蓄を以て、翰林財界に多大なる崇敬を受け、其製作に拘はる製品は他の比儔を許さず、業界の至寶と仰がれたる人に、金子增耀翁あり。翁は茨城縣士族金子兼弘翁の長男として、文久元年二月江戸芝愛宕下に生れ、明治二十二年先代物故せられたるに依り、直ちに家督を相續せり。明治維新の大業成り、明治新政府樹立せられるや、政府に於ては歐米の文物移植に力を盡くし、夙に東京小石川に砲兵工廠を設立す。金子翁は國家の安固を期する上に斯業の確立の絶對不可缺なるに想倒し、之が技術の研修を爲さんとして明治九年東京砲兵工廠鑄工科生徒となり、佛人ルモブンに就き洋式鑄造法を學ぶ。同十二年陸軍鑄工長に陞進東京砲兵工廠鑄造工場長を拜命せり。翌十三年には巖谷立太郎、野呂景義兩博士に師事して鐵冶金學を專攻せしが、その後鋼像鑄造法の改新に志し、嶄然從來の製法に卓越せる新鑄造を創案して學界注目の的となれり。翁の鑄造法に依りて東京九段坂靖國神社境内の大村益次郎銅像製作せられ、爾來銅像は殆んどこの製法に依らざるはなく、斯界に貢献せる所多し。明治二十六年砲兵工廠に二大製鋼法の一たる平爐鋼法を採用設置し、更に後年八幡製鐵所に同法並びに他の製鋼法轉爐製鋼法の設備を建設して沒すべからざる功績を貽せり。二十六年農商務省囑託となりしが、二十九年八幡製鐵所に轉じ、三十年辭任したれど三十四年には再び入りて技師となり、前記平爐、轉爐等の施設を始め各種の生産設備を設置して幾多の新製品の製作をなし、輸入品を驅逐して國益の增進に多大の寄與を爲せり。四十四年多年の研鑽に依りて完成を見るに至りし金子式製鋼爐の特許を受く。四十五年八幡製鐵所を辭職し、同年七月大阪市大正區千島町に日本鑄工所を創立し、社長兼技師長に就任して經營の衝に當り、大いに手腕を揮へり。氏の熱心なる努力と天賦の才腕に依りて業績日を逐ひて向上し、後東京に分工場を設置す。同所の多大の發展をなすに及び、之と袂を分ちて大正六年大阪市大正區千島町に金子鑄造所を設立し、專ら經營の衝に當れり。後名稱を金子鑄鋼所と改めしが、氏の多年の研鑽になる學殖と蘊蓄を傾けて經營に精勵せるに依り、設備の完備充實せると、製品の優秀なるは他の比儔を許さゞる所なり。その業績頗る好調を迎り、斯界屈指の精鋭としてその名聲赫耀たるものあり。顧るに翁が始めて鐵鋼業に身を投じて以來、玆に六十有餘年、その間献身的に斯業の發展に靈瘁し、幾多の苦心と心血を注ぎて技術の研精と各種生産設備の建設に力を盡し、我國鐵鋼事業の礎石を築きて遂に今日の發展を齎らすに至りしものにして、斯界に寄與せるその功績まことに沒すべからず、まさに我國鐵鋼界の父とも稱すべき士たり。翁の功績は永遠に燦として輝き業界に絶大なる恩惠を與へしが、曩にその功勞に依り正六位勳五等に敍せられる。天資高邁にして心性清高、器局宏量にして意氣豁如まことに事業界稀有の偉材たりき。翁、昭和十三年春淺き三月、七十八旬の天壽を全ふして忽然として逝去す。世上多大の哀悼の意を

表し、その告別には各方面よりの參會者踵を接して式に臨み、頗る盛儀を極めたり。三男金子辰雄氏直ちに家督相續をなし、嚴君の遺志を繼承して金子鑄鋼所社長に就任せり。氏、稟性令府に彷彿し、大成の兆歴然たり。

（金子鑄鋼所の項參照）

（金子鑄鋼所東京營業所　麹町區丸ノ内三三菱二十一號館）

株式會社　美登里商會

我が電氣鋼板業界の驍將にして創業以來商を累ぬること爰に二十有余年、今や業績燦として斯業界を照破せる我が株式會社美登里商會は、現取締役社長田淵三郎氏の嚴君故田淵六合美氏（本名繁氏）が、輸入防遏、國力增進の大乘的見地に立ちて、過ぐる大正七年頃電氣鋼板製造業を開始せるに其緒を發す。爾來氏の崇高なる人格と謹直なる性格は、能く當社經營上に反映し、泯然たる當社獨自の業風を爲し、堅實なる營業は漸次堂固たる業礎を築き上げ、業績逐期頓揚し、以て其名を馳するに至り、昭和十年に迫んで時運に順應して從來の個人經營一切を擧げて、之れを資本金十萬圓全額拂込濟の株式會社に改組し斯くて現今の盛業に際會するに至れり。而して其間業務の宏大は必然に營業科目にも擴張を誘掖せしめ、現時日本製鐵株式會社八幡工場製電氣鋼板一手販賣の他、大阪、東京に整備せる工場を有し、電氣鋼板（硅素鋼板）電氣鋼板各種寸法切、ラヂオ用トランスコアー、モーター、ダイナモコアー、電氣絶縁塗料、各種塗料並に工具類の製作を爲すに至る。而かも當社製品は何れも獨自の工作技能を以て製作され、卓然として群を拔けることは既に定評の存するところなり。

抑々前取締役社長田淵六合美氏は、佐賀縣人にして、永年鐸鶴海軍工廠に恪勤し、同廠組長に擧用せられたる士にして、日露戰役に際して海軍少尉相當官に任じて出征、技術上顯著なる功を樹てゝ凱旋、後も同廠に於て引續き彫身挺身するところありしが氏は職掌上常に高級鋼板が外國製品に依存せるを慨嘆し終始之れが輸入防遏、優良國産品の製作に專生を捧げんと意を決し、前叙の如き行履を經て、今日當商會の覇業を遂ぐるに至りたるものにして、一面斯業界今日の興隆を招來せしめたる一賢材たりと言ふを得べし。

取締役社長　田淵三郎　若冠にして父業を繼承し、能く當商會を總攬し、其將來性を畏怖さるゝ斯業界の新鋭たり。

大正元年前社長田淵六合美氏の長子として生誕。天資頭腦精緻にして溫厚、長ずるに及んで工業界に身を樹つべく嘱望して、學を熊本高等工業學校に修め、昭和九年拔群の成績を以て之を卒ふ。直ちに朝鮮窒素肥料株式會社に入社せるが幾許もなく入營の爲退社す、砲兵見習士官に任じて退營し、父業の良佐たりしが、曩に嚴君の訃に會ひ、其衣鉢を享けて社長に就任し今日に逹べり。

（所在地　大阪市西淀川區御幣島町二六九）

福島電燈株式會社

當社は明治三十八年十月の創立に拘り、創業以來事業大いに盛況に向ひ、廣汎なる地域に亘りて電燈電力、瓦斯等を供給して毎期多大の成績を擧げ、地方の文化並に殖産興業の發展に寄與せる所甚大なるものあり。創立後東北カーバイト、福島瓦斯、刈田水力、奥羽電氣、東洋化學工業其他十二會社を傘下に併合し、現時公稱資本金一千四百二十七萬二千五百圓（内拂込資本一千四百八萬七千圓）を擁し、福島縣下屈指の大會社たり。電燈、電力並に瓦斯の供給區域は福島、山形、栃木、茨城の各縣にして、二市、三十四町、百六十二ケ村に及べり。十二年五月末に於ける電燈需要戸數は十一萬一千一百七十三戸、供給數

三十一萬一百四十二燈にして、前年十一月末に比して二千二百六十戸、八千二百三十六燈の増加となれり。電力の需用戸數は三千一百八十八戸、供給數二萬六百六KWに上り、八十三戸、二千六十二KWを増加、又電熱其他の需用戸數九千六百七戸、供給數一千二百四十一KWにして一千九百三十一戸三十三KWの増加となり、瓦斯に於ては供給量二十四萬八千六百十三立方米、引用戸數一千六百十九戸にして、その増加は四萬二千八百八十一立方米、三戸となれり。近時、時局景氣の浸潤に依りて電燈電力の需要著しく増加して、收益大いに増進す。昭和十一年上期決算に依れば、總收入二百三十一萬九千圓にして、總支出一百五十二萬四千圓となり、差引利益金に十九萬五千圓に達せり。利益率一割一分六厘に相當し、五分配當を踏襲して尚ほ餘裕綽々たり。當社は先年來より業績振はず。昭和七年上期を最後として無配に陥りしが、當局者これが打開の爲めに、拮据黽勉、大いに努力して才腕を揮ひ、内は資産の内容の充實に努め、外は事業の發展に盡瘁して多大の成績を收むるに至れり。斯くして昭和十一年下期より五分配當を復活して、一躍優良會社として斯界に重きをなせり。電燈電力の需要は今後更に増加を期待せられて、收入は愈々増進するに至るべく、更に資産負債の銷却には毎期多額を計上しつゝあるを以て、將來業績内容共に一段の向上を見るに至るは疑たき所なり。當社の重役陣は以下の如く、取締役社長西形吉次郎、專務取締役鈴木文七、取締役山森佐太郎、同濱田忠善、同櫻木亮三、同近藤甲、同太田秋之助、監査役木村重三郎、同神谷啓三、同臼井千尋、同中村秀夫の諸氏にして何れも錚々たる人物たり。

福島電燈株式會社

取締役社長　西形吉次郎　明治十五年十二月を以て生る。明治四十一年家督を相續し、現在福島電燈の社長たる外新田川電氣、東北電氣各社長。福島電氣鐵道、富山電氣鐵道各取締役。合資會社西形商店代表社員たり。又囊に監邦電氣、福島製作所各社長を勤め、東北財界に牢固たる地盤を築けり。人格清白高朗にして氣宇濶達、大いに社會公共の爲め活躍して貢献せる所甚大なり。昭和二年、福島商工會議所會頭に推されて、商工業發展の爲めに八方奔走し、その功績絶大にして人々の嘆服措かざる所なり。又福島市會副議長の要職に擁立せられ、地方自治の爲めに寄與する所多大なり。

專務取締役　鈴木文七　氏は明治二十三年福島縣に生る。氣恪俊邁にして心性潔白。精勵恪勤、早出晩退鋭意その職務に心血を注ぎ、多大の實績を擧ぐ。當社内には氏の手腕に俟つ幾多の問題横はれども、快刀亂麻を斷つのその手腕に依りて今後著しき好轉を見るに至るべし。人格廉直にし至誠質實、名利に恬淡たると共に頗る豊かなる溫情の持主たり。

支配人　宮村義一　明治三十五年福島縣に呱々の聲を揚ぐ。少壯氣鋭、才氣煥發にして、俊敏を以て將來を囑目せらる。職務に精勵して他事を顧みず、儀禮正しく人に接して好感を與へ、風采藹酒にして典雅上下の人望を一身に集め、將來大いに頭角を現すに至るべし。

（所在地　福島市置賜町）

相生無盡株式會社

大衆の融資に蓄財に重大なる役割を果しつゝある無盡は、我國獨特の庶民金融機關として、眞に世界に誇るに足るべき特徴あり。當社はその創業明治四十五年にして、現時資本金百十萬圓に上り、その歴史の古きと社礎の堅確を以て無盡業界に牢固たる信用あるが、我相生無盡株式會社なり。當社は多年の經驗に基き、掛金の低廉、資金運用に低利、貯蓄に好利廻等加入者本位の數多の特徴を具備せる無盡を創設し世上に絶大の好評を博せり。當社無盡の制度に依れば給付未濟口は七十回まで毎月五十五圓の掛金を拂込み、爾後終回迄二十回は毎月四十圓も拂込むことゝなれるを以て、掛金合計四千六百五十圓となる。給付濟口にては毎月六十七圓五十錢の掛金を拂込むことゝなれり。當籤せば無盡金五千圓を受くるを以て多大の利得あり。若し入用なき際は、その權利を他に讓渡せば多額の利得られ而も再び抽籤及び入札の權利ある故に當籤の樂みを期待なし得るなり。掛金に於て相當の利廻となれる上に、更に入札差額の分配金あるを以て實際の利廻は頗る高利廻となるなり。入札は九割（四千五百圓）以上の定めにして、資金調達には迅速に且つ有利に目的を果たすを得。又契約額は當籤、落札を俟たず有價證券を擔保に低利を以て貸付をなし、又加入者の通帳擔保に融通する等、當社は加入者の爲めに幾多の便宜を供せり。創業以來一貫せる奉仕主義と堅實なる經營方針とを以て非常なる好評を得て、逐年躍躍的發展をなし、その業界に冠絶するの業績を擧げつゝあり。國斯業界に冠絶するの業績を擧げつゝあり。現時諸積立金八十萬圓、契約高一億一千餘萬圓を擁し斯界の最高峰として堂々君臨せり。重役に會長高橋熊三、常務高木武、取締役井上安五郎、監査役生明市太郎、同神崎新、支配人高野直亦の諸氏あり。

（所在地　東京市淺草區田原町一丁目）

磐城セメント株式會社

我國セメント業界の强豪にして、東北、關東、北海道の廣大地域を獨占的溫床と爲して他社の羈食を許さず。資本金亦尨大にして二千三百萬圓を抱擁し、しかもその屬翼に七尾農國、滿洲、富國、富山の各セメント並に帝國ニューセユーム鋼管、東京製鐵の諸會社を吹ふ、今や旭日昇天の意氣物凄く、斯界に畏怖さるゝ顯著なる存在たり。

當社は古く明治四十年二月の設立に拘り、當初資本金一百萬圓。大正九年三百萬圓、更に同十四年日之出セメントを吸收合併、五百萬圓に増資し、同十五年鈴木セメントを合併一千七十萬圓と爲し、昭和十二年十月一舉一千二百三十萬圓を増加、資本金を二千三百萬圓を擁するに至れり。

當社は設立以來、既に二十餘年を閲せるが堅實一貫主義は能く隆昌を誘掖し、逐期異樣多彩の業績を示現し、毎期二割臺の利益率、八分配當を餘裕裡に行ひ以て現今に迨べり。

爰に當社昭和十二年下期の成績を大瞥するに、同期に於けるセメント業界は、期初支那事變の勃發に伴ひ、不急工事の中止繰延等を見たるも一方電力、鑛業、軍需工業方面の需要依然旺盛にして、結局前年同期に對比して却て需要増加を示す狀態にして、此間セメント聯合會は非加盟會社と緊密なる提携を爲し時局對策に努力したるを以て、良好なる市況を持續したり。當社は需要最盛期に當りて事變關係に依る運送機關の梗塞に對處し、極力出荷に努力すると共に、工場設備の改良充實に依りて品質の向上、生産費の低下を圖りたり。同期末現在の總資産は三千三百九十三萬七千餘圓を計上し、總收入金四百八十一萬四千四百餘圓、總支出三百七十二萬五千四百餘圓、固定資産減價償却五十萬圓、役員賞與金

五萬七千圓を差引、同期純益金五十三萬二千九百餘圓を得、之に前期繰越金二十七萬六千五百餘圓、計八十萬八千五百餘圓を處分するに積立及基金五萬二千圓、株主配當金四十六萬一千七百餘圓(年八分)、後期繰越金二十九萬四千八百餘圓と、頗る好良の處分を餘裕裡に行ひたり。

之を要するに當社は如上の如く、頗る堅實なる推移を辿りつゝあるを以て、事變の一段落と共に諸般事業施設の擴充勃興に伴ふ需要に依りて一段と光彩を放つものと信ぜられ、其前途こそはまこと洋々たるものあるべし。

爍たる陣營、取締役社長岩崎清七　常務取締役山田肇　取締役根津嘉一郎　同岡野利兵衛　同吉永仁藏　同安部政次郎　同南俊二　同岩崎清一郎　同長瀨菊次郎　同小室萬五郎　監査役佐藤淵治　同木村清治　同泉山岩次郎　同平林三郎　相談役大橋新太郎　支配人齋藤次郎　庶務課長三森議逸

常務取締役　山田　肇　業界第一の謹嚴重役と謳はるゝ如く、資質溫厚直實、而かも堅忍不拔の典型的甲州人傑たり。私減奉公三十年、社内外の信望隆々たり。

明治二十二年七月、山梨縣人山田久兵衛氏の三男として出生。同四十一年中學を卒へて直ちに創業早々の當社に入り、爾來孜々營々二十餘年、眞に立志傳中の才物たり。昭和九年取締役支配人に拔擢され、同十一年一月常務取締役に推戴され以て今日に迨ぶ。傍ら磐城證券常務、七尾セメント、滿洲セメント、富國セメント各取締役、豐國セメント、爲生石灰工業各監査役たり。

氏は斯の如く日夜多忙の生活に終始不惑ながらも、賢人時に閑日月ありと謂はんか、恒山と號し、精到酒補の吐腸を句稿して不退轉の熱情を捧げ、その作風今や妙圓枯淡の趣ありと聞く。反復して謂ふ「英賢時に閑日月あり」と。蓋し氏のことか。

支配人　齋藤次郎　明治三十四年東京府に生誕し、昭和二年優秀の成績を以て東北大學を卒業し、直ちに磐城セメント株式會社に入社し、爾に支配人に拔擢され現今に迨ぶ。天賦聰明にして怜悧、前途有爲の人材にして囑望さるゝこと多大なり。

庶務課長　三森議逸　峽中山梨、源太郎翁の二男、明治十八年十月に生る。長じて山梨銀行に恪勤、大正十年日之出セメント會社に入り、同十四年當社に合併と共に現職に就任し、眞摯精勵以て現時に及び信望社内に隆々たり。

(所在地　東京市麹町區丸ノ内二丁目)

産業組合中央會

現下の資本主義制度の經濟社會に於て、産業組合主義の經濟組織を樹立する事は、決して容易の事に非ずして、其處に産業組合同志の産業組合主義に對する明確なる理解と、徹底したる實行力とが必要となる。而して産業組合主義に對する理解は産業組合運動の理想を達成せしむる爲、中央機關の必要を認識するに至るべく徹底せる實行力は、中央機關の活動を最高限度に達せしめ、愛に始めて資本主義經濟組織に對立し得る産業組合主義の經濟を確保するを得。産業組合法が、明治三十三年に發布せられて以來、既に數回の改正を見其都度組合經營上に大なる利便を見たる如きは、時勢の進運とは謂へ中央會が全國産業組合の輿論を背景として、政府に交渉せる事が大いに與りて力ありしなり。産業組合が今後益々其發達を圖る爲には、法規の適當なる改正を必要とするは勿論、國家に對して正當なる要望をして差支なきも、之は個々の組合の力にては到底なし得ざる事にして、聯合したる中央機關の活動に俟たざる可らず。亦産業組合の教育、宣傳に關する事業、指導者、理事、事務員養成に關する施設組合の聯合に

必要なる各種の協議會の開催等、之れ亦有力なる中央機關の存在によりて、始めて行ひ得る事にして是等は産業組合發達の爲には必要缺くべからざる重要事實たり。産業組合中央會が從來我國の産業組合發達のために盡せし功績は周知の事實なり。しかも近くは中央會が産業組合中央金庫、全國購買組合聯合會、大日本生絲販賣組合聯合會の設立に對する活動、大正十四年の産業組合振興刷新運動の開始、それ以後に於ける事業組合の發達と、聯合運動の進展に對する努力、産業組合教育の振興等、中央會が地方支會と共に、我が産業組合運動に盡せし功績は、蓋し筆舌につきせぬ顯著なるものあり。刻下の社會情勢に在りて個々の組合活動あるのみを知りて、より大なる聯合的活動あるを知らざるものは、結局個々の組合の自滅を望みつゝあるものと稱すべく、産業組合中央會の活動と、我國産業組合運動の進展とは不可離の經緯を有するものなり。されば今後中央會は益々その事業を刷新して我國組合界のために一層効果ある活動を試むべく希望して罷まず。現在中央會にて實行せられつゝある各種事業は、或は擴張し或は之を改善し、或は之を整理せらるゝと共に更に新たなる事業を行はる必要は敢々を要せず。現に教育、調査、監査各事業に關心し經費を充實し組織を完成して充分なる効果を發揚せる事は洵に快幸と謂ふべし。

産業組合中央會が更に聯合的運動の進展に依りて、經濟生活の全國的統制を擴大し以て中央會の權威を顯揚せられんことを祈念す。

副會頭　千石興太郎　産業組合の總師たる氏は現代に於ける出色の士たり。斯くなるべき産業組合が斯くなりしとして不思議はなきとするも『人がどう論じようと自分は只自己の信念に行く』と語る。事實氏は全精神と全努力を打ち込んで、之を實行しつゝあり。永い苦鬪の行履と社會的情勢が今日の大産業組合と、今日の大千石氏を在らしめしなり。理論を口にする代りに夫れを實行に移して着々成果を遂ぐ。共手腕力量眞に神業と稱すべし。産業組合の機構が完成せし時は、中小商業者が共存在性を社會的に失墜する時なりと杞憂する者あるも、氏は斯樣の事等に關心せず、たゞ産業組合が健實に邦家の興隆を双肩にして發展すべきを祈念するのみ。巷間氏を大臣に擬する人あり。然し氏自身之を知らず。産業組合が政治的に活躍せば—と云ふ人あるも、氏は馬耳東風たり。剛腹にして精悍遂に今日の地位を獲得すと謂ふも、寧ろ氏の成功はその性格に非ずして、尊嚴たる人格の發露にあらんか。全聯聯會長を兼ぬ。

(所在地　東京市麹町區有樂町一丁目)

丹羽建築設計監督事務所長

丹羽英二

中京名古屋建築界を風靡し、燦然明星の如くに斯界に仰ふがるは丹羽建築設計監督事務所長丹羽英二氏なり。氏は明治三十年、名古屋市丹羽辰之亟氏の次男として同市に生る。大正四年明倫中學を卒業し、同八年名古屋高工建築科を卒へ、直ちに靜岡縣廳に奉職、同十年十月、官界を辭して、名古屋市役所土木建築係に奉職三年にして辭職す。次で中京建築界の權威志水建築店に入り、同店が建築せる幾多著名の建造物に、妙技を揮ひ功績頗る多大なり。深く才能を愛さるに至り、信望愈々揚る。此間熾烈なる氏の智識愈止まるを不知、内外萬卷の書籍を讀破し、其奥義を極め此處に學理、實際兩々備れる、牢固たる自信を以て、昭和二年同店退店と同時に獨立創業す。爾來十有余年の星霜を閲すると共に、氏の卓絶せる技能は着々鋭鋒を顯はし、世人の信頼を贏く蒐むるに至る。

因に氏は、先に名古屋高等工業建築科講師として、幾多の學徒を社會に送り、裨益する處又大なり。爲人、資性高潔溫厚にして、謙讓の美德を備ふる典型的好紳士たり。

因に當所の手に成れる建築物を枚挙せば、名古屋陶磁器貿易商工同業組合、岩田武七商店、瀬戸陶磁器工業組合、大門百貨店、吉井吉助商店、東洋棉花名古屋支店、昭和晋達株式會社、大同電氣製鋼所、帝國撚絲織物株式會社、岡本自轉車自動車製作所、豊田自動織機製作所、大日本セロファン株式會社、鶴見晋達株式會社、宮本物産合名會社、四國晋達株式會社、全購聯名古屋工場、東三乾繭組合、幡豆乾繭組合、岐阜セメント株式會社、四國水力株式會社、矢作工業株式會社、大同機械製作所、第二大同電機製鋼所、味の素工場、東洋紡績株式會社、守山町役場、幡豆町役場、西尾小學校講堂、西尾小學校、野垣肛門病院、好生館病院、鳳寿病院、陶生病院、鈴木信義邸、池田增太郎邸、伍島善十郎邸、岩田武七邸、小松原隆二邸、松坂屋伊藤邸、生悦信邸、湯之島館、料亭ふたみ、料亭かもめ、名古屋館、迎陽館、蓬莱殿、第八高等學校、天理教名古屋大教會、名古屋競馬場等枚挙の煩に堪えざるなり。

丹羽英二氏

（住所　名古屋市熱田區東町玉ノ井）

大日本印刷株式會社

近代文明の進展に絶大なる寄與を齎せるが印刷術にして、これが進歩に依りて百般の學藝燎亂として勃興し、大衆の智的水準多大なる向上をなし、多彩華麗の現代文化の開化を見るに至りたるものなるは冗言を要せざるべし。當社は明治九年十月の創業にして、同二十七年一月株式會社秀英社と改稱し、常に印刷文化の尖端に立ちて斯界をリードして、逐年多大の躍進をなし、昭和十年二月に株式會社秀英社を改稱同時に日清印刷會社を合併して、大日本印刷株式會社と稱することゝなれり。現在資本金六百萬圓を擁して、斯界有數の大會社として富嶽の如く聳立せり。

當社は印刷、精版、製本並に之に附帯せる業務を營みつゝあるが、時代の要求に鑑みて印刷技術の進歩改善を期する爲め、研究室を設置して專任技師を措き、活字地金、印刷用インキ、各種精版並に鍍金法等の研究に當らしめ、或は最新技術は他に率先して、之を採用して業界を瞠目せしむる等、業界に寄與せる所甚だ大なり。即ち、明治四十二年、率先して、ポイント活字を採用し、大正二年當時歐洲の一部に漸く使用せられしオフセット印刷機を購入し、爾來引續き歐米諸國の新式機械を設置して、業界の發展に貢献する所多く昭和八年十一月日本産業協會より我國産業上貢献する所鈔からざるの故を以て、表彰せらる。當社は活版、平版、グラビア各印刷機、製本用機械、自動組版機械、自動活字鑄造機械等各種最新設備を備へ、最近の月産能力活字組版六萬五千頁、活版印刷三十萬連、平版印刷四千五百萬通、グラビア印刷五萬連、製本六百萬冊、活字鑄造千五百萬本たり。近時業績頗る好調を呈し、昭和十二年下期には六十五萬圓の利益金を擧げ八分配當を行へり。尚ほ最近本社々屋の增築を行ふことなれり。又最近資本金百萬圓の大日本インキ株式會社を創設したるに依り、今後インキ代大いに節減せられ、將來の業績向上に資する所多かるべし。當社は業界に牢固たる信用あるを以て今後の業績に關しては多大に期待せらる。重役には社長增田義一、專務青木弘、同平野登美夫、常務佐久間長吉郎、同竹内喜太郎、取締役吉田秀人、同高橋謙三、監査役坪谷善四郎、同佐久間衛治の諸氏あり。

專務取締役　平野登美夫　責性温藹謹恪に

して頭脳明晰業界に信望甚だ高き氏は、明治二十二年七月栃木縣に生る。夙に早稲田大學商科を卒業して直ちに日本郵船に入り、大いに鋭鋒を示して經書課主任に擧げらる。後懇望せられて日清印刷に迎へられて總務部長に推され、更に常務に選出せらる。大日本印刷との合併なるに及びて現職に就き、敏腕を揮ひて社内に多大の勞望あり。人格清白高朗にして名利に恬淡、寛容にして仁情に富み、從業員より慈父の如くに畏仰せらる。

（所在地　東京市牛込區市ケ谷加賀町）

東洋石油株式會社

輓近内燃機の異常なる發達に伴ひ、石油の價値が他の一般消耗商品に比して、著しく其重要性を增し來たり、曩に政府に於て統制法の實施を見たるが如き、如何に其國家的貴重品なるかを示すものなり。實に石油なくしては此の偉大なる現代文明も決して生誕せざりしならんと言ふも、敢而過言ならざるべし。歐洲大戰後獨帝「カイゼル」をして『石油の一滴は血の一滴に比すべく、若し我に充分なる石油を與へたらんには、全世界を相手として戰ふも、斯の如き屈服はせざりしものを』と。長歎息せしめたる如き、如何に國家有事の際に於て重要なる役割を果すかを物語る證左たるべし。

我が東洋石油株式會社は時運に順み、世界貿易界に活躍せる三井物産株式會社を背景に擁して、同社がボルネオ油田開發着手と相前後して、過ぐる昭和二年一月、資本金一百萬圓を以て設立せられたるものにして、爾來十有餘星霜を經、其の間幾多難關に逢着せしと雖も、不撓不屈逐次工場の擴大を圖り、製品の改良進歩を遂げ、鋭意國策に順應して努力し、斯業界發展に資すること多大、昭和九年十月に迨んで海軍指定工場に列し、益々その使命の重大を痛感し、擧社一致以て一般市場に對しても、終始優良なる製品を出來得る限り廉價に供給し來り、今や當社は我が石油精製界の重鎮として錚々たる業績の昂揚と相俟ちて斯界の至寶的存在と謳はるゝに至れり。

當社の製油設備を窺察するに、原油蒸餾裝置六十石張六基、再製蒸餾裝置七十石張二基、眞空蒸餾裝置一基、眞空蒸餾裝置百石張一基、シャーブレス洗滌裝置二基、其他硫酸洗滌槽、白土洗滌、清澄槽、濾過槽、混合槽、仕上槽、注油槽各六基乃至拾數基を擁し、原油處理能力一ケ月四千噸、タンク收容能力八千噸の外、三井物産大阪樋島貯油所原油及重油貯藏能力七千噸二基、五千噸二基、三千噸三基、一千五百噸二基、三百噸三基、計三萬六千九百噸を擁せり。而して之れが販賣機關は三井物産本支社、各地出張所、派出所に於て之に當り、北は北海道南は沖繩、鹿兒島、西は遠く朝鮮支那各地に亙り優秀なる三井の販賣網を經て普く市場に消化されつゝあり。當社製品中燈油類は白燈油、フカシ油、特石油等あり。輕油類には一・二號白輕油、一・二・三號輕油。一般機械油類にはスピンドル油、マシン油、ベール油、トランスフォーマー油、スキッチ油、ダイナモ油、タービン油、シリンダー油、モーター油、車軸油、マリンエンジン油、デイゼルエンジン油等にして何れも優秀無双の製品として定評あり。尚アスファルトはA・B・C種に分ち、各種共針入度五度以上百三十度迄各種製品を製造し、塗料製造電線被覆、水道瓦斯管防錆、地下屋上壁道下水等の防水工事用及鋪道用、ホットネツクグリース用、コンクリート用、ルーフイング下塗用、アスファルトピチュメント原料等に用途廣く、熔融點、伸張力、膠着力等適當にして品質良好にして絶讃を博せり。

因に堅陣を誇る當社の人的要素は、代表取締役佐藤二三郎、取締役佐藤信一、同山本彦太郎、同今西信太郎、監査役小澤文太郎の諸氏なり。

代表取締役　佐藤二三郎　明治二十一年三

月岡山縣村瀬兼太郎氏の次男として同縣上川郡成羽町に出生す。資性溫厚敏英にして明朗後ち佐藤堯太郎氏の養子となる。岡山縣立商業學校卒業後、三井物産に入社し、神戸、岡山、門司各支店に恪勤し、昭和七年現職に推さる。爾來その隆興に旦暮精勵す。「學國一致堅忍持久は先づ工場一致より」の主義は既に氏に依りて高唱され、全員一意一體相誘導啓發し、宛然一大家族の觀ある當社の情景は蓋し氏の人格を反映せるものにして、隆々たる今日の業績の顯示も其處に孕胎せんか。

（所在地　大阪市大正區福町二丁目）

事業家　西山音治

一死また安きを顧みず、斯産報國の一念、切々として宇内に鳴り、盡忠報國の精義、烈々として天地を震慴せしむるの慨あり。その名、赫然として六合を光被す。姓は西山、名は音治。

第一次産業革命の擡頭せるの歳、即ち明治十七年如月、兵庫縣に生誕す。天性冷頭熱腸の巨材にして、清廉潔白、而も義氣に富む。而して氏が來關せしは、日露戰役後の明治四十一年、戰捷後各種企業の活氣八紘を覆ふ好況時なりき。然るに當時に於ける我が斯産界は未だ擡頭期を總睨せず、往々にして幼々たりしかば、氏は之を痛歎嘆起して曰く『今にして斯業の發展を期せずんば、何時の日か克く爲すものぞ、予に皇國享生の惠澤宏量にして無邊なり』と。爾後天業に鍾骨碎身する事三十有餘年、其間朝鮮牛の移輸入を敢行して農村經濟の發顯に資し、或は私財を投じて朝鮮、内地各地に家畜市場を建設し、或は姑息たりし輸入家畜檢査の改正に努力して、之れが手續上の簡易化を計り、或は私財を以て朝鮮牛の移入奬勵の一助として「鮮牛讀本」の刊行に努めて、累年之れを全國農村に配布する等々、その功績枚擧に遑あらず。曩に支那事變勃發するや、軍部、農林省の意を承け、斯産上に關して馳驟奔走、席の暖むるを知らず、克くその實績を擧げたり。現に斯界の輿望を双肩に擔ひて内鮮斯産移入業者聯合會々長、下關鮮牛統制組合長、下關家畜市場長等に就任し、斯界の發展に邁往しつゝあり。尙其功績は前叙に止まらず、夙に意を日本精神の弘布發揚、皇道文化の進出擴大に措き、建國精神を以て建學の本旨を綱領と爲す塾の建設に挺身し、曩に私財を以て櫻山塾を建設開費し育英の業に盡す傍ら、無料結婚相談所を設置して優生的姻婚の向上暢達に資し、結婚用品の無料貸與を行ひて、大衆生活の冗費を輕減せしむる等、社會公共事業の爲め寄與貢獻し、下關市會議員に推されて市政にも參與せる偉勳たり。

現時斯産貿易を目的とせる西山商事、土地建物經營を目的とせる西山合名、關釜汽船、福浦飼糧各取締役社長、櫻山土地建物專務取締役、元山斯産監査役等に推擧され、産業界に盤旋活躍しつゝあり。

（住所　下關市後田）

株式會社　第十銀行

抑も當行の淵叢は明治七年に始めて本縣に生誕せる銀行類似會社たる興益社にして、同社は五萬圓の資本金を有し、大藏省爲替方御用を島田組より繼承して國庫金の出納を爲し一方資金を融通して産業の發展を助成すると共に他面貯蓄の奬勵に努め、更に東京に出張所を設置して第一國立銀行ともコルレス契約を結ぶ等八方活躍して貢献する所顯著なるものあり。明治九年國立銀行條例の改正公布あるや、直ちに設立の出願を爲して第九番の開業免狀を下附せられ、同十年四月に開業したるが　第十國立銀行なり。初代頭取には興益社長たりし栗原信近氏就任し、支配人には同じく取締役として業務を秩掌せし佐竹作太郎

氏その任に就きたり。當初資本金十五萬圓たりしが、翌年增資して二十五萬圓となし、越えて明治二十九年國立銀行營業滿期前特別處分法に據り組織を變更して、株式會社第十銀行と改稱し、翌三十年一月より營業を開始せしものなるが、此間明治十五年には栗原氏頭取を引退して佐竹氏後任を襲へり。組織變更當時の資本金は六十二萬五千圓なりしが、翌三十一年七萬五千圓を增して、貯蓄銀行業を兼營し、更に三十三年には三十萬圓、大正二年には一百萬圓を、同九年に至りて三百萬圓を各增資して總額五百萬圓となり、昭和二年には谷村商業銀行を合併して二十萬圓を增加し、同年更に倍額增資を斷行して、公稱資本金一千四十萬圓、内拂込六百五十萬圓に達して今日に至れり。尙ほ昭和三年には若尾銀行の縣内營業を買收して、八日町、北、南の三支店と百石町倉庫を傘下に收め、同十年には大森銀行を買收して柳町及八代に支店を設置して營業を繼承す。斯くして當行支店は明治十一年設置の東京支店、同十二年の猿橋支店、同三十二年の龍王、並崎兩支店、大正三年の松島支店、同七年の日下部支店、同十四年の大月支店、昭和二年谷村商業合併の際の谷村吉田、船津、上野原四支店と合して十六に達し、堂々の陣容を整備するに至れり。而して同行最近の預金總額は二千二百二十餘萬圓の巨額に達し、これに對して貸付金總額亦一千五百萬圓の多額に上り、堅實なる營業方針と遂年倍加する信用と相俟つて、縣下の産業界經濟界を指導すると共に日本銀行代理店として、國庫事務を取扱ひ、山梨縣金庫及甲府市金庫事務も取扱ひて多大にその機能を發揮して、縣下金融界に重きをなせり。特に當行に於ては百石町倉庫の外、本店及日下部、並崎南三支店の倉庫に、乾廂貯藏の設備を施して當業者の便益を圖り、郡内支店に於ては特に地方絹織物工業の發達に留意する等、堅實經營と社會奉仕をモットーに活動なしつゝあり。

第十銀行界の雄　第十銀行の外觀

殊に昭和十二年下半期末の貸付金及び所有物勘定に於て五萬二千五百餘圓を銷却して、尙ほ且つ二十四萬四千餘圓の純益を擧げ、六分の配當を繼續、十五萬二千餘圓を後期に繰越したるが、別に一千四百十餘萬圓の所有々價證券に對し相當多額の利益を留保しあるを以て、その決算頗る餘裕綽々たるものあり。尙ほ明治十一年に第十銀行が大藏省の認可を得て縣下の各地に取扱所を設けて取扱ひし五錢以上小額の複利預金は本邦銀行貯蓄預金の始祖をなすものにして、大藏省監修「明治財政史」第十五卷第十四篇に鉛架せられ、當行の誇るべきものなり。現在重役には取締役頭取細田武雄、常務取締役牛山榮太郎、取締役矢島榮助、同名取忠愛、同山本彦吉、同大森國平、同澁川湖朗、監査役新海祐六、同寺田七男、同山田新太郎の諸氏なり。

頭取　細田武雄　當行が今日の地盤と信用を捷ち得たるは、實に氏の不斷の努力と貢献に負ふ所多大なるものあり。氏は明治七年興益社時代より大正四年八月卒去に至る前後四十三年間勤續して當行の發展に至大なる功績ありし前頭取佐竹作太郎氏の良佐として献策し、同氏の異體同心として馳驅して多大の活躍をなし、明治四十年には支配人に擧

げられ、大正二年取締役兼支配人に進み、大正九年常務となり、昭和三年には頭取となりて當行を統理す。その才腕に依りて行礎は盤石の如くに強化せられ、數次の財界變動に逢着せしも微動だにすることなく、特に昭和五六年頃の縣下金融界未曾有の大恐慌に於て、五十餘銀行の大多數が淘汰せられたる中に、巍然として愈々その信用の加はるは、蓋し偶然に非らざるなり。氏は現に甲府電力、松屋呉服店各監査役、山梨貯蓄銀行取締役、甲府商工會議所會頭の要職を兼ぬる巨擘たり。

常務取締役　牛山榮太郎　夙に東京高商を出で同校專攻部銀行科に學び、大正三年學業を修了して直ちに日本銀行に入る。同十二年當行に轉じて東京支店長に推され、昭和三年一月取締役に榮進して支配人を兼ね、細田頭取を輔佐して寄與する所多し。昭和十二年一月常務の重責に就く。上下の信望厚し。

（所在地　山梨縣甲府市常盤町）

日本坩堝株式會社

本邦黒鉛坩堝事業の始祖として、斯界に名聲を博せる當社は、明治十六年の創業にして社礎の堅實にして技術の優秀、且つ又設備の完備せる他に比儔なし得るものなし。殊に當社は黒鉛並に耐火粘土の原料山を所有し、採掘鈔選して自給せるを以て、その製品は優良にして價格又頗る低廉たり。當社の製品には黒鉛製坩堝に中次、蓋、臺、攪拌棒、汲出坩堝、異型坩堝各種、耐火粘土製坩堝に臺付、三角、マツフル、フアーネス、燒鑛皿、スコリフアイヤ、レトルト、吸水板各種、黒鉛鑄型用、鉛筆用、電氣用、練油其他の各種ありて何れも多大の好評を博せり。本社を東京に設け、營業所を東京及び大阪に置き、工場及分工場を大阪に設置す。又全國各地に代理店賣店を設けて販賣網を全國的に布けり。常に多數の各種製品を貯藏せるを以て、需要に應じて迅速且つ多量の供給をなし得るなり。その需要先を見るに内地に於ては陸海軍各工廠を始として造幣局、各鐵道局、其他諸官衙學校、民間各工場、造船所、製鐵、製鋼諸會社、仲銅業者等全國に亘りて堅實なる得意あり。又海外方面よりも盛に需求せられ、滿洲國、支那、印度、南洋等に輸出せられて非常なる好評あり。當社の製品は内外各地の博覽會、共進會に出品して多數の金銀牌を受領し殊に日英博覽會に於て金賞牌を受けたるは、その製品の世界的に優良なるを立證せられたるものにして、獨り當社の榮譽たるのみならず、我産業界の爲めに萬丈の氣を吐けるものと云ふべし。當社は創業以來順調なる發展をなし、明治三十九年十二月株式會社として改組せられ、爾來向上の一途を辿り、昭和十二年十一月に日本耐火器製造株式會社を併合して、從來の資本金一百萬圓を二百萬圓に倍額增資せり。支那事變の勃發以來軍需工業一段と活況を呈したるに依り、黒鉛坩堝は陸海軍を始め、民間工場よりの受註激增し、多大の好成績を擧げつゝあり。需要の增大に鑑み、工場設備の擴張をなし、更に朝鮮産原料の增産を圖り、事業界の好調に備ふるところあり。昭和十二年下期業績を見るに、總益金一百二萬六千圓、總損金八十五萬七千圓にして、差引當期利益金十六萬九千圓を擧げたり。一割五分の普通配當並に五分の特別配當をなして、尙ほ餘裕綽々たるものあり。增資合併に依りて當社今後の躍進には大いに刮目するに足る。尙ほ重役陣には取締役會長岩崎清七、取締役貴島勇介、同山崎信一、同中村昇、監査役中野長兵衛、同茂木順三郎諸氏列せり。

取締役兼庶務部長　貴島　勇介　明治九年十一月鹿兒島縣士族權一翁の長男に生る。同三十三年東京高工を卒業し、後當社に入る。天資溫恭謹恪、頭腦明晳にして俊秀縝密、斯業に關する蘊蓄又頗る該博たり。

（所在地　東京市澁谷區山下町）

名建家

兒玉衛一

長野縣財界の耆宿としてその聲望縣下を壓し、事業界各方面に活躍して卓拔なる才腕を揮ひ、その爲敏の智能と剛腹の氣性は、中央財界にまでその名を知られるに至る。明治十六年十月猛次郎氏の長男として、呱々の聲を揚ぐ。幼にして穎悟、頗る學を好み、學績甚だ優秀を以て知らる。鄕黨を卒ふるや、早大政經科に入り、三十八年卒業す。後財界に入りて拮据黽勉し、逐年頭角を現すに至れり。頭腦まことに明晳にして犀利。孜々として業務の拓開に任じ、克く煩雜なる庶務を處理して、その裁斷流るゝが如し。天性の英氣は一頻を加ふる毎に却つて益々勇氣百倍し、素志愈々堅剛を增し、鬪志一段と旺盛となりて、八方に馳騁す。機略縱横にして才氣煥發、如何なる障碍に直面するも臨機應變、難關を克服して勇往邁進し、大いに手腕を謳はる。而かも剛氣に富むも猪突的ならず、思慮周到にして能く事物を洞察するの明あり。勇斷敢爲一度決する所如何なる障碍だも屈せず、突破するの剛氣あり。識見高邁にして蘊蓄淵博、その高潔なる人格と共に時流を拔き、財界稀に見るの稀覯の材幹たり。事業界に活躍して目覺しき實績を擧げ財界に牢固たる地盤を築くに至れり。爲に第十九銀行監査役となり、現在日本アミノサン醬油社長、日本炭業、八十八銀行、長野電氣各取締役、信濃銀行監査役の要職に就き、長野財界の重鎭として信望甚だ高し。氏義に興望を負ひて縣會議員に當選し、縣政に盡瘁して貢獻する所絶大なり。高義清節にして清白高朗、操志堅固にして名利恬淡、心性頗る潔白たり。氏は一面任俠に富み、平素世人の爲めに盡くし、親疎となく庇護して毫も陰德を誇らず、近時一段と圓熟味を加へ、その擧措悠揚迫らず長者の面影あり。人心翕然としてその風格に傾倒し、鄕人皆その高風に悅服せざるはなし。今後の氏の活躍こそ眞に目覺しきものあるべし。因に氏は明治二十三年の出生なり。

（住所　長野縣小縣郡和村）

神戸瓦斯株式會社

本邦瓦斯事業界の驍雄にして、軍需關係の大工場を供給地に有ち、副産物の販賣頗る有利に行はれ、一割の高率配當を堅持することの多年、餘裕綽々として隆々たる業績を顯揚する斯界の長老たり。由來當社は遠く明治三十一年六月、阪神實業家發起の下に創立せられたるが、當初資本金僅々九萬八千圓なりしが爾來順調の成績を擧げ增資すること屢次、大正十一年既に一千萬圓を擁し、更に昭和四年二千萬圓に大增資を敢行し、以て今日に迨べり。その供給區域も漸次擴大され、今や神戸市、西宮市は勿論、武庫郡の大半並に川邊郡の一部をも占有するに至り、殊に其區域には軍需關係の大工場を控へ、同業他社の羨視垂涎萬丈するところなり。當社の瓦斯製造能力は一晝夜十六萬九千九百二十立方米にして、瓦斯溜容量並に所在地は、神戸市葺合區北本町八萬四千九百六十立方米、武庫郡住吉呉田四千二百四十立方米、武庫郡打出堀切一萬四千百六十立方米、武庫郡良元村小林一千百三十立米、西宮市今津二萬八千三百二十立方米の五溜所を有し、更に一基を建設中なり。尙昭和十一年十一月以降、計量器付料金を二十錢より十五錢に値下げを斷行し、引續き十二年六月よりオツトー式コークス窯一基の完成を待ちて、標準熱量を從來の三千七百カロリーより四千カロリーへと八パーセント搦みの引上げを行ひ、需要家サービスを行ふに至れり。尙成績は數期來一割八分乃至二割强の利益率を收め、株主配當も一割を毎期餘裕裡に行ひ來れるが、爰に十二年下期の業績を見るに、需用家戸數は十六萬七千二百二十四戸にして前期末に比し二・九三%增加せり。而

して瓦斯費上總量は二千七百三十九萬九千六十六立方米にして、前年同期に比し九・九四%増加せり。副産物たるコークス産出高は三千四百萬一千二百餘瓩、コールタール三百十一萬六千餘瓩、硫安五十一萬六千七百瓩、ベンゾール二十三萬六千二百瓩を計上し、尼崎瓦斯より年九分、日本染工より年八分の利益配當を受けたり。而して當期利益金は九十六萬六千余圓を擧げ、之に六十七萬一千余圓の前期繰越金を合算一百五十七萬八千余圓を得積立及基金に十一萬餘、擔當配當に七十五萬圓（年一割）後期に七十一萬八千二百余圓を繰越したり。而して當社は豫て新築中の本社々屋落成を告げ昭和十二年九月、輪奐の美を誇る新館に移轉したり。要之當社の前途は需要家戸數は依然順調なる増加を辿り、最近の増加狀態を見るも一ケ年間に一萬餘戸を著増し、率にして六・七%の激増を示現しつゝあれば、その前途洵に多幸にして業礎愈々鞏固嘖々たる業績を持續すること必然なり。因に役員は專務取締役社長小曾根貞松、常務取締役篠崎昇、取締役川西清兵衛、同瀧川英一、監査役辰馬悦藏、同松葉恭助、同前田勇。

專務取締役社長　小曾根貞松　關西事業界に於ける長老にして、其手腕力量今や圓熟の極に達し、其の動靜を畏怖さるゝの存在たり。明治十二年四月兵庫縣人喜一郎翁の長子に生る。元來小曾根家は縣下異數の素封家にて、家名古くより著聞す。氏夙に神戸高商を卒へ事業界に入り事業的才腕を縱横に馳騁し、遂次地歩を築くに至る。曩に神戸市參事會員、神戸商工會議所常議員に推輓せられて貢獻尠からず。現に兵庫縣多額納稅者にして、當社を總師する他、本小曾根合資代表社員、尼崎瓦斯、神阪鐵工所、神戸電機製作所・トキワ商會等各社長、其他幾多の重役に現任し、尙帝國瓦斯協會々長に擧げらる。

（所在地　神戸市湊東區相生町五丁目）

荒木宏

住友金屬工業專務取締役

古來より技術家はその使命に於て、單に技術上の機械的存在として、その職分を果たせば足れりとせられるの傾向ありて、これが爲めに技術以外の手腕を揮ふべき、機會に惠まれざりき。されど技術家と雖も行政的手腕に缺くるに非らざるを示す幾多の實證を見るなり。官界、實業界を問はず常にこの畑違ひ的逸才の異彩を放つものあるは、これを如實に物語る證左に非ずや。今や無双の氣魄を示し我産業界に君臨する日産社長鮎川義介氏の如き、一工學士にして見事この不文律を擊破したる好適例にして、斯の如き人物は稀なりと雖も又他に存在せり。荒木宏氏即ち、それ。氏は現時我が製鋼界に覇權を唱へつゝある住友金屬工業の專務として、其の特異の行政的手腕を以て聲名を實業界に知らるゝものにして、其の非凡の才腕は技術者の爲めに萬丈の氣を吐きたるものと謂ふべし。山形縣士族春平翁の長男として、明治十三年八月を以て生れ、大正二年家督を嗣ぐ、同三十八年東大機械科を卒業し、山陽鐵道會社に入り、次で鐵道の國營と同時に鐵道技師として官界に入り、應取工場長に進み從四位勳四等に叙せらる。大正十五年退官して住友製鋼所に入社常務取締役に擧げられ鍾で當社の專務に推輓され今日に及ぶ。溫厚にして然も才氣横溢、覇氣に富むも猪突的ならず、思慮周到にして著く事物を洞察するの明あり。而して一度志するところあれば、勇猛果斷如何なる難關も突破するの氣慨あり。殊に社交方面には一段の圓熟味を加へ、其の世に處するや、常に餘々綽々として迫らざる態度は、氏の人物の今日あり、明日あるを雄辯に物語るものなり。

（住所　兵庫縣武庫郡住吉村梅ノ木）

鐘淵紡績株式會社

周知の如く鐘淵紡績株式會社は、昭和五、

六年の不況時を一轉機として、大積極方針に轉換し、新規事業部門に人絹、人毛、更生絹糸、羊毛、パルプ等々に進出し、その鵬翼下は朝鮮、滿洲、北支に跨りて國策順應の擴張に次ぐに擴張を以てし、その覇勢停止するところを知らず、今や綜合的纖維工業大會社としての體容を整備し、聲望眞に隆々として全世界を風靡する、世界纖維工業界の太陽的存在たり。

抑も當社の前身は東京綿商社と稱し、明治十九年十一月の創立にして、當時は專ら三井呉服店（現三越の前身）を中心とせる綿糸、棉花並に木綿問屋等が株主となり、最初は資本金僅に十萬圓の小會社に過ぎずして、其翌年資本金を百萬圓に增加し、東京府下隅田村の紡績工場を新設せしが、事業は遂に失敗に期す。結局三井財閥の出資を仰ぎ、明治二十二年八月鐘淵紡績株式會社と改稱せしが、之れぞ鐘紡の濫觴たり。然るに爾後も損失續き解散の止むなきに至りしが、井上馨侯の盤旋にて三井財閥の事業として整理更生に決し、同二十五年一月三井家の經營に移る。斯くて翌二十六年三井の柱石中上川彦次郎氏取締役會長に就任し、朝吹英二氏專務取締役に就任徹底的改革に染着す。當時鐘紡は、東京隅田に第一工場を有せしが、同年資本金五十萬圓を增資して、第二工場を設置し、更に翌年資本金百萬圓を增資し、以て支那へ輸出する目的にて神戸市兵庫和田岬附近の吉田新田に四萬錘の分工場を設置さるゝに至る。當時鐘紡の最大恩人たる武藤山治氏は若冠二十八歳たりしが支配人に拔擢されて鐘紡工場建設の一切を委任さる。流石中上川氏の眼識は敬服に堪えざるが、武藤氏の非凡の才器は、此時既に燦然たる光輝を放てり。氏は終始一貫、一人一業主義を奉じて斷じて拒げず、常に時代の動靜を達觀し、堅實主義に立脚して他に一歩を先制すべく努力せり。氏が歐洲戰亂後に來るべき不況時代を豫想して他社が好況の夢を貪りつゝある間に、率先して大阪淀川畔に染布加工場を建設せし如きは、其の顯著なる一例なり。而して三十二年九月上海、河州、大阪、柴島、淡路の各紡績、爾來九州以下八社を合併或は買收、昭和七年大阪製糸、蘇水社の兩社及び大野、木曾、菊地、甲佐、福島第二の五製糸工場、翌八年松本、宇和島、勝間田の四製糸工場を買收、現に資本金六千萬圓（全額拂込濟）を擁するに至れり。

當社は既に雄大なる輕工業部門に於けるコンツェルンにして、有するところの工場は綿紡十八、絹紡七、精練加工三、人絹二、製糸二十二、乾繭所十一、人絹一共他に上海製造鐘紡サービス、康德染色公司を麾下に收め、更に計畫に屬する擴張、新設を有す。而して營む事業は綿紡織、絹紡織、毛紡織、生絲、更生絹糸、人絹、人毛、絹織布精練加工染色等に亘り、纖維工業中營まざるものは羊毛、麻なるが、製麻工場は既に計畫を了し、羊毛も近き將來着手すべき筋合にあり。

扨て我國紡績業界を大觀するに、その資本構成に於て、亦内容の堅實なる點に於て、鐘紡に優る會社は他にあるとするも、しかも當社を敢て我紡績界の代表となす所以は何ぞ。そは當社が終始一貫永年の傳統的經營精神の顯揚に胚胎し、當社が常に我國産業界の進むべき新動向を指示する鉗鎚なればなり。即ち明治十九年頃より急激に進行したる企業勃興たる、日本第一次産業改革の中心的産業に寄與し、爾後五十有餘年に亘り拮據經營、我が榮譽ある綿業界發展に、絢爛たる業績を誇ると同時に明治、大正、昭和の三世に迫ぶ我が財政、經濟界幾多の波亂を克服して、躍進せる我が産業の苦闘の代表なればなり。尙且つ當社の經營は自社の利益のみに拘捉されず、超えず我が綿業界の發展を念願とする國家的見地に於て經營せられ、爲に當社自體の利益も屢々犧牲にせられたる例尠からず。津田現社長は『今日我が國の綿業は利益よりも販賣網を確立するのが先決問題である』と。論談する如く、當社の傳統的經營精神躍如たるを

窺ふべく、當社が持つ「正義必勝」の信念こそは遂に今日の隆昌を齎し、鐘紡王國をして日本否、世界の持つ鐘紡たらしむに至れり。

當社昭和十二年上期末現在の設備能力は、綿紡百十一萬一千八百七十六錘、綿撚十二萬六千五百五十六錘、綿織一萬二千八百二十八臺、絹紡十一萬一千二百二十八錘、絹撚十萬八千四百十二錘、絹織三千二百五十六臺、紬紡一萬七百四十二錘、繰糸三千三百二十六釜、立繰機五百七十九臺、毛織機三十臺、更生絹糸二屬、染色加工月産百二十萬反、人絹日産二十屬、人織日産三十屬。而して其生産高綿糸二十萬三千九十九梱、綿布一億六千五十四萬七千碼、絹糸一萬八千四百九十四俵、紬糸三千六百二十三俵、生糸百十一萬五千斤、絹布一萬八千四百九十四俵を計上せり。

當社昭和十二年下期の成績を通覽するに、期初支那事變發生し、爾來當社の在華工場の損害は莫大に達するものと憂慮されしも、幸にも天津はさしたる損害なく、上海九十萬圓青島二千百萬圓の損失にて、この損害は當社總財産三億二千萬圓に比すれば一割にも達ばず、何等悲觀の要なく天津工場は既に操業を開始せり。當期の純益金は九百八十四萬餘圓にして、前期よりも更に一段の成績を擧げ、恒例二割五分配當を悠々行ひ、後期繰越金一千七百五十萬九千餘圓と爲し餘裕綽々たり。

要之、當社は近年四割四分乃至九割三分の高利益率を堅持し、年二割五分の株主配當を泰然行ひ、成績好調を持續し、その將來の進展は更に刮目すべく、即ち天津工場の擴張を行ひ、羊毛處理工場の建設以て毛織工業より受託の工場を將來當社に合併吸收の目論見を有し、爾後羊毛工業への進出と、滿洲パルプ工業への進展とそ期して待つべし。されば斯る國策順應の擴張に增資も必然性を帶びて玆に倍額增資即ち一億二千萬圓を斷行し、尙增資と共に、資本金六千萬圓の鐘淵實業株式會社を新設、紡織加工以外の事業を之に移管經營せしむる方針なり。

因に錚々たる陣容は、社長津田信吾　常務城戸季吉　常務三宅鄕太　取締役名取和作同兼本社庶務課長中村唐　同兼調査部長丸山幸蔵　同兼綿糸布加工課長兼淀川工場長平賀恒次郎　同兼綿紡織課長賀集和三郎　取締役井上潔　監査役野崎廣太　同室田義文　同中上川三郎治　同染谷寛治の諸氏。

取締役社長　津田信吾　進取果敢の勇猛心と、天分の事業的才腕を縱横に馳騁し、着々鐘紡王國の偉績を昂揚し、今や本邦事業界に赫々たる聲望を馳するのみならず、我が産業界、經濟界に九鼎大呂の重きを爲せる偉材たり。由來人間の眞價は機に觸れて發露するを常とす。氏がその超凡の大器の骨頂を遺憾なく發揮せるは嘗て武藤社長時代、淀川工場建設の際武藤社長はこの重大事業を託するに津田氏を以てせり。同工場建設は鐘紡が六百萬圓の巨費を投じたる大事業たりしが、氏はその設計は勿論、建築工事萬端に至るまで之を采配し、懸命の努力を拂ひ見事之を完成せしめ、鐘紡今日の業礎を確定せしめたり。其之れ武藤社長が津田氏を觀る炯眼、達識に依るは云はずもがな、斯る大事業を若冠の氏が大成せしめしはその手腕力量の非凡にして偉大なる境地と稱すべし。この一事を以て爲すも氏の大器を窺ふに足るべし。資性純潔にして飽くまで恬淡、而も智略縱横たり。時局以來鐘紡が多角經營と規模擴張の積極政策に邁進せるは獨裁官たる氏の性格を反映せしむるもの。爰に南北支那經濟事情調査の爲渡航せり。日滿支那新政權のブロック經濟が將來必らず見事に結實すべしと、斷言する氏の信條は絶對的と云ふを得べし。北支に於ける棉花栽培、滿洲、北支、朝鮮に於ける工場增設の計畫。日滿、支那新政權を繫ぐ東洋第一のコンツエルンの完成も近き將來にあらんか。其の自愛加餐を熟望す。

常務取締役　城戸季吉　資性温厚謹直にして、謙讓の智德具備の人格者。明治九年福

岡縣廣羽元佐翁の三男として出生。後ち城戸家を襲斎す。同三十八年東大工科機械科を卒業、直ちに鐘紡東京本社に入社す。爾來三十餘年間、終始一貫技術を以て活動せる典型的エンジニヤたり。紡績操作より工場の統率に當りて其手腕神技の稱ありて我が紡織界の元老なり。現に當社常務の傍ら、東洋パルプ工業、神島人造肥料各取締役に推さる。

取締役　中村唐　人も知る鐘紡の本社は東京隅田に在るも、事業の大部分は關西に在る爲、津田社長を始め重役各氏は何れも關西常住なり。單り中村唐氏東京に常住し、津田突進政策の帷幄に入りて眞摯なる活躍を爲し居れり。氏は水戸の名門に出生。烈公時代に於て執政格の權式を有せし彼の田丸稻之衞門の母以保子刀自も、高輪東禪寺事件にて名譽の戰死を遂げし中村繁廣氏の賢婦傑士も同家の出なり。水戸魂の精髓は「尊王」の二字に貫かれ、水戸精神の眞姿は「實行」の二字に昂揚されつゝあるが、中村氏こそは眞に水戸精神の衣鉢を汲む典型的人物と稱すべし。因に氏は明治五年寛翁の嫡男に出生。同二十八年一ツ橋を卒業、同三十二年當社に入り爾來各工場長を歷職餐に現職に就く。

（所在地　東京市向島區隅田町）
（本社事務取扱所　神戸市林田區成碕町）

事業家

川瀨留吉

東都商店界に於てモスリン專門店として、その名を知られ、連鎖式の經營に依りて驚異的躍進を達しつゝあるものに、いさみやモスリン店あり。斯る同店の躍進は一に川瀨留吉氏の智能と奮鬪あるは知る人ぞ、既に知る所なり。氏は滋賀縣蒲生郡老蘇村に明治二十九年五月善兵衞氏三男として生れ、遠大なる希望に燃えて十二歳にして上京、日本橋の近與商店に入り、呉服販賣に從事す。若冠なれど積極進取にして終始努力し、而も頭腦俊鋭、商略に長じて早くもその機鋒を現し、店主の炯眼に適ひて重用せらる。在勤十六年、獨立して多年希望の商策を達成すべく大正十一年退店す。退職手當一千餘圓を以て大阪に赴きてモスリン加工品製造並に卸業を嘗みて獨立の第一歩を踏む。時に二十七歳なりき。關東を得意として活躍を開始せるに、翌十二年九月關東に大震災突發して賣掛金の回收不能となり、手元資金逼迫となりて頗る困難に遭遇す。されど氏は寸毫も意に介せず、百方奔走して同年十二月東京に進出して濱谷町道玄坂にモスリンの小賣店を開始す。郊外の發展に伴ひ俄然客は蝟集して莫大なる收益を擧ぐ。

性來進取積極の氏は新宿、大塚等の繁華街に店舗を開き相踵で擴張をなせり。何れも業績好調を辿りてモスリン專門店「いさみや」の名は、早くも斯業界注目の的とさる。昭和六年二月資本三十萬圓の株式會社となし自ら專務取締役として業務を掌握す。續いて婦人子供服の生地材料の販賣に手を延し、東京市内外より横濱方面に迄、連鎖式に店舗を設置せり。當時婦人子供服の生地材料の販賣店蓼々たるものにして、氏の慧眼はこれが將來性あるを看破して開業せるに、的中して成功を見たり。昭和十年更に資本金を六十萬圓に增資し、モスリン專門店九ケ所、婦人子供服地材料店九ケ所を設け、何れも繁榮を見る。全店員數二百五十名、一ケ年賣上高實に、二百七十萬圓を突破するの盛況なり。尙ほモスリン婦人子供服地材料の外、銘仙、浴着地をも取扱へり。氏は又最近男子の洋服が次第に普及されつゝあるもて未だ高價にし、大衆階級には之が負擔は過重なるを慮り、或は舊來の陋弊之れが普及を遮げられつゝあるの事實に徵し、昭和十年四月資本金二十萬圓を以て株式會社カワセを京橋區銀座五丁目に設け、安價に生地を提供することゝせり。抑々洋服の高價なるは洋服商と生地製造業者との間に大問屋、切賣問屋等介在し、金利、經費、見本代、殘品カバー代、廣告費等々の經費を、消

費者に轉嫁するが爲めなり。故に氏は安價にて製造業者より生地を仕入れ、中間搾取を排してこれを消費者に直賣し、消費者は任意仕立者に調製せしめて、極めて安價に需要し得るの先鞭を附けて俄然需要者に一大福音を齎らしめたり。今や氏は「いさみや」の業務は多年功勞ある菊池貞三郎、仙波正三兩氏に托して、前者を專務に、後者を常務に推し、自らはカワセ專務として專ら同店の業務に沒頭し、大業の人氣を蒐めつゝあり。爲人明斷果敢にして機略縱橫、帝都商店界の偉材として刮目せらる。

（住所　東京市淀橋區西大久保一ノ四二一）

仙臺高等工業學校

當校は明治三十七年三月、勅令を以て文部省直轄學校の一として創立せられ、時の文部省視學官中川謙二郎氏、初代校長に任命せられたるを其創始とす。

爾來星霜此處に三十有餘年、現校長鶴見一之先生に至りて、本校五代目校長に當る。而も歷代校長の統理宜しきを得たるに依つて、逐年好果を收め以て今日に迫べり。由來本校は、高等專門の工業技術家養成を其目的とし修業年限、三ヶ年を以てし、土木工學科、機械工學科、電氣工學科、建築學科の諸科を擁し、其の實驗室、標本室、原動機室、仕上工場、圖書室に至るまで完備充實せざるはなき模範專門學校なり。猶ほ本校に、研究生選科生の別規あり。而して本校の敷地總坪數一萬五千百五十餘坪、配する校舍建坪四千八百七十坪の近代建築は頗る豪壯美麗にして內容外觀兼備せり。本校は開校以來昭和十三年度迄に、卒業生實に三千五百六十七名の外、工業技術員養成所卒業生三千名の多數を社會に送り、之れが國家社會に裨益する處甚大なり。

鶴見一之先生

校長　鶴見一之　先生は明治十四年十一月、新潟縣長岡市臺町に於て生る。長岡中學を出で、第一高校を經て、同三十九年東京帝大工科土木工學科を卒業し、同四十一年仙臺高等工業學校教授を拜命、同四十三年獨、英、米國に留學を命ぜられ、大正二年四月歸朝す。次で本校土木工學科長を被命、同六年東北帝大理科大學地質學實驗授業を囑託せらる。同十二年勅任官を以て待遇せられ、同十三年九月、都市計劃官城地方委員被仰付、昭和七年六月陞敍高等官二等、同年八月工學博士の學位を授與され、同八年五月、土木學會誌論文「沈降速度の理論及實驗」に對し、昭和七年度に於ける第一土木賞牌を授與せられ、同九年七月仙臺高等工業學校長に任命され、教授兼任を命ぜられ同年、多年に亘る實業教育盡瘁せるの功績顯著なるものありて、正四位に敍せられ勳三等を賜はる。其教職に在ること實に二十有六年の久しきに迫び、一貫して我が國家教育奉公に盡瘁、餘念なき精勵の功こそ特筆大書さるべきものありと信ず。謙恭謹嚴にして、謙讓の美德を備へたる典型的教育家たり。教職員、學生より多大の敬仰を受く。その人德反映して教職員學生間まことに和氣藹々として各々その學業の研修に勵精し、校運の發揚に努めつゝあり。

（所在地　仙臺市北二番丁）

長野電氣株式會社

長野縣下に於いて創業の古きと、其規模の大を誇りし二大會社たる長野電燈と信濃電氣は昭和十二年四月相合して長野電氣株式會社を創立し、中部日本屈指の大會社として堂々斯界に君臨せり。資本金三千三百萬圓を擁し十二年九月末現在の諸積立金二百八十萬三千圓、所有財產四千二百萬二千圓の巨額に達す。其設備は最大發電力六萬四千百三十一キロワットにして、電燈箇數五十四萬一千三百二十六燈、電動機馬力數一萬三千八百九十四馬力、電熱その他二千九キロワットを供給す。その供給區域は長野市、上田市及附近の各町村より群馬縣の一部に跨り、同地方の產業の開發、發展に貢獻する所少からざるものあり。小海、川上、延山等の各地は濕度、水量共の他地理的條件に惠まれ、工場地帶として頗る好適にして、今後の發展期待せらる。尙長野・上田地方に於ても鐘紡を始め、諸種の新設工場の計畫續につきつゝあり。從來當社の同地方供給電力の剩餘は、東京方面に送電せしが、今後は事業の發展より地元に於て消化せられるに至り、當社の成績向上に齎す所蓋し多大なるものあらん。長野電燈は近年每期八分配當を踏襲し來り、信濃電氣又最近八分配當を行ひ、何れも業績堅實なるものありき。當社の昭和十二年四月一日以降八月三十一日迄の第一期決算を見るに、頗る良好たるものあり。即ち、電燈料收入百七十九萬八千圓、電力料收入一百一萬九千圓、其他の收入を加算して第一期五ヶ月間の經收入三百三十九萬五千圓に達せり。他方總支出は一百八十三萬九千圓に上り、差引當期利益金一百五十五萬六千圓を擧ぐ。右利益金中より四十五萬圓を資產銷却に充て、一萬圓を社債發行費銷却に充當す。尙ほ法定準備金に五萬五千圓、役員賞與金に四萬圓を計上し、八十八萬一千圓を株主配當に當てると共に、十二萬圓を後期に繰越せり。利益率一割四分に對し、八分配當を行へり。六ヶ月の營業期間にも拘らず頗る好成績といふべし。期末社債六百萬圓、長期借入金四百十五萬に上る。借入金の社債化は着々として行はれつゝあるにより、金融的懸念はなく、又資產內容に就いて今後更に堅實化を見るに至るべし。前述の如く電燈電力の需要に關しては今後愈々增加を見るに至るべく、信濃電氣の如く未開發の水利を多く擁しながら着手するに至らざりしものが、當社の出現に依りて水利の開發は大いに進捗を見るべく、その前途正に洋々たるものあり。長野地方の產業の發展に文化の向上に當社の今後の活躍こそ目覺しきものあるべし。當社の主腦陣は以下の如し。代表取締役社長小坂順造、代表取締役常務花岡俊夫、取締役名取和作、同湯淺三郎、同高橋保、同兒玉鶴一、取締役兼支配人大岩復一郎、取締役諏訪部元雄、同越六郎、同丸山盛雄、同小坂武治、監查役神津藤平、同鈴木雄次郎、技師長川原富治、囑託小柳忠二の諸氏なり。

社長　小坂順造　長野財界の重鎭にして、又多年政界に馳騁してその名聲顯然たるものあり。明治十四年三月長野縣善之助氏の長男に出生。夙に東京高商を卒業す。卓拳豪放にして個儻不羈、政界に鵬翼を張らんとして衆議院議員に當選すること六回、農商務大臣秘書官、同參事官、拓務政務次官等に歷任せり。現に貴族院議員として政界に牢固たる地盤あり。又財界方面に於ては長野商業會議所會頭、信濃銀行常務其他幾多の重役を兼ぬ。

常務　花岡俊夫　長野事業界屈指の俊髦たる氏は、長野縣人坂本重雄氏の令弟、明治二十六年三月を以て生る。花岡次郎氏の養子に迎へられて同家を繼承す。大正六年慶應義塾理財科を卒業す。現時信濃共榮社長、中外電力、信濃每日新聞、長野瓦斯各取締役、信越窒素肥料監查役等の要職に就き、縱橫に活躍せり。曩に長野電燈、信濃電氣の常務として、其事業を秉掌して、兩社を發展せしむるに多大の貢獻ありき。容性溫藹謹厚、寬容にして人を容るゝの度量あり。高潔なる人格は衆庶の深く畏敬する所たり。その將來を期待さるゝ所絕大なり。

（所在地　長野市吉田町）

合資會社 羽野商店

代表社員 羽野嘉七

先代良之助氏が、明治三十五年現業を創めたる後を承けて、その商才と非凡の手腕力量を認められて養子となる。今日當社の隆々の發展を來したるは其非凡の事業的手腕の然らしむるものと言へく先代の個人經營より、合名、合資と逐年、改組、改革を行ひ、能く時代に即應したる内容を以て堂々斯業界の第一線に活躍、その超凡の天稟と手腕は早くも各方面の認むるところとなれり。營業は益々殷盛を極め、今や獨自の立場を以て隆々進展を續けつゝありて、其の將來は期して待つべきものあり。資性温厚にして心性淡白、而も一面新進の氣象に富み、改造斷行の旺盛なる特異の手腕は當社の經營に多大の功績を擧げつゝあり。

（所在地　大阪市西區北堀江一番町）

日本電池株式會社

非常時局を反映して活潑躍進、正に未曾有の盛況を呈せる本邦工業界には、素より他に資本の巨額を誇り、或は規模の宏大を稱するもの尠なからずと雖も、其の製品優秀にして世界的聲價を博し、而かも傳統最古、基礎鞏固、營業方針の堅實無比なる代表的蓄電池製造業者を求むれば、何人と雖も日本電池株式會社を屈指せざるを得ざらん。

抑も當社は遠く明治の中葉、未だ我國斯業界の發展進歩、極めて遲々たりし時代に其の端を發し、以來經營主宰者の不撓研鑽、加ふるに拮据經營せる賜は、製品の改良或は業運の伸展に着々其の實を擧げ、以て躍進又躍進殊に歐洲大戰勃發するや、業績一段たる振興を示せる爲、茲に大正六年正月に迨んで、規模を擴張、内容を充實せしめ、株式會社に組織を變更して當社の設立を見たり。爾來近代的企業形態の下に漸次生産施設の完備を圖り更に多年の經驗を基礎に技術の向上、新製品の完成等に邁進せる處、ジーエス蓄電池なる名稱を有し、移動並に据置用等凡ゆる用途に適する當社製鉛蓄電池の聲價頓に喧傳さるに至れり。而して販路亦た廣汎に亘り、國内は勿論遠く歐米諸國、印度南洋方面等國際市場に進出して日本製品の眞價を昂揚なし、全需要界の絶讃激賞を博す。蓋し業勢伸展興隆の一途を進み、今や斯業始祖の最優最良會社として、社名業界に冠たるも、當然の歸趨ならん歟。

斯くて逐年大を築ける當社の營業課目を概述なせば、即ち鉛電池製造に關して、内外百有餘に及ぶ特許、更に三十有餘に亘る實用新案を適用せる一方、理想的原料にして當社の誇りたる世界各國特許亞酸化鉛を採用、以て既に原料界方面に一新紀元を劃せる偉大なる功績あり。而して當社製品は一、ジーエス蓄

電池（ペーステッド式蓄電池、グラサノート式蓄電池、エボナイトクラッド式蓄電池、チウドル式蓄電池、クロライド式蓄電池、蓄電池部分品及附屬品）二、充電器（グライター水銀整流器、スタンダードタンガー充電器、酸化銅充電器、充電器部分品及附屬品）三、宇田式超短波無線電信電話器等にして夫々斯界の白眉を以て推稱さるゝは勿論、現に海軍省、陸軍省、鐵道省、遞信省等各官廳の指定工場たる榮譽を擔ふのみならず、亦た嘗て日露戰役に際し、艦船無線電信用蓄電池を製作海軍に上納せるを始め、其後大正四年御大典には御召列車點燈用蓄電池を謹製上納し、或は　聖上　皇太子にあらせられし御時、京都行啓の御砌、京都府廳に製品を出陳臺覽に供し、島津社長御説明申上ぐるの光榮に浴せり。其他各皇族宮殿下御臺覽を仰ぎたること再三に止まらず、幾多の光榮燦として當社發展史上に輝き居れり。

因みに十二年度上半期に於ける總收入金は三百三十四萬四千餘圓、亦た別途積立金繰入二十萬圓にして合計三百五十四萬四千圓。一方支出に於ては總支出金二百八十八萬六千餘圓、創立二十周年記念事業費十九萬九千餘圓にして合計三百八萬六千餘圓。之が差引當期利益金四十五萬八千餘圓なり。而して建物機械器具償却費七萬圓を控除すれば、即ち當期純益金三十八萬八千餘圓にして、前期繰越金二十一萬五千餘圓と合算、六十萬三千餘圓に及び、之を處分するに、諸積立基金十萬圓、役員賞與金四萬圓、株主配當金二十二萬五千圓（但し舊株三圓、新株五十錢）等にして、後期繰越金二十三萬八千七百餘圓を計上し居れり。斯くて歳月と共に業績擧れる處、當初の資本金三百五十萬圓を五百萬圓に增資し、今回更に倍額增資を斷行して一千萬圓と爲し京都吉祥院（省線桂川鐵橋東詰）に數萬坪を買收し、新計畫たる三倍增産を實現すべく、既に着工せるが、この積極的方策こそは、新天地たる北支方面に進出する意圖にして、斯業界の聲目するところたり。現在重役陣に左の諸氏列し、何れも業界錚々の偉材たる、論を俟たざるべし。即ち取締役社長島津源藏、常務取締役岩城純一、取締役加藤武男、同島津常三郎、同大倉高七郎、同内貴清兵衛、同河村驥、監査役島津源吉、同松本鑰太郎、同大倉直介諸氏なり。

取締役社長　島津源藏　我が産業界に寄與貢獻する事二世に亘り、業界の開發の大人格にして大見識たり。由來島津家は累世薩國縣御笠村に居住せし舊家たりしが、先代源藏翁は獨往不羈、機敏の天資を有し、凌雲の素懷ありて上洛、理化學用器械の製作に從事し現時隆々たる島津製作所を開基せる鴻業たりき。氏はその長男、明治二年六月に出生。同二十七年家督を相續し、前名梅治郎を改め製名す。夙にジーエス蓄電池を製造して、今日の日本電池會社を興したる賢材、大正五年實業精勵の故を以て綬綬褒章を綬けられ、勳五等を賜ふ。現に當社統帥の傍ら島津製作所社長、島津合名代表社員にして、老境能く我が産業界に盡瘁しつゝあり。

常務取締役　岩城純一　石川縣士族岩城良太郎翁の長男、明治十八年一月の生誕。資性聰明にして頴才、超凡の研究心を藏す。長ずるや學を東京高師を經て京都帝大理工科に修め、優秀の成績を以て卒へたる秀才。今や當社常務の要職を占め、島津社長の良佐として且暮恪勤　當社興隆に資せる功勞者たり。

（所在地　京都市上京區新町通今出川上）

株式會社 淺野組

海陸運輸機關の進展は世界地圖の人工的縮少をなし、東西南北縱横自在、宛然毛細血管の如く帝國の領土を馳驅する國鐵と共に、劃期的飛躍を見せつゝあるものは、海陸運繫の本邦運輸界なるべし。然して敢て規模の宏大

を誇らずと雖も、創業以來堅實と信用を以て斯界の角逐場裡に超然として牢固たる業礎を確立して、追從を許さざる獨得の飛躍をなしつゝあるものは、我が淺野組なるべし。當社は即ち海陸運輸及勞力請負業を目的として、昭和三年の創立、資本金六十萬圓全額拂込濟現時營業を本社營業所の外、梅田營業部、安治川口營業部、櫻島營業部、上本町營業部、京都營業部、尼崎營業部の數ケ所に設置し、全社員一致協力、文字通り勞資協調の實を顯現しつゝ、絶對信用を以て堂々斯業界に隆盛を續けつゝある當代稀に見る會社たり。尙役員は代表取締役淺野秀藏、專務取締役淺野鹿之助、取締役淺野新藏、同中堯重、同佐久間成一、監査役山崎猛の諸氏なり。

代表取締役　淺野　秀藏　明治二十一年十一月を以て、淺野市藏氏の二男に生れ、小濱中學校卒業後父業を繼ぎ、昭和三年組織變更と共に現職に就く。資性溫厚にして內に縱橫の商才を藏し祖業を辱しめず、父母に仕へて至孝、特に信仰の念深く、熱心なる天理教信者なり。當今人心弛緩するの傾きありて慨歎するとき、氏の如き在りて獨り祖廟を重しとするは、吾人の意を强くするに足る處なり。趣味として洋樂に造詣深く、其の技素人の域を脫せりと仄聞す。

專務取締役　淺野鹿之助　明治二十五年二月を以て、淺野市藏氏の三男に生れ、現に專務の外淵戸運送取締役たり。溫厚たる風貌と共に寛宏たる情味を湛へ、而も他人に城府を構へず、眞に親しみ易き紳士なり。事に處して周到にして緻密、所謂實踐躬行の士。而かも令兄秀藏氏の良佐として、常に店員と共に營業の第一線に立ち事業の充實、信用の招致の爲獻身的努力を傾注しつゝあり。

（所在地　大阪市北區芝田町一〇三）

東邦炭礦彌生鑛業所長

川　合　金　治

北海道に於ける優良炭山として知らるゝ東邦炭礦會社彌生鑛業所所長として、大いにその手腕を發揮せる氏は、福岡縣京都郡の出身にして、熊本五高工學部に學び、明治三十五年に卒業す。直ちに三井經營の九州田川鑛業所に入り、同所にありて精勤すること十年。當時炭鑛業の設備未だ幼稚にして、幾多の缺陷を藏せり。玆に於てか氏は採炭設備の研究を決意し、之が研鑽に奔命す。氏の努力の功空しからず、種々の發明を完成し、數多の改善を遂行して多大の功績を樹つ。氏の明敏なる頭腦と堅忍不拔の意志とは三井首腦部の認むる所となり、大正元年抜擢せられて北海道夕張登別炭礦々業所長技師に擧げらる。其多年の研鑽と蘊蓄は玆に遺憾なく發揮せられ、舊來の經營竝に設備は改革刷新せられ、面目を新にす。他面坑夫の住宅改善に意を注ぎ、彼等の精神的向上に力を盡し、能率又大いに增進す。昭和三年には美唄砂川礦業所創業せらるゝに及び拔擢せられて所長となる。然るに同所の設備不完全の極め採炭量又僅少なるにより、氏は設備の改善竝に能率の增進に心血を注ぎ、苦心慘澹不眠不休の努力を以て之に當れり。斯くて、設備の一新せられると共に採炭量激增し、その規模その生產量は現時見るが如き東洋屈指の大炭山となりたり。職員職工の住宅の如きも種々の文化的施設を採用して模範住宅の稱あり。又坑夫の貯蓄奬勵生活改善の爲めに七分五厘の高利を以て貯金を預るなど、從業員の福祉の增進に寄與する所鈔からず。斯くて氏の名聲は廣く業界に喧傳せられ、その材幹は人の嘆稱して置かざる所となりて、東邦炭礦會社首腦部より懇望あり、又三井重役よりの了解を受けて、昭和十一年七月三井を勇退して東邦炭礦彌生鑛業所長となる。その任に就くや從來の諸制度諸設備の刷新に染着して、機械の改善、新技術の採用に努めて能率の增進を計り、他面坑夫住宅の改良、その他の待遇に就いても大いに改善をなし、或は道路の改修衞生施設の改革等を

計り、彌生鑛業所は一躍して業界の模範炭山となり。設備に能率にその優秀を誇るに至れり。氏は三井に恪勤すること實に三十五年、北海道に在ること既に二十五年を閱す。資性溫厚實直、至誠至直終始一貫以てその業に携り來れり。名利に超脫して眞摯その業に當れり。潔白廉直なる人格は夙に從業員の欣慕を集むるに足れり。因に氏は明治十一年一月の生誕。先年北海道大演習に於て鑛業關係事業功勞者として特別拜觀を許され、賜饌の榮に浴せり。

（住所　北海道空知郡三笠山村幾春別）

大日本紡績株式會社

當社は遡く明治二十二年六月、尼崎紡績の名の下に誕生し、同二十四年二月操業を開始せる當初資本金僅に五十萬圓。爾來半世紀を經て現に資本金一億一千萬圓を抱擁するに至れり。其間東京紡績、日本紡績を合併し、大正七年に至りて當時の紡績界に指導的優位を誇示せし、摂津紡績を合併して現社名に改稱し、其後に於ても日本絹毛紡織、鹿兒島紡織の二社を併呑し、事業の膨脹に伴ひて增資を行ふ事、前後實に十二回に達ぶ。創業以來堅實方針一貫を堅持し、專ら社內の充實に努力し、從而依然尨大なる擴張計畫遂行に獨特の手腕を有し來れり。昭和十一年十一月に至りては將來一層の飛躍に備ふべく資本金五千二百萬圓を一擧一億一千萬圓に增加を斷行し、今回更に岸和田人絹を合併、一億一千三百萬圓を擁するに至り。業界を瞠目せしめたり。玆に當社の現勢を觀るに、綿紡工場を尼崎、津守、東京、一宮、明石、平野、大垣、郡山、高田、關ヶ原、鹿兒島、貝塚、大高、上海、青島、天津、水原に、絹紡工場を岐阜、山崎に、人絹工場を西大垣並に垂井に、人絹工場を清津に、加工々場を京都に設置し、何れもその設備の優秀に於て斷然他の追隨を許さず。即ち當社は昭和六年、不況以來、同業他社に率先して鋭意設備の改善、工場の改廢、新鋭工場の建設に一途邁往せる結果、今や斯業界の模範工場と稱せらるゝに至れり。而して前記各工場の設備能力（昭和十二年上期末現在）は綿紡一百二十八萬五千八百二十錘、綿織一萬四千七百五十四臺、撚糸三十七萬二千五百三十四錘、綿布加工月產十二萬五千七十一反、絹紡五萬四千四百二十錘、紬紡三千九百六十八錘、絹織一千四百三十一臺、毛糸紡一萬一千七百四十錘、人織日產二十二瓦五人織紡機七萬七千八百四十錘、人織機械一千四百六十八臺にして、內織機八百八臺、人織十五瓦、人織紡三萬八百四十錘、人織織機三百六十臺は、十二年下期に完成す。十二年上期の生產高は綿糸二十六萬五百十六梱、絹糸十二萬貫、綿布一億五千七百七十九萬二千方碼、絹布七百二十三萬二千碼、紬糸三萬八千三百十九貫、加工綿布（三千二百九十九萬九千方碼、人織（レヨナー）二百六十九萬六千封度、人織糸（レヨネツト）三百二十七萬封度、人織布（レヨネクス）三十八萬一千封度を計上せり。尙その翼下に在る日本レヨン會社の特權は殆んど當社株主に分讓し、僅かに八千株を所有するに過ぎざるも、經營關係は依然密接裡に在り。尙當社の飛躍は朝鮮、北支に綿紡織十三萬八千二百餘錘、綿織機六千百餘臺、人絹日產二十瓦、綿布加工月產十萬反を增設し、十三年度に順次完成の豫定なり。之等完成の曉を想倒せば、その偉容は更に燦然たる光輝を放ち、我紡績界及び全纖維工業界に更に一大偉力を加ふるに至るべし。一方當社の成績を觀ふに、上叙の如く數年來の積極政策と、經營策老功のため、收益は每期向上し、十三年上期の利益金は七百五十四萬一千圓、內固定資產銷却三百萬圓、差引純益金四百五十四萬一千圓之に前期繰越金、二千二百九十六萬圓を合計二千七百五十萬二千圓を擧げ株主配當（一割二分据置）後期に二千二百三十一萬二千圓を繰越して、餘裕綽々の處分をなせり。今や全纖維工業界は好調にあ

るも、その前途幾多の難問題を控へて、戒心を要するものありとするも、當社の前途の如き威力と經營の老練とは能く其時艱を克服して、更に本邦産業發展に絶大なる寄與貢献をなさん。

因に陣容は會長菊池恭三、社長小寺源吾、常務今村奇男、同倉田敬三、同田代重三、同大島茂、同三村和義、取締役松村謙成同本咲利之助、同黒田高三郎、同松田元、常任監査役原田忠雄、監査役伊藤萬助、同岩田宗次郎、同辰馬悦藏、同竹村清次郎の諸氏なり。

會長 菊池恭三 我國紡績界三巨人の一人として偉大なる足跡を貽せる逸材なり。安政六年十月愛媛縣菊池恭茹翁の令弟として出生。明治十八年東大機械工科を卒業、爾來紡績業に從事し、その發達に貢献身的努力を捧げ來れり。大正十五年貴族院議員に勅選せられ、曩に大日本紡績聯合會委員長に推擧、大正四年工學博士の學位を受く。同二年藍綬褒章、同十年紺綬褒飾版を賜ひ正六位に叙せらる。現に當社會長の傍ら共同信託會長、日本レーヨン社長、日本郵船、三和銀行其他幾多の役員、相談役等に推される。

社長 小寺源吾 明治十二年九月岐阜縣西松喬翁の令弟として誕生し、同縣小寺成藏翁の養子となる。長じて慶應義塾に學び、同三十六年理財科を優等にて卒業す。爾來實業界に身を投じ、大正七年當社に入り、常務取締役として其才腕を驅使する事多年。次で現職に推さる。傍ら日本レーヨン、國策パルプ工業各取締役たり。

（所在地　尼崎市東本町一丁目）

上野精養軒

上野精養軒は上野公園の樹林に圍繞されて自ら別天地を形成し、清洒壯麗の建築物に豪壯高雅の内部の調度に、或は美味佳良の山海の珍味に接する時、まさに身は童話の中の宮殿に客となれるの感を受く。日夜豪華目を奪ふ盛宴張られ、内外の賓客招ぜられ、朝野の貴顯鶴輿を枉げて、その盛なること帝都隨一を以て稱せらる。善美華麗の調度を備ふる大小數多の室ありて、各室よりは眼下に不忍池の風景を賞づるを得、小人數より大は二千人迄の客を接待なし得るの設備を備へり。その施設甚だ完備して、出雲大神の御分靈を奉齋して典雅壯殿の結婚式場を設け、清麗優美の化粧室、髪上室を備へ、優秀なる美容師或は寫眞師を聘し、結婚披露宴には斯界有數の料理人の苦心になる料理を供して、一代の盛儀に錦上更に華を飾ること〻せり。園遊會には各種模擬店、裝飾、餘興等一切引受けて、參會者に充分歡を盡さしめ、又茶話會、クラス會には低廉なる費用を以て會を盛ならしむるべく細心の配慮をなす等、その懇切細心のサービスは精養軒今日の盛名ある所以として、來會者何人をも嘆服せざるはなし。グリルは瀟洒にして明朗なる近代的感覚滿ち、美味なる料理を賞味する時、其快適なること云はん方なし。殊に酒場は洋酒の粋を蒐め、多年歐米に於て修練を經し名シェカーが客の嗜好に應じてカクテルし、多大の滿足を與へつ〻あり。上野公園は四季それ〴〵の趣味に富み、自然の風物まことに親しむべきもの多きに着眼して、庭園食堂を特設して非常なる好評を博せり。されば上野の風致を慕ひて杖を運ぶ者、庭園食堂に來るは尠しとせざるなり。又撮影室を設置して優秀なる技術家を置き、結婚式に、其他各種會合の記念撮影に便宜を供せり。當軒には斯界に令名ある料理人數多揃ひ、その調理の美味なること夙に嘖々たる名を博せるが、註文に應じて仕出料理をなし指定の場所に調理人給仕人赴きて一切を辨ずる等、眞に奉仕的に一般の用命に應ぜり。施設調度の美麗にして完備せるに止らず。一般使用人亦頗る懇切丁寧にして、掻き所に手の屆くが如く、そのサービス至らざるはなし。又

經費に於ても必ずしも多額を要せず、低廉なる費用を以て豊富充實せる宴席、會合或は會食なし得るが故に、絶大なる讃辭を受けつ〻あり。まことに上野精養軒こそ斯界に於ける最高峰なるが、また何人も安んじて各種會合に利用するに絶好なるを以て、廣く市内に營業所を設置して江湖の間に多大の好評あり。資本金八十五萬圓の株式會社として經營せられ社長福島茂富、專務岡本正次郎、常任監査役鹽谷靜夫、支配人荻野守藏の諸氏專ら經營に鞅掌して大いに好成績を擧げつ〻あり。

社長 福島茂富 資性溫恭謹恪、寛容にして敦厚を以て名望高き氏は、熱心に經營に盡瘁し、内外各地の同業者の長を採り入れ、幾多の改革を加へて多大の好評を博せり。

專務 岡本正次郎 斯業に關する蘊蓄深く、經驗又豊富にして、斯界に聲名を馳すること久し。業務の改善、設備の充實等絶大の苦心を拂ひ、その手腕に依りて當精養軒は内外人の間に絶大なる讃辭を博せる所以なりとす。

支配人 荻野守藏 精勵恪勤して事業に沒頭し、經營に才腕を揮ひて、斯界に大なる名聲あり。資質溫厚篤實、襟度宏くして仁情に厚く、公平無私にして抱擁性に富み、多數の從業員より慈父の如くに敬仰さる。頭脳甚だ緻密にして周匝萬敏、今後大いに頭角を現すの士として好評嘖々たり。

（所在地　東京市下谷區上野恩賜公園内）

日産自動車販賣會社相談役

石澤愛三

我が國に於ける自動車工業界は、國力の充實と産業の伸展とに相俟つて近年急速の發達を招來し、特に昭和十一年九月自動車製造業法の施行せらるゝと共に、國産自動車の進出は目覺しく、今や輸入自動車と相對して隆々の飛躍を遂げつ〻あるは、邦家の爲め慶賀に堪えざるところなり。就中、日産自動車は其の覇王として全國を席捲し、堂々國産自動車の爲め萬丈の氣を吐き、國策に順應して鋭意健闘したる結果、其の性能に於ては既に實驗濟にして、何等外國製に遜色なきまでに至りたり。然りと雖も斯業は其の經營に於て、將亦技術に於て尚一層の研鑽と向上を要するは言を俟たざるところにして、之れが人的要素の重大なるは、上下の齊しく認むるところなり。石澤愛三氏は我が國自動車發達史上特筆大書すべき功勞者にして其の功績沒すべからざるものあり、今日の隆盛を見たるは氏に負ふところ甚大なりと言ふも、過言に非らざるところなり。現時第一線を退きたりと言ふも飛躍日産の推進力として日産自動車販賣及昭和自動車兩社の相談役として重きをなし、其豊富なる經驗と卓拔なる識見に於て、盤石嘖々たるものあり。氏は舊信州飯田藩家老誠吾翁の三男、明治十一年八月を以て生れ、夙に早大政經科を卒業。爾來實業界に進出して刻苦勵精せしものにして、彼の世界大戦の直後漸く我が自動車工業界の勃興機運に直面するや、逸早く之れが啓發に專念し、日夜奔命すること久しく、遂に今日斯業の旺盛を招きたるものにして、曩に日本自動車及ダットサンの兩社を主宰し、名社長として卓腕を縱横に揮ひ、錚々の業績を貽したる、蓋し我自動車界の先覺的元老として推稱すべき人物なりとす。資性剛放磊落にして周到緻密、常に熱烈なる日本主義の觀念を抱き、斯業の普及徹底化に、一路精進しつ〻ある偉材たり。

（住所　東京市小石川區關口臺町七四）

株式會社

中山製鋼所

國家産業の將來に憂を馳を、夜々營々既に二拾春秋。苦行難行は潑剌たる業績の盤紆に會ひ、逐次異情の成績を擧げ、而も其經營方

針は僅乎として堅實にして多角合理の極致を極め、畏くも其社業國家に緯益する所以を以て、嚮に侍從御差遣、並に秩父宮殿下、賀陽宮殿下、遞輦皇兄殿下御臺臨の光榮に浴す。今やその跳躍的進展は業務の殷賑を極め、同業强豪をして驚然畏怖せしむる惑星的存在として其動向を刮目さるゝ當業界の俊髦たり。

當社は過ぐる大正八年、現社長中山悅治氏が赤手空拳、微々たる個人經營を以て尼崎市に亞鉛鍍金業を起せしに淵源を發す。而してその生産に拘る「三ツ星」印トタン板の聲價は斷然斯界を壓して業績逐次昂揚し、大正十三年株式會社中山悅治商店の組織なるや、其原料鐵板の國内生産の不足に鑑み、中山社長深く思を爰に瑳し、驀然立ちて中山製鋼所を創立し、年産七萬瓲の製造に着手し、年額二千萬圓の輸入を一擧に防遏し、更に海外進出を目指して保税工場を設置して我が國際收支に貢献し、踵でワイヤーロット、厚中板の自給自足に進出、以て現時年産二十五萬瓲計畫を見事達成、昭和九年六月機構を擴充して、資本金二千萬圓と爲し、嚮に倍額增資の爲臨時資金調整法に伴ふ許可申請を以て許可を得爰に一擧資本金四千萬圓を擁するに至り、五月一日第一回拂込を敢行せり。而して當社事業は壓延鋼材と共加工品にして前者の内容は厚板、薄板、線材、中板を主と爲し、之れにアングル、小型品を兼ね。板、線材中心經營と稱するも多禮多樣なり。後者は亞鉛鍍鐵板鋲力、針金、釘等々にして多角經營を堅持し一面製鋼一貫作業の儼たる信條は、生産費の低廉と共に、免税の特典に浴し、以て創立以來の素懷に邁進す。殊に昭和十二年春季に迨んで、五萬株を公募せし爾後俄然その盛名宇内に洽聞するに至れり。而して其間大正十三年以來各種博覽會、展覽會に出品の都度賞牌其他推奬狀を授與さるゝ事實に數十回、曩に大阪優良品協會の推薦に依り、優良國産品製造並に輸入防遏に對する當社の功績顯著を確認せられ、昭和五年十月二十五日、賀陽宮殿下御臺臨、同年十一月二十四日遞輦皇兄殿下御臺臨、同六年八月二十二日、秩父宮御臺臨同七年十二月十二日　今上陛下侍從御差遣の光榮に浴せり。

當社昭和十二年度の業績は實に奇想天外、躍進無双の好成績を擧げ、勿驚、利益率四割以上八割に到達したり。而も尚ほ内面償却少なかりしかば八分乃至一割配當は極く内輪なるものと謂ふべく、同年下期の資産内容を觀ふに、内部負債は二千七百八十三萬一千餘圓にして、外部負債は七百六十一萬三千餘圓なれば、洵に均衡適合の堅實味を示現し、而も内部負債は拂込資本の一割四分に相當し、更に固定資産は鋼材年産瓲當り五十餘圓なるは些か高き嫌ひあるも加工設備・電氣爐設備を考慮せば、決して不堅實なる評價に非ざるなり。之れを同業古家會社に對比するも、毫の遜色を認められず。而して當社今後の業況を豫斷するに熔鑛爐五百瓲一基は今秋完成の豫定にして更に熔鑛爐一基並に平爐增設計畫中と聞く、今後の鐵鋼需要增加は我重工業の飛躍と、化學工業以下一般産業界の膨脹に加へ北支開發に期待せらるゝ爲め益々增嵩を迎るは必至にして、供給過剩の不安毫末もなし、斯かる情勢に在りて、當社は銑鐵一貫作業の强味を有し、製品實に多種類にして、加工設備の整然たるは更に營業上能率萬點なれば、其將來は洵に汪洋たるものありと斷言せらるべし。

因みに現陣容を見るに、取締役社長中山悅治、常務取締役片桐仲二、取締役武文彦、同池尾芳藏、同中山半、一松政二、中山登、監査役林市藏、同小野義夫の諸氏なり。

取締役社長　中山悅治　大阪に於ける工場の溫床たる木津川畔、雲表に聳ゆる鐵骨クレーン、凡ゆる近代的設備を擁する五萬數千坪の場域、大煙筒より吐く濠々たる黑煙は、將にその潑剌たる活動を無言にて誇示するの慨あり。之れぞ現下産業界の代表的會社、非常時日本産業界の代表的人材として偉名を謳はるゝ中山悅治氏秉掌する中山製鋼所たり。

氏は福岡縣人中山半藏翁の五男、明治十六年七月の生誕。同四十二年分家一家を創設す天資機略縱横、挺身報國の熱腸兒なり。當社創業途上幾多の苦艱を突破し靈し、覇業成就のため心身を睹して死また安きを顧みざる不拔の精神を持して、今日の聲望を得。氏しかも驕ることなき人格者たり。今や曩古非常の時局に際し、氏の健在を觀て櫻花一瓣の芳香を迎りて、陽光既に動く感あり。切に健闘を祈らん。

（所在地　大阪市大正區鶴町三）

藤田合資會社

當社は我が國防水布製造事業界の創始者にして明治十七年の創業。其沿革の古きことに於て、我が斯業界の王者と謂ふべきなり。今や資本金三十萬圓を以て、大阪市南河内郡に六百七十餘坪の廣大なる工場を有し近代機械の優秀と、七十餘名の優秀技術從業員を擁し、大々的活動をなしつゝあり。一ケ年の生産能力は、貨車用雨覆布二千五百枚、雨衣三萬五千着、第三種屋根張防水布十二萬米、藤田式塗料四十五萬立、幌地八萬米を産出、其の製品、販路は鐵道省納入四十萬圓を筆頭に、臺灣、朝鮮、滿洲の各官廳及民間より遠くカルカッタ、シドニーに及び、當社のゴム、油脂、アスファルト等は全國に其の進出目醒しきものあり、社勢は益々好調、日に月に隆々たる發展を遂げつゝあり。其の製品の優良なるは論を俟たず、藤田式セーフチー塗料及各種防水布の總ては同社獨得のものにして、專賣特許たり。當社初代は故藤田吾三郎翁にして、翁は岐阜藩の指南範三百石の劍士たりしが、會津藩に赴きたる時、寓々外國より渡來せし防水布に着眼、之が製造販賣に着手、研鑽を重ぬること十數年にして、翁獨得の優良防水布の製造に成功したるものにして專賣特許を受けたるは勿論、内地及米國に於ける博覽會に出品して、夫々賞狀を獲得したり、その斯界に貢献したる功績甚大なると云ふべし。蓋し翁を以て本邦布製雨具及防水布製造業界の先驅者と稱す可きなり。之を綱ぐに二代目源治氏、三代目次郎氏を經し、現代表社員文三氏等の努力家あり、而して克く翁の偉業を享禮販路の擴張に奔走し、今や業績益々顯著なり。

前代表社員　藤田次郎　第三代目當主にして、本年三十二歳、京大獨法科出身の秀才にして、現に藤田合資會社の首腦社員として、其の實權を掌握、縱横に才腕を揮ひつゝあり。正に氏を以て父祖二代の歴史的事業を一段の飛躍に躍進せしめたる守成の功勞者と云ふべきなり。資性明朗潤達にして常に事業發展への努力を續け、工場の能率增進に其深遠なる學識を以てなし、生産の合理化と販路の擴充、製品の優良をモットーに日夜健闘しつつあり、近代稀に見る熱血實業家にして、而も溫厚篤實なる好紳士なり。尙現代表社員文三氏は同窓にして、同家に養子となり、其の經營手腕の優秀なる點次郎氏と名コンビを爲し、曩に代表社員の要席を讓られて今日に迨ぶ。而もこの名コンビを自由に活躍せしむるに後見役たる營業部擔當者山本眞一氏の敏腕あり。氏は先代より十數年間の勤續を全ふし、精勵格勤にして、溫厚なる人格を以て忠實二代に仕へたる名家老たり。現在當社營業全般を切り廻はす柱石的人物にして、當社今日の繁榮は氏に負ふところ少なからず。

（所在地　大阪市住吉區天王寺町三五〇八）

日本齒科醫學專門學校

閑靜高燥にして交通便利、而かも市内屈指の眺望絶佳なる高臺に校舍を構え、其の斬新鮮麗にして、堂々近代建築美の粹を誇る財團法人日本齒科醫學專門學校は、夙に本邦齒科

教育界に光輝燦たる最古の傳統を有し、幾多齒科刀圭界に有爲有能の逸材を輩出せる稀有の優秀校なり。

抑も本校は明治三十六年三月、勅令第六十一號並に文部省令第十三號に據り、同四十二年八月十二日を以て舊日本齒科醫學校を改稱せるものにして、其の起源は、即ち明治四十年六月、時の日本齒科教育會長中原市五郎氏設立者となり、同年七月二日開校せし私立共立齒科醫學校に濫觴し、越えて同四十二年六月私立日本齒科醫學校と改稱、更に昇格して現校名に改め、其後大正八年十二月設立者中原市五郎氏の寄附に基き組織を財團法人に變更し、爾來星霜幾變轉、其間常に斯學研鑽の一大學園として、内容規模の充實に鋭意努力を傾け以て偉容斯界に冠たる現今に及べり。今や校内外の諸施設完備せるは勿論、附屬病院の如きも、最新醫科學の粹を執りたる設備の完璧を誇り、而かも斯學に練達堪能なる名手多數を擁し、其の懇切丁寧なる實地指導、或は學術教授の下に、全學生孜々として修學に精進練磨を累ぬる處、學燈煌々として帝都醫學教育界に特異の光彩を發し、以て校名夙に顯然たり。因みに修業年限は四ケ年、亦た入學資格は中等學校卒業者、專門學校入學者檢定試驗に依り指定せられたる者、及び同規定に依る試驗檢定合格等にして、年々入學志望者漸增の趨勢を呈せるは、蓋し本校の聲價籍甚なる一證左と云ふべく、且つ綿蘭臺華なる齒科醫學の大殿堂たるを親知すべなり。

校長 加藤清治 長野縣人岩太郎氏の二男、明治十八年十一月を以て呱々の聲を發し、夙に齒科醫學界に大志を馳せる處、研鑽勉學、克く優秀なる成績を保持して同四十三年日本齒科醫學校を卒業後、更に渡米して米國ノースウエスタン大學齒科に鑛骨研究の星霜を累ね、遂に斯學の蘊奥を究む。歸朝後母校に教鞭を執り、熱誠一貫、學生の指導薫陶に遇進せる處、其の深甚該博なる學殖と練達至妙の技倆とは相俟ち、學生間の人氣沸騰するのみならず、更に崇高稀に見る人格者として、敬仰欽慕の的たらざるはなく、學德共に同校内を風靡するに至れり。即ち當校教授より理事に進み、更に校長兼專務理事の要職を擔ひて、今や令名斯界に嘖然たり。

斯くて多年に亘り至誠を披瀝し、專心本邦齒科醫學の進歩向上に資する功勞多大なるものありて、正七位に敍せらるゝの光榮に浴し、現在更に當校附屬病院長を兼ね、或は侍醫寮御用係を拜命して、名實共に齒科刀圭界の重鎭たり。

（所在地　東京市麴町區富士見町一丁目九段坂上牛込見附通）

株式會社 木本シャーリング工場

我が木本シャーリング工場は、大阪市有數の工場地帶たる港區南境川町に施設完全なる工場を構え、敢て美名を博せずと雖も、既に同業界に隱然たる實勢力を扶殖し、其の信望隆々たると技術の優秀卓越せるとは斷然他に匹儔を見ざる處なり。即ち當社は大正五年の創業にして、當初個人經營にて規模微々たる小工場に過ぎざりしも、鋭意技術に練磨研鑽に精進を怠らざる處、夙に業界に定評を贏ち得て信用激增し、加ふるに堅實無比を誇る營業方針は、幾多鐵商界の波瀾恐慌に際會するも、常に難關障碍を突破して着々業運を伸展せしめ、其の業礎の鞏固不搖たる、正に業界讃歎の的たるを失はざりき。斯くて昭和六年滿洲事變勃發し、一般鐵工業の飛躍的發展に伴ひて、業勢恰も破竹の勢を以て膨脹興隆し而かも受注益々旺盛にして、到底從來の施設規模にては、之を充分消化し得ざるに及びし爲、玆に昭和十二年一月、資本金四十五萬圓（全額拂込濟）を以て株式會社を設立、其の營業一切を襲承し、更に内容の充實、規模の擴張を圖りて問然する處なく、今や現所に堂々四隣に冠たる一大工場を設置し、最新式優秀

を誇る諸機械器具の整備せるは勿論、亦た業況の繁忙多端、殊に激甚の度を加ふるや、更に商談應接の好適所たらしむるべく、遂に豪壯華麗なる理想的事務所を新設、以て從來の壯觀に更に一如の精彩を加ふるに至れり。因みに年商額一千萬圓を超え、現在重役陣に在るは社長木本勇二、專務取締役釜谷玉喜其他業界屈指の逸材なり。

社長 木本勇二 淡路の出身、資性溫厚誠實にして卓牢不羈なる反面を有し、夙に斯界に身を投ずるや、專心業務修得に粉骨碎身すること爍星霜、斯くて獨立自營の機運熟し、當工場を設立營業を開始して以來、更に不撓精勵、克く今日の盛運を獲得せる奮鬪成功傳中の一偉材。即に千歲伸鐵、關西プレス各專務取締役、中央製鋼監査役を兼ね、名實共に斯界一方の重鎭たり。

專務 釜谷玉喜 社長の令弟にして亦た非凡の協力者、爲人溫厚平率、其の風貌は接する者をして驩蕩たる春風裡に在るの感を起さしめ、一見他奇なきが如くなるも、稜々の氣骨を藏し、即職に就任以來、努力勵精能く令兄を扶けて業績を顯著ならしむる一方、千歲伸鐵常務を兼ねて令名嘖々たり。

（所在地　大阪市港區南境川町二丁目）

野村證券名古屋支店長 森下廣

「堅實なる投資の機關に任じ、斷じて投機の機關たらず」を標榜して、我が國證券界に異彩を放つ片岡普吾氏を社長とする野村證券株式會社の名古屋支店長として、中京財界に其の存在の重きをなす森下廣氏は、岡山縣森下吉太郎氏の長男として明治三十年一月廿日同地に生れ、大正十年、慶應大學理財科卒業後渡米、コロンビヤ大學に學ぶ。大正十三年同大學を卒業歸朝後、直ちに野村證券株式會社に入社、累進して昭和五年新潟支店長となる、昭和九年、東京支店長代理。經て本社營業部次長に榮進、進んで同年京都支店長に榮轉、同十二年名古屋支店長として中京財界の中心地に進出して今日に至る。氏の手腕は既に定評あるところにして、中京財界に於ける氏の行動は日々新なる光輝を加へつゝあり、資性溫厚にして穎才群を拔き、其の力量識見の非凡なる點、將來同社の參謀部員として實權を掌握すべき器たり、又流石に外遊具に新知識の吸收したる新人としての貫祿を示し、上品なる容姿と共に、今や中京財界の花形たり。紳士たり。信望を一身に擔ひ立つ新進氣鋭の士と謂ふべきなり。氏は又俳句に堪能にして、その吟風既に古淡の妙を得、洒脫奔放の賞ありて著聞す。妻女延子夫人は舊門を以て知らるゝ、兵庫縣山崎豊三郎氏の長女にして出生神戸市親和高女出身の才媛なり。家庭には長男茂君、長女道子孃、二女曉子孃の一男二女ありて圓滿なり。

（住所　名古屋市昭和區戸田町二ノ一〇）

上田商店

國際關係の險惡に備へて、我國は空前の軍備大擴張をなすの餘儀なきに至り、之れが爲めに生産力は大擴充を呈現するに至れり。而して株式界は愛に全面的大活況を顯現せり。東京株式取引所賣買高は一日百萬株を突破し東株創立以來の記錄を更新せるが、更に支那事變の勃發に依りて、巨億の事變費の計上せられるに及び、株式その他の有價證券への投資熱更に激成せられ、株界の今後は一段と活況に向ふことゝなるべし。株式投資によつて一躍して巨額の富を蓄積せし例數ふるに遑なし、利殖手段としては、他に冠絶するものあるも、これには愼重なる用意と共に取引店に對する選擇を誤まらざること肝要なり。上田商店は東京株式取引所々屬の長期清算取引、短期清算取引、實物取引國債取引の各取引員

として株界に信用を博し、その取引の堅強なるを以て顧客大いに殺到し、千客萬來多大の殷盛を極めり。當店は株界の變動一般會社の內情に關しては常に調査怠りなく、顧客の需に應じて、これが資料を提供し、懇切に指導をなす等、丁寧親切なる接客振りは、投資家の間に頗る好評嘖々たり。當店の經營方針は堅實の一語につき、その取引は頗る堅く、一般投資家に推奬するに足るの商店たり。顧客の激增に依りて近來多大の繁榮をなし、兜町に於ても絕大なる信用あり。

店主 上田厚吉 明治二十一年八月上田與三吉氏の長男として呱々の聲を揚ぐ。明治三十四年大倉高等商業學校卒業後、先考の經營する上田商店に入る。眞摯熱誠業務に携り、天賦の穎才を發揮して、多大の業績を擧げ、後ち上田商店代理人となる。大正五年七月先考の遺志を繼ぎて、當店の經營に軌掌することゝなり。機略縱橫業界に盤旋して大いに名聲を擧ぐ。一般取引員組合委員に推薦さるゝこと數次、業界の發展の爲に盡瘁して貢献する所多く、その聲望嘖然たるものあり。昭和十一年秋、政治經濟視察の爲に歐米を漫遊す。頭腦明晳にして視野廣く、株界屈指の俊邁として重きを爲せり。資性溫厚謹恪、敎養高くして品性甚だ典雅、氣韻俊邁にして心性敦謹、その才幹は業界に多大に推重せられる所なり。仁情に厚く店員より慈父の如くに崇敬さる。

（所在地　東京市日本橋區江戸橋一ノ三）

栖原漁業株式會社

當社は創業の古きと活躍の目覺しきとを以て、業界にその名周きものあり。抑々當社を經營せる栖原家は代々和歌山縣有田郡栖原村に居住し、明和二年に至り松前（現在福山町）に店舗を設けて事業を開始す。當時は內地と蝦夷地間の產物交易と漁業とを兼營せしが、後に至り專ら漁業のみを經營するに至れり。爾來今日迄二百年連綿として事業は繼續し來り、多大の繁榮をなせり。その間松前藩より天明六年に天鹽、北見、釧路、根室各漁場の請負を命ぜられ、寛政年間には樺太島の五十度以南の漁場の請負を又天明十二年には高田屋嘉兵衛沒落後の擇捉島全漁場請負の命を受け、何れも損失を顧みず銳意開拓經營に當れり。就中樺太の漁場開發は長年月に亘り、巨額の費用を投じて苦心經營し、露船の屢々海邊を襲ひて暴威を逞うせるにも拘らず、利害關係を度外視し忍戰苦鬪以て經營に當れり。斯くて明治八年樺太千島交換の直前には、その創開せる漁場數は灣內及東西兩海岸に亘り實に五十八ケ所の多數に及び、樺太島漁業の基礎をなせり。然るに千島樺太交換に依り、樺太引拂を命ぜられ、僅少なる引揚費用の支給を受けたるのみにて多年苦心して開拓せる漁場は拋棄するの止むなきに至り、その損害實に百數十萬圓に達せり。擇捉島に於ける漁場は引續き經營し年と共に多大の繁榮をなすに至る。鱒罐詰は明治十一年官設に係る紗那罐詰所を同二十年に拂下げを受け、後ち曾根家、紗萬都二工場を增設して年產約十萬函を製造するまでに發展せり。その製品は內地の外、佛國英國其他の諸外國に輸出せられ、又明治二十四年以來引續き今日迄海軍省に納入す。明治十三年鮭鱒蕃殖保護の爲め、私財を投じて擇捉島に人工孵化場を設立し、昭和九年に至り北海道廳に於て之を經營することゝなれり。斯くて製品需要の增大、設備の擴張により、事業發展し、大正六年二月會社組織に變更合名會社栖原商店を創立す。更に昭和六年四月漁業を分離して株式會社組織に改む。現時資本金八十五萬圓にして、擇捉島に於ける所有漁業權は鱒二一四統、鮭一二六統、罐詰工場は三ケ工場（三ライン半）滿期使用人員約一千名に達し、年產額一百二十萬圓に上る。擇捉島以外に北千島幌莚島に於て鮭鱒流網漁業を營み、その他の地方に於ても傍系會社の手に於て夫々漁業を經營されつゝありて、每期好成績を擧げ業界屈指の優良會社たり。

社長 栖原忠雄 明治四十一年七月を以て生る。夙に東京帝大經濟學部に學び昭和九年卒業す。幼にして穎悟、昭和六年嚴考の長逝するに會ひて祖業を繼ぎ、逸ち早くその才腕を認めらる。謹恪溫恭にして質實堅確、內外の名聲甚だ高し。現在栖原商店代表社員、函館合同漁業、擇捉漁業各社長、乾製紙、千島汽船、大北水產各取締役其他幾多の會社に關係し、北方財界に君臨せり。齡未だ若冠將來の飛躍まさに待望に値すべし。

取締役 郡井捨吉 明治二十二年埼玉縣に出生。大正三年水產講習所本科漁撈科を卒業し、同五年同所遠洋漁業科を修了す。大正水產、小笠原水產、遠洋興業各會社を經て、農林省水產局に入り、南方漁業調査に當る。續いて昭和九年大同漁業に入り、同十年栖原漁業に入社す。多年に亘る經驗と蘊蓄を以て、我が水產界一方の權威者としてその令名高し。溫藉篤實、社業に熱心にして、氏の手腕に對して栖原家より全幅の信賴を拂はれ、社長の良佐たり。

（所在地　函館市大町三）

秋保電氣軌道株式會社

當社は大正二年六月、秋保石材合資會社を讓受け、資本金二十萬圓を以て、秋保石材軌道株式會社を設立し、石材採掘販賣、旅客及貨物運送を目的とし、大正三年十二月仙臺市長町、名取郡秋保村湯元間に軌道二呎六吋、延長十哩一分の軌道布設工事を竣成し、長町釣取、富澤、太白山、茂庵、赤石、湯元の七停留場を設け、同年十二月動力を馬車軌道として開通營業を開始せり。其の後秋保石材は益々其の眞價を認識せられ、需要激增し、秋保溫泉場は軌道の開通に依り、浴客逐年增加を示し、加之山形縣界に在る廣大なる森林より木材、薪炭等の搬出亦增加し、隨て客車貨車の增備を爲す等、漸次事業發展の域に進み來れり。仍て大正八年九月、株主總會を開き資本金六十萬圓を增加し、合計八十萬圓（內拂込額五十六萬七千七百三十圓）とし、既設動力馬車を電力に變更し、同十二年二月認可を得て、既設軌道の改修工事に着手し、其の速成を圖りたるも同年四月、關東大震災と財界不振の影響を受け、工事施工上大打擊を蒙れり。然れ共重役奮鬪の結果、同十四年六月其の竣工を見るに至り、同月認可を得て社名を秋保電氣軌道株式會社と改稱、電車軌道として一般の運輸事業を開始し今日に至る。大正十五年七月には釣取、大白山間に旗立停車場を新設、同停車場附近に會社直營の旗立遊園地を經營、旅客誘致策として簡單なる飲食店等を設けしが、翌昭和二年に至り、旅館を直營し遊暨客の便に供せり。昭和四年八月には鐵道省線各驛と連帶運輸取扱を開始し、同時に赤石驛を北赤石驛と、湯元驛を秋保溫泉と改稱して大いに振興を計る。今や堂々我私設鐵道界に覇を競ひ、隆々たる好成績に躍進を續け、昭和十二年六月に於ける運輸部上半期間の營業概況を示せば、運輸總收入二萬二千八十七圓にして前期に比し一千二百六十二圓餘の增收を示すに至れり。然も自動車部を新設して大いに面目を一新したるは旅客誘致上大なる至便を與へたるものと謂ふべし。尙役員は專務取締役社長小林軍太郎、取締役針生久助、同谷井文藏、同佐藤勘三郎、同兼支配人木下利夫、監査役大塚民三郎、同木村匡同伊澤平馬の諸氏にして社勢隆々たり。

專務取締役社長 小林軍太郎 故小林八郎右衞門氏令息として明治二十九年三月を以て生れ、宮城縣立第一中學を經て、第七高校に學び、大正十五年渡米、ボストン法律學校を卒業、マスター、オブ、アーツの稱號を得て歸

國、現に仙臺商工會議所議員に推され、名取川水力電氣專務、小林商事、仙臺市街自動車仙臺瓦斯、東北無盡等の役員として、事業界に堂々進出したる少壯實業家なり。之實に氏の嚴考故八郎右衛門氏の偉大なる訓育の然らしむるところにして、氏の在米當時の如きは突如、遊學資金の送付を斷ち、氏の動行を看視したるが、氏克く苦學勉勵大道香具師の旁役を以て獨立、凡ゆる辛酸苦難を嘗め、遂にマスター、オブ、アーツの榮譽を獲得せり。之實に此父ありて此子ありと謂ふべきなり、然もその努力は嚴君の多とするところとなり、旅費を送られ輝く歸朝となりたれども、飽迄質素なる氏は悠々貨物船に乘船歸國したるを以て、氏の如何に傑出したる非凡人なるを知るべし。

秋保電氣軌道株式會社

當社の經營の職に就くや、石材事業の擴張に、秋保大瀧泉兼營に、遊園地新設に、磊々峽、秋尙來るべき大飛躍工作に、着々として實績を擧げつゝあり。其の計畫たるや總て大衆繁榮を目標となし、特殊階級化を排斥、將來の大仙臺大衆への奉仕を唯一至高の希望と爲す。今や當社の育ての親たる前社長嚴父八郎右衛門氏の跡を享けて社長となり、其の博識多才の巨腕を揮ふところ、大仙臺發展に寄與するところ益々大なるものありと云ふべし。

取締役兼支配人　木下　利夫　氏は明治七年三月の生れにして、明治三十年、日本鐵道運輸事務講習所卒業、同年四月電信手を振り出しに、宇都宮驛在勤を始め、各主要驛に勤務、明治三十八年上野驛長助役より仙臺鐵道局に、昭和四年鐵道局副參事に任官、昭和四年退官と同時に招かれて、秋保電鐵の支配人兼運輸長となり、同九年、同社取締役支配人兼運輸長として今日に至る、正七位、勳七等の我が鐵道運輸界の一權威にして、其の人格識見の卓越するところ、衆望を一身に擔ふ好紳士なり。部下を愛撫する狀、恰も骨肉の如く威望嘖々たり。

（所在地　仙臺市長町字大道西）

會社重役

藤堂大藏

實業界幾多の成功美談は、常に後進の龜鑑として撓ゆまんとする者を撻ち、屈せんとする者に活力を與へ、以て其の進路に勇往邁進せしむる絶向の指針にして、發奮の意氣更に新たなるを覺えしむる。而して所謂世上の成功者中、或は確固たる資本と有力なる背景とを以て之に卓腕を揮ひ、赫々たる成功を收めたるものあり。或は徒手空拳、五尺の體軀を資本とも背景とも恃みて、健闘努力を累ね、遂に光明の彼岸に到達したるものあり、其の經路に至りては多岐多樣なりと雖も、吾人の肺腑より感銘を起さしめ、發奮興起の原因となるは、實に前者に非ずして後者なり。

我が藤堂大藏氏が、現に實業界に驥足を伸ばし、幾多事業會社の重役に列して名望隆々たるは、正に多年に亘る奮闘精神の賜と云ふべく、其の不撓不屈、萬難に屈せざる力闘活躍振りは後進子弟の以て範となすに足る。

氏は明治九年三月、三重縣一志郡久居町に誕生し、父君を士族藤堂八座翁と呼び、其長男たり。夙に東京高商に於て研鑽勉學孜々として努め、優秀なる成績を堅持して之を卒業せり。斯くて新時代に處すべき學殖智識を豐

富ならしむるや、直ちに臺灣銀行に入りて斯界に第一歩を踏み、爾來精勤恪勵、着々信望を博して昇進を累ね、遂に同行香港支店長の要職に就き、更に同上海支店長に轉じ、國際金融界に活躍縱横なるものあり、其の卓拳不羈なる性格は、犀利非凡の手腕と相俟ちて同地業界に燦然光芒を發するに至れり。其後內地に歸還するや、日本興業銀行に轉じ、同行取締役支配人として卓腕を揮ひ、名望亦た隆々たる處、大正七年聘せられて淺野同族會社支配人の要職に就任せり。而して努力精勵の結果、天賦の英才敏腕益々鋭鋒を現はし、而かも其間大正七年北米及メキシコに遊歷、同地實業界の情勢を巨細に亘り視察を遂げたる新智識の所有者。斯くて令名頓に高きを加へ其の豊富深甚なる智識と高邁卓拔の識見は、斯界の一權威と目され、同社の興隆發展に資する處尠なからず、名支配人として斷然重きを謳はる。以來實業界各方面に鵬翼を張り、恰も天馬空を行くが如き勢威を以て關係事案を伸展せしめ、現に淺野雨龍炭礦、順安砂金、新雨龍炭礦、日之出汽船、日本金谷各常務取締役。信越木材、淺野石材工業、鶴見製鐵造船、相模鐵道各取締役。關東水力電氣、小倉築港、鐵筋コンクリート、日向興業各監査役等に推薦され、淺野同族會社に在りては、支配人總務部長の要職を帶びて今日に至る、蓋し老來愈々思慮圓熟し人望亦た高きを加へし氏が、其の雙鏗壯者を凌ぐが如き氣慨を披瀝し、挺身斯界に活躍なす實績こそは、正に刮目以て期待すべきものならん。

天性温厚篤實にして、剛毅濶達の反面を有し、玲瓏玉の如き人格は、齊しく人の敬仰する處たり。因みに令閨まさぢ夫人は克く夫君を扶けて內助の功を致し、賢夫人の名聲を博し居れり。

（住所　東京市目黒區下目黒三ノ六五〇）

會株社式

札幌グランドホテル

明治初年來政府は北海道地方の開發に意を盡くし、各種の方策施設を施し來りしが、近年の同島發展はまことに顯著なるものあり。豊富なる資源は開拓せられて各種事業は勃興し、目覺しき躍進をなすに至れり。產業の發達と共に都市興起交通進歩し、大學專門學校各地に設立せられて文化の進展著しく、斯くして政治經濟上の目的を以て、商工業上の所用の爲めに或は遊覽に來道する人、日に日に激增するに至れり。札幌グランドホテルは規模宏壯にして、完備する設備を以てせられ、北海道を訪れる貴顧紳士は、何れも當ホテルに宿を求めざるはなし。建物は地上五階、地下一階、總坪數二千一百餘坪、耐震耐火、鐵筋コンクリートの明朗、華麗の近代的大建築たり。煖房、給水、換氣、採光等には多大の苦心拂はれ、客室は大小五十一室ありて他に食堂、五百人迄の集宴會に適する大小數室あり更にグリル、バー、喫茶室、休憩室、化粧場理髮室、賣店等の設けあり。施設、調度は善美結構、清淨瀟洒たるものありて、多數從業員又何れも親切丁寧、そのサービスまことに至れり盡くせるものありて、宿泊客の讃辭を惜しまざる所なり。資本金四十五萬圓の株式會社として經營せられ、創立以來頗る好成績を擧げ來れり。當ホテルの設立に依りて啻に札幌のみならず、北海道の發展に資せる所決して輕視すべからざるものあり。

社長　大瀧甚太郎　氏は札幌財閥の元老として、その勞力拔群たるものあり。北海道開拓の先驅者として、幾多の輝しき功績を樹つ。夙に北海道製材會社を起し、本道製材事業發展の素地を作り、更に札幌電氣、北海道製綱、北海道理化學工業等の各種會社の創立に參畫し、北海道事業界發展に多大の貢獻あり。明治四十四年札幌商工會議所議員に當選して以來、引續き議員を勤め、現に會頭の要職にあり。氏は札幌グランドホテル設立に就いては率先して奔走し、その盡力に依りてこ

れが實現を見るに至りたり。各種事業會社の重役に列し、聲望顯然たるものあり。

常務取締役　岩田彦二郎　氏は大正八年東京高商を卒業し、暫く實業に從事したりしが、昭和二年七月招聘せられて札幌商工會議所理事に就任す。同市の商工業發展の爲めに種々畫策し、寄與する所尠しとせず。昭和十年十月に至りて辭任す。これより先札幌グランドホテル設立せられ、氏は昭和九年十一月同社取締役に選任さる。爾後同ホテル經營に沒頭し、登前グランドホテル取締役を兼ね、その手腕を發揮す。剛毅果斷、直情徑行たると共に器局宏量甚だその人物大なり。明治二十八年十一月に生れ、元氣發剌の少壯實業家にして、前途洋々たるものなり。

（所在地　札幌市北一條西四丁目）

實業家

赤井峰太郎

京都麻布糸業の巨商、赤井峰太郎氏は今や名を遂げ、產亦成して確固不動の地位を獲得せし事は決して偶然に非らざるなり。即ち積年の刻苦勉勵の賜にして、誠に現代立志傳中の人と云ふべきなり。

氏は、明治二十年二月、滋賀縣野洲郡中洲村字立田に生る。家計豊ならざりしを以て十三歲にして京都新町三條通、廣田商店に丁稚奉公に入る。廣田商店主極めて嚴格剛直にして、多數使用人の一擧動にも注目怠らざりし中に、氏能く從順眞摯業務に精勵、具さに辛苦を嘗しが店主、氏の從順なる精進振に痛く感じ寵愛せらる、氏二十六歲の時その暇路の分與を得て獨立開業す。十有六年の辛酸勞苦此處に結實し、獨立自營の希望に輝き、前途の活躍に敢然其の緒に着く。孜々として業務に精勵し、偉大なる精力絕倫なる氏は、朝に四時半蓐床し夜に至り徹する事屢々なりしと云ふ。一管の細筆能く之れを盡し得ざる處なり。遂に氏の拮据經營能く功を收め、赤井暖簾は業界に益々信認を得、店頭更に殷盛を極めて京都麻布糸業界に堂々確固不動の名聲と基礎を得るに至れり。氏離鄕以來、爰に四十年に垂れんとす。氏往年の辛酸難業を常に腦裡に牢記し功名を遂げたる今日尙毎朝四時半起床を嚴守し、專心業務に精進せるは、その偉大なる精神力に、自ら敬慕の念禁じ得ざるところなり。今や氏の嗣子壯年に達して店務を總攬し、氏は業餘を得ては、禪宗に深く歸依し、只管佛敎の深奧を極めんと、念佛三昧に精進し居れり。一面氏は町內に一度事ある時は卒先公僕に任じ、之れが斡旋の勞を取り、親睦を計る等、氏の滑在せる功績又多大なるものあり。赤手空拳以つて今日の大成を爲し、關西地方麻布糸業界に赫々の功績を顯揚したる氏の面目誠に躍如たり。轉た艱難人を玉に爲すの古諺の深意を諒し、氏の功業を賞讃し、更に斯界の奮鬪活躍を期待す。古賢の曰く『富みて驕らざるは易く、窮して亂せざるは難し』と。然るに之を當代成功者の實狀を觀るに、其概ね報本反始、共存共榮の念慮に乏しく、華胥放逸に流れ、然らざる者は、邸第林泉の結構に專念して何等社會公共に盡すなく徒らに自己の致富にのみ汲々たるの傾き滔々として風を爲し、識者をして『富みて驕らざる』の難きを哄嘆せしめつゝあり。斯る中に氏の如き人物の存在するは正に泥中の蓮華とも評すべき歟。

（住所　京都市中京區蛸藥師通富小路西）

臺灣總督府

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及び其の他の附屬島嶼より成り、面積は三五、九六一、二方粁にして、本島面積の三分二は山嶽地帶にして、北部と中南部の一部に平野あり、東太平洋岸は懸崖絕壁をなし、屈曲甚しく彼のタロコの絕景は全世界に知られたるところなり。

氣候は北部に於て內地の盛夏より稍々高く南部は亞熱帶圖內に在るを以て、氣溫極めて高く、極南の恒春地方は嚴冬時に於ても其の名の如く恒に春の如き好氣候を呈す。抑々臺灣は明治二十八年日淸戰爭の結果、我が領有に歸したるものにして、同年六月臺灣事務局官制を定め政治を管理する機關となし、同年八月陸軍省達を以て總督府條例を定め、軍政を布きたるより玆に四十有三年、爾來幾度か官制の改正を見たるも歷代總督の善政により日に月に隆盛に赴き、嘗て支那領土たりし時代を想起せば、正に隔世の感に堪えざるところなり。我が臺灣總督府は島都臺北に在り、之れが行政官制は總督官房の外に內務、文敎財務、殖產、警務の五局を置き、更に所屬官署として交通局、法院、專賣局、稅關、供託局、監獄、中央研究所等と地方廳として、臺北、新竹、臺中、臺南、高雄の五州及び臺東花連港、澎湖の三廳あり、州には州知事、廳には廳長ありて、各々地方行政を掌る、この外總督府には、臺灣議會とも言ふべき總督府評議會あり、廣く民意を徵する爲め、設置されたるものにして、總督の諮問機關なり。而して會員は內臺人を問はず、總督府部內高等官及臺灣に在住する學識經驗ある者の中より總督之れを任命する制度なり。斯くして我が臺灣は一視同仁の皇恩に浴し、堅實なる統治と民福の過程を辿り、世界植民政策上燦たる光輝を放ち、他にその類を見ざる優秀なる植民地たるの榮譽を誇るに至りたるものにして、五百萬餘の本島人はもとより內、鮮、外人を合して總人口五百四十五萬一千餘の全島民は平和と幸福に滿ちたる生活をなしつゝあり、就中、臺灣土着の高砂族の如きは、嘗て聞きし狂暴なる生蕃に非ず、齊しく日本國民として皇恩を感謝し、敎育も普及されて、平和なる島民なり。

近時著しき發展を遂げたる島內產業は、實に目覺しく、林業、糖業、水產業、鑛業、工業の全面的躍進を見せ、就中林業、糖業は臺灣の代表的物產にして、糖業の如き我が始政當時は年產僅かに八、九千萬斤の赤糖に過ぎざりしが、昭和十年期には實に十六億九千四十二萬餘斤の驚異的躍進を遂げ、日本內地は勿論海外輸出品の重用なる存在となるに至り臺灣、明治其の他各製糖會社の資本は、二億九千餘萬圓の巨額に達したるを以て知り得べし。又林業は本島の二割を占むる林野に惠まれ、而も暖、溫、寒帶の各森林植物帶に亘り從つて其の包藏する樹木の種類も極めて多く多量の降雨と豊裕なる光熱の天惠に依り、林木の生長の旺盛なるは、到底他に比類を見ざるところにして、最近に於ける官營研代事業を見れば、總賣却高三百二十五萬七千餘圓に達し、扁柏、紅檜を初め亞杉、檜、姥子松、香杉等、島內は勿論內地、海外に輸出旺盛なるは驚嘆の他なし、其外水產、工業、鑛業、事業も近時隆盛にして好成績を示すに至れり。

輓近國際情勢の益々緊迫するの秋、躍進臺灣に期待するところ甚大なりと言ふべきなり。

總督　小林濟造　統治方針確立以來代々文官總督を以て、統治されつゝありし臺灣は、近時漸く國際情勢の緊迫と我が南方國策遂行の微妙の動向により去る昭和十一年九月我が豫備海軍大將小林濟造氏の新總督親任を見るに至りたるものにして、蓋し時代情勢に即應したる人事刷新と謂ふべきならん。

氏は廣島縣士族早川慶太郎氏の三男にして明治十年十月を以て生れ、小林時之助氏の養子となりたる人なり。明治三十一年海軍兵學校卒業少尉に任官、同四十二年海軍大學校卒業、昭和八年海軍大將陞進す。其の間浪速砲術長、第三艦隊參謀、英米兩國駐劄、磐手副長、敎育本部出仕兼海軍大學敎官、海軍技術本部副官兼海軍建築部々員、平戶艦長、海軍省副官、駐英大使館附武官兼造船監督長、第三艦隊司令長官、海軍省軍務局長、軍司令部出仕兼本省出仕、練習艦隊司令官、海軍艦政本部長兼海軍將官會議々員、海軍大官、第一艦隊司令長官兼聯合艦隊司令長官、軍事參議

官、議定官等に歴補、昭和十一年三月豫備役被仰付、同年九月現職に親任せられ、今日に及ぶ。曩に大正四年巴奈馬運河開通式に際し帝國代表出羽大將に隨行、昭和二年四月ジュネーヴ軍備制限會議參列の全權隨員被仰付たるあり、資性溫厚にして活達、謹嚴犯すべからざる風格あるも、人に接するに極めて叮嚀謙讓の德を備ひ、人を容るゝの大器あり、而も頭腦明晰にして諸般の處理に於ても、明斷流るゝが如き慨あり、蓋し南進國策の重責を擔ひ、確乎不動の統治の眞髓を發揚せしむる巨人たるは疑はざるところなり。

川西航空機株式會社

（所在地　臺灣臺北市）
（出張所　東京市麹町區內幸町二丁目）

航空機は近代戰の彩華にして、これが役割の重大なるは贅說を俟たず、既に支那事變に於ける、我海軍の武勳赫々たる偉力に依りても、遺憾なく實證せられ居り、制空權の獲得を以て勝敗の數は完全に決定せられるものなれば、空軍の整備充實とも絶對に閑却するを許さざる所とす。本邦航空工業生みの親にして斯界の雄績と仰がるゝ、川西航空機株式會社は、昭和三年十一月に設立せられしものにして、創業以來多大の苦心と努力を注ぎ、幾多の犧牲を忍びて航空工業の確立に鋭意盡瘁し、遂には優秀機の製作に成功し、堂々世界一流の大會社と比肩なし得るの設備を備ふるに至り、夙に海軍省指定工場となりて寄與する所多く、我國航空工業に對し、萬古不滅の功績を貽せり。創立當初神戸市兵庫東尻池の川西機械製作所內に於て製作をなせしが、注文次第に著增して同所の設備にては、不足を告げ、昭和五年十二月武庫川尻に宏壯なる新工場竝びに研究所を建設して移轉す。次いで昭和八年には大工場を新設し、最新最鋭の設備は斯界に追隨なし得るものなく、我國を代表するの航空會社として、その名聲世界的に喧傳せられるに至れり。軍用機、商業用航空機竝びに附屬器具及び部分品、木製プロペラ、金屬製プロペラの製作に當り、尙ほ機體の犧牲を拂ひつゝ航空思想の普及啓發に努めて、今日まで航空工業の先達として、或は航空界の先驅者として絶大なる貢獻あり。當社は夙に英國のショート・ブラザース會社と技術的提携を行ひ、更に獨自の研究を加へて飛行艇の製作に多大の力を傾注せしが、その製作に拘る川西飛行艇はその性能の偉大なるを以て、內外に嘆賞せられる所たり。製作機に對しては非常なる信用を博し、注文大いに增加をなして操業頗る繁忙を呈しつゝあり。當社に於ては時局に鑑みて社業の進展を企圖し、その製品も飛行機、飛行艇の外、更に一歩を進めて、航空機の生命なる發動機の製作にも手を染め、今日我國航空工業の最高峰として重きをなし、その製品は世界的優秀品として內外に知られ、躍進日本の榮譽の爲めに萬丈の氣を吐くものといふべし。顧みるに航空事業の揺籃時代に將來に對する慧敏なる先見の明に依り、あらゆる障碍を突破して、技術の研鑽と製品の改良に心血を注ぎて、遂に今日見るが如き隆々たる社業の勃興を遂ぐるに至れるも、一に相談役川西清兵衞、竝びに社長川西龍三兩氏の航空報國の赤誠に出づるものにして、その功績は永遠に燦として、光輝を放てり。當社は非常時日本の空の護りとして愈々確乎不拔の地歩を築き、皇國の爲めにその存在は一段と重要視されるに至れり。因に當社重役は以下の如し。社長川西龍三、取締役川西清司、同高尾繁造、同清水朝郎、同坂本舜一、同有坂亮平、同岩田親一、同奥津慶一郎、監査役井上治郎、同西岡謙二、相談役川西清兵衞の諸氏あり。尙ほ顧問に在郷海軍中將枝原百合一氏を聘徵し、東京事務所長に中村忍氏、囑託に吉田太郎氏、工作部長に在郷海軍少將鈴木嘉助氏各々就任せり。

社團法人 東京實業組合聯合會

當會は東京府下に於ける商工業組合の團結を鞏固ならしめ、實業の進歩發展を圖るを目的として、明治三十八年六月を以て創立せられしものにして、爾來今日まで幾多の事業を營みて、斯界に盡くせし功績まことに沒すべからざるものあり。明治三十七年日露兩國干戈を交ふるや、皇師の向ふ所敵無く、難攻不落と稱せられし旅順も陥落して、東京市各種實業團體は聯合して祝捷會を開催せり。當時東京事業界に於て各業者間に何等聯絡統一なく、共同の利害の增進、弊害除去等の爲めには都下事業界を代表するの機關の必要なること夙に痛感せられしが、祝捷會に各業者相會同するに及びて愈々その機運熟し、星野錫氏有志を語らひて八方奔走し、忽ちにして八十一組合の贊成を得て、當會を創立す。爾來東京府下產業界に於ける諸問題は勿論一般商工業者の利害に關する共通問題を研究討議し、或は政府に建議し、又は組合に通達してその實行を促がし、時に自ら實行して商工業の改善發展を圖りて、事業界の發達に貢獻する所鮮少ならず。その實力は朝野の洽く認むる所となれり。斯くして歴年組合相戮ひて入會し今や會員府市に亘りて百二十組合、組合員總計九萬有餘人を算し、更に增加を見んとするの趨勢にあり。本會の一進一退は、實に東京府下商工業界の輿論を代表するものなり。當會は東京商工會議所、その他の諸團體と協調を保ち、組合の發達竝にその共通利益の保護增進の爲め、幾多の方策を講ぜり。即ち營業稅法廢止の爲め、率先して輿論を喚起し、その適否は暫く措き、營業收益稅法の實施を見たるは當會の活躍に負ふものなり。更に印紙稅法改正、現行輸出組合法竝に重要輸出品工業組合法制定、或は震災直後の火災保險問題の解決、震災被害地營業稅、或は所得稅の經減の如き、當會の事績一々擧げて數ふるの煩に堪へず。其他內外博覽會、共進會に關與し有限責任東京信用組合の組織、東京府立商工奬勵館の設立、各種工業組合・商業組合の創立に與り、或はその紛議の調停に關與し、更に又信用組合の設立乃至各種組合の指導補助を行ふ等、事業界の發達の爲めに多大の功績を貽せり。海外の販路を開拓する爲めに、桑港日本商品陳列所、北米に於ける代表的實業團體「マーチャント・アソシエーション」等と密接なる聯絡を採りて輸出貿易の發展に力を盡くす所絶大なり。又中小商工業者の窮境打開の爲に商權擁護運動を起し、商工業從業員の爲めに夜學を設くる等、その事業まことに多方面に亘れり。戰時體制は事業界のあらゆる部門に亘りて、急速度に鞏化せられる折柄、この國策の線に沿ひて當會の事業又着々として押進められつゝあり、多年に亘る產業界に對する貢獻もさることながら、當會の今後の活躍こそ大いに期して俟つべきものありと謂ふべし。

會長　星野　錫　我國實業界の耆宿たる氏は、安政元年十二月舊姫路藩士星野乾八翁の長男として生る。藩黌に修學して後實業界に入り、天資の才腕を發揮して大いに頭角を拔んづ。資性卓犖豪放にして剛毅果斷、匝周緻密にして明斷敢行、その手腕財界に多大の膽仰を受く。當會創業以來關與し來り、絶大の貢獻をなし、同會は一に氏の力に依りて、今日の發展を見たるものなり。現に極東鑛業社長を初め幾多の事業に關係し、老來尙ほ前線に力闘せらる。

總務主事　横溝　慧惠　資性溫恭謹恪にして質實堅確たり。眞摯熱誠に當會の事業に精勵して、多大の功勞あり。其の手腕を買はれて、幾多の事業會社より重役として交渉を受けたれども、自己の天職を當會の發展の爲めに盡瘁するにありと爲し、固辭して、ひたすらその職務に沒頭せり。氣恪俊邁にして心性

俊傑、名利に超脱せる清廉高白の人格者たり。明治十九年十月岡山縣に生れ夙に早大に學び、更に日大法科を卒業せり。

（所在地　東京市日本橋區本町一丁目）

昭和礦業株式會社

新幌内礦業所

新幌内礦業所は炭質優秀にして規模亦大、北海道屈指の優良炭山たり。抑々當所の沿革は昭和二年鑛業權を獲得して、翌三年より日支炭礦汽船株式會社試錐調査を行ひ、同六年十一月に至り、開坑に着手す。翌七年十月新に昭和礦業株式會社組織せられるに及び、同社に於て礦區並に一切の施設を繼承。同年八月五番層の採炭を開始せるも、瓦斯及湧水多き爲め、一時採炭を中止し、以來四番層並に三番層の掘進に力を盡し、同八年下期より兩層の採炭を開始す。その後年々施設方法に幾多の改善を行ひて出炭量の增加を許り、目下月産三萬瓲餘なるも、現在起業中の各層を貫通する基本坑道の完成並にその他の擴張設備の竣成を見たる曉には、年産五十萬瓲を出炭する豫定なり。同礦業所の埋藏量は六千八百七十萬瓲に及び、炭質は不粘結性瀝青炭にして、何れも漆黑の光澤あり。灰分少くして發熱量高く、製鋼用瓦斯發生爐汽車汽罐、工場用汽罐、都市瓦斯用に好適す。家庭に於ても特に貯炭式ストーブ用として火力强く火持能くして多大の好評を博せり。坑口は北海道本線岩見澤驛より分岐せる幌内線唐松驛より僅に三粁、小樽八五・五粁、札幌五六粁、室蘭一五五粁の地點にありて交通頗る至便なり。既往の採炭量を見るに、昭和八年下期に、七千百二十瓲に過ぎざりしが、十年上期一擧七萬二千三百五十瓲となり。十一年上期には十二萬八千瓲、十一年下期に至りては十六萬瓲に達す。その供給先は鐵道省、工場船舶焚料及び一般家庭用として、北海道を始め關東關西、北陸方面に移出せらる。全從業員は總數一千五百名を擁し、從業員の爲めに種々の福利施設を設けありて、勞資間の關係頗る圓滑にして上下相協力して、社業の發展に精勵せる所、他に見る能はざる麗しき美風あり。生産設備に、その能率に、或は全從業員の水も洩さぬ協力一致といひ、優良中の優良炭山と謂はざるべからず。

新幌内礦業所々長　岸田　政太　氏は京都帝大工科を卒業して、直ちに三菱礦業九州新入炭礦技師として赴任して在職六年、後ち峯地炭礦更に飯塚炭礦に轉じて十六年に及ぶ。氏頗る好學の人にして餘暇には研究に努め、設備の改善或は新技術の採用に力を盡して、その學殖の富贍は衆庶の深く敬服する所。而もその性眞摯にして誠直、寡黙にして自己の功を誇ることなく、飽くまで謙虛のうちに熱誠以てその職に當れり。その資材は社長白石元治郎氏の知る所となり、懇望せられて新幌内礦業所々長に推さる。時に昭和七年なりき。同所經營の一切を托されたるに依り、氏はその豊富なる學殖を傾けて、現代科學の最新技術を採用し、以て設備を一新す。氏は斯くの如くに學殖經驗淵博なる技術家なるが、その人物溫厚にして廉謹なる人格者、部下を愛すること深く實踐躬行して範を示す。而も從業員の生活向上の爲めに力を盡し、他に見ざる幾多の施設を設けり。その人德は上下敬仰の集る所なり。

（所在地　北海道石狩國空知郡三笠山村幌内）

清水組副社長

清　水　一　雄

春は爛漫馥郁たる花を咲かせ、秋は多彩美味なる實を結ぶ果樹も、四時鍥を入れ摂を培へばこそ、花實共に愈々其の實を增し、其の量を增す。人に於ても亦た然り。不斷の努力と不屈の精神なくば、到底人生の美果を結ぶを得まじ。我が清水一雄氏が、現に本邦土木

建築請負業界に斷然重きをなし、聲望隆々乎として比肩するもの稀有なるは、素より人材凡庸に非らずと雖も、其の盤根錯節に遇進するも斷乎難關を克服し、能く努力奮闘に一貫せる賜と云ふべく、蓋し其の過去半生に亘る活躍史こそ、正に業界後進人士の龜鑑たる處ならざるはなし。

氏は明治七年二月の出生、東京府入江正遠氏三男にして後清水家に入り、其の性を冒せり。夙に聰明俊敏、而かも勃然進取の氣象に富む處、前途を囑望されること頗る厚く、學序を經て帝國大學法科英法科に入るや、切磋琢磨、克く斯界の研鑽研究に精進し、同三十二年優秀なる成績を保持して卒業せる秀才。其後男子學生の事業として決然、斯業界に身を投じ、清水組社員となりて以來、瞥然たる覇氣を藏して一意專心業務修得に邁進し、而も天賦の頴才閃々隨所に光芒を發する處、漸次斯界に鋭鋒を現はし、令名内外に輝やくに至れり。斯くて業務の眞骨頂を會得し、實際的手腕卓拔となるや、更に時代の變遷、業界の要望を洞察し、大正四年十月合資會社清水組を設立し、且つ出資社員の一人となりて、益々聲足を伸ばせり。爾來、社務の樞機に參畫寄與して、業運興隆に資する處甚大、即ち常に不撓精勵を旨とし能く全從業員を指揮督勵爲しつゝ只管工事の完全迅速を期し、才幹手腕を縱横に揮ふ處、他の一致協力と相俟ちて、着々業勢を伸展膨脹せしめ、遂に昭和十二年十一月、資本金千二百萬圓を以て、株式組織に變更、業陣の一大擴充を實現し、同時に副社長の樞機に推さるゝに至れり。

資性溯遠にして、凛烈秋霜の氣慨に滿ち、斷乎初志を貫徹せずんば止まざると共に、一方溫情流露たる反面ありて、頗る仁俠の義氣に富む。而かも識見手腕全く圓熟し、老來尙ほ壯健にして壯者を凌ぐ氣魄を藏する處、其の渾然玉の如き人格は、全從業員敬慕の的たり。今や當清水組の嶄然斯界に頭角を拔きて業運盛大なるに伴ひ、氏の偉名亦た益々光輝を發し、更に日本耐火防腐株式會社取締役、志賀工業所株式會社取締役、合資會社東京鐵骨橋梁製作所代表社員、合資會社榮運社無限社員等の職を兼ねて、活躍縱横無盡なる處、名實共に斯界に冠たるものあり。

因みに當清水組は前記大正四年十月、合資會社として設立營業開始以來、常に堅實無比なる營業方針と、優秀迅速なる施工技術を以て、汎く絶讃好評を博し、着々業礎を固め、信用を築き、その業運の隆盛發展せること恰も旭日昇天の慨あり、斯くて飛躍發展眞に目覺しく、斯界驚異の的となりつゝ、更に業務の一大擴充を斷行、以て嶄然一頭地を抽んずる泰然不動の地盤を擁し、其の施工地域の廣汎、規模の雄大なる、亦た以て斷然他の追隨し得ざる處なり。現に本社を東京市京橋に構え、事業全般を統率する一方、支店を名古屋京都、大阪、博多、京城、大阪等に設置し、尙ほ出張所を横濱、金澤、新潟、仙臺、廣島臺灣、新京等に設け、單に内地各方面に勢力絶大なるのみならず、亦た滿支斯業界にも卓然優位を占めつゝあり。現時資本金一千二百萬圓を擁す。（**株式會社清水組の項參照**）

（住所　東京市小石川區太塚坂下町）

株式會社

日本アルミニユーム製造所

アルミニユームは國防上を始め、各種機械化學工業用品等多方面に亘りて需要ありて、刻下の重大時局下に於てはまことに不可缺の重要資材をなすものにして、該事業の發展は國力の伸長に多大の影響を有すと云ふも過言に非らざるなり。當社は實に本邦アルミニユーム工業の開祖をなすものにして、その創業は明治三十四年十月のことに屬す。當初は高木アルミニユーム製造所と稱し、工場を大阪府下長柄に設け、營業所を大阪市東區平野町に置き、次いで東京市日本橋區鞍井町に東京支店を設置して、主として一般食器具並に軍需品の製作に從事せり。事業は歴年隆調を辿

りたるに依り、明治三十八年四月大阪市西淀川區浦江北四丁目に移轉し、設備益に業務の擴張を計ると共に名稱を日本アルミニューム製造所と改稱す。日露戰役に際しては多量の軍需品を納入して、軍事上に寄與すること鮮少ならず。爾來時代の進運に順應してその規模設備等、多大の膨脹をなし、その製品又頗る優秀なる所より非常なる好評を博し、陸海軍省指定工場並びに戰時動員工場となり、全國同業者に對しては鈑、線、その他の製品を供給し、斯界の尤として重きをなせり。歐洲戰亂當時に於ては、海外輸出は殆んど當社の獨占する所となりしが、以來工場設備の充實を圖り、技術の研鑽に努めたるに依り、遂に舶來品を凌駕するの優秀品の製作をなし得るに至れり。近時アルミニュームは航空機、艦船用諸材料、人絹紡織機用品、化學工業用品等その需要大いに擴まりたるに依り、京都帝大助教授原田隆康氏並に海軍少將金子文作氏を技術顧問に招聘し、新らたに研究所を設置して、その指導下に化學的研究による製品の統一益に向上を計り、多大の成功を見たり。昭和三年九月資本金百萬圓の株式會社に改組して、一大飛躍を遂ぐ。次で昭和六年八月二十一日　畏くも秩父宮殿下の臺臨を賜はるの光榮に浴せり。近來一般包厨具は勿論、化工機用製品の需要等大いに激增なしつゝあるに依り、昭和六年末理化學研究所の發明に拘る「特許アルマイト」の製作權獲得、我國最初のアルマイト工場を新設し、アルマイト加工の先驅として、優秀なる皮膜の研究に努力し、機械設備の充實を圖ると共に、技術の研究に一層精勵して、優秀なる製品を製作して斯界の絶讃を博せり。精密鑄物、NA輕合金板、ジュラルミン板、パイプ並に各種引抜異形棒等他の追隨を許さざる所にして、湧くが如き好評あり。本工場のみにては設備の狹隘を告ぐるに至りたるに依り、現所に最新設備を有する工場を建設して生産力の擴大を圖ると共に、本社を之に移轉し、舊工場を浦江藪工場と命名せり。尚ほその製品は塊、鈑、線、管、棒、陜、海軍用器具、化學工業用機具、航空機用諸材料、紡績用機具、人造絹糸機具、艦船用諸材料、車輛用諸材料　釀造用器具、一般家庭用器具等の各種アルミニューム製品にして頗る多種多樣なるものあり。現に資本金三百萬圓を擁し商況頗る多忙を呈し　業績順調の一途を辿れり。

專務取締役　藪　重雄　資性溫厚にして勤恪、熱心に業務に沒頭して、多大の業績を擧げ、名聲斯業界に赫耀たる氏は、明治四十五年京都帝國大學法科を卒業す。後ち鹿兒島銀行に入り、金融界に於て大いに頴才を現せしが、大正八年に至り日本アルミニューム製造所に轉じ　理事として經營に參畫せり。後ち株式會社に改組せられるや、專務取締役の要職に推され、風起雲湧して擴張經營に當り當社の發展に貢獻せる所絶大なり。頭腦俊敏にして才氣煥發の事業家として世人より多大の景仰を受く。因に氏は明治十六年十一月大阪府に於て生る。

（所在地　大阪市東淀川區宮原町）

東京瓦斯株式會社

我國瓦斯事業は事業法實施以來、漸く事業統制の端に着き、公共事業としての體制を整ふるに至れるが、金再禁止以降、一般經濟界の好轉に伴ひ、需要家戶數は逐期增勢の一途を辿り、各社共共成績向上顯著なるが、就中大都市たる帝都を溫床と爲す、東京瓦斯會社は、需要家戶數の增加する一般的好材料に加ふるに、時局以來重工業、化學工業方面に於ける需要激增の好影響を受け、その發展振りは實に物凄きものあり。

當社は周知の如く本邦斯業界最古、最大而も最優秀會社にして、その創業は遠く明治十八年十月に遡る。當初資本金僅かに二十七萬圓を以て設立せられ、累次增資の後　昭和八

年一億五千萬圓に增資し以て今日に至れり。今やその傘下に東京瓦斯副產、鶴見瓦斯、京濱コークスを擁し、牢乎たる存在たり。而して當社の瓦斯供給區域は、東京府北多摩郡、神奈川縣（川崎市大部、横濱市一部）埼玉縣（川口市大部）に跨り、千住、大森、砂町、鶴見の各製造所より供給しつゝあり。

昭和十二年下期の成績を觀るに、瓦斯メートル取付數は、實に九十七萬一千餘個にして之を九年上期の八十二萬六千餘個に比すれば十四萬四千餘個の增加にして、瓦斯販賣高は八千三百六十萬熱位、九年下期の七千三百五十萬熱位に對比して、一千十萬熱位の膨脹を示現し、一割餘の增加なり。斯の如き需要激增は悉く工業用方面、即ち軍需品製作に用ひられつゝあるものにして、當社の最大能力は到底需要に應じ切れず、當期の如きも一千二百萬熱位を購入せる現狀なれば、今後の需要增加を考慮せば、製造設備の擴張は緊急の問題となれり。されば當社首腦部に於ては、新設製造所を建設する豫定にて、目下規模其他の設計を急ぎつゝあるが、建設費は一千五百萬圓內外と見積られ、建設期間は向ふ三ケ年と聞く。之に要する資金は機を見て拂込を徵收する豫定にして、資金調整に抵觸する懸ひなければ、本年下期末若くは明年上期たらん。尚十二年下期の當社の利益金は市納付金七十四萬四千餘圓を引去り、六百六十五萬五千圓を計上し、利益率一割二分、配當は恒例八分を踏襲して依然餘裕綽々として、內容の改善頗る著大なるものあり。而して當社は十二年上期に於て料金引下げを實施したるが、需要增加と副產物の値上りを以て之れを補塡し、十三年四月第二次の料金引下げを行へるも、其前途何等不安なしと云ふべし。

取締役社長井坂孝　常務取締役都留信郎
取締役太田半六　同原邦造　同橋本圭三郎
同岩村榮次郎　同礒村豐太郎　同朝吹常吉
同神谷啓三　同江口鶴雄　常任監査役小山完吾　監査役關谷兵助　同松本孫治

取締役社長　井坂　孝　明治二年十二月茨城縣士族井坂幹翁の三男、同直幹　前島平兩氏の令弟として呱々の聲を擧ぐ。水戸藩士の源流を汲みて　天分剛直にして廉淡、明治二十九年東京帝大法科を出でたる異材。直ちに實業界を目指して東洋汽船に入社。須臾にして其慧敏を顯はして榮達し、取締役を經て常務に推さる。以來横濱火災保險專務、横濱株式取引所理事長其他十指に餘る重役に推擧さる。昭和三年實業界視察の爲歐洲を遍遊す。義に岩崎清七氏の後を襲ひて當社々長に就任以て今日に迨ぶ。而して氏は常に「己を知る者は已に若かず」と爲し、超凡の責任觀念を有し、些々たる一事も之を實着に處理する律儀一徹を能く事業經營に反映せしめ、常に業界の信望を高めて今日の地位を築きしものにして、其威望隆赫たるは蓋し故無しとせず。

常務取締役　都留信郎　本邦瓦斯事業界の耆宿として、其令名を謳はるゝこと久しき氏は、大分縣人都留晉平翁の二男、明治十二年三月同縣に誕生。長じて同三十二年同志社を、同三十七年大阪高工機械科を各卒業し、技術を以て實社會に發足し、逐次その驍足を徒けて曩に京濱コークス、東洋車輛、九州瓦斯各重役たり。現に當社常務取締役の傍ら東京瓦斯副產會社其他の重役を兼ね居れり。

（所在地　東京市麹町區丸之內一丁目）

平岡利兵衛

平岡萬珠堂主

古都平安京の雅趣深き文物は、京都市の何れに足を運ぶも親しく、これを目睹し得ると雖も、就中、一片の美術工藝品に含蓄せらるゝ經渺たる風趣は、平安京の文化の精髓として何人も嘆賞措かざる所たり。京都工藝品の華たる陶磁器を販賣して、京都隨一を以て稱され夙に其名夙高きが我平岡萬珠堂なり。先

考利兵衛氏當店を繼承以來、鋭意その業に沒頭して、京都陶磁器の聲價發揚に多大の功あり。業界の發展に寄與する所少からず。曩に京都陶磁器同業組合長に推され聲望顯然たり氏は京都陶磁器を世界各國に紹介し、日本の眞の姿の認識の一助に資せんとして、各國美術工藝博覽會に出品し、絶讃を博して賞牌を受けたるは枚擧に遑なし。當主平岡利兵衛氏は平岡家六代の主にして、京都府高坂六兵衛氏の長男として文久元年に生れ、明治十八年養子に迎へらる。當家が斯業に染着せるは頗る遠遐に屬し、文明年間（百餘年前）分家の某氏が五條橋東三丁目に陶磁器商を開きたるを、當家三代目に至りてこれを繼承し、更に明治三十年當主利兵衛氏平岡萬珠堂を繼承せり。當時商店界に於ける最新營業法たりし、陳列式販賣法を率先採用し、業界に多大の聲動を與へたり。明治四十年觸手を關東に伸して東京支店を設置し、續いて大正十年には、大阪に支店を置く。此の間事業の躍進を期すべく、本店舗の大改造を決行す。理想的販賣法に依る薄利多賣主義を標榜し、階上階下に內地向及輸出向高級品を陳列し、更に時代の趣向を察知し、或は顧客の希望に應じて苦心研精して優秀品の製作をなせり。專屬陶工の研究機關「萬選會」を組織して技術の練磨に或は製品の藝術的向上に精進せしむ。斯くして能く時代の生活樣式、趣味嗜好の變遷に應じたる理想的逸品製作せられて、絶大の讃辭を享く。販路も內地は勿論臺灣、朝鮮、滿洲南洋より更に歐米にまで及び、內外にその名

平岡萬珠堂本店並に陳列品の一部

聲を博せり。當に京都陶磁器の海外紹介に貢獻せるに止まらず日本文化の精髓を歐米人に知悉せしめし功績測り知れざるものあり。當店の名は畏き邊にも達し、既往幾度か御買上の光榮に浴したり。氏資性溫恭謹恪、襟度寛容、社會公共の爲めに盡くして名利に恬淡、心性潔白にして清々淡々たる德望家として名聲藹々たり。

（住所　京都市東山區五條角橋東三丁目）

實業家　秋山覺治郎

京都に於ける最高權威を有する茶業の代表者として、巨大なる足跡を有すゝ共に、實業界に錚々たる人望を擔ふ人に我が秋山覺治郎氏あり。氏は又他面日本茶海外進出史上に偉大なる貢獻を爲したる功勞者として、我が國製茶界に於ける至寶と謂ふべし。

同家は嘉永元年創業の歷史に輝く茶商にして、盛業を重ぬること玆に九代、十代前の祖先は此地に在りて、呉服商を營み　畏くも禁裏の御用を勤めたる光榮の家柄なり。此由緒深き家門を繼ぎたる氏は、明治十年九月廿三日先代覺治郎氏の長男として生る。先代早逝の跡を享けて、齡僅か十三歲にして家督を相續、襲名して家業に精勵、幼少なりと雖、克く家名の譽を自覺、日夜奮鬪努力、斯業開發に專心したるは、氏の今日ある所以と謂ふべきなり。斯くて今や家業益々隆興を極め、廣大なる茶園と完備せる製造所は宇治茶の本場たる京都府宇治郡木幡に在り、其の販路は市內卸小賣は勿論、全國各地の重たるデパートに其の良質、信用を誇り、遠く、朝鮮、滿

洲、支那、南洋方面にも盛んに輸出して、店名ちきりやの盛名は周知の事實たり。氏は夙に教育及び事業の育成向上に意を注ぎ、明倫學區會議長を初め、明倫尙武會長、京都商工會議所議員等に歷任活躍したる外、現に學務委員、方面委員、社會教育委員、裁判所調停委員、京都市茶業組合長、京都府茶業組合聯合會議所議員、宇治茶機械統制委員、茶業組合中央會議所議員等の要職に歷任、縱橫に活躍其の獻身的努力は關係方面尊敬の的たり。

資性、溫厚篤實にして而も清廉潔白、滅私奉公の信念に富み、社會公共の爲には老骨を拋つも辭せざる態の士なり。斯業界、精神界を問はず氏は私財を惜氣なく投じ、之が向上發達に資したる事枚擧に暇なし、其の店員を愛する溫情の篤き事、同情心の深き事は數々の美談となり周く知るところにして稀に見る高潔なる人格者なり、今や神戸商業大學出身の長男忠一氏（明治三十八年生）は、家事に從事、その博識多才を以て氏の事業を扶佐し、一段の光彩を放ち、家業日に月に隆盛を極めつゝあり。尙氏を輔佐するに現支配人、野田長兵衛氏あり。氏は明治十三年四月入店以來勤續實に五十七年に及び、克く精勵謹直、秋山氏の名具佐として盡力したる功績又尠からず、今尙ほ絶對の信賴を受けて勤務せり。

（住所　京都市中京區三條通室町西）

合資會社　春海商店

一方に新興藝術の提唱喧しと雖も、他面國土に培養せられたる古典藝術の保存と、鑑賞とを忘れざるは、如何なる國民と雖も、先天的に享有せる處にして、我が國に於ける古典藝術には種々相あれども、書畫骨董の如きは最も典雅優美なるものゝ一として、全世界に誇るに足る國粹藝術なり。而して當代幾多の巨匠、其の傳來の祕術に各自特長を加味し、逸品を發表しつゝありと云ふも、之れが喧傳頒布のよろしきと相俟つて、一層斯道の宣揚啓發を期得し得べきは言を俟たざるところなりと謂ふべし。我が春海商店は昭和七年十二月、資本金十二萬圓を以て設立されたる、我が國粹藝術の宣揚機關とも云ふべき特殊會社にして、新古美術品書畫骨董賣買並びに仲立業を經營し、內外に著名を博しつゝある異彩的存在なり。抑々同店は百五十年の歷史を有し、その創業は元祿年間伊藤庄兵衛翁の茶道屋に創り、伊藤家沒落の跡を享けて、現業に革りたるものにして、先代は美術界に錚々の存在を知られ、全國大家の信用絶大なるものありたる爲め、店礎は隆々の盛況を呈し、益々その存在の意義を確認せらるゝに至りたりしかば、益に同店は統合明斯道啓發に偉ふるべく、前述の如く昭和七年に至り現組織に變更、以來日本精神勃興の時代趨勢により、益々社運は飛躍的發展を招來したるものにして、當社今後の使命と盛業は期待して待つべきものありと云ふべし。

代表社員　春海謙二　氏は春海寛氏の長男として、明治三十七年を以て生れ、先代の養子となりたるものにして、神戸高等商業學校卒業後、直ちに父業を繼ぎ、次いで當社代表社員となり、父と共に斯界の信用厚く、專心業務に恪勤、斯道の宣揚に盡力しつゝあり。資性溫厚篤實の士にして衆庶の信望極めて高く、趣味又多く釣魚の如きは、氏の得意中の得意とするところなり。家庭には貞節の譽高き厚子夫人との間に二子あり、圓滿にして和氣堂に滿つ。

支配人　小田榮作　氏は岐阜縣松並鶴二郎氏の男として、明治二十二年八月を以て生れ、十六才の時青雲の熱情を抱きて上阪、明治三十七年より先代に仕へて今日に至る。當社の柱石的存在なり。天賦の商才と明智を以て社運の隆盛に努力、代表社員春海謙二氏の名參謀とし一敏腕を揮ひつゝあり、人と爲り溫厚にして周到緻密、而も頭腦明晰にして